大　学　院　案　内

令和８年(2026年)度

看護学研究科看護学専攻
(修士課程)

埼玉医科大学大学院

目　　次

1 校　歌 …… 1

2 序　文 …… 3

3 埼玉医科大学の教育方針 …… 5

4 埼玉医科大学大学院看護学研究科の概要 …… 11

5 埼玉医科大学大学院学則等 …… 17

6 履修に関する事項 …… 29

　看護学研究科履修要領 …… 30

　埼玉医科大学学位規則 …… 32

　大学院修士課程の長期履修生制度 …… 40

　埼玉医科大学大学院科目等履修生受託規則 …… 46

7 授業科目・教員一覧 …… 49

8 シラバス（第 14 条特例含む） …… 53

　共通科目 …… 63

　専門科目 …… 105

9 学生生活に関する規定 …… 357

　埼玉医科大学保健医療学部危機管理マニュアル（抄） …… 374

　図書館利用案内 …… 393

　諸手続き …… 397

　諸規則等 …… 400

校　　歌

埼玉医科大学校歌

作詞　栗原　浩
作曲　林　光



前奏

一、明け行く空に　朝風馳せて
学園の森　さやぐとき
清浄の気は　心を洗い
思想は冴えて　意気高し
われら集いて　われら集いて
ここにあり

二、求むるはただ　久遠の平和
その源流を　たずぬれば
よろずの命　貴ぶ精神
医学の道に　活かすべく
われら学びて　われら学びて
ここにあり

三、翠の丘陵に　抱かれて
真理と技を　究めつつ
毛呂山の地に　歴史をきざむ
使命に燃ゆる　若人の
白亜の母校　白亜の母校
ここにあり

序　　文

序　文

本学の大学院は、昭和 53（1978）年に開設された医学研究科博士課程に始まります。この時の目的は、「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与すること」とされ、「専攻分野について、医学研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う」ことを目標としてきました。

一方、わが国の大学院については、様々な課題が指摘されてきました。これに対して、中央教育審議会から、大学院の実質化ならびにグローバル化を推進することを目的に「新時代の大学院教育ー国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けてー」（平成 17 年 9 月 5 日）、続いて「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」（平成 23 年 1 月 31 日）という２つの答申が示されました。その後、これらの答申の進捗状況を踏まえて、「未来を牽引する大学院教育改革「社会と協働した「知のプロフェッショナル」の育成」（平成 27 年 9 月 15 日）、さらに「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿」（平成 31 年 1 月 22 日）が公表されました。各大学では、これらを参考に大学院改革を進めております。

本学においては、1)大学院組織と指導教員の体制整備、2) 選択必修コース(実用実験医学特別講義、最新医学特別講義)による体系的なプログラムの組み立て、3) 専門医養成を目標とするがんプロフェショナル養成プランへの参画、4) 社会人および外国人選抜枠の設置、5) 学位審査の適正化および透明性の確保、6) 秋入学制度の導入、7) 卒後臨床研修と大学院履修が同時に可能な臨床研修プログラム（研究マインド育成自由選択プログラム）の導入、8）指導教員資格の見直し、等々の改革を実行してまいりました。

また、本学では平成 18 年(2006)4 月に保健医療学部が開設され、平成 22 年（2010 年）に保健医療学部から初めての卒業生が誕生するのにあわせて、大学院修士課程が設置されました。その目指すところは、「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うこと」であり、「建学の理念」に基づいて描かれた「埼玉医科大学の期待する医療人像」にふさわしい人材を育成し、社会に送り出すことを通じて、世の中の保健、医療、福祉の向上に寄与する、という本学の目標を具体化したものです。

本学の医学研究科ならびに看護学研究科の修士課程は、これまで順調に発展してきました。今後も、研究に専念できる環境整備、経済的支援、研究指導および支援体制の強化などに取り組み、質の高い大学院教育に務めていきたいと考えます。大学における研究の一翼を担う大学院生ならびに学位取得者の今後の活躍に大きな期待を寄せております。

令和８年度の入学生を心から歓迎し、皆さんが所期の目的を達成することを祈念いたします。

令和８年４月

学長　竹内　勤

埼玉医科大学の教育方針

埼玉医科大学の教育方針

１埼玉医科大学の教育方針

（１）建学の理念

埼玉医科大学は以下の建学の理念の下、1972 年に毛呂山の地に創立されました。

【建学の理念】

第 1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きるすぐれた実地臨床医家の育成

第 2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの生長を主体的に開展し得る人間の育成

第 3. 師弟同行の学風の育成

（２）埼玉医科大学の期待する医療人像

本学の目指すところは、「建学の理念」にすべて言い尽くされており、基本的にはこれに付け加えるものは何もありません。

しかし、本学創立から現在までの間に医学・医療は過去に例を見ない急激な進歩を遂げ、また、社会情勢も大きく変化しました。ことに患者さんの意思尊重の重要性が一層認識され、加えて情報公開時代を迎え、新しい患者－医療人関係の構築が求められています。

1999 年 11 月に制定（2017 年 4 月改訂）された「埼玉医科大学の期待する医師像」は、埼玉医科大学が創立 30 周年を迎えるにあたり、改めて建学の理念を敷衍し、本学の期待する医師像を描いたものでした。

そして、2006 年 4 月、本学は日高キャンパスに保健医療学部を設置し、医師のみならず保健・医療・福祉の担い手である多種多様な医療人を育成する医療系総合大学として、新たな飛躍への道を歩み始めることとなりました。また、これを機に、この四半世紀余の変化をふまえて「埼玉医科大学の期待する医療人像（2017 年改定）」を示し、その目指すところを一層明確にして、本学活動の精神的基盤を再確認することとしました。

【埼玉医科大学の期待する医療人像】

■高い倫理観と人間性の涵養

・医療人は、生命に対して深い愛情と畏敬の念を持ち、病める人々の心を理解し、その立場に立って、十分な説明と相互理解のもとに医療を行わなければならない。

・医療人は、豊かな人間性を育成すべく、常に倫理観を磨き、教養を積むことに努力しなければならない。

■国際水準の医学・医療の実践

・医療人は、生涯にわたり常に最新の知識･技術を学び、自信を持って国際的に最も質の高い医療を提供するよう心掛けなければならない。

・医療人は、医療における課題を自ら解決する意欲と探求心を持ち、国際的視野をもって医学･医療の進歩に貢献することを心掛けなければならない。

■社会的視点に立った調和と協力

・医療人は自らの能力の限界を自覚し、謙虚に他者と協力し、それぞれの立場で患者中心の医療を実践するために、統合力を磨かなければならない。

・医療人は、社会的視野を持ち、健康の保持･増進、疾病の予防から社会復帰、さらに社会福祉に至る保健･医療全般に責任を有することを自覚し､地域ならびに国際社会の保健・医療に貢献しなければならない。

（３）埼玉医科大学の３ポリシー

本学の「建学の理念」に基づき、大学・各学部・各学科および大学院において、以下の３ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を定めています。

・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
学位授与の判断のために、どのような能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本方針であり、在学生の学修到達目標となるものです。

・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
在学生の学修目標達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容をどのような方法で実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本方針です。

・アドミッショ・ンポリシー（入学者受け入れの方針）
建学の理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき教育内容等を踏まえ、どのような入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める能力や素養を示すものです。

■埼玉医科大学　ディプロマ・ポリシー

本学の所定の課程を修了し、建学の理念および「埼玉医科大学の期待する医療人像」に基づいた以下の資質・能力等を身につけた者に対し、学士の学位を授与する。

1) 生命に対して深い愛情と畏敬の念を持ち、病める人々の心を理解し、その立場に立って、十分な説明と相互理解のもとに医療を行う能力
2) 豊かな人間性および、常に倫理観を磨き教養を積む努力を怠りなく続ける意欲と習慣
3) 生涯にわたり常に最新の知識・技術を学び、自信をもって国際的に最も質の高い医療を提供する気概
4) 医療における課題を自ら解決する意欲と探求心を持ち、国際的視野をもって医学・医療の進歩に貢献できる能力
5) 自らの能力の限界を自覚し、謙虚に他者と協力し、それぞれの立場で患者中心

の医療を実践できる統合力

6) 社会的視野を持ち、健康の保持・増進、疾病の予防から社会復帰、さらに社会福祉に至る保健・医療全般に責任を有する自覚、地域ならびに国際社会の保健・医療に貢献しようとする熱意

7) 協調性に富んだ社会人として様々な職種の人々と協力し、医療の安全につねに留意するとともに、地域の保健医療に積極的に関わろうとする姿勢

■埼玉医科大学　カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、下記のような方針でカリキュラムを編成し教育を行う。

1) 人間性の涵養と社会人としての成熟を促し、医学の枠にとらわれない幅広い見識を修得させるための、多彩な選択制科目の提供

2) 複数領域にわたる知識を総合的・多角的に応用する能力を確立させるための、統合カリキュラムの充実

3) 省察の習慣、協働的な学修技能、主体的学修姿勢を涵養するための、グループワーク等の少人数による学修の充実

4) 実際の医療の中での経験を通して実践的な知識・技能・態度を修得するための、臨床現場における実習の重視

■埼玉医科大学　アドミッション・ポリシー

カリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラムによって学修することによって、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、入学前に以下のような能力・素養を身につけている学生を求める。

1) 豊かな人間性、生命への愛情と奉仕する精神

2) 社会のルールや規範を遵守して行動することができる倫理観

3) 高いコミュニケーション能力および、相手の立場に立つことのできる協調性

4) 医療専門職としての責任を果たすために必要な知識を修得し、知識を適切に応用するための基礎学力

5) 自ら求めて学び、物事を吟味し考察する能力

6) 医療や健康問題への関心および、医学・医療を通じて社会に貢献しようとする意欲と情熱

埼玉医科大学大学院看護学研究科看護学専攻のポリシー

１）ディプロマポリシー

看護学研究科では、看護の領域に貢献できる以下のような人に学位を授ける。

① 深い人間理解に基づく倫理的調整能力を修得している。

② 看護の向上を目指し、総合的に判断し問題を解決する能力を身につけている。

③ 専門看護領域における高度な看護実践力、あるいは地域のケアニーズに応じて人々の生活を支援する能力を身につけている。

④ ケアシステムの改善に必要な高度な専門的知識・研究能力・指導力を修得している。

以上の観点に立ち、所定の単位を修得し、研究指導を受けて学位論文を提出し、論文審査および最終試験に合格した人材に対して大学院修士課程の修了を認定し、修士(看護学)の学位を授ける。

２）カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーに示す教育目標を達成し、高度な専門性をもった看護職者を育成するために、以下のようなカリキュラムを提供する。

本研究科は、「高度実践看護学分野」と「生活支援看護学分野」の２分野で構成されている。「高度実践看護学分野」では、高度な看護実践能力を、また「生活支援看護学分野」では多様な人々に対する生活支援能力を育成できるよう、以下のポリシーに沿って教育課程を編成している。

① 深い人間理解と倫理観の涵養

共通科目として看護倫理学を置き、倫理観を養うことを目指している。また、ヒューマンセクシュアリティにより人間理解をさらに深めることができる。

② 科学的判断力・思考力の修得

共通科目に看護理論、看護研究方法論、看護情報処理論、人体統合機能論、フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学を配置し、科学的判断力・思考力の修得を促す。

③ リーダーとして活動できる実践力の養成

共通科目の看護管理学、コンサルテーション論、看護継続教育論、看護政策論の履修により、リーダーとして必要な実践力を学ぶ。

④高度な専門的知識・技術の修得

学修と探求を積み重ねて各領域の専門性を深めるために、全ての領域に特論、演習、特別研究または課題研究を置き、領域ごとに特論、演習、看護研究の関連を明確にした科目目標を提示している。専門看護師の資格取得を目的とする「実践コース」は実習に加えて課題研究あるいは特別研究を選択する。研究能力、科学的思考力を養うことを目的とする「論文コース」は特別研究を選択する。「高度実践看護学分野」は、「実践コース」と「論文コース」を置いているが、「生活支援看護学分野」は「論文コース」のみとなる。

3）アドミッションポリシー

本研究科では埼玉医科大学の建学の理念を理解する以下のような人を受け入れる。

① 大学院入学の意志が固く、修学目的が明確で、真摯に学び続ける姿勢がある。

② 看護や看護倫理の基本である「他者理解」、「他者尊重」の精神を遵守できる素養を身につけている。

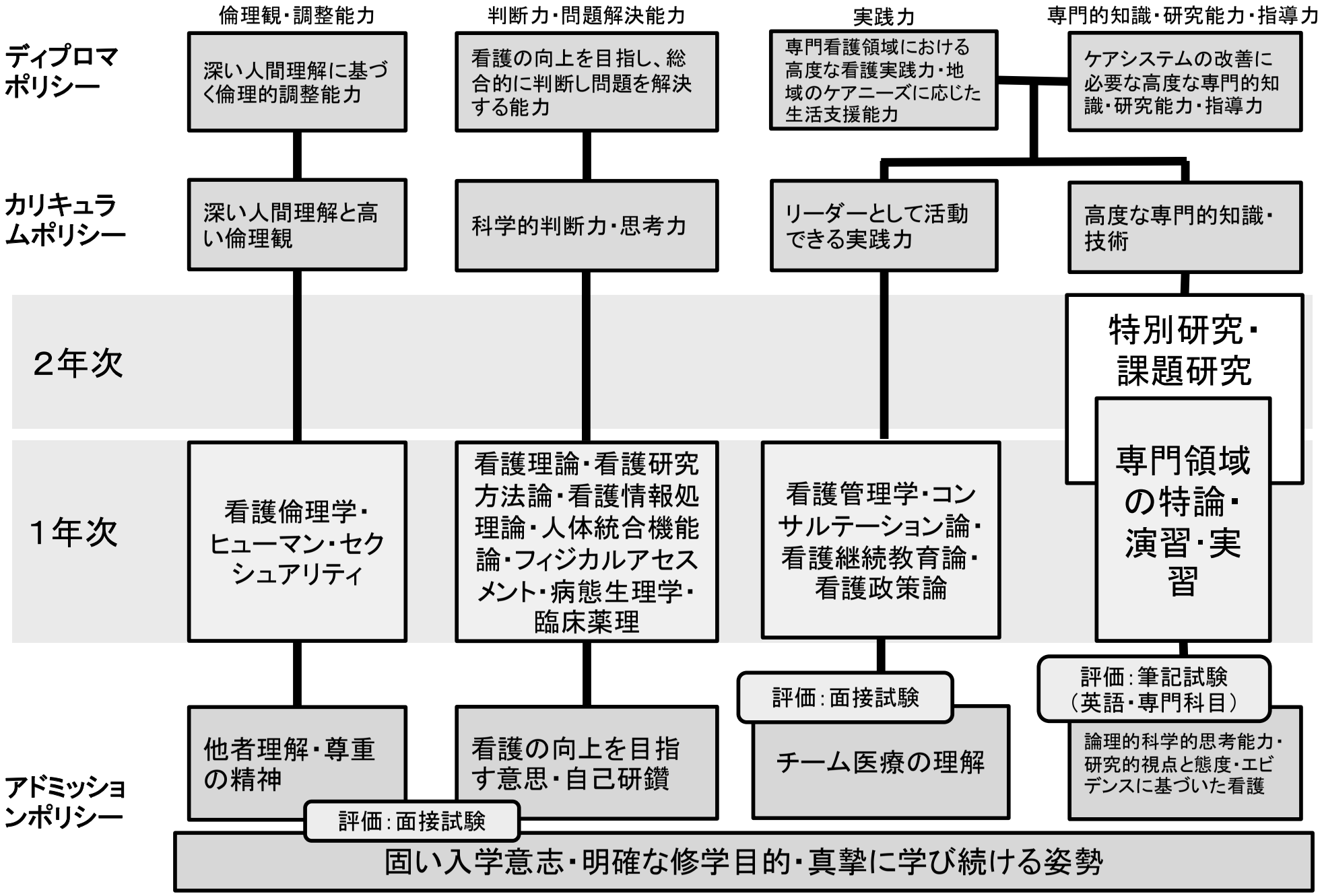
③ 看護者の使命・責任として看護の向上を目指す意思が明確であり、かつ、自らそれを実現すべく研鑽を積んでいる。

④ チーム医療の重要性とチーム医療における看護の役割を理解している。

⑤ 論理的で科学的な思考能力を有し、研究的な視点・態度の重要性を認識しており、エビデンスに基づいた看護を行う能力を有する。

以上の観点に立ち、筆記試験（英語及び専門科目）及び面接試験により適切に評価する。

埼玉医科大学大学院看護学研究科カリキュラムマップ



埼玉医科大学大学院看護学研究科の概要

埼玉医科大学大学院看護学研究科の概要

1. 埼玉医科大学設置の趣旨

埼玉医科大学は 1892 年（明治 25 年）に創設された毛呂病院を母体として、1972 年（昭和 47 年）に設立されました。その後 34 年を経て、平成 18 年 4 月には看護学科、健康医療科学科（現、臨床検査学科）医用生体工学科（現、臨床工学科）の 3 学科を擁する保健医療学部が設置され、医療系の総合大学として発展し現在に至っています（平成 19 年 4 月に理学療法学科も増設）。

2. 埼玉医科大学の看護教育の推移と大学院看護学研究科設立までの経緯

埼玉医科大学大学院医学研究科は昭和 53 年（1978 年）に開設されました。一方、本学の看護教育は、昭和 51 年の埼玉医科大学附属高等看護学校の開校に始まります。開設 12 年後の平成元年には、看護学科、臨床検査学科、理学療法学科よりなる埼玉医科大学短期大学が開設され、現在も埼玉医科大学短期大学看護学科では看護教育が継続されています。また、平成 9 年には短期大学看護学科に保健師･助産師養成の地域看護学と母子看護学の 2 つの専攻科、及び埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校（3 年課程）が開設されました。

本学に大学院博士課程が設置されて 30 年が経過しましたが、平成 18 年の保健医療学部の設置とともに、保健医療関係の大学院設置計画も構想され、平成 21 年 6 月に文部科学省に設置認可申請を行い、同年 11 月に大学院看護学研究科の設置が許可されました。

3. 大学院看護学研究科の教育理念と目的

看護学研究科は、生命の尊厳を守ることを最優先し、その上で 21 世紀の保健・医療・福祉分野の動向や環境変化に応じて適切に対応できるために、斬新的、創造的、先駆的に看護を探究できる看護専門職者の育成と、高度かつ最新の専門的知識と技術を持った看護ケアの実践者、教育者、研究者の育成、それらのリーダーとなり得る人材の育成を教育理念としています。さらに、これらの人材の育成を通じて看護の質向上と看護学の発展に寄与するとともに、社会に貢献することを目指しています。これらの教育理念を達成するために、看護学研究科では下記のようなアドミッションポリシーを掲げた人材の育成を目的とします。

1）看護学研究科のアドミッションポリシー

本研究科ではアドミッションポリシーとして次のような学生を求めています。

① 大学院入学の意志が固く、修学目的が明確で、真摯に学び続ける姿勢がある。

② 看護や看護倫理の基本である「他者理解」、「他者尊重」の精神を遵守できる素養を身につけている。
③ 看護者の使命・責任として看護の向上を目指す意思が明確であり、かつ、自らそれを実現すべく研鑽を積んでいる。
④ チーム医療の重要性とチーム医療における看護の役割を理解している。
⑤ 論理的で科学的な思考能力を有し、研究的な視点・態度の重要性を認識しており、エビデンスに基づいた看護を行う能力を有する。

2）看護者として成熟した人格形成に向けての人材の育成

看護は人間を対象とする実践の科学であり、看護の専門性の基盤は人間を理解し、受容することにおかれます。それゆえ、看護専門職の存立基盤である人間について常に学修し、自らが人間的に成熟することが求められます。そのために、ヒューマン・セクシュアリティを学修することにより人間理解を深め、また、看護倫理学について学修することにより人間としての尊重、人権を守るということなどにより、看護の対象を大切にすることについて考えていきます。その上で、看護の専門家として急速な社会環境の変化の中で生活する人々への適切な看護サービスを提供できるよう、看護職者としての成熟した人材の育成をめざします。

3）科学的思考力を有する人材の育成

看護を学問として実践するには、看護実践の場で科学的な分析力を駆使し、確かな根拠を持って判断し、予測性を持って問題解決に当たることが求められており、看護の理論的基盤を正確に修得し、医療の高度化や社会の複雑化に適応し得る専門性の高い知識や技術を学修していること、科学的思考をもって問題に適切に対処できることが必要となります。そのためには、看護研究方法論をはじめとし、人体統合機能論、看護情報処理論、コンサルテーション論などを学修することにより、科学的判断力・思考力を有する人材を育成することを目標とします。

4）看護の専門性を発揮できる実践力ある人材の育成

高度な看護専門能力を駆使してケアを提供できる実践者は、患者さんの生命の安全を守るとともに、患者さんの QOL 向上に向けて質の保証された看護サービスを提供する必要があります。高度な看護専門能力とは、専門領域の臨床実践能力に加え、他の看護職者に対する適切な相談や助言のできる能力、臨床の場に還元し得る研究の遂行能力、他の看護職者の研究能力を向上させ得る指導力、看護専門職としての問題解決能力、意志決定能力、リーダーシップ能力等を指しており、これらの能力を修得して看護実践の場でリーダーとして活動できる実践力のある人材の育成が目標となります。そのために、看護理論をはじめとし、看護管理学、看護政策論、看護継続教育論を学修することをも

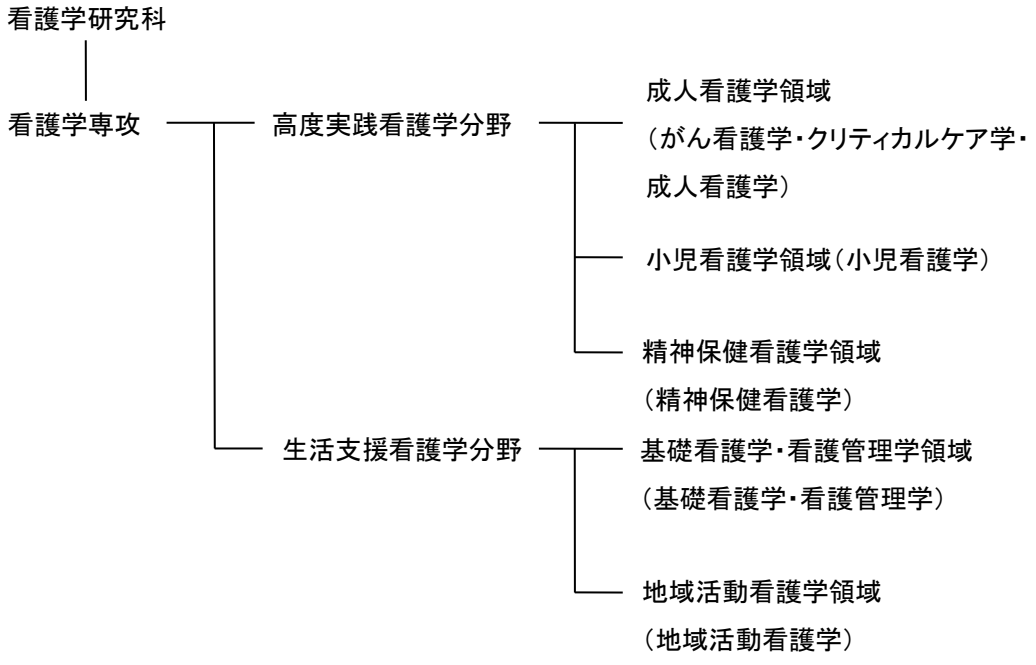
って、看護実践の場で実践能力を発揮できる人材を育成します。

4. 看護学研究科看護学専攻の分野と領域

本看護学研究科看護学専攻では、高度な看護実践能力を有する看護職者、及び多様な人々に対する生活支援能力を有する看護職者の育成を目的として、「高度実践看護学分野」と「生活支援看護学分野」の 2 分野を置きます。いずれも看護学にかかわる多様な学問領域を学ぶための教育課程を通じて、高度専門職業人（研究者育成を含む。）の育成を目指しています。

高度実践看護学分野は、成人看護学領域、小児看護学領域、精神保健看護学領域の 3 領域からなっており、成人看護学領域ではがん看護学、クリティカルケア学及び成人看護学、小児看護学領域では小児看護学、精神保健看護学領域では精神保健看護学を学ぶことにより、それぞれの看護実践の場で専門性を発揮し、リーダーとして活躍できる看護師の育成を目指しています。なお、がん看護学、精神保健看護学には、CNS（専門看護師）コースをおいています。生活支援看護学分野は、基礎看護学・看護管理学領域及び地域活動看護学領域の 2 領域で構成され、基礎看護学・看護管理学領域では基礎看護学及び看護管理学、地域活動看護学領域では地域活動看護学を学ぶことにより、看護対象者の生活上の支援を適切に実践できる人材の育成を目指しています（図 1)。

図 1 看護学研究科看護学専攻の分野と領域



5. 教育課程の構成

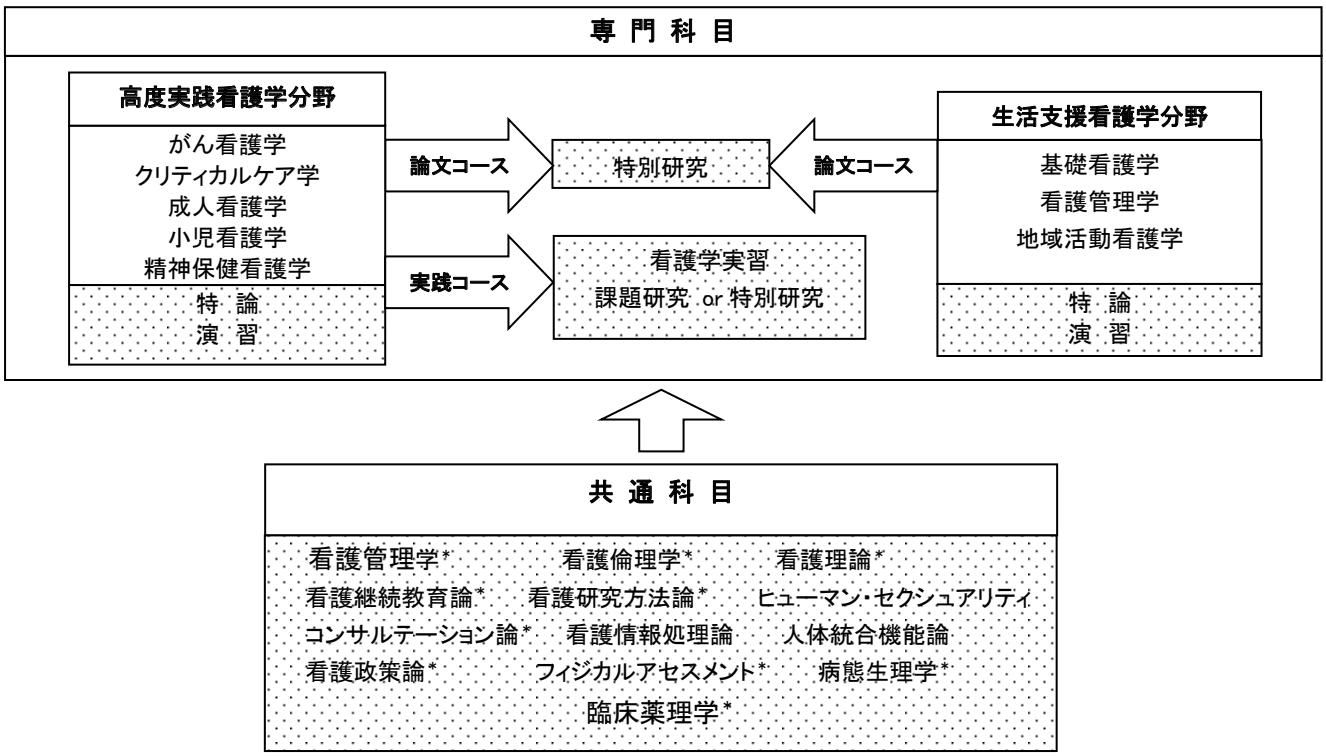
看護学研究科の教育課程では、授業科目を共通科目と専門科目から編成し、共通科目には専門科目を深めるために必要な看護学の基礎的理論や、看護に関連した諸科学の理論・技法を修得する科目を設置しています。また、2 つの分野の専門科目には専攻する各看護学領域の専門性を裏づける理論や技法を修得する科目群を置いています。

共通科目には、看護管理学、看護倫理学、看護理論、看護継続教育論、看護研究方法論、ヒューマン・セクシュアリティ、コンサルテーション論、看護情報処理論、人体統合機能論、看護政策論、フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学を置いています。なお、専門看護師資格取得を目指すものは、看護管理学、看護倫理学、看護理論、看護継続教育論、看護研究方法論、コンサルテーション論、看護政策論の 7 科目（各 2 単位）から 8 単位以上、およびフィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学の 3 科目（各 2 単位）6 単位を取得する必要があります。また、これらの共通科目はどの分野でも 1 年次の前後期に配当しています。

専門科目では、各領域の専門性の学修と探求の積み重ねを可能とするため、すべての領域を特論Ⅰ・Ⅱ（6 単位）、演習Ⅰ・Ⅱ（6 単位）および、特別研究（8 単位）と課題研究（4 単位）とすることを基本にし、領域ごとに特論、演習、看護研究の関連を明確にした科目目標を提示しています。また、高度実践看護学分野では看護学実習（6 単位）を設けています。なお、専門看護師の審査基準との関係で、がん看護学については、特論Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ～Ⅳ、実習Ⅰ～Ⅳ、精神保健看護学については、特論Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ～Ⅲ、実習Ⅰ～Ⅳの構成としています。

特論では、各専門領域の基本となる科目を講義、プレゼンテーションや意見交換を通して学修します。演習は、特論での学修をもとに、学生によるプレゼンテーションや意見交換を行うなど、学生主体の具体的・実践的な学修の場としています。このため、特論は 1 年次前期に、演習は 1 年次後期から 2 年次前期に配当しています。

図 2 看護学研究科看護学専攻のカリキュラム構成図



＊ 実践コースにおいては選択必修科目

看護学実習は 1 年次前期から 2 年次後期にかけて配当しています。看護学実習は、各実習科目について法人内の病院等の実習施設において行い、看護学実習のための実習施設への手続きとして、実習先と実習フィールド、時間、学生数、個人情報、保険等に関する申し合わせを取り交します。高度実践看護学分野において専門看護師を志向する者は、当該領域全ての看護学実習（10 単位）が必修となり、合わせて課題研究（4 単位）あるいは特別研究（8 単位）を選択する必要があります。なお、課題研究は各看護学領域の高度実践能力の獲得を目指し、問題解決を主眼とした課題設定と研究実践となりますので、学位審査にあたってはその特性を踏まえた基準を設けています。また、実践コースを選択し専門看護師を志向する者が、研究理論および研究手法について、より学修を深めたいと考えた場合には、特別研究を選択することでその目的を達成することが可能となりますが、その場合も、研究目的は課題解決を主眼としたものが望ましいとします。なお、看護学実習を選択しない場合は、特別研究を選択することになります。

次に、生活支援看護学分野においては、全員が特別研究を選択することになります。特別研究は、課題研究と同様に看護問題の解決に益する研究ですが、研究能力、科学的判断能力の育成が主眼となります。

以上、専門看護師の資格取得を目的とし、看護学実習に加えて課題研究あるいは特別研究を選択するコースを「実践コース」、専門看護師の資格取得を目指す特別研究を選択するコースを「論文コース」としています（図 2)。

6. 履修方法と修了要件

本研究科では 13 科目を専攻内各分野の共通科目としています。次に、各分野の専門領域では、特論(講義)及び演習(演習)が、1 年次から 2 年次前期にバランスよく配置されており、希望する研究分野に合わせて必要な科目を履修します。さらに、2 年次から配属される特別研究または実践コースにおける課題研究と、1 年次から 2 年次にかけての看護学実習（実践コースのみ）を通じて研究指導教員の指導を受け、2 年間で論文を作成します。

修了要件は、高度実践看護学分野の実践コースでは、共通科目 8 単位以上、専門科目の特論及び演習、実習、課題研究（または特別研究)、20 単位以上の計 32 単位以上の履修が、高度実践看護学分野の論文コースまたは生活支援看護学分野では、共通科目 8 単位以上、専門科目の特論及び演習、特別研究、20 単位以上の計 32 単位以上の履修が修了要件となります。

7. 研究指導の方法と学位審査の概要

入学時から、専攻の領域責任者または他の研究指導教員が研究を指導します。なお、入学後に研究指導教員の変更を希望する場合は、看護学研究科委員会の承認を必要とします。

2 年次前期には、研究計画書をもとに実際にデータ収集等の研究活動に入ります。研究の着手にあたって埼玉医科大学倫理審査委員会等の承認を得る必要があります。研究の遂行にあたっては、指導教員の個別的な指導が主となりますが、学内の研究計画発表会に参加して、研究科の他のスタッフや院生から評価・助言を受けます。2 年次の 11 月に学内で研究成果の公開発表を行い、その後、学位論文を提出します。提出された学位論文は、学位論文審査委員会で審査され、論文に関連する科目の最終試験が行われます。

埼玉医科大学大学院学則等

埼玉医科大学大学院学則

（昭和53年 3月24日制定）
改正 昭和57年 4月 1日 平成元年 4月 1日
平成 3年 9月27日 平成 3年12月 1日
平成 4年 4月 1日 平成 6年 4月 1日
平成 7年 4月 1日 平成 8年 4月 1日
平成 9年 4月 1日 平成10年 4月 1日
平成11年 3月20日 平成12年 4月 1日
平成13年 4月 1日 平成14年 4月 1日
平成17年 4月 1日 平成18年 4月 1日
平成19年 4月 1日 平成19年12月 1日
平成20年 4月 1日 平成21年 4月 1日
平成22年 4月 1日 平成24年 4月 1日
平成25年 4月 1日 平成26年 4月 1日
平成27年 4月 1日 平成28年 4月 1日
平成29年 3月25日 平成30年 3月24日
平成31年 3月23日 令和元年11月30日
令和 2年 3月30日 令和 3年 3月27日
令和 4年 3月26日 令和 6年 3月30日
令和 7年 3月29日

目　次

第１章　総則
第２章　組織
第３章　修業年限
第４章　学年度、学期及び休業日
第５章　授業科目、研究指導及び履修方法
第６章　入学、留学、休学、転学及び退学等
第７章　課程修了及び学位の授与
第８章　除籍及び賞罰
第９章　学費
第１０章　教員組織
第１１章　運営
第１２章　特別研究学生、協力研究員及び科目等履修生
第１３章　補則
附　則

第１章　総則

（目的）

第１条　埼玉医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与することを目的とする。

2　本大学院に置く課程は、修士課程及び博士課程とし、その目的は次のとおりとする。

(1)　修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

(2)　博士課程は、専攻分野について、医学研究者として自立して研究活動を行うのに必要な、高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

3　本大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的等を定めるものとする。

第２章　組織

（研究科・専攻・課程）

第２条　本大学院に、次の研究科、専攻及び課程を置く。

研究科名	専攻名	課程名
医学研究科	生物・医学研究系専攻	博士課程
	社会医学研究系専攻	
	臨床医学研究系専攻	
	医科学専攻	修士課程
看護学研究科	看護学専攻	修士課程

第３条　削除

第４条　削除

（定員）

第５条　各専攻の定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻	入学定員	収容定員
医学研究科生物・医学研究系専攻	10名	40名
医学研究科社会医学研究系専攻	4名	16名
医学研究科臨床医学研究系専攻	36名	144名
医学研究科医科学専攻	8名	16名
看護学研究科看護学専攻	10名	20名

第３章　修業年限

（修業年限・在学年限）

第６条　修士課程の標準修業年限は2年とし、博士課程の標準修業年限は４年とする。

2　各研究科の修士課程においては、別に定めるところにより、学生が職業を有している等の事情により、2年の標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

3　在学年限は、本条第1項の標準修業年限の2倍を超えることができない。

第４章　学年度、学期及び休業日

（学年）

第７条　学年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、第13条の規定により後期の始めに入学させた者の学年度は、10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

（学期）

第８条　学年度を分けて次の２学期とする。

(1)　前期　4月1日から9月30日まで

(2)　後期　10月1日から翌年3月31日まで

（休業日）

第９条　休業日は、次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3)　大学創立記念日　5月4日

(4)　春季休業日　4月1日から同月7日まで

(5)　夏季休業日　7月11日から9月10日まで

(6)　冬季休業日　12月25日から翌年1月7日まで

2　学長は、必要により前項各号の休業日を変更し、あるいは臨時に休業日を設け、又は休業日に授業を行うことができる。

第５章　授業科目、研究指導及び履修方法

（授業科目及び研究指導）
第１０条　研究科における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。
2　研究科の各専攻における授業科目は、別表１から３のとおりとする。
3　研究指導については、別に定める。
（他の大学院等における研究指導）
第１０条の２　研究科において教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生が当該他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。
2　前項の研究指導のうち連携大学院に関し必要な事項は、別に定める。
（履修方法）
第１１条　学生は、前条に定める授業科目について、別表に従って医学研究科では30単位以上、看護学研究科では32単位以上を履修しなければならない。
2　前項の単位の計算については、埼玉医科大学学則第１３条の規定を準用する。
3　履修する授業科目の選定は、指導教員の指示に従うものとする。
4　指導教員が、研究指導上必要があると認めたときは、研究科長の承認を得て、他の専攻又は学部の授業科目を履修させることができる。
5　学生は、履修する授業科目を所定の届書に記載し、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。
6　この条に定めるもののほか、授業科目の履修について必要な事項は研究科委員会が定める。
（教育方法の特例）
第１１条の２　本大学院は、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。
（履修単位の認定）
第１２条　履修単位の認定は、筆記又は口述試験若しくは研究報告等により行うものとする。
2　疾病その他やむを得ない事情のため、正規の試験を受けることができなかった者には、追試験を受けさせることができる。
3　各授業科目の試験又は研究報告の成績は、Ａ．Ｂ．Ｃ．Ｄをもって表し、Ａ．Ｂ及びＣを合格、Ｄを不合格とする。

第６章　入学、留学、休学、転学及び退学等

（入学の時期）
第１３条　入学の時期は、学期の始めとする。ただし、学長は後期の始めに入学を許可することができる。
（入学資格）
第１４条　修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
(2)　学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
(3)　外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
(4)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
(5)　我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
(6)　専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(7)　文部科学大臣の指定した者
(8)　学校教育法第102条第1項に規定する学士の学位を有する者
(9)　学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学に在学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
(10)　本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
2　博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　大学の医学、歯学又は修業年限が6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者
(2)　外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了した者
(3)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了した者
(4)　我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
(5)　文部科学大臣の指定した者
(6)　学校教育法第102条第1項に規定する修士の学位を有する者
(7)　学校教育法第102条第2項の規定により他の大学に在学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
(8)　本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

(入学試験)

第１５条　入学を志願する者は、入学検定料30,000円を添えて、所定の入学願書及び必要書類を指定の期日までに提出しなければならない。

2　入学者の選抜時期、選抜方法等は、別に定める。

(入学手続)

第１６条　入学を許可された者は、所定の期日までに入学金その他の学納金を添えて、誓約書を提出しなければならない。

2　前項に規定する手続を取らない者は、入学の許可を取り消すことがある。

(留学)

第１７条　本大学院との協定による国内外の大学院又はこれに相当する教育研究機関に留学しようとする者は、研究科委員会に願い出なければならない。

2　休学することなく留学できる期間は、原則として１年とする。ただし、教育上必要と認めるときは更に1年以内に限り延長を認める。

(休学)

第１８条　疾病その他やむを得ない事由のため、3箇月以上修学することができないときは、所定の願書に必要書類を添えて、学長に願い出て休学することができる。

2　学長は、特に必要と認めた者には、休学を命ずることがある。

3　休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特にやむを得ない事由があると認められるときは、更に1年を限り延長することがある。

4　休学の期間は、第6条第3項の修業年限に算入しない。

(復学)

第１９条　休学期間の満了のとき又は休学期間中にその事由が削減したときは、所定の復学願により、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第２０条　他の大学院に在学する者が、本大学院に転入学を願い出たときは、欠員ある場合に限り、選考のうえ、これを許可することがある。

2　学生が、他の大学院に転学しようとするときは、所定の転学願により、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第２１条　疾病その他の事由により退学しようとするときは、所定の退学願により、学長の許可を受けなければならない。

(再入学)

第２２条　前条の規定により退学した者で、退学後１年以内に再び入学を願い出る者があるときは、欠員のあるときに限り考査のうえ、これを許可することがある。ただし、研究科委員会が特に認めたときは、退学後１年を超える者についても再入学を認めることがある。

2　考査の方法、授業科目の履修その他必要な事項は、研究科委員会が定める。

第７章　課程修了及び学位の授与

（課程修了）
第２３条　本大学院の修士課程の修了は、次のとおりとする。
(1)　所定の授業科目について、医学研究科では30単位以上、看護学研究科では32単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。
(2)　在学期間に関しては、研究科に２年以上在学すること。ただし、優れた研究業績をあげた者については、１年以上在学すれば足りるものとする。
2　本大学院の博士課程の修了は、次のとおりとする。
(1)　所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。
(2)　在学期間に関しては、研究科に4年以上在学すること。ただし、優れた研究業績をあげた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。
3　修了時期は学期の区分に従う。
（学位の授与）
第２４条　前条の規定により課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科・専攻	学　位
医学研究科生物・医学研究系専攻(博士課程)	博士(医学)
医学研究科社会医学研究系専攻(博士課程)	
医学研究科臨床医学研究系専攻(博士課程)	
医学研究科医科学専攻　生体機能科学分野(修士課程)	修士(医科学)又は修士(臨床検査学)
医学研究科医科学専攻　生体医工学分野(修士課程)	修士(医科学)又は修士(医工学)
医学研究科医科学専攻　理学療法学分野(修士課程)	修士(医科学)又は修士(理学療法学)
看護学研究科看護学専攻(修士課程)	修士(看護学)

2　大学院医学研究科博士課程の課程を経ない者で、学位論文を提出し、その審査及び試験に合格し、前条に定める者と同等以上の学力があると認められた者には、博士（医学）の学位を授与する。
3　学位に関する事項は、埼玉医科大学学位規則で定める。

第８章　除籍及び賞罰

（除籍）
第２５条　次の各号の一に該当する者は、除籍する。
(1)　故なくして３箇月以上授業料その他の学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
(2)　在学の期間が、修士課程にあっては４年、博士課程にあっては８年を超える者
(3)　死亡した者
(4)　行方不明の届出のあった者
（表彰）
第２６条　優れた研究業績を挙げ、又は学生の模範となる者があるときは、学長は研究科委員会の意見を聴いてこれを表彰することがある。
（懲戒）
第２７条　学生が、本学の教育方針に違背し、又は学生としての本分にもとる行為のある者は、学長は研究科委員会の意見を聴いてこれを懲戒する。
2　懲戒は、けん責、停学及び退学とする。
（退学の要件）
第２８条　前条の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2)　正当の事由なくして出席常でない者

(3)　学則に違背し、又は本学の秩序を乱した者

第９章　学費

（学費）

第２９条　入学金及び授業料は、次のとおりとする。

(1)　入学金（入学時のみ）　　300,000円

(2)　授業料（年額）博士課程　500,000円

　　授業料（年額）修士課程　700,000円

(3)　施設設備費（年額）　　200,000円

2　第6条第2項の規定に基づき、当該標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に履修して課程を修了することを認められた者(「長期履修生」という。)については、前項の規定にかかわらず、別に定める。

（学費の納入）

第３０条　授業料は、所定の期日までに納入しなければならない。ただし、願い出により２期に分納することができる。

2　授業料は、休学又は停学中であっても徴収する。

3　退学、除籍又は懲戒退学の場合における授業料は、その納期に属する分はこれを徴収する。

4　授業料を所定の期日までに納入しないときは、授業への出席、図書の閲覧、その他施設の利用を認めない。

5　学費の納入の時期その他細目については、別に定める。

第１０章　教員組織

（教員組織）

第３１条　研究科における授業は、本学の大学院教員が担当する。

2　研究科における研究指導は、本学の指導教員が担当する。

3　大学院教員及び指導教員の資格要件については、別に定める。

（研究科長）

第３２条　各研究科に研究科長を置く。

2　選考については、別に定める。

第１１章　運営

（大学院委員会）

第３３条　本大学院に大学院委員会を置き、次の委員をもって組織する。

(1)　学長

(2)　各研究科長

(3)　学校法人埼玉医科大学の理事若干名

(4)　各研究科から選出された教員若干名

(5)　その他学長が必要と認め、大学院委員会の承認を得た者

（大学院委員会の役割）

第３４条　大学院委員会の役割は、次のとおりとする。

(1)　各研究科の連絡調整に関する事項

(2)　大学院と学部その他の機関との連絡調整に関する事項

(3)　その他学長の諮問事項

（大学院委員会の招集）

第３５条　大学院委員会は、学長が招集し、その議長となる。

2　学長に事故あるときは、委員のうちからあらかじめ学長の指名する者が、その職務を代行する。

（大学院委員会の職務）

第３６条　第33条から前条までに定めるもののほか、大学院委員会について必要な事項は、学長が定める。

（研究科委員会）

第３７条　各研究科に、研究科委員会を置く。

2　研究科委員会の構成員及び運営に関する事項は、別に定める。

（研究科委員会の審議事項）

第３８条　研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものと

する。
(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了
(2)　学位の授与
(3)　前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
2　研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
（研究科委員会の招集）
第３９条　研究科委員会は、研究科長が招集し、その議長となる。
2　研究科長に事故あるときは、委員のうちからあらかじめ研究科長が指名する者が、その職務を代行する。
（研究科委員会の職務）
第４０条　第37条から前条までに定めるもののほか、研究科委員会について必要な事項は、研究科委員会が定める。

第１２章　特別研究学生、協力研究員及び科目等履修生

（特別研究学生）
第４１条　国内外の他の大学院から大学院学生の研究指導の申入れがあったときは、研究科委員会の意見を聴いて受け入れることができる。
2　特別研究学生の受託規則は、別に定める。
（協力研究員）
第４２条　公共又は民間の諸機関から学外研究者の研究指導の申入れがあったときは、研究科委員会の議を経て受け入れることができる。
2　協力研究員の受託規則は、別に定める。
（科目等履修生）
第４３条　本大学院の学生以外の者から本大学院が定める所定の授業科目のうち、一又は複数の授業科目について履修の申入れがあったときは、研究科委員会の意見を聴いて受け入れることができる。
2　科目等履修生の受託規則は、別に定める。
（大学院研究生）
第４４条　本大学院教員の指導を受け、特定の専門事項を研究しようとする者があるときは、研究科委員会の意見を聴いて受け入れることができる。
2　大学院研究生に関する事項は、別に定める。

第１３章　補則

（補則）
第４５条　この学則に定めるもののほか、別段の定めがない限り、学部学生に関する規定を準用する。
2　前項の規定により、学部学生に関する規定を準用するに当たっては、「教授会若しくは教員代表者会議」とあるのは、「研究科委員会」と読み替えるものとする。

附　則

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附　則（昭和57年4月1日）

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附　則（平成元年4月1日）

この学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、平成元年度入学生については、改正後の規定にかかわらず、前年度の3月31日までに納入した入学金については、なお従前の額による。

附　則（平成3年9月27日）

この学則は、平成3年9月27日から施行する。

附　則（平成3年12月1日）

この学則は、平成3年12月1日から施行する。

附　則（平成4年4月1日）

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附　則（平成6年4月1日）

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附　則（平成7年4月1日）

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附　則（平成8年4月1日）

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附　則（平成9年4月1日）

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附　則（平成10年4月1日）

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附　則（平成11年3月20日）

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附　則（平成12年4月1日）

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附　則（平成13年4月1日）

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附　則（平成14年4月1日）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附　則（平成17年4月1日）

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附　則（平成18年4月1日）

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附　則（平成19年4月1日）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則（平成19年12月1日）

この学則は、平成19年12月1日から施行する。

附　則（平成20年4月1日）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附　則（平成21年4月1日）

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附　則（平成22年4月1日）

この学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日以前に入学した学生に係る授業料等学納金の額は、改正後の学則第29条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成24年4月1日）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附　則（平成25年4月1日）

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附　則（平成26年4月1日）

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附　則(平成27年3月20日)

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日以前に入学した学生に係る別表3の適用については、なお従前の例による。

附　則(平成28年4月1日)

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附　則(平成29年3月25日)

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附　則(平成30年3月24日)

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附　則(平成31年3月23日)

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附　則(令和元年11月30日)

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附　則(令和2年3月30日)

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附　則(令和3年3月27日)

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附　則(令和4年3月26日)

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附　則(令和6年3月30日)

この学則は、令和6年4月1日から施行する。

附　則(令和7年3月29日)

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

別表 3(第 10 条関係)看護学研究科看護学専攻(修士課程)授業科目及び単位数

◎印の科目は必修科目

共通科目　　修了要件 32 単位

授業科目名	授業の形式	単位数	備考
看護管理学	講義	2	指定された授業科目を含む 8 単位以上
看護倫理学	講義	2	
看護理論	講義	2	
看護継続教育論	講義	2	
看護研究方法論	講義	2	
ヒューマン・セクシュアリティ	講義	2	
コンサルテーション論	講義	2	
看護情報処理論	講義	2	
人体統合機能論	講義	2	
看護政策論	講義	2	
フィジカルアセスメント	講義	2	
病態生理学	講義	2	
臨床薬理学	講義	2	

専門科目

分野	領域	授業科目名	授業の形式	単位数	備考
高度実践看護学分野	成人看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	講義	1	当該領域 20 単位以上 ただし、課題研究を選択する者は看護学実習は必修とする
		がん看護学特論Ⅱ	講義	1	
		がん看護学特論Ⅲ	講義	2	
		がん看護学特論Ⅳ	講義	2	
		がん看護学演習Ⅰ	演習	2	
		がん看護学演習Ⅱ	演習	2	
		がん看護学演習Ⅲ	演習	2	
		がん看護学演習Ⅳ	演習	2	
		がん看護学実習Ⅰ	実習	1	
		がん看護学実習Ⅱ	実習	2	
		がん看護学実習Ⅲ	実習	4	
		がん看護学実習Ⅳ	実習	3	
		クリティカルケア学特論Ⅰ	講義	3	
		クリティカルケア学特論Ⅱ	講義	3	
		クリティカルケア学演習Ⅰ	演習	3	
		クリティカルケア学演習Ⅱ	演習	3	
		クリティカルケア学実習	実習	6	
		成人看護学特論Ⅰ	講義	3	
		成人看護学特論Ⅱ	講義	3	
		成人看護学演習Ⅰ	演習	3	
		成人看護学演習Ⅱ	演習	3	
		成人看護学特別研究	演習	8	
		成人看護学課題研究	演習	4	

分野	領域	授業科目名	授業の形式	単位数	備考
高度実践看護学分野	小児看護学領域	小児看護学特論Ⅰ	講義	3	当該領域20単位以上 ただし、課題研究を選択する者は看護学実習は必修とする
		小児看護学特論Ⅱ	講義	3	
		小児看護学演習Ⅰ	演習	3	
		小児看護学演習Ⅱ	演習	3	
		小児看護学実習	実習	6	
		小児看護学特別研究	演習	8	
		小児看護学課題研究	演習	4	
	精神保健看護学領域	精神保健看護学特論Ⅰ	講義	2	
		精神保健看護学特論Ⅱ	講義	2	
		精神保健看護学特論Ⅲ	講義	2	
		精神保健看護学特論Ⅳ	講義	2	
		精神保健看護学演習Ⅰ	演習	2	
		精神保健看護学演習Ⅱ	演習	2	
		精神保健看護学演習Ⅲ	演習	2	
		精神保健看護学実習Ⅰ	実習	1	
		精神保健看護学実習Ⅱ	実習	2	
		精神保健看護学実習Ⅲ	実習	4	
		精神保健看護学実習Ⅳ	実習	3	
		精神保健看護学特別研究	演習	8	
		精神保健看護学課題研究	演習	4	
生活支援看護学分野	基礎看護学・看護管理学領域	基礎看護学特論Ⅰ	講義	3	
		基礎看護学特論Ⅱ	講義	3	
		基礎看護学演習Ⅰ	演習	3	
		基礎看護学演習Ⅱ	演習	3	
		看護管理学特論Ⅰ	講義	3	
		看護管理学特論Ⅱ	講義	3	
		看護管理学演習Ⅰ	演習	3	
		看護管理学演習Ⅱ	演習	3	
		◎基礎看護学・看護管理学特別研究	演習	8	
	地域活動看護学領域	◎地域活動看護学特論Ⅰ	講義	3	
		◎地域活動看護学特論Ⅱ	講義	3	
		◎地域活動看護学演習Ⅰ	演習	3	
		◎地域活動看護学演習Ⅱ	演習	3	
		◎地域活動看護学特別研究	演習	8	

埼玉医科大学大学院の目的に関する規則

（平成21年11月13日制定）
改正 平成25年 3月15日

（趣　旨）
第１条　この規則は、埼玉医科大学大学院学則第1条第３項の規定に基づき、大学院の各研究科におく専攻ごとの人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるものとする。
（各研究科専攻の目的）
第２条　各研究科におく専攻ごとの目的は、次のとおりとする。
(1)　医学研究科生物・医学研究系専攻(博士課程)は、生物・医学研究分野に関する研究者として、高度で最先端の基礎的研究に従事し、自立して研究活動を行うに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
(2)　医学研究科社会医学研究系専攻(博士課程)は、社会医学研究分野に関する研究者として、高度で最先端の社会医学研究に従事し、自立して研究活動を行うに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
(3)　医学研究科臨床医学研究系専攻(博士課程)は、臨床医学研究分野に関する研究者並びに職能人として、高度で最先端の臨床医学研究に従事し、自立して研究・医療活動を行うに必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
(4)　医学研究科医科学専攻(修士課程)は、医科学に係わる様々な分野において、幅広く深い学識と高い倫理観を持ち、学際的分野へも対応可能な専門的研究能力並びに卓越した技能を有する高度専門職者を育成することを目的とする。
(5)　看護学研究科看護学専攻(修士課程)は、科学的・研究的視点をもとにして、高い倫理観と高度な研究能力、実践能力及び多様な人々に対する生活支援能力を有する看護職者を育成し、地域のケアニーズに応えることを目的とする。

附　則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附　則(平成25年3月15日)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

履修に関する事項

履修に関する事項

授業科目の履修に当たっては、次の内容を十分理解のうえ、履修登録を行うこと。

1．共通科目

共通科目には看護管理学等 13 の授業科目（講義）があり、このうち各領域で指定された科目を含む 8 単位以上を修得する必要がある。

2．専門科目

各分野の取扱いは次のとおりである。

(1)　高度実践看護学分野

領域ごとに特論(講義)、演習、実習、特別研究(演習)及び課題研究(演習)がある。このうち 20 単位以上を修得しなければならない。ただし課題研究を選択する者は看護学実習 6 単位が必修となる。

(2)　生活支援看護学分野

領域ごとに特論(講義)、演習、実習、特別研究(演習)がある。このうち当該領域で 20 単位以上を修得しなければならない。

3．修了要件

以上の分野ごとの各科目の取得要件を満たし、合計 32 単位以上を修得して、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

4．学位の授与

最終試験に合格した者には修士(看護学)の学位が与えられる。(学位規則参照)

5．コース制

高度実践看護学分野には、論文コースと実践コースがあり、論文コースでは特別研究を選択し、実践コースでは課題研究と看護学実習を選択しなければならない。

なお生活支援看護学分野は論文コースだけとなる。

6．履修モデル

授業科目の履修例について、一般学生と長期履修生、各分野、各領域、コースごとの履修モデルについて、履修モデル 1 から 3 までの例を示している。(履修モデル参照)

7．長期履修生

修士課程の標準修業年限は 2 年であるが、職業を有し就業しているなどのため、標準修業年限内では修学が困難な学生について、修業年限を 3 年として修学を認めるものである。この制度を活用する場合は、届出が必要となる。（長期履修生制度参照）

8．履修登録

指導教員と相談して履修科目を選択し、履修届を提出すること。なお履修届には、指導教員が確認及び押印したものを届出ること。

9．科目等履修生

科目等履修生を希望する場合には、科目等履修生受託規則を参照すること。

埼玉医科大学大学院看護学研究科履修要領

(趣旨)

第１条　埼玉医科大学看護学研究科の大学院学生(以下「学生」という。)の授業科目の履修方法については、学則に定めるもののほかこの履修要領による。

(履修科目等)

第２条　学生は、入学試験において選択した分野、領域の科目群（以下、主科目群という。）を中心に選択し、履修するものとする。

2　学生は、看護学研究科委員会で決定された研究指導に責任をもつ者(以下「指導教員」という。)の指導と指示に基づき作成した履修計画に従い、授業科目を履修するものとする。

(履修方法)

第３条　学生は、指導教員の指示に基づき、次に掲げる授業科目を履修し、合わせて 32 単位以上を修得しなければならない。

2　共通科目は、指定された授業科目を含む 8 単位以上

3　専門科目は、当該領域 20 単位以上

4　講義科目は 1 単位 15 時間、演習科目は 1 単位 30 時間、実習科目は 1 単位 45 時間とする。

(他の研究科の授業科目の履修)

第４条　指導教員が必要と認めて、他の研究科の授業科目を選択履修させた場合は、その科目を履修単位として認定することができる。ただし前条第 1 項の 32 単位には含めない。

(入学前の既修得単位等の認定)

第５条　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、15 単位を超えない範囲で本学に入学した後の本研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　教育上有益と認めるときには、学生が本学に入学する前に行った前項に規定する学修を、別に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

(履修届)

第６条　学生は、学年始めに履修しようとする科目について、指導教員の確認を得たうえで所定の期日までに履修届を研究科長に提出しなければならない。

(成績の評価)

第７条　成績の評価は、毎学期ごとに筆記試験等により行う。

2　授業科目の成績評価は、A．B．C．D をもって評価し、A．B 及び C を合格とし、D を不合格とする。

3　学位論文及び最終試験の成績は、合・否をもって評価し、合を合格、否を不合格とする。

4　病気その他やむを得ない事由により成績評価を受けることができなかった者は、願い出により科目責任者の指定する方法により評価を受けることができる。

(単位の授与)

第８条　前条第 2 項の成績評価により合格した授業科目には、所定の単位を与える。

(主科目群の変更)

第９条　選択した領域の変更は、原則として認めない。特別の事情がある場合に限り、研究科委員会の議を経て、許可することがある。ただし、変更先の領域の科目を全て履修しなければならない。

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
この規則は、令和元年 6 月 27 日から施行する。
この規則は、令和 2 年 7 月 30 日から施行する。
この規則は、令和 4 年 2 月 24 日から施行する。

埼玉医科大学学位規則

(昭和53年 3月24日制定)
改正 平成 8年 4月 1日 平成12年 4月 1日
平成13年 4月 1日 平成18年 4月 1日
平成18年11月20日 平成19年 4月 1日
平成22年 4月 1日 平成23年11月18日
平成24年 5月21日 平成25年 3月15日
平成26年 3月12日 平成27年 3月12日
平成27年11月20日 平成29年11月17日
平成31年 3月15日 令和 2年 3月24日

(趣旨)
第１条　この規則は、学位規則(昭和28年文部省令第9号。)第13条の規定に基づき、埼玉医科大学(以下「本学」という。)において授与する学位に関し必要な事項を定めるものとする。
(学位の種類)
第２条　本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。
(学位授与の要件)
第３条　次の各号のいずれかに該当する者には、学位を授与する。
(1)　学士の学位は、本学学部を卒業した者
(2)　修士の学位は、本学大学院の修士課程を修了した者
(3)　博士の学位は、本学大学院の博士課程を修了した者
(4)　前号に規定するもののほか、本学に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、専攻学術に関し本学大学院博士課程の修了者と同等以上の学力を有することが確認された者には博士の学位を授与することができること。
2　前項の規定により学位を授与するに当たっては、別表に掲げる区分により、専攻分野の名称を付記するものとする。
(学位論文提出の資格)
第４条　修士課程又は博士課程の学生が、修士又は博士の学位論文(以下「学位論文」という。)を提出するためには、所定の単位等を修得し、学位論文の主題及びその研究計画書を当該指導教員に提出し、その承認を受けなければならない。
2　前条第1項第4号の規定により本学に学位論文を提出することのできる者は、卒業･修了した課程に応じた研究歴がなければならない。なお、研究歴期間等については、別に定める。
(学位論文の提出)
第５条　本学大学院の修士課程に1年以上在学し、所定の科目について医学研究科にあっては30単位以上、看護学研究科にあっては32単位以上を取得した者は、学位論文審査願により学位論文を提出することができる。
2　本学大学院の博士課程に3年以上在学し、所定の科目について30単位以上を取得した者は、学位論文審査願(様式第１号)により学位論文を提出することができる。
3　学位論文は、在学期間中に提出するものとし、その期日は研究科委員会において別に定める。
4　本学大学院の博士課程に4年以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたのみで退学した者が学位を申請する場合は、第3条第1項第4号の規定の該当者として取り扱う。
(博士の学位授与の申請)
第６条　第3条第1項第4号の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に、学位論文、履歴書及び学位論文審査手数料(以下「審査手数料」という。)を添えて研究科長を経て学長に提出するものとする。
2　学位論文の提出は、次の各号に掲げるとおりとする。
(1)　主論文1編とし、他に参考論文を添えることができること。この場合において、論文目録を付すものとする。
(2)　審査のため必要があるときは、研究歴証明書の関係資料を提出させることがあること。
(審査手数料)
第７条　審査手数料は、次の各号に掲げるとおりとする。
(1)　第5条第2項の規定により申請する場合　30,000円

(2)　前条第1項の規定により申請する場合　200,000円

(学位論文及び審査手数料の返付)

第８条　いったん受理した学位論文及び納入した審査手数料は、いかなる事由があっても返却しない。

(学位論文の審査)

第９条　第5条第1項及び第2項又は第6条第1項の規定により提出された学位論文を受理したときは、学長は研究科委員会にその審査を付託する。

(審査委員会)

第１０条　審査委員会は、研究科委員会が指名する委員をもって構成する。

2　審査委員会は、博士課程にあっては4名以上、修士課程にあっては3名以上とする。

3　審査の主査は、審査委員のうちから研究科委員会が指名する者をもって充てる。

(学位論文の審査及び学力の確認等)

第１１条　審査委員会は、次の各号に定めるところにより学位論文の審査、最終試験及び学力の確認を行う。

(1)　最終試験は学位論文を中心として、口答又は筆答試問によって行うこと。

(2)　第6条第1項の規定により学位論文を提出した者の論文審査については前号と同一の方法によるものとし、更に学力の確認のための試問を行うこと。この場合において、外国語を課すものとする。ただし、医学研究科に所定の年限以上在学し、所定の単位を修得した者については、学力確認のための試問を免除することがある。

2　審査委員会は、審査の結果を研究科委員会に報告する。

3　研究科委員会は、審査について必要があるときは、他の大学の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

4　前3項に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

(学位論文の審査期限)

第１２条　審査委員会は、第5条第1項又は第2項の規定に係る者については、在学期間中に審査を終了するものとする。

2　審査委員会は、第5条第4項又は第6条第1項の規定に係る者については論文の審査を委嘱されてから1年以内に審査及び試験を終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは、研究科委員会の意見を聴いて学長がその期間を1年以内に限り延長することができる。

(判定)

第１３条　研究科委員会は、第11条第2項の規定による報告に基づき、学長が決定するに当たり学位論文の審査、学力の確認及び試験の合否を議決する。

2　前項の議決に当たっては、研究科委員会の3分の2以上の出席を要し、出席委員の3分の2以上の同意を要する。

3　前項の議決は、無記名投票をもって行う。

(学位の授与)

第１４条　学長は、埼玉医科大学学則第15条及び第16条の規定により卒業した者並びに前条の議決により課程を修了した者及び論文審査に合格した者に対し、学位記により学位を授与し、学位を授与できない者にはその旨通知する。

(論文要旨の公表)

第１５条　学長は、博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第１６条　博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3　博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

（博士の学位の名称）
第１７条　博士の学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、当該学位名の下に、「埼玉医科大学」と大学名を付記するものとする。
（学位の取消し）
第１８条　本学において学位の授与を受けた者が次の各号の一に該当する場合は、学長は関係学部の教授会又は研究科委員会の意見を聴いて、既に授与した学位を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表するものとする。
(1)　不正の方法によって学位を受けた事実が判明した場合
(2)　名誉を汚す行為があると認められた場合
2　学部教授会又は研究科委員会において、前項の議決を行う場合は、第13条第2項の規定を準用する。
（学位記の再交付）
第１９条　学位記の再交付を受けようとする者は、理由を明記して、学長に申請しなければならない。
（登録及び報告）
第２０条　本学において博士の学位を授与したときは、学長は学位簿に登録し、併せて3か月以内に学位(博士)授与報告書により文部科学大臣に報告するものとする。
（学位記等の様式）
第２１条　学位記及び学位授与申請関係書類等の様式については、別に定める。

附　則

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。

附　則(平成8年4月1日)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附　則(平成12年4月1日)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附　則(平成13年4月1日)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附　則(平成18年4月1日)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附　則(平成18年11月20日)

この規則は、平成18年11月20日から施行する。

附　則(平成19年3月19日)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成21年11月13日)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附　則(平成23年11月18日)

この規則は、平成23年11月18日から施行する。

附　則(平成24年5月21日)

この規則は、平成24年5月21日から施行し、平成24年3月31日から適用する。

附　則(平成25年3月15日)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附　則(平成26年3月12日)

この規則は、平成26年3月12日から施行する。

附　則(平成27年3月12日)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。なお、平成27年3月31日以前に入学した学生に係る別表(学位及び専攻分野の名称)の適用については、従前の例による。

附　則(平成27年11月20日)

この規則は、平成27年11月20日から施行する。

附　則(平成29年11月17日)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附　則(平成31年3月15日)

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附　則(令和2年3月24日)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

埼玉医科大学学位規則のうち修士に関する運用細則

（令和7年10月24日制定）

（趣旨）

第１条　埼玉医科大学（以下「本学」という。）における修士の学位（医科学、臨床検査学、医工学、理学療法学、看護学。以下「学位」という。）の運用については、埼玉医科大学学位規則（昭和53年3月24日制定。以下「規則」という。）に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

（学位授与の要件）

第２条　学位は、規則第3条第1項第2号に規定する区分により、埼玉医科大学大学院医学研究科修士課程又は埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程（以下「修士課程」と総称する。）において所定の単位を修得し、学位申請論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

（学位申請論文）

第３条　学位申請論文は単著論文とし、原著論文として取り扱わないものとする。

2　学位申請論文は、次の各号に掲げるいずれの要件を満たさなければならない。

(1)　学位申請論文の研究内容又は論文作成に本学の大学院指導教員が、次のいずれかの要件に関与し、かつ、当該研究を主として実施した施設の倫理審査申請書及び研究計画書に、申請者及び指導教員の氏名が記載されていること。

ア　学位申請論文の謝辞に氏名が記載されていること。

イ　当該研究に関与していることが証明でき、かつ、所定の書類を提出し、埼玉医科大学大学院医学研究科修士課程運営委員会又は埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程運営委員会（以下「修士課程運営委員会」と総称する。）が認めたものであること。

(2)　申請者の所属に本学の名称が記載されていること。

3　学位授与の申請に当たっては、修士課程での研究成果を報告するものとする。

4　学位論文の審査は、複数回かつ審査項目に基づいて厳密に行われ、相当の期間を要することができる。

5　学位申請論文には、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（平成3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年文部科学省告示第71号）その他研究の実施に当たり必要な法令及び指針に基づき適正な手続を経ていることを記載するものとする。

6　前各項に定めるもののほか、学位申請論文に関し必要な細目については、学位申請論文作成の手引（修士課程運営委員会作成）の定めるところによる。

（審査委員の選出）

第４条　規則第10条の審査委員会は、原則として主査1名及び副査2名の計3名の審査委員（以下「審査委員」という。）をもって組織する。

2　審査委員の選出は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　代表指導教員は、大学院に属する教員のうちから候補者を指名し、修士課程運営委員会に推薦すること。

(2)　申請者の論文指導を行った指導教員は、原則として審査委員になることができないこと。ただし、正当な理由があると認められる場合は、この限りでない。

(3)　医学研究科修士課程にあっては、原則として主査及び副査の各1名は申請者の属する大学院基本学科の教員とし、他の副査1名は当該申請者が属さない大学院基本学科の教員から選出すること。ただし、正当な理由があると認められる場合は、この限りでない。

(4)　修士課程運営委員会は、推薦された審査委員候補者を参考に、審査委員（主査及び副査）を選出し、埼玉医科大学大学院医学研究科委員会又は埼玉医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」と総称する。）にその旨を報告すること。

(5)　当該研究科委員会は、報告された審査委員について意見を聴いて決定すること。

（審査委員会での審査項目）

第５条　審査委員会での審査項目は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　研究背景の理解度

研究テーマの背景について正しく理解し、その分野の先行研究に対して、精確な読解及び的確な評価が行われているかその適否

(2)　研究テーマの妥当性

研究背景に基づき、どのような問題意識で研究テーマを設定したかを十分に説明できるかその適否

(3)　研究手法の妥当性

研究テーマの探求のための方法論について正しく理解し、その結果、適切な理論、実験、調査又は情報収集を行っているかその適否

(4)　研究の倫理性

研究の倫理に関して研究計画と論文内容が一致していること。また、特定不正行為(捏造・改ざん・盗用)その他の不正行為(二重投稿等)が行われていないかその適否

(5)　論文の論理性

論文の記述(本文、図表、引用文献等)が十分かつ適切であり、首尾一貫した論理構成になっており、論理的に明確な結論が導かれているかその適否

(6)　論文の学術的意義

当該研究領域の理論的見地又は実証的見地に加え、国際学術水準及び学際的観点からみて独自の価値を有するものとなっているかその適否

(7)　申請者の学識・識見

研究テーマについて、その研究の将来の展望を十分に説明でき、審査委員会における質問に対して、適切に回答することができるかその適否

(学位論文の図書館への提供)

第６条　修士の学位を授与された者は、本学の日高キャンパス分館図書館及び川角キャンパス分館図書館(以下「図書館」と総称する。)での配架のために当該学位論文を製本し、図書館に提供する。

附　則

この細則は、令和7年10月24日から施行する。

学位論文(修士)提出・審査のスケジュール

通常課程

1年次

4月	研究指導教員の決定
	文献検討
11月	研究計画の発表会（第1回）

2年次

4月	研究計画の発表会（第2回）
	研究計画書の修正・確認
12月初旬	研究発表会
1月上旬	論文の提出
	修士論文の審査・最終試験
3月上旬	最終論文の提出
3月下旬	修士課程の修了証書・学位記授与

長期履修課程

1年次

4月	研究指導教員の決定
	文献検討
11月	研究計画の発表会（第1回）

2年次

4月	文献検討
4月または11月	研究計画の発表会（第2回）

3年次

4月	研究:計画の発表会（第3回）
	研究計画書の修正・確認
12月初旬	研究発表会
1月上旬	論文の提出
	修士論文の審査・最終試験
3月上旬	最終論文の提出
3月下旬	修士課程の修了証書・学位記授与

埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程
学位論文審査基準

Ⅰ 特別研究論文（8単位）

1. 看護の学術的研究としての意義を有する研究課題である。
2. 原著論文を含む先行研究の十分な検討にもとづいて、研究課題の必要性や妥当性が述べられている。
3. 研究目的が明確に述べられている。
4. 研究目的に適した研究デザインおよび研究方法が用いられている。
5. 必要なデータが十分に収集できている。
6. データが適切に分析できている。
7. 研究結果が適切に述べられている。
8. 文献を用いて適切に結果を解釈し、研究目的にそった考察が述べられている。
9. 論旨の一貫性・論理性がある。
10. 学位論文の発表は研究内容を十分に伝えており、質問への応答も的確である。

Ⅱ 課題研究論文（4単位）

1. 看護実践における問題解決を主眼とした研究課題である。
2. 原著論文を含む先行研究の検討にもとづいて、研究課題の必要性や妥当性が述べられている。
3. 研究目的が明確に述べられている。
4. 研究目的に適した研究デザインおよび研究方法が用いられている。
5. 必要なデータが収集できている。
6. データが適切に分析できている。
7. 研究結果が適切に述べられている。
8. 文献を用いて適切に結果を解釈し、研究目的にそった考察が述べられている。
9. 論旨の一貫性・論理性がある。
10. 学位論文の発表は研究内容を十分に伝えており、質問への応答も的確である。

大学院修士課程の長期履修生制度

修士課程の標準修業年限は２年ですが、職業を有し就業しているなど、標準修業年内では、修学が困難な学生について、修業年限を３年として修学を認めるものです。

（埼玉医科大学大学院長期履修生規則（以下「規則」という。）を参照してください。）

１　修学が困難な者として認める理由（規則第２条の各号）

(1)職業を有し、就業している者
(2)家事、育児、介護等に当たる必要がある者
(3)その他学長が相当と認めた者

※(3)については、(1)や（2）に準じた理由が必要です。

２　長期履修生に志願する手続き（規則第３条）

（志願手続は入学手続き期間内に行う必要があります。）

(1)　長期履修生志願書
(2)　理由書
(3)　職業を有する場合には在職証明書又は在職が確認できる書類
(4)　その他学長が必要と認める書類

※(4)については、育児や介護等を行っている場合に必要な書類とします。

３　長期履修生のための教育課程

（指導教員とご相談ください。）

４　学　費

区　分	学年	入学金	授業料	施設設備費	修業期間の学費の計
一般学生	1	300,000 円	700,000 円	200,000 円	2,100,000 円
	2	―	700,000 円	200,000 円	
長期履修生	1	300,000 円	470,000 円	140,000 円	2,130,000 円
	2	―	470,000 円	140,000 円	
	3	―	470,000 円	140,000 円	

なお長期履修生の学費は、入学金以外を修業年限の２年分を３年間で支払う計算となりますが、１万円未満は切り上げます。

埼玉医科大学大学院長期履修生規則

（趣旨）

第 1 条　埼玉医科大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第 6 条第 2 項の規定に基づき、修士課程において計画的な長期履修を認められた者（以下「長期履修生」という。）の取扱いについては、この規則の定めるところによる。

（志願資格）

第 2 条　長期履修生に志願できる者は、本学大学院修士課程へ入学する者で、次の各号のいずれかに該当し、標準修業年限内での修学が困難な者とする。

(1)　職業を有し、就業している者

(2)　家事、育児、介護等に当たる必要がある者

(3)　その他学長が相当と認めた者

（志願手続）

第 3 条　長期履修生に志願する者は、入学手続き期間内に次の書類を提出しなければならない。

ただし、原則として入学後 1 年未満の者については、研究科委員会の議を経て提出期間の延長を認めることがある。

(1)　長期履修生志願書

(2)　理由書

(3)　職業を有する場合には在職証明書又は在職が確認できる書類

(4)　その他学長が必要と認める書類

（履修期間の変更）

第 4 条　長期履修生が、認められた履修期間の変更を希望する場合には、各研究科が定める期日までに、次の書類を提出しなければならない。

(1)　長期履修生履修期間変更申請書

(2)　理由書

(3)　その他学長が必要と認める書類

（学費）

第 5 条　大学院学則第 29 条に定める授業料及び施設設備費の年額については、標準修業年限の 2 年分の授業料及び施設設備費の額を、認められた履修期間で除した額(その額が 1 万円未満の場合には 1 万円に切り上げるものとする。)とする。ただし、前条の規定により履修期間の延長が認められた場合においても、授業料及び施設設備費の年額は変更しない。

（決定及び許可）

第 6 条　長期履修生の決定及び前条に規定する履修期間の変更の許可は、研究科委員会の議を経て学長がこれを行う。

（その他）

第 7 条　この規則に定めるもののほか、長期履修生に関して必要な事項は、各研究科が定める。

附　則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

研究科長　殿

長　期　履　修　生　志　願　書

私は、大学院修士課程の長期履修生として認めていただきたく、
別紙の理由書を添えて志願書を提出します。

年　　月　　日

大学院修士課程　　研究科　　専攻

氏　　名　　㊞

指導教員（予定）氏名　　㊞

長　期　履　修　生　志　願　理　由　書			
研究科 専攻名		氏　名	
（志願理由）			

研究科長　殿

長期履修生履修期間変更申請書

私は、履修期間の変更を認めていただきたく、別紙の理由書を添えて申請書を提出します。

年　　月　　日

大学院修士課程　　研究科　　専攻

氏　　名　　㊞

長期履修生履修期間変更理由書			
研究科 専攻名		氏　名	
（変更理由）			

埼玉医科大学大学院科目等履修生受託規則

第１章　目的

（目的）

第１条　この規則は、埼玉医科大学大学院学則(昭和 53 年 3 月 24 日制定。以下「大学院学則」という。)第 43 条第 2 項の規定に基づき、正規学生の研究及び指導に支障のない範囲において、医学研究科及び看護学研究科における科目等履修生を受託するために必要な事項を定めることを目的とする。

第２章　科目等履修生の受託(科目等履修生の受入れ)

（資格）

第２条　各研究科の科目等履修生として受入れすることができる者は、本大学院学則第 14 条に定める入学資格を持つ者と同等の者とする。

（申請）

第３条　科目等履修生としての受入を志願する者は、所定の期間内に関係書類を添えて学長に申請するものとする。

2　申請の方法、時期については別に定める。

（選考）

第４条　学長は前条の申請があったとき、研究科長に審議を委託する。

2　研究科長は書類審査等大学が定める必要な方法により選考を行い、研究科委員会の議を経て、その受入れの可否を決定し学長にその旨報告するものとする。

3　学長は研究科長の報告を受けて申請者に結果を通知するものとする。

（受入手続、許可）

第５条　合格の通知を受けた者は、所定の期日までに登録料その他の学納金を添えて、誓約書を提出しなければならない。

2　学長は、前項の受入手続きを完了した者について受入を許可する。

（受入の時期）

第６条　受入の時期は学年又は学期の始めとする。

（履修期間）

第７条　履修期間は、受入を許可された時より 1 年以内とする。

2　前項の履修期間を超えて引き続き科目等履修生として在学する場合は、学長に願い出てその許

可を受けなければならない。

（科目の履修）

第８条　履修できる科目は、各研究科において当該年度に開講される科目とする。

2　履修の登録及び方法については別に定める。

（単位の授与）

第９条　履修を許可された科目を履修し、その試験に合格した場合は単位を授与する。

2　科目等履修生として修得できる単位は年間 10 単位を上限とする。

（受入許可の取消し）

第１０条　科目等履修生が次の各号の一に該当する場合は、学長は審議の上、受入許可を取り消しその旨を当該学生に通知するものとする。

(1)　本学の諸規程その他遵守事項に違反したと認められるとき。

(2)　各研究科で科目の履修を受けることが適当でないと認められるとき。

（授業料及びその納付）

第１１条　科目等履修生の授業料等は次のとおりとする。

(1)　検定料　　20,000 円

(2)　登録料　　30,000 円

(3)　授業料：1 単位あたり　　30,000 円

2　一旦納入された検定料、登録料及び授業料は一切返還しない。

（災害保険等への加入）

第１２条　科目等履修生は、学生教育研究災害傷害保険等に加入しておくものとする。

（損害賠償）

第１３条　学長は、科目等履修生が故意又は重大な過失により、各研究科の施設・設備等に損害を及ぼしたとき、当該学生に対して、損害の全部又は一部について賠償を求めるものとする。

（補足）

第１４条　この規則に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、本学大学院学則を準用するものとする。

（その他）

第１５条　各研究科の科目等履修生として特別なコースを履修する場合の規則については別に定める。

担当教員・教員一覧

看護学研究科看護学専攻(修士課程)　授業科目・担当教員一覧

共通科目

授業科目名	講義区分	開講時期	曜日・時限	曜日・時限(14条特例)	年次	単位数	授業科目責任者	頁
看護管理学	講義	後期	金・1～4	土・1～4	1	2	鈴木英子 非常勤講師	63
看護倫理学	講義	前期	水・1～2	土・1～2	1	2	石垣靖子 非常勤講師	66
看護理論	講義	前期	火・4～5	火・6～7	1	2	丸井明美 教授	69
看護継続教育論	講義	後期	月・1～2	土・1～2	1	2	本谷久美子 教授	72
看護研究方法論	講義	前期	土・1～2		1	2	千田みゆき 特任教授	76
ヒューマン・セクシュアリティ	講義	前期	火・5	火・6	1	2	大森智美 教授	80
コンサルテーション論	講義	前期	月・3～4	月・6～7	1	2	大賀淳子 特任教授	83
看護情報処理論	講義	前期	水・4	水・6	1	2	椎橋実智男 教授	86
人体統合機能論	講義	前期	火・1	木・6	1	2	金子優子 教授	90
看護政策論	講義	後期	火・1～4	土・1～4	1	2	鈴木英子 非常勤講師	94
フィジカルアセスメント	講義	後期	木,金・2	月,金・6	1	2	辻美隆 教授	97
病態生理学	講義	後期	水・3	水・6	1	2	藤原智徳 教授	99
臨床薬理学	講義	後期	火,金・6		1	2	牧野好倫 教授	103

専門科目

分野	領域	授業科目名	講義区分	開講時期	曜日・時限	曜日・時限(14条特例)	年次	単位数	授業科目責任者	頁
高度実践看護学分野	成人看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	講義	通年	金・4～5	金・6～7	1	1	櫻庭奈美 准教授	105
		がん看護学特論Ⅱ	講義	通年	金・4～5	金・6	1	1	櫻庭奈美 准教授	108
		がん看護学特論Ⅲ	講義	通年	土・3～4		1	2	櫻庭奈美 准教授	111
		がん看護学特論Ⅳ	講義	後期	金・3～5	金・4～6	1	2	櫻庭奈美 准教授	115
		がん看護学演習Ⅰ	演習	通年	土・3～5		1	2	櫻庭奈美 准教授	119
		がん看護学演習Ⅱ	演習	後期	土・3～6		1	2	櫻庭奈美 准教授	125
		がん看護学演習Ⅲ	演習	後期	土・3～6		1	2	櫻庭奈美 准教授	131
		がん看護学演習Ⅳ	演習	前期	水,土・6～7		2	2	櫻庭奈美 准教授	136
		がん看護学実習Ⅰ	実習	通年			1	1	櫻庭奈美 准教授	141
		がん看護学実習Ⅱ	実習	通年			1	2	櫻庭奈美 准教授	142
		がん看護学実習Ⅲ	実習	通年			2	4	櫻庭奈美 准教授	143
		がん看護学実習Ⅳ	実習	通年			2	3	櫻庭奈美 准教授	145
		クリティカルケア学特論Ⅰ	講義	前期			1	3	未定	147
		クリティカルケア学特論Ⅱ	講義	前期			1	3	未定	150
		クリティカルケア学演習Ⅰ	演習	1年後期～2年前期			1～2	3	未定	153
		クリティカルケア学演習Ⅱ	演習	1年後期～2年前期			1～2	3	未定	158
		クリティカルケア学実習	実習	1年後期～2年前期			1～2	6	未定	163
		成人看護学特論Ⅰ	講義	前期	月・4～5	月・6～7	1	3	本谷久美子 教授	165
		成人看護学特論Ⅱ	講義	後期	月・4～5	月・6～7	1	3	本谷久美子 教授	171
		成人看護学演習Ⅰ	演習	通年	土・3～5		1	3	本谷久美子 教授	177
		成人看護学演習Ⅱ	演習	1年後期～2年前期	水・4～5	水・6～7	1～2	3	栗生田友子 客員教授	186
		成人看護学特別研究	演習	通年			2	8	本谷久美子 教授	197
		成人看護学課題研究	演習	通年			2	4	櫻庭奈美 准教授	198
	小児看護学領域	小児看護学特論Ⅰ	講義	前期	水・3～4	水・6～7	1	3	土師しのぶ 准教授	199
		小児看護学特論Ⅱ	講義	後期	金・3～4	金・6～7	1	3	土師しのぶ 准教授	204
		小児看護学演習Ⅰ	演習	通年	月・1～2	月・6～7	1	3	土師しのぶ 准教授	209
		小児看護学演習Ⅱ	演習	通年	月・3～4	月・6～7	2	3	土師しのぶ 准教授	217
		小児看護学実習	実習	1年後期～2年前期			1～2	6	土師しのぶ 准教授	226
		小児看護学特別研究	演習	通年			2	8	土師しのぶ 准教授	227
		小児看護学課題研究	演習	通年			2	4	土師しのぶ 准教授	228
	精神保健看護学領域	精神保健看護学特論Ⅰ	講義	前期	金・3～4	金・6～7	1	2	大賀淳子 特任教授	229
		精神保健看護学特論Ⅱ	講義	前期	金・3～4	金・6～7	1	2	大賀淳子 特任教授	233
		精神保健看護学特論Ⅲ	講義	前期	金・3～4	金・6～7	1	2	大賀淳子 特任教授	237
		精神保健看護学特論Ⅳ	講義	後期	水,金・3～4	水,金・6～7	1	2	大賀淳子 特任教授	241
		精神保健看護学演習Ⅰ	演習	後期	金・3～5	土・3～5	1	2	大賀淳子 特任教授	245
		精神保健看護学演習Ⅱ	演習	後期	水,金・3～4	水,土・3～7	1	2	大賀淳子 特任教授	252
		精神保健看護学演習Ⅲ	演習	前期	水・3～4	水・6～7	2	2	大賀淳子 特任教授	259
		精神保健看護学実習Ⅰ	実習	後期			1	1	大賀淳子 特任教授	266
		精神保健看護学実習Ⅱ	実習	後期			1	2	大賀淳子 特任教授	267
		精神保健看護学実習Ⅲ	実習	前期			2	4	大賀淳子 特任教授	268
		精神保健看護学実習Ⅳ	実習	後期			2	3	大賀淳子 特任教授	270
		精神保健看護学特別研究	演習	通年			2	8	大賀淳子 特任教授	272
		精神保健看護学課題研究	演習	通年			2	4	大賀淳子 特任教授	273
生活支援看護学分野	基礎看護学・看護管理学領域	基礎看護学特論Ⅰ	講義	前期	金・3～4	金・6～7	1	3	横山ひろみ 教授	274
		基礎看護学特論Ⅱ	講義	後期	金・3～5	土・3～7	1	3	横山ひろみ 教授	279
		基礎看護学演習Ⅰ	演習	通年	木・3～5	土・3～5	1	3	横山ひろみ 教授	284
		基礎看護学演習Ⅱ	演習	通年	水・3～4	土・1～2	2	3	横山ひろみ 教授	293
		看護管理学特論Ⅰ	講義	前期	木・2～4	木・3～4,6～7	1	3	横山ひろみ 教授	302
		看護管理学特論Ⅱ	講義	後期	月,金・2～4	火,土・5～7	1	3	横山ひろみ 教授	307
		看護管理学演習Ⅰ	演習	通年	木・3～4	土・3～4	1	3	横山ひろみ 教授	312
		看護管理学演習Ⅱ	演習	通年	水・3～4	土・1～2	2	3	横山ひろみ 教授	321
		基礎看護学・看護管理学特別研究	演習	通年			2	8	横山ひろみ 教授	330
	地域活動看護学領域	地域活動看護学特論Ⅰ	講義	前期	土・3～5		1	3	千田みゆき 特任教授	331
		地域活動看護学特論Ⅱ	講義	前期	土・3～4		1	3	千田みゆき 特任教授	336
		地域活動看護学演習Ⅰ	演習	後期	土・1～4		1	3	千田みゆき 特任教授	341
		地域活動看護学演習Ⅱ	演習	1年後期～2年前期	土・1～2		1～2	3	千田みゆき 特任教授	350
		地域活動看護学特別研究	演習	通年			2	8	千田みゆき 特任教授	355

(注)　右欄の「頁」は該当授業科目のシラバスのページ数である。

看護学研究科看護学専攻(修士課程)　　教員一覧

分野	領域	区分	教員氏名	資格	所属（大学院基本学科名）
高度実践看護学分野	成人看護学	●	櫻庭　奈美	准教授	成人看護学（がん看護学）
		●	本谷 久美子	教授	成人看護学（成人看護学）
		●	粟生田 友子	客員教授	成人看護学（成人看護学）
	小児看護学	●	土師しのぶ	准教授	小児看護学
	精神保健看護学	●	大賀 淳子	特任教授	精神保健看護学
		○	大澤 優子	准教授	精神保健看護学
生活支援看護学分野	基礎看護学・看護管理学	●	横山 ひろみ	教授	基礎看護学・看護管理学（基礎看護学）
		○	山﨑 美智子	講師	基礎看護学・看護管理学（基礎看護学）
		●	横山 ひろみ	教授	基礎看護学・看護管理学（看護管理学）
		○	山﨑 美智子	講師	基礎看護学・看護管理学（看護管理学）
	地域活動看護学	●	千田 みゆき	特任教授	地域活動看護学
		●	山路 真佐子	准教授	地域活動看護学

●は指導教員　○は大学院教員

令和8年度　看護学研究科看護学専攻(修士課程)　　担当教員・オフィスアワー

共通科目

分野	領域	授業科目名		所属	曜日	時間	訪問先	メールアドレス	備考
		看護管理学	鈴木英子（非常勤）						
		看護倫理学	石垣靖子（非常勤）						
			櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		看護理論	丸井明美	保医＿看護学科					
		看護継続教育論	本谷久美子	保医＿看護学科					
		看護研究方法論	千田みゆき	保医＿看護学科					
		ヒューマン・セクシュアリティ	大森智美	保医＿看護学科					
		コンサルテーション論	大賀淳子	保医＿看護学科					
		看護情報処理論	椎橋実智男	RAセンター					
		人体統合機能論	金子優子	保医＿看護学科					
			藤原智徳	保医＿臨床検査学科					
		看護政策論	鈴木英子（非常勤）						
		フィジカルアセスメント	辻美隆	保医＿共通教育部門					
		病態生理学	藤原智徳	保医＿臨床検査学科					
		臨床薬理学	牧野好倫（非常勤）	国際医療センター薬剤部					

専門科目

分野	領域	授業科目名		所属	曜日	時間	訪問先	メールアドレス	備考
高度実践看護学分野	成人看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学特論Ⅱ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学特論Ⅲ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学特論Ⅳ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学演習Ⅰ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学演習Ⅱ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学演習Ⅲ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学演習Ⅳ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学実習Ⅰ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学実習Ⅱ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学実習Ⅲ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		がん看護学実習Ⅳ	櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		クリティカルケア学特論Ⅰ	未定	未定					
		クリティカルケア学特論Ⅱ	未定	未定					
		クリティカルケア学演習Ⅰ	未定	未定					
		クリティカルケア学演習Ⅱ	未定	未定					
		クリティカルケア学実習	未定	未定					
		成人看護学特論Ⅰ	本谷久美子	保医＿看護学科					
		成人看護学特論Ⅱ	本谷久美子	保医＿看護学科					
		成人看護学演習Ⅰ	本谷久美子	保医＿看護学科					
		成人看護学演習Ⅱ	粟生田友子	保医＿看護学科					
		成人看護学特別研究	粟生田友子	保医＿看護学科					
			本谷久美子	保医＿看護学科					
			櫻庭奈美	保医＿看護学科					
		成人看護学課題研究	粟生田友子	保医＿看護学科					
			本谷久美子	保医＿看護学科					
			櫻庭奈美	保医＿看護学科					
	小児看護学領域	小児看護学特論Ⅰ	土師しのぶ	保医＿看護学科					
		小児看護学特論Ⅱ	土師しのぶ	保医＿看護学科					
		小児看護学演習Ⅰ	土師しのぶ	保医＿看護学科					
		小児看護学演習Ⅱ	土師しのぶ	保医＿看護学科					
		小児看護学実習	土師しのぶ	保医＿看護学科					
		小児看護学特別研究	土師しのぶ	保医＿看護学科					
		小児看護学課題研究	土師しのぶ	保医＿看護学科					
	精神保健看護学領域	精神保健看護学特論Ⅰ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学特論Ⅱ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学特論Ⅲ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学特論Ⅳ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学演習Ⅰ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学演習Ⅱ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学演習Ⅲ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学実習Ⅰ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学実習Ⅱ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学実習Ⅲ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学実習Ⅳ	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学特別研究	大賀淳子	保医＿看護学科					
		精神保健看護学課題研究	大賀淳子	保医＿看護学科					
生活支援看護学分野	基礎看護学・看護管理学領域	基礎看護学特論Ⅰ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		基礎看護学特論Ⅱ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		基礎看護学演習Ⅰ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		基礎看護学演習Ⅱ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		看護管理学特論Ⅰ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		看護管理学特論Ⅱ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		看護管理学演習Ⅰ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		看護管理学演習Ⅱ	横山ひろみ	保医＿看護学科					
		基礎看護学・看護管理学特別研究	横山ひろみ	保医＿看護学科					
	地域活動看護学領域	地域活動看護学特論Ⅰ	千田みゆき	保医＿看護学科					
		地域活動看護学特論Ⅱ	千田みゆき	保医＿看護学科					
		地域活動看護学演習Ⅰ	千田みゆき	保医＿看護学科					
		地域活動看護学演習Ⅱ	千田みゆき	保医＿看護学科					
		地域活動看護学特別研究	千田みゆき	保医＿看護学科					

※　随時、メールにて質問を受け付ける

○　担当教員へ連絡後、教員より連絡

シラバス
（第 14 条特例含む）

【成人看護学領域　時間割表】

《前期》

時限	科目区分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通			人体統合機能論				看護倫理学 看護研究方法論
	専門	がん			がん看護学演習Ⅳ			がん看護学演習Ⅳ
		クリティカル	クリティカルケア学特論Ⅰ クリティカルケア学演習Ⅰ	クリティカルケア学演習Ⅱ				
		成人						
2 10：40 ～ 12：10	共通							看護倫理学 看護研究方法論
	専門	がん			がん看護学演習Ⅳ			がん看護学演習Ⅳ
		クリティカル	クリティカルケア学特論Ⅰ クリティカルケア学演習Ⅰ	クリティカルケア学演習Ⅱ				
		成人						
3 13：10 ～ 14：40	共通		コンサルテーション論					
	専門	がん			がん看護学演習Ⅳ			がん看護学特論Ⅲ がん看護学演習Ⅰ がん看護学演習Ⅳ
		クリティカル	クリティカルケア学特論Ⅱ クリティカルケア学演習Ⅰ	クリティカルケア学演習Ⅱ				
		成人						成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
4 14：50 ～ 16：20	共通		コンサルテーション論	看護理論	看護情報処理論			
	専門	がん			がん看護学演習Ⅳ			がん看護学特論Ⅲ がん看護学演習Ⅰ がん看護学演習Ⅳ
		クリティカル	クリティカルケア学特論Ⅱ					
		成人	成人看護学特論Ⅰ					成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
5 16：30 ～ 18：00	共通			ヒューマン・セクシュアリティ 看護理論				
	専門	がん					がん看護学特論Ⅰ がん看護学特論Ⅱ	
		クリティカル						
		成人	成人看護学特論Ⅰ					
6 18：10 ～ 19：40	共通		※コンサルテーション論	※人体統合機能論 ※ヒューマン・セクシュアリティ	※看護情報処理論			
	専門	がん					※がん看護学特論Ⅰ ※がん看護学特論Ⅱ	
		クリティカル						
		成人	※成人看護学特論Ⅰ					
7 19：50 ～ 21：20	共通		※コンサルテーション論					
	専門	がん					※がん看護学特論Ⅲ	
		クリティカル						
		成人	※成人看護学特論Ⅰ					

※：14 条特例適用

2 年前期　　がん看護学実習Ⅲ

2 年前期　　クリティカルケア実習

2 年通年　　成人看護学課題研究

2 年通年　　成人看護学特別研究

【成人看護学領域　時間割表】

《後期》

時限	区分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通		看護継続教育論	看護政策論			看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門	がん			がん看護学演習Ⅱ			※がん看護学演習Ⅱ
		クリティカル	クリティカルケア学演習Ⅰ	クリティカルケア学演習Ⅱ				
		成人						
2 10：40 ～ 12：10	共通		看護継続教育論	看護政策論		フィジカルアセスメント	看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門	がん			がん看護学演習Ⅱ			※がん看護学演習Ⅱ
		クリティカル	クリティカルケア学演習Ⅰ	クリティカルケア学演習Ⅱ				
		成人						
3 13：10 ～ 14：40	共通				病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門	がん				がん看護学演習Ⅲ		がん看護学特論Ⅲ がん看護学演習Ⅰ
		クリティカル	クリティカルケア学演習Ⅰ	クリティカルケア学演習Ⅱ				
		成人	成人看護学特論					成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
4 14：50 ～ 16：20	共通				病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門	がん				がん看護学演習Ⅲ	がん看護学特論Ⅳ	がん看護学特論Ⅲ がん看護学演習Ⅰ
		クリティカル			がん看護学特論Ⅲ			
		成人	成人看護学特論Ⅱ					成人看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅱ
5 16：30 ～ 18：00	共通							
	専門	がん				がん看護学演習Ⅲ	がん看護学特論Ⅰ がん看護学特論Ⅱ	
		クリティカル						
		成人	成人看護学特論Ⅱ					
6 18：10 ～ 19：40	共通		※フィジカルアセスメント		※病態生理学	※臨床薬理学		
	専門	がん		※がん看護学演習Ⅱ		※がん看護学演習Ⅲ	※がん看護学特論Ⅰ ※がん看護学特論Ⅱ ※がん看護学特論Ⅳ	
		クリティカル						
		成人	※成人看護学特論Ⅱ					※成人看護学演習Ⅱ
7 19：50 ～ 21：20	共通				※病態生理学			
	専門	がん				※がん看護学演習Ⅲ		
		クリティカル						
		成人	※成人看護学特論Ⅱ					※成人看護学演習Ⅱ

※：14 条特例適用

1 年後期　がん看護学実習Ⅰ
1 年後期　がん看護学実習Ⅱ
2 年後期　がん看護学実習Ⅳ
2 年通年　成人看護学課題研究
2 年通年　成人看護学特別研究

【小児看護学領域　時間割表】

《前期》

時限	科目区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通		人体統合機能論			看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門	小児看護学演習Ⅰ					
2 10：40 ～ 12：10	共通					看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門	小児看護学演習Ⅰ					
3 13：10 ～ 14：40	共通	コンサルテーション論				看護管理学	※看護管理学
	専門	小児看護学演習Ⅱ		小児看護学特論Ⅰ			
4 14：50 ～ 16：20	共通	コンサルテーション論	看護理論	看護情報処理論		看護管理学	※看護管理学
	専門	小児看護学演習Ⅱ		小児看護学特論Ⅰ			
5 16：30 ～ 18：00	共通		ヒューマン・セクシュアリティ 看護理論				
	専門						
6 18：10 ～ 19：40	共通	※コンサルテーション論	※人体統合機能論 ※ヒューマン・セクシュアリティ	※看護情報処理論			
	専門						
7 19：50 ～ 21：20	共通	※コンサルテーション論					
	専門						

※：14 条特例適用

2 年通年　小児看護学課題研究

2 年通年　小児看護学特別研究

【小児看護学領域　時間割表】

《後期》

時限	科目区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通	看護継続教育論	看護政策論				看護継続教育論 看護政策論
	専門	小児看護学演習Ⅰ					
2 10：40 ～ 12：10	共通	看護継続教育論	看護政策論				看護継続教育論 看護政策論
	専門	小児看護学演習Ⅰ					
3 13：10 ～ 14：40	共通			病態生理学			
	専門	小児看護学演習Ⅱ				小児看護学特論Ⅱ	
4 14：50 ～ 16：20	共通			病態生理学			
	専門	小児看護学演習Ⅱ				小児看護学特論Ⅱ	
5 16：30 ～ 18：00	共通						
	専門						
6 18：10 ～ 19：40	共通	フィジカルアセスメント		※病態生理学	臨床薬理学		
	専門						
7 19：50 ～ 21：20	共通			※病態生理学			
	専門						

※：14 条特例適用

1 年後期~2 年後期　小児看護学実習

2 年通年　小児看護学課題研究

2 年通年　小児看護学特別研究

【精神保健看護学領域　時間割表】

《前期》

時限	科目区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通		人体統合機能論				看護倫理学 看護研究方法論 （4/12-6/7）
	専門						
2 10：40 ～ 12：10	共通						看護倫理学 看護研究方法論 （4/12-6/7）
	専門						
3 13：10 ～ 14：40	共通	コンサルテーション論					
	専門			精神保健看護学演習Ⅲ		精神保健看護学特論Ⅰ 精神保健看護学特論Ⅱ 精神保健看護学特論Ⅲ	※精神保健看護学演習Ⅲ
4 14：50 ～ 16：20	共通	コンサルテーション論	看護理論	看護情報処理論			
	専門			精神保健看護学演習Ⅲ		精神保健看護学特論Ⅰ 精神保健看護学特論Ⅱ 精神保健看護学特論Ⅲ	※精神保健看護学演習Ⅲ
5 16：30 ～ 18：00	共通		ヒューマン・セクシュアリティ 看護理論				
	専門					精神保健看護学特論Ⅰ 精神保健看護学特論Ⅱ 精神保健看護学特論Ⅲ	※精神保健看護学演習Ⅲ
6 18：10 ～ 19：40	共通	※コンサルテーション論	※人体統合機能論 ※ヒューマン・セクシュアリティ	※看護情報処理論			
	専門					※精神保健看護学特論Ⅰ ※精神保健看護学特論Ⅱ ※精神保健看護学特論Ⅲ	
7 19：50 ～ 21：20	共通	※コンサルテーション論					
	専門						

※：14 条特例適用

2 年前期　　精神保健看護学実習Ⅲ

2 年通年　　精神保健看護学特別研究

2 年通年　　精神保健看護学課題研究

【精神保健看護学領域　時間割表】

《後期》

時限	科目区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通	看護継続教育論	看護政策論			看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門						
2 10：40 ～ 12：10	共通	看護継続教育論	看護政策論			看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門						
3 13：10 ～ 14：40	共通			病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門			精神保健看護学特論Ⅳ 精神保健看護学演習Ⅱ		精神保健看護学特論Ⅳ 精神保健看護学演習Ⅰ	※精神保健看護学演習Ⅰ ※精神保健看護学演習Ⅱ
4 14：50 ～ 16：20	共通			病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門			精神保健看護学特論Ⅳ 精神保健看護学演習Ⅱ		精神保健看護学特論Ⅳ 精神保健看護学演習Ⅰ	※精神保健看護学演習Ⅰ ※精神保健看護学演習Ⅱ
5 16：30 ～ 18：00	共通						
	専門			精神保健看護学特論Ⅳ 精神保健看護学演習Ⅱ		精神保健看護学特論Ⅳ 精神保健看護学演習Ⅰ	※精神保健看護学演習Ⅰ ※精神保健看護学演習Ⅱ
6 18：10 ～ 19：40	共通	フィジカルアセスメント		※病態生理学	臨床薬理学		
	専門			※精神保健看護学特論Ⅳ		※精神保健看護学特論Ⅳ	
7 19：50 ～ 21：20	共通			※病態生理学			
	専門			※精神保健看護学特論Ⅳ		※精神保健看護学特論Ⅳ	

d**※：14 条特例適用**

1 年後期　　精神保健看護学実習Ⅰ
1 年後期　　精神保健看護学実習Ⅱ
2 年後期　　精神保健看護学実習Ⅳ
2 年通年　　精神保健看護学特別研究
2 年通年　　精神保健看護学課題研究

【基礎看護学・看護管理学領域　時間割表】

《前期》

時限	科目区分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通			人体統合機能論				看護倫理学 看護研究方法論
	専門	基礎看護学						※基礎看護学演習Ⅱ
		看護管理学						※看護管理学演習Ⅱ
2 10：40 ～ 12：10	共通							看護倫理学 看護研究方法論
	専門	基礎看護学					基礎看護学特論Ⅰ	※基礎看護学演習Ⅱ
		看護管理学				看護管理学特論Ⅰ		※看護管理学演習Ⅱ
3 13：10 ～ 14：40	共通		コンサルテーション論					
	専門	基礎看護学			基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学特論Ⅰ	※基礎看護学特論Ⅰ ※基礎看護学演習Ⅰ
		看護管理学			看護管理学演習Ⅱ	看護管理学特論Ⅰ 看護管理学演習Ⅰ		※看護管理学特論Ⅰ ※看護管理学演習Ⅰ
4 14：50 ～ 16：20	共通		コンサルテーション論	看護理論	看護情報処理論			
	専門	基礎看護学			基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学特論Ⅰ	※基礎看護学特論Ⅰ ※基礎看護学演習Ⅰ
		看護管理学			看護管理学演習Ⅱ	看護管理学特論Ⅰ 看護管理学演習Ⅰ		※看護管理学特論Ⅰ ※看護管理学演習Ⅰ
5 16：30 ～ 18：00	共通			ヒューマン・セクシュアリティ 看護理論				
	専門	基礎看護学						※基礎看護学特論Ⅰ
		看護管理学						※看護管理学特論Ⅰ
6 18：10 ～ 19：40	共通		※コンサルテーション論	※人体統合機能論 ※ヒューマン・セクシュアリティ	※看護情報処理論			
	専門	基礎看護学					※基礎看護学特論Ⅰ	
		看護管理学						※看護管理学特論Ⅰ
7 19：50 ～ 21：20	共通		※コンサルテーション論					
	専門	基礎看護学					※基礎看護学特論Ⅰ	
		看護管理学						※看護管理学特論Ⅰ

※：14 条特例適用

2 年通年　基礎看護学・看護管理学特別研究

【基礎看護学・看護管理学領域　時間割表】

《後期》

時限	科目区分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通		看護継続教育論	看護政策論			看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門	基礎看護学						※基礎看護学演習Ⅱ
		看護管理学						※看護管理学演習Ⅱ
2 10：40 ～ 12：10	共通		看護継続教育論	看護政策論		フィジカルアセスメント	看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門	基礎看護学					基礎看護学特論Ⅱ	※基礎看護学演習Ⅱ
		看護管理学	看護管理学特論Ⅱ					※看護管理学演習Ⅱ
3 13：10 ～ 14：40	共通				病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門	基礎看護学			基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学特論Ⅱ	※基礎看護学特論Ⅱ ※基礎看護学演習Ⅰ
		看護管理学	看護管理学特論Ⅱ		看護管理学演習Ⅱ	看護管理学演習Ⅰ		※看護管理学特論Ⅱ ※看護管理学演習Ⅰ
4 14：50 ～ 16：20	共通				病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門	基礎看護学			基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学特論Ⅱ	※基礎看護学特論Ⅱ ※基礎看護学演習Ⅰ
		看護管理学	看護管理学特論Ⅱ		看護管理学演習Ⅱ	看護管理学演習Ⅰ		※看護管理学特論Ⅱ ※看護管理学演習Ⅰ
5 16：30 ～ 18：00	共通							
	専門	基礎看護学						※基礎看護学特論Ⅱ
		看護管理学						※看護管理学特論Ⅱ
6 18：10 ～ 19：40	共通		※フィジカルアセスメント		※病態生理学	※臨床薬理学		
	専門	基礎看護学						※基礎看護学特論Ⅱ
		看護管理学		※看護管理学特論Ⅱ				
7 19：50 ～ 21：20	共通				※病態生理学			
	専門	基礎看護学						※基礎看護学特論Ⅱ
		看護管理学		※看護管理学特論Ⅱ				

※：14 条特例適用

2 年通年　基礎看護学・看護管理学特別研究

【地域活動看護学領域　時間割表】

《前期》

時限	科目区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通		人体統合機能論				看護倫理学 看護研究方法論
	専門						※地域活動看護学演習Ⅱ
2 10：40 ～ 12：10	共通						看護倫理学 看護研究方法論
	専門						※地域活動看護学演習Ⅱ
3 13：10 ～ 14：40	共通	コンサルテーション論					
	専門						※地域活動看護学特論Ⅰ ※地域活動看護学特論Ⅱ
4 14：50 ～ 16：20	共通	コンサルテーション論	看護理論	看護情報処理論			
	専門						※地域活動看護学特論Ⅰ ※地域活動看護学特論Ⅱ
5 16：30 ～ 18：00	共通		ヒューマン・セクシュアリティ 看護理論				
	専門						※地域活動看護学特論Ⅰ ※地域活動看護学特論Ⅱ
6 18：10 ～ 19：40	共通	※コンサルテーション論	※人体統合機能論 ※ヒューマン・セクシュアリティ	※看護情報処理論			
	専門						
7 19：50 ～ 21：20	共通	※コンサルテーション論					
	専門						

※：14 条特例適用

2 年通年　地域活動管理学特別研究

【地域活動看護学領域　時間割表】

《後期》

時限	科目区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9：00 ～ 10：30	共通	看護継続教育論	看護政策論			看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門						※地域活動看護学演習Ⅰ ※地域活動看護学演習Ⅱ
2 10：40 ～ 12：10	共通	看護継続教育論	看護政策論		フィジカルアセスメント	看護管理学	看護継続教育論 看護政策論 ※看護管理学
	専門						※地域活動看護学演習Ⅰ ※地域活動看護学演習Ⅱ
3 13：10 ～ 14：40	共通			病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門						※地域活動看護学演習Ⅰ ※地域活動看護学演習Ⅱ
4 14：50 ～ 16：20	共通			病態生理学		看護管理学	※看護管理学
	専門						
5 16：30 ～ 18：00	共通						
	専門						
6 18：10 ～ 19：40	共通	フィジカルアセスメント		※病態生理学	※臨床薬理学		
	専門						
7 19：50 ～ 21：20	共通			※病態生理学			
	専門						

※：14 条特例適用

2 年通年　地域活動管理学特別研究

講義名	看護管理学		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 鈴木　英子	指定なし

担当教員	鈴木　英子
科目の目標	保健医療福祉機関における看護管理の基本となる諸理論を学び、看護実践者からの体験を抽象化し、あるいは理論を具体化する作業を行うことにより、保健医療福祉に携わる人々との調整や、看護管理実践者と協力していくための高度実践看護師として必要な基本的知識と技術を学修する。
学習の具体的な目標	1.保健医療福祉における看護管理の基本となる理論を説明できる。 2.看護サービスの質保証について説明できる。 3.職員のメンタルヘルス管理について説明できる。 4.看護管理の基礎となる対人関係理論について説明できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理概説		
	授業内容	看護組織管理論：組織とは、組織図、マクロ・ミクロの組織論、看護管理課程		
2	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理の歴史		
	授業内容	近代看護管理の実践者、わが国における看護管理のはじまり、看護管理の発展		
3	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護クウォリティマネジメント（医療・看護の質）		
	授業内容	医療・看護の質		
4	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	医療制度としくみ		
	授業内容	医療制度の仕組み、看護についての経済的評価やその仕組み		
5	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	職員のメンタルヘルス管理のための基礎知識		
	授業内容	看護管理のための職員のメンタルヘルスと精神的基礎疾患		
6	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	対人関係理論及び対人関係に及ぼす倫理観		
	授業内容	看護管理の基礎としての対人関係論、ケアの倫理		

7	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	ストレスの少ない病棟文化：アサーティブネスの実際		
	授業内容	ストレスのない病棟文化を作り管理するためのコミュニケーション、新卒看護師のサポート		
8	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	ストレスの少ない病棟文化：ストレスコーピングとバーンアウト		
	授業内容	ストレスのない病棟文化を作り管理するためのストレスコーピング、新卒看護師のサポート		
9	年月日(曜日)	令和 9年02月05日(金)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	保健医療福祉システムと法制度		
	授業内容	保健医療システムの改革、保健医療関係の法規		
10	年月日(曜日)	令和 9年02月05日(金)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	リーダーシップ・マネジメント論		
	授業内容	ドラッカーのマネジメント、リーダーシップPM論		
11	年月日(曜日)	令和 9年02月05日(金)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	キャリア発達　人的資源活用		
	授業内容	キャリア発達研究におけるキャリアの概念、キャリア発達理論、人的資源活用		
12	年月日(曜日)	令和 9年02月05日(金)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	保健医療チーム		
	授業内容	チームとグループ、チームにおける看護師の役割		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理の研究の動向		
	授業内容	病棟管理、医療界を取り巻く現状と病棟運営の難しさ、看護師長の役割、病院管理、経営にかかわる看護職		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	リスクマネジメント		
	授業内容	医療安全推進の方向性と実際		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	まとめ：看護管理実践者との協力		
	授業内容	看護管理の総括		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理概説		
2	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理の歴史		
3	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護クウォリティマネジメント（医療・看護の質）		

4	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	医療制度としくみ		
5	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	職員のメンタルヘルス管理のための基礎知識		
6	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	対人関係理論及び対人関係に及ぼす倫理観		
7	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	ストレスの少ない病棟文化：アサーティブネスの実際		
8	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	ストレスの少ない病棟文化：ストレスコーピングとバーンアウト		
9	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	保健医療福祉システムと法制度		
10	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	リーダーシップ・マネジメント論		
11	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	キャリア発達　人的資源活用		
12	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	保健医療チーム		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理の研究の動向		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	リスクマネジメント		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	まとめ：看護管理実践者との協力		

評価方法	科目の評価は、課題レポート、演習態度(グループワーク・グループディスカッションへの参加姿勢、出席状況)などを、総合的に科目終了時に評価する。 評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	特になし
参考書	①2015　診療点数早見表　医学通信社 ②2015　厚生労働白書　厚生労働省 ③鈴木八江　看護管理者ガイドブック初級編　上級編　杏林図書
連絡先/オフィスアワー	随時、メールにて質問を受け付ける。 鈴木 英子　e-mail：eikosuzuki@iuhw.ac.jp
履修上の注意、履修要件	資料が多く出されるので、読み込みが遅れないように準備すること。 授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	看護倫理学		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 石垣　靖子	指定なし

担当教員	石垣　靖子，村本　好孝，櫻庭　奈美
科目の目標	倫理とは何か、倫理の原則と倫理綱領、生命倫理や臨床倫理など看護倫理を学ぶにあたっての基本的事項を学修した上で、看護倫理の実践的概念であるアドボカシーや自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務、ケアリングなどと、それに関連する倫理的行動の基準、倫理的感受性、倫理的意思決定、倫理的意思決定と価値観との関係などについて理解を深める。これらの知識をもとに、看護実践の場での倫理的な問題や葛藤について、事例分析を行い、倫理的問題の解決に向けて関係者間での倫理的調整を行うための、高度実践看護師としての能力の開発を目指す。また、研究者の倫理について基本的な知識を身につける。
学習の具体的な目標	1.倫理とは何かを説明することができる。 2.看護倫理の実践的概念を2つ以上説明することができる。 3.倫理的推論過程の展開ができる。 4.倫理的調整能力の向上のために必要な自己の課題を明確にできる。 5.研究者に求められる倫理的な知識をもとに、論文作成に必要な倫理的行動を3つ以上列挙できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	石垣、櫻庭		
	テーマ	「看護における倫理とは何か」看護倫理のための基礎知識		
	授業内容	1.社会の中にある倫理を概説することができる。 2.倫理の成り立ちと広がりを概説することができる。 3.医療・ケア従事者の倫理を概説することができる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	石垣、櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	【臨床倫理検討シート】の活用		
	授業内容	1.看護実践の場において、自己決定権をめぐる問題をディスカッションし、患者の権利を守るための看護専門職者とし ての倫理的意思決定と倫理的行動とは何かを考察できる。 2.看護実践の場において、インフォームド・コンセントと患者の判断能力をめぐる問題をディスカッションし、看護専 門職者としての倫理的意思決定と倫理的行動とは何かを考察する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	2限
	講義室	C201		

	担当者	村本		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	臨床の倫理「看護実践の場での倫理的問題や葛藤の解決を目指した倫理的推論過程の展開方法①②」		
	授業内容	1.自らが体験をした看護実践の場での倫理的問題や葛藤についての事例についてプレゼンテーションができる。プレ ゼンテーションの内容（登場人物、問題状況が生じた場所、時期、問題の状況、問題の状況の推移など） 2.看護実践の場での倫理的ジレンマ場面について、事例検討ができる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	看護職者としての倫理的姿勢		
	授業内容	1.日頃の看護職者の姿勢を振り返り、倫理的姿勢とは何か考察できる。 2.倫理的姿勢を育成するために必要な職場環境について考察できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	「看護実践の場での倫理的問題や葛藤の現実的な解決を目指した関係者間での倫理的調整能力①②」		
	授業内容	1.自らが体験をした看護実践の場での倫理的問題や葛藤の事例についてプレゼンテーションできる。プレゼンテーションの内容（登場人物、問題状況が生じた場所、時期、問題の状況、問題の状況の推移など） 2.現実的な解決を目指し、どのような倫理的調整能力が必要か、ディスカッションを通して説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年07月30日(木)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	「インフォームド・コンセントと患者の判断能力」		
	授業内容	1.インフォームド・コンセントについて、概念の定義、概念が発展してきた歴史的背景について、また判断能力とは何 かについて学ぶ。 2.自己決定権と患者の権利について、概念の定義、概念が発展してきた歴史的背景について学ぶ。		
10	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	「看護実践の場での倫理的問題や葛藤の現実的な解決を目指した関係者間での倫理的調整能力①②」		
	授業内容	1.自らが体験をした看護実践の場での倫理的問題や葛藤の事例についてプレゼンテーションできる。プレゼンテーションの内容（登場人物、問題状況が生じた場所、時期、問題の状況、問題の状況の推移など） 2.現実的な解決を目指し、どのような倫理的調整能力が必要か、ディスカッションを通して説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	村本		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

12	年月日(曜日)	令和 8年08月17日(月)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	「研究者の倫理」		
	授業内容	1.看護研究の遂行に不可欠な研究者の倫理、とくに看護研究の倫理に関する基本的な事項が概説できる。 2.自身の修士論文テーマに関する倫理的課題、インフォームド・コンセント、個人情報の取り扱いと管理、対象者の利益 と不利益、健康被害、情報公開、利益相反について記述できる。 3.本学倫理審査の手続きの流れがわかる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年08月29日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	看護師に必要な倫理観とは		
	授業内容	1.これまでの講義全体を通して学んできたことを言語化し、看護職者としての倫理観を考える。 2.専門看護師に求められる倫理調整を行うにあたっての自己の課題を明確にできる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月29日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

評価方法	授業への取り組み 50%、課題提出 10%、課題レポート 40%から総合的に評価する。 評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	特になし
参考書	①佐藤俊夫. 倫理学. 東京大学出版会. 1991. ②和辻哲郎. 人間の学としての倫理. 岩波書店. 1996. ③日本看護協会. 看護者の倫理綱領. http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html ④アン デービス他. 看護倫理を教える・学ぶ 倫理教育の視点と方法. 小西恵美子監訳. 日本看護協会出版. 2009. ⑤小西恵美子編. 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ. 南江堂. 2009. ⑥市野川容孝編. 生命倫理とは何か. 平凡社. 2002. ⑦小林美津子. 看護のための生命倫理. ナカニシ出版. 2004. ⑧清水哲郎. 看護現場の臨床倫理ー哲学の視点から. 臨床で直面する倫理的諸問題 キーワードと事例から学ぶ. INR; 24(3); 86-92, 2001. ⑨西村哲郎. 臨床における倫理的配慮ーケアの観点から. 臨床で直面する倫理的諸問題 キーワードと事例から学ぶ. INR; 24(3); 97-102, 2001 ⑩坪倉繁美 編. 具体的なジレンマからみた看護倫理教本. 医学芸術社. 2006. ⑪リア L カーティン. アドボケイトとしての看護師：患者を人として尊重すること. アドボケイトとしての看護職. 渡部富栄訳. INR 26(5);34-38. 2003. ⑫高田早苗. 看護実践におけるアドボカシーの意味. アドボケイトとしての看護職. INR 26(5);26-33. 2003. ⑬サラ T フライ他編. 看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド. 片田範子他訳. 日本看護協会出版. 2010. ⑭J トンプソン他. 看護倫理のための意思決定10のステップ. 山本千沙子監訳. 日本看護協会出版. 2004.
連絡先/オフィスアワー	随時、メールにて質問を受け付ける。 櫻庭奈美 sakuraba@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	学生にはプレゼンテーションを課します。プレゼンテーション内容及びレポートの作成方法は、授業初日に説明いたします。プレゼンテーション資料は前もって配布し、ディスカッションしたい点を明示しておいてください。 プレゼンテーションが担当でない学生は事前に資料に目を通し、ディスカッションする点について文献など収集し学習しておくことで、ディスカッションできるよう臨んでください。 授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	看護理論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	4限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 丸井　明美	看護学科教員

担当教員	丸井　明美・千田みゆき・粟生田友子・鳥谷めぐみ
科目の目標	卓越した看護実践の基盤として活用されている代表的な看護理論の時代的背景と構成概念を学び、実践へ適用することの利点と限界について考察する。さらに、高度実践看護師として看護実践、看護管理、看護教育、看護研究において、諸理論の適用と発展について各自の考えを深める。

授業計画表

1	担当者	丸井
	テーマ	ガイダンス、看護理論とは、
	授業内容	【看護理論とは何か、看護理論の変遷、今後の看護理論の展望について学修する。】 ・看護理論に使用される用語の基礎的知識を学び、看護理論が発展してきた背景、主な理論家の著作と発表年から看護理論の発展と今後の展望について説明できる。 ・これまでの経験を振り返り、看護理論の必要性についてディスカッションを通して考えることができる。 ・主な看護理論家の著作を調べ、課題内容を把握し、学修プランを立てることができる。
2	担当者	丸井
	テーマ	看護理論の変遷、看護理論の動向と今後の展望
	授業内容	〃
3	担当者	丸井
	テーマ	様々な中範囲理論と看護実践①
	授業内容	【卓越した看護実践の基盤となる中範囲理論について学修する。】 ・看護における中範囲理論とは何か、様々な中範囲理論を概観することによって、実践で応用していた理論に気づくことができる。 ・これまでの経験を振り返り、中範囲理論を看護実践に応用して、具体的に実践で活用するための方策について自分の意見を述べ、ディスカッションを通して考えることができる。 ・様々な中範囲理論の特徴と分類について理解することができる。①看護のアセスメントと援助に関する理論（セルフケア理論、家族ライフサイクル理論、ヒューマンケアリング理論等）、②病気・障害・人生の体験を説明する理論（病みの軌跡モデル、ヨシダの振り子理論、モースの病気体験における希望と苦悩の理論等）、③危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論（危機理論、ストレス・コーピング理論等）、④行動変容、行動強化に関する理論（保健信念モデル、トランスセオレティカルモデル等）、⑤認識の変容に焦点を当てた理論等。
4	担当者	丸井
	テーマ	様々な中範囲理論と看護実践②
	授業内容	〃
5	担当者	粟生田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用①
	授業内容	【看護理論家とその理論の実践への応用について学修する。】 ・看護の対象となる人間に焦点を当てた看護理論（オレム、ベナー、ヘンダーソン、ロイ等）の概要と実践での適用について理解し、ディスカッションを通して理論活用の利点と限界を考えることができる。

6	担当者	粟生田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用②
	授業内容	〃
7	担当者	千田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用③
	授業内容	〃
8	担当者	千田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用④
	授業内容	〃
9	担当者	鳥谷
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用⑤
	授業内容	〃
10	担当者	鳥谷
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用⑥
	授業内容	〃
11	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用①
	授業内容	【各自が深めてみたい、実践で解決したいと感じた課題に対して、理論を用い実践での適用について学修する。】 課題1；各自が深めてみたい看護理論家と看護理論の概要、課題2；看護実践、看護管理、看護教育、看護研究の中で解決したい課題・経験を、看護理論を活用し理論的根拠に基づいて分析するとともに、選択した理論についての実践的な検証・評価を加えて発表、討議することができる。 《予習》プレゼンテーション担当者は、パワーポイントで発表資料を作成し準備する。発表資料の形式は問わない。資料は前週までに参加者に配布し、参加者は活発なディスカッションができるよう準備をする。 《復習》ディスカッションを通して得た学びを加筆し、課題1，課題2をレポート形式で提出する。
12	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用②
	授業内容	〃
13	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用③
	授業内容	〃
14	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用④
	授業内容	〃
15	担当者	丸井
	テーマ	総合演習
	授業内容	・これまでの学びを統合し、看護実践、看護管理、看護教育、看護研究の各領域における高度看護実践を、看護理論または看護に関連する理論を根拠として行うことの意義を述べることができる。また看護における理論開発の必要性と看護実践の発展について展望し、考えを深めることができる。

（14条特例）

1	担当者	丸井
	テーマ	ガイダンス、看護理論とは、
2	担当者	丸井
	テーマ	看護理論の変遷、看護理論の動向と今後の展望
3	担当者	丸井
	テーマ	様々な中範囲理論と看護実践①
4	担当者	丸井
	テーマ	様々な中範囲理論と看護実践②

5	担当者	粟生田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用①
6	担当者	粟生田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用②
7	担当者	千田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用③
8	担当者	千田
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用④
9	担当者	鳥谷
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用⑤
10	担当者	鳥谷
	テーマ	看護理論家と理論の概要、実践への適用⑥
11	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用①
12	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用②
13	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用③
14	担当者	丸井
	テーマ	各自が選択した看護理論家と看護理論の概要、実践への適用④
15	担当者	丸井
	テーマ	総合演習

評価方法	プレゼンテーション内容40%、毎回のディスカッションへの参加状況30%、最終レポート30%により総合的に評価します。評価が合格基準に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行います。
教科書	資料を配布する。
参考書	・看護理論家の業績と理論評価（医学書院） ・よくわかる中範囲理論（学研） ・ヘンダーソン、ロイ、オレム、ペプロウの看護論と看護過程の展開（照林社） ・ヘンダーソン看護論と看護実践への応用（照林社）
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは火曜日の12:10～18:00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。 丸井 明美　e-mail：marui@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	発表者は授業前週にはテーマについての資料を作成し配布してください。授業参加者は授業当日までに資料を精読し、ディスカッションの準備をしてください。さらに、授業後は各自でテーマと内容を再確認し、看護実践の活用につながるよう心掛けてください。

講義名	看護継続教育論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 本谷　久美子	看護学科教員

担当教員	本谷　久美子、小池　啓子
科目の目標	看護実践現場における看護職者の継続教育の必要性と課題を明らかにし、看護基礎教育を踏まえた上での看護継続教育のあり方について理解を深める。臨床の場における看護ケアの質を高めるために必要な看護職への継続的な教育的働きかけ等を学習し、時代の変化に応じた看護職の教育のあり方を幅広くとらえ直すこととする。さらに、高度実践看護師においては、看護継続教育で学んだ知識や技術を質の高い看護を提供するための看護職の育成に活用することを目指すものとする。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	本科目のオリエンテーション／看護学教育とはなにか		
	授業内容	1. 本科目の目的、学修内容等を確認し、学修計画を立てる。 2. 看護教育、看護学教育、看護教育学の違いについて理解できる。 3. 看護教育学に関連する用語について理解できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	専門職としての看護		
	授業内容	1. 専門職の特質・基準について理解できる。 2. 看護学における専門職の基準を理解し、専門職性について考察できる。 3. スペシャリストとジェネラリストについて理解できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護教育制度の特徴		
	授業内容	1. 日本の看護教育制度の特徴について、諸外国と比較し検討できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護基礎教育課程の歴史的変遷		
	授業内容	1. 日本の看護基礎教育課程の歴史的変遷について理解できる。 2. 看護基礎教育に関係する省庁等の報告書の概要について理解できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念 (1) キャリア		
	授業内容	1. キャリアとは何かが理解できる。 (Super、Schein) 2. 個人のキャリア発達、組織のキャリア開発の視点から、看護職のキャリアについて考察できる。		

6	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念 (2) 成人学習理論		
	授業内容	1. 成人学習者の特徴について理解できる。 2. 成人学習理論 (Knowles) について概説し、看護職の教育について検討できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念 (3) リフレクション		
	授業内容	1. リフレクション、内省とは何かが理解できる。 (Donald A. Schon) 2. 専門職にとってのリフレクションの意義について考察できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念 (4) 職業的アイデンティティ		
	授業内容	1. アイデンティティとは何かが理解できる。 2. 看護師として職業的アイデンティティをもつことの意義について理解できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育の実際		
	授業内容	1. 大学院、院内教育、看護協会の認定制度 (専門看護師、認定看護師、認定看護管理者) 、学会等の認定制度等について理解できる。 2. 上記の認定制度を概観し、継続教育のあり方について考察できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	1限
	担当者	小池		
	テーマ	看護継続教育の設計と評価		
	授業内容	1. 院内教育の設計と評価について理解できる。 2. 実際の院内教育プログラムをもとに、臨床スタッフの育成の視点からプログラムの評価と課題について検討できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	2限
	担当者	小池		
	テーマ	看護継続教育の設計と評価		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月11日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	新卒看護師の教育の現状と課題		
	授業内容	1. 新卒看護師の教育に関する現状と課題について理解できる。 2. 上記の課題に基づき、教育プログラムを作成できる。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月11日(月)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	中堅看護師の教育の現状と課題		
	授業内容	1. 中堅看護師に関する教育の現状と課題について理解できる。 2. 上記の課題に基づき、教育プログラムを作成できる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	中・高年看護師の教育の現状と課題		
	授業内容	1. 中・高年看護師に関する教育の現状と課題について説明できる。 2. 上記の課題に基づき、教育プログラムを作成できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	コースのまとめ		
	授業内容	1. 科目全体の学修内容を踏まえ、看護継続教育における課題を明らかにできる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	本科目のオリエンテーション／看護学教育とはなにか		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	専門職としての看護		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	日本の看護教育制度の特徴		
4	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	日本の看護基礎教育課程の歴史的変遷		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念（1）キャリア		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念（2）リフレクション		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	3限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念（3）成人学習理論		
8	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育に活用可能な理論・概念（4）職業的アイデンティティ		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	看護継続教育の実際		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	1限
	担当者	小池		
	テーマ	看護継続教育の設計と評価		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	2限
	担当者	小池		
	テーマ	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	新卒看護師の教育の現状と課題		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	中堅看護師の教育の現状と課題		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	1限
	担当者	本谷		
	テーマ	中・高年看護師の教育の現状と課題		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	2限
	担当者	本谷		
	テーマ	コースのまとめ		

評価方法	・科目の評価は、プレゼンテーション、授業参加度、課題レポートなど、総合的に評価する。 ・評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	適宜提示する。
参考書	適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワー：随時対応しますが、事前にアポイントをとることをお勧めします。 本谷　久美子　E-mail：kmotoya@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	看護教育（基礎教育・現任教育・継続教育）に関するこれまでの経験や状況を整理し、課題を明確にしたうえで授業に参加することを期待する。

講義名	看護研究方法論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 千田　みゆき	看護学科教員

担当教員	千田みゆき・新井美由紀
科目の目標	臨床の看護活動で生じた疑問を研究課題の枠組みで捉え直し、先行研究との整合性を確認の上、研究デザインを構想する手順、特に、文献レビューとクリティークを重ね、研究課題に最も適した研究デザインを選択し、倫理的に配慮しつつ実現可能性の高い方法論を選択する手順を学ぶ。また、看護研究で頻用されている基本的な研究方法論と、得られたデータの分析と考察、論文のまとめ方の基本を修得する。さらに、高度実践看護師として、自らが看護問題の解決に研究的に取り組むと共に、専門知識・技術の向上及び開発に必要な看護実践の場における研究活動に対する指導、および研究で得られたエビデンスを、臨床実践で活用するために必要な基本的知識を学修する。
学習の具体的な目標	1.研究論文を検索し、クリティークできる。 2.各種研究デザイン、量的および質的研究方法を説明できる。 3.研究における倫理的配慮について説明できる。 4.研究計画書の必要性を理解し、研究計画書を立案する際の留意点を述べることができる。 5.研究のプロセスや研究論文の構成を説明できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	研究課題と研究タイプ		
	授業内容	1.「研究」や「看護研究」の定義・概念、研究及びその方法の種類を説明できる。 2. 研究のプロセスを説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	研究計画の重要性と研究の倫理		
	授業内容	1. 研究計画の重要性および研究計画書の構成を説明できる。 2.「看護研究における倫理指針」「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を理解し、看護研究における倫理的配慮について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	文献検索とレビュー（１）		
	授業内容	1.文献検索の必要性、一次資料と二次資料、文献整理の方法を説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	2限
	担当者	新井・千田		
	テーマ	文献検索とレビュー（２）		
	授業内容	1.コンピューターを用いて、実際に図書館で、二次資料（医学中央雑誌）から一次資料を検索できる。 （日高キャンパス図書館）		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	研究計画書		

	授業内容	1.研究計画発表会に参加し、研究計画書の構成と作成時の留意点を踏まえて、自己の研究計画に修正を加えることができる。 2.研究計画書作成における要点を述べることができる。（レポート提出）		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	研究デザイン		
	授業内容	1.因子探索研究、関係探索研究のめざすものと研究デザインについて説明できる。 2.仮説検証研究のめざすものと研究デザインについて説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	研究の基本的用語		
	授業内容	1.概念、概念枠組み、仮説等の研究の基本的用語を説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	クリティークの実際（１）		
	授業内容	1.クリティークの意義と方法を説明できる。 2.量的研究における研究の信頼性と妥当性について説明できる。 3.質的研究における研究の真実性について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	クリティークの実際（２）		
	授業内容	1.クリティークの要点について説明できる。 2.実際に文献を用いてクリティークを行うことができる。（レポート提出）		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	質的研究方法（１）		
	授業内容	1.質的研究の特徴と具体的方法、倫理上の注意等について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	質的研究方法（２）		
	授業内容	1.記述民俗学的研究、グランデッド・セオリー・アプローチ、現象学的アプローチ、アクションリサーチ、内容分析等の主な質的研究の特徴と方法をまとめ、最近の文献を用いて具体的活用方法を発表できる。（プレゼンテーション）		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	量的研究方法（１）		
	授業内容	1.量的研究方法の特徴と具体的方法、疫学的研究の原則、倫理上の注意等について説明できる。 2.量的研究の基盤となる記述統計の概要を説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	量的研究方法（２）		
	授業内容	1.量的研究の基盤となる推測統計の概要を説明できる。 2.帰無仮説、有意水準、検定の意味について説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	論文の書き方		
	授業内容	1.論文作成の方法、発表の進め方を説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	研究エビデンスの臨床実践への応用		
	授業内容	1.研究を通じて得られたエビデンスを、臨床の場で応用する方法を説明できる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	研究課題と研究タイプ		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	研究計画の重要性と研究の倫理		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	文献検索とレビュー（１）		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	2限
	担当者	新井・千田		
	テーマ	文献検索とレビュー（２）		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	研究計画書		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	研究デザイン		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	研究の基本的用語		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	クリティークの実際（１）		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	クリティークの実際（２）		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	質的研究方法（１）		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	質的研究方法（２）		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	量的研究方法（１）		
13	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	量的研究方法（２）		
14	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	論文の書き方		
15	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	研究エビデンスの臨床実践への応用		

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、およびレポート内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートのコメントは個別に伝える。
教科書	看護研究ー原理と方法，近藤潤子監訳，医学書院
参考書	授業の中で紹介する。
連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 不在の場合は、アポイントメントをとること。 千田みゆき e-mail：chida@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	ヒューマン・セクシュアリティ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
助産師	◎ 大森　智美	看護学科教員

担当教員	大森　智美
科目の目標	セクシュアリティとは、男であり、女である人間が生まれつき本質的にもつものであり、人間の身体の一部としての性器や性行動のほかに、他人との人間的なつながりや愛情、友情など人間関係における社会的・心理的側面やその背景に生育環境など全てが含まれ、自己像や感情に多くの影響を及ぼす。人間を対象として看護する者は、人間理解を深めるため、このセクシュアリティとセクシュアリティが健康に及ぼす影響について考えを深め、日々の実践への示唆を得ることができる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	オリエンテーション		
	授業内容	1. この授業の進め方を理解する。 2. 学生の担当箇所の決定。 3. セクシュアリティについて、身のまわりにある問題やできごと、関心を持っていることについて説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティの概念について		
	授業内容	1. セクシュアリティの概念について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	ライフサイクルとセクシュアリティ		
	授業内容	1. ライフサイクルの各期を振り返り、その時期のセクシュアリティを説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	人間の性行動と性反応		
	授業内容	1. 人間の性行動の特徴と性反応について説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	性の多様性について①（同性愛）		
	授業内容	1. 学生によるプレゼンテーション 2. 討議		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	性の多様性について②（性同一性障害）		
	授業内容	1. 学生によるプレゼンテーション 2. 討議		

7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアルマイノリティへの支援		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティと健康問題①（性感染症）		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティと健康問題②（疾病とﾎﾞﾃﾞｨｲﾒｰｼﾞ）		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティと健康問題③（障がい者）		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	ドメスティック バイオレンス		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアルハラスメント		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	性教育の現状とこれから①		
	授業内容	1.学生によるプレゼンテーション 2.討議		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	性教育の現状とこれから②		
	授業内容	性教育の現状を理解し、今後の性教育について考えることができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	5限
	担当者	大森		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	まとめ		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	オリエンテーション		
2	年月日(曜日)	和 8年04月21日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティの概念について		

3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	ライフサイクルとセクシュアリティ		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	人間の性行動と性反応		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	性の多様性について①（同性愛）		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	性の多様性について②（性同一性障害）		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアルマイノリティへの支援		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティと健康問題①（性感染症）		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティと健康問題②（疾病とﾎﾞﾃﾞｨｲﾒｰｼﾞ）		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアリティと健康問題③（障がい者）		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	ドメスティック バイオレンス		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	セクシュアルハラスメント		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	性教育の現状とこれから①		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	性教育の現状とこれから②		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	6限
	担当者	大森		
	テーマ	まとめ		

評価方法	出席状況、課題報告と課題レポートを総合的に判断して、科目終了時に評価する。 評価が合格点を満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	特になし。 講義資料は毎回講義時に配布する。
参考書	LGBTってなんだろう？ 薬師実芳 合同出版 職場のLGBT読本 柳沢正和 実務教育出版
連絡先/オフィスアワー	大森 智美　e-mail：t_oomr@saitama-med.ac.jp 電話：042-984-4910（内線3663） オフィスアワー　月曜日16:00～18:00 上記時間帯以外はメール等でアポイントメントをとること。
履修上の注意、履修要件	講義のテーマの欄に書いてある内容は仮のテーマです。学生が担当する講義については、学びたい内容を自由にテーマとしてください。そしてそのテーマの解説と意見交換したいポイントを明らかにして、プレゼンテーションしてください。授業の前後は、各自が予習・復習を主体的に行うこと。 講義日程など相談に応じます。

講義名	コンサルテーション論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子
科目の目標	コンサルテーションの概念、プロセス、タイプ、コンサルタントの役割などを学び、ケア提供者が抱える実践的問題の解決に必要な能力を養う。さらに、コンサルテーションの実践例を通して、看護師へのコンサルテーションやコンサルテーション・リエゾンチームにおける高度実践看護師の役割と機能についての理解を深める。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	コンサルテーションの概念、プロセス、タイプ		
	授業内容	コンサルテーションの概念、プロセス、タイプについて説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	原書講読1		
	授業内容	「ADVANCED PRACTICE NURSING」を講読し、高度実践看護におけるコンサルテーションとモデルについて説明できる。 1.Consultation and Advanced Practice Nursing 2.Defining Consulataion 3.Model of Advanced Practice Nursing Consultation		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	原書購読2		
	授業内容	「THE CONSULTING PROCESS IN ACTION」を講読し、看護コンサルテーションの段階、コンサルタントの役割について説明できる。 1.Phases in Consulting 2.Consultants Roles		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	看護師へのコンサルテーション		
	授業内容	前回の学びを踏まえ、看護師に対するコンサルテーションの実践例を通して、看護師へのコンサルテーションを行う際に必要な知識技術、配慮すべき点について考察できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	コンサルテーション・リエゾンチーム		
	授業内容	コンサルテーション・リエゾンチームの実践例を通して、コンサルテーション・リエゾンチームにおける高度実践看護師の役割について考察できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	組織のストレスとコンサルテーション		
	授業内容	組織のストレスとコンサルテーションに関する文献および自らの実践を踏まえ、高度実践看護師がコンサルタントとして組織において果たすべき役割について考察できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	コンサルテーション活動の評価		
	授業内容	コンサルテーション活動の評価に関する先行研究を読み、コンサルテーション活動の評価の目的、方法について考察できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	看護コンサルテーションにおける今後の課題		
	授業内容	これまでの講義とディスカッションを踏まえ、看護コンサルテーションにおける今後の課題について意見交換を行い、考えをまとめて最終レポートを作成できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	コンサルテーションの概念、プロセス、タイプ		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		

3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	原書講読1		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	原書購読2		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	看護師へのコンサルテーション		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	コンサルテーション・リエゾンチーム		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	組織のストレスとコンサルテーション		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	コンサルテーション活動の評価		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	看護コンサルテーションにおける今後の課題		

評価方法	出席状況、ディスカッションへの参加状況およびレポートをもとに総合的に科目終了時に評価する。 評価が合格点に満たない場合は、再レポートを1回のみ課す。
教科書	適宜指示する。
参考書	①M.F.Tracy：Hamric & Hanson's Advanced Practice Nursing, 6th ed.Elsever.2019 ②Gordon L., Ronald L: The Consultation Process in Action. 2'nd ed.
連絡先/オフィスアワー	大賀 淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	事前に配布する資料・文献をあらかじめ詳読した上で授業に臨む。 毎回の授業での学びを日常の生活に反映させることにより、内容を深化させる。

講義名	看護情報処理論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 椎橋　実智男	指定なし

担当教員	椎橋　実智男
科目の目標	推測統計に必要な概念およびそのための各種手法の特徴と適用方法を理解し、実験研究で得られたデータから客観的に事実を示すことができる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	統計解析の基本概念		
	授業内容	1.統計解析に用いるデータの種類とその性質を説明できる。 2.客観的な事実を示すために統計解析が必要とされる理由を説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	データの記述①		
	授業内容	代表値と散布度の種類と性質を説明でき、それらを用いてデータを記述できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	データの記述②		
	授業内容	1.データを適切な手法を用いて可視化できる。 2.2変数の相関関係を、散布図・相関係数・回帰直線を用いて説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	確率モデルの基本概念		
	授業内容	1.確率分布の概念を説明でき、その種類と性質を示すことができる。 2.確率分布を確率モデルとして用い、その起こる確率を推測できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	確率モデルの応用事例		
	授業内容	1.正規分布を確率モデルとし、現象の起こる確率を示すことができる。 2.二項分布を確率モデルとし、現象の起こる確率を示すことができる。 3.ポアソン分布を確率モデルとし、現象の起こる確率を示すことができる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	推測統計の基本概念		
	授業内容	1.推測統計と記述統計の原理的な違いを説明できる。 2.標本抽出、無作為抽出の概念を説明でき、乱数表を用いた無作為抽出ができる。 3.母集団、標本抽出、標本、確率モデル、母集団の推測、の関係を説明できる。		

7	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の推定手法		
	授業内容	1.統計的推定の概念を説明できる。 2.与えられたデータから、母集団の平均値の区間推定ができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の検定手法①		
	授業内容	1.統計的検定の概念を、帰無仮説、有意水準、棄却・採択などの用語を用いて説明できる。 2.単一の母集団から取り出した標本から、母集団の平均値の検定ができる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の検定手法②		
	授業内容	1.対応のあるデータと対応のないデータを説明でき、具体例を示すことができる。 2.与えられたデータから、対応のある2群の平均値の差の検定ができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の検定手法③		
	授業内容	1.与えられたデータから、対応のない2群の平均値の差の検定ができる。 2.等分散の検定の概念、対応のない2群の平均値の差の検定での必要性を説明できる。 3.ウェルチの検定の適用条件を示し、それを実施することができる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の割合の検定手法①		
	授業内容	1.均一性の検定の概念と原理を説明できる。 2.観測度数と期待度数を説明でき、期待度数を計算できる。 3.与えられたデータから、均一性の検定ができる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の割合の検定手法②		
	授業内容	1.カイ自乗検定の概念を説明できる。 2.与えられたデータから、カイ自乗検定ができる。 3.カイ自乗検定の欠点を示し、その欠点を補うための手法を説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年09月02日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	ノンパラメトリックな検定手法		
	授業内容	1.ノンパラメトリックな検定の概念を説明できる。 2.各種のパラメトリックな検定に対応するノンパラメトリックな検定手法を列挙できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月09日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	３群以上の検定手法		
	授業内容	1.分散分析の概念を説明できる。 2.分散分析の各種の手法について説明できる。 3.与えられたデータから、分散分析ができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月16日(水)	時限	4限
	担当者	椎橋		
	テーマ	回帰モデルを用いた検定手法		
	授業内容	1.回帰モデルを用いた検定手法の概念を説明できる。 2.重回帰分析および判別分析の概念と特徴を説明できる。 3.ロジスティック回帰の概念と特徴を説明できる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	統計解析の基本概念		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	データの記述①		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	データの記述②		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	確率モデルの基本概念		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	確率モデルの応用事例		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	推測統計の基本概念		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の推定手法		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の検定手法①		
9	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の検定手法②		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の平均値の検定手法③		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の割合の検定手法①		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の割合の検定手法②		
13	年月日(曜日)	令和 8年09月02日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	ノンパラメトリックな検定手法		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月09日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	３群以上の検定手法		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月16日(水)	時限	6限
	担当者	椎橋		
	テーマ	回帰モデルを用いた検定手法		

評価方法	科目の評価は、課題レポート、演習態度(グループワーク・グループディスカッションへの参加姿勢、出席状況)などを、総合的に科目終了時に評価する。 評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
連絡先/オフィスアワー	随時、メールにて質問を受け付ける。 椎橋 実智男 e-mail：mshiibas@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。 講義中にパソコンによる統計処理の演習を行う。エクセルが動作するwindowsのパソコンを持参すること。

講義名	人体統合機能論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 金子　優子	看護学科教員

担当教員	金子　優子・藤原　智徳
科目の目標	看護行為の根拠となる基礎医学的知識、特に人体生理機能に関する知識の修得を目的とする。 ①筋・神経系、内分泌系、消化器系、呼吸・循環系、血液・免疫系、泌尿器系、生殖系の個々の器官系について学習し、個々の器官系における恒常性維持について説明できる。 ②各器官系が統合された個体における恒常性維持の仕組みについて、各器官系の協調・統合機能を体系的に捉えた説明ができる。
学習の具体的な目標	1) 神経系・筋系の情報伝達の仕組み、膜電位、活動電位、シナプス等を説明できる。 2) ヒトが感じ運動する仕組みを神経系の働きから説明できる。 3) 神経系と内分泌系の協調による恒常性維持の仕組みについて説明できる。 4) 体内におけるエネルギー産生の仕組みとその調節について説明できる。 5) 体液組成の調節と体液の循環について統合的に説明できる。 6) 思考、記憶、学習、睡眠、感情等を起こす神経系について説明できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	人体統合機能論概論		
	授業内容	1. 細胞の集まりがヒト個体として統合され機能する様について説明できる。 2. 細胞膜を介するさまざまなかたちの物質の移動について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	興奮性組織と情報伝達		
	授業内容	1. 神経系や筋で起こる電気現象について説明できる。 2. シナプスでの情報伝達機構について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	筋の働き		
	授業内容 1. 筋収縮の物理的基盤について説明できる。 2. 骨格筋、平滑筋、心筋の働きの特徴を説明できる。			
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	運動系と感覚系		
	授業内容	1. 脳から筋に至る総体としての運動系について働きを説明できる。 2. 感覚器から脳に至る総体としての感覚系について働きを説明できる。 3. 動物が外界に反応する基本機構としての反射について神経回路をもとに説明できる。		

5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	特殊感覚系		
	授業内容	1. 視覚の生じる機構を眼から脳を含めた総体として説明できる。 2. 聴覚と平衡感覚の生じる機構を内耳から脳を含めた総体として説明できる。 3. 嗅覚と味覚の生じる機構を感覚細胞から脳を含めた総体として説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	自律神経系		
	授業内容	1. 自律神経系について構造的基盤と機能の特徴について説明できる。 2. 自律神経系が生命維持･生体機能調節に働く様について説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	液性調節と神経性調節		
	授業内容	1. 神経系と内分泌系の協調による生体の恒常性の維持の機構について説明できる。 2. ホルモンの種類と合成について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	ホルモン分泌調節と人体機能		
	授業内容	1. ホルモンの作用機序と各種ホルモンの機能について説明できる。 2. ホルモン分泌の調節機構ついて説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	消化器系とエネルギー代謝		
	授業内容	1. 体内におけるエネルギー産生の仕組みとその調節について説明できる。 2. 血糖値の恒常性について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	体液とその循環、体液組成の調節１		
	授業内容	1. 心臓・血管系の働きと血圧調節について説明できる。 2. 心臓の活動を心電図との関連で説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	体液とその循環、体液組成の調節２		
	授業内容	1. 呼吸機能と酸素・二酸化炭素の恒常性について説明できる。 2. 腎機能と体液のpHの恒常性について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	1限
	担当者	金子		
	テーマ	体液とその循環、体液組成の調節３		
	授業内容	1. 体液組成の調節と体液の循環について統合的に説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	1限
	担当者	藤原		
	テーマ	高次脳機能と人間１		
	授業内容	1. 高次脳機能の概要について説明できる。 2. 睡眠と生体リズムについて説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月21日(火)	時限	1限
	担当者	藤原		
	テーマ	高次脳機能と人間２		
	授業内容	1. 情動行動について説明できる。 2. 情動の障害と神経疾患について説明できる。		

15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	1限
	担当者	藤原		
	テーマ	学習と記憶		
	授業内容	1. 学習と記憶について説明できる。 2. 記憶の分子機構について説明できる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	人体統合機能論概論		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	興奮性組織と情報伝達		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	筋の働き		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	運動系と感覚系		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	特殊感覚系		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	自律神経系		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	液性調節と神経性調節		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	ホルモン分泌調節と人体機能		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	消化器系とエネルギー代謝		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	体液とその循環、体液組成の調節１		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	体液とその循環、体液組成の調節２		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	6限
	担当者	金子		
	テーマ	体液とその循環、体液組成の調節３		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	6限
	担当者	藤原		
	テーマ	高次脳機能と人間１		

14	年月日(曜日)	令和 8年07月21日(火)	時限	6限
	担当者	藤原		
	テーマ	高次脳機能と人間２		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	6限
	担当者	藤原		
	テーマ	学習と記憶		

評価方法	科目の評価は、課題レポート（40%）、受講態度(出席状況など 60%)を、総合的に科目終了時に評価する。 評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	特になし。資料は適宜提示する。
参考書	授業ごとに適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	金子 優子 （ e-mail: yukaneko@saitama-med.ac.jp ）: 火曜日4,5限 藤原 智徳 （ e-mail: tfuji@saitama-med.ac.jp ）: 木曜日3,4限 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。
履修上の注意、履修要件	・履修に際しては、指導教員と相談し、必ず事前に履修する旨を科目責任者（金子）に連絡してください。 ・履修者と打ち合わせの上で、日時が変更する場合もあります。 ・授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	看護政策論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 鈴木　英子	指定なし

担当教員	鈴木　英子
科目の目標	看護の質の向上のための政策的働きかけについて、高度実践看護師として必要な知識を学ぶ。社会保障制度改革と看護政策及び関連法規を学び、今日の看護管理・政策の問題点を検討し、演習にて看護政策への提案書を作成・発表することができる。
学習の具体的な目標	1.社会保障制度改革と看護政策のかかわりを説明できる。 2.看護制度の変遷と看護政策の概要を説明できる。 3.看護政策上の課題を示し、その解決に向けた方法を提案できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	社会保障制度改革と看護政策		
	授業内容	社会保障と税の一体改革・看護制度関連の法律改正による改善点と問題点について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護行政の推進		
	授業内容	看護政策の現状を把握し、政策的課題に基づき具体的に看護政策を推進するために法律を変えていく働きかけについて説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策遂行のための企画１		
	授業内容	看護政策への提案書の具体的事例を紹介する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	グループワーク（看護の政策的課題の検討）		
	授業内容	今日の看護の政策的課題について検討する。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護制度の変遷と政策		
	授業内容	保健師助産師看護師法の概要、保健師助産師看護師法の変遷について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護職員確保に関する制度・政策		
	授業内容	看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護職員確保の政策、看護職員の配置基準、EPAにもとづく外国人看護師の受け入れについて説明できる。		

7	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策遂行のための企画２		
	授業内容	看護政策への提案書の具体的事例を紹介する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	グループワーク（看護の政策的課題の検討）		
	授業内容	看護の政策的課題を検討し、ディスカッションを通して理解を深める。		
9	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護労働に関する制度・政策		
	授業内容	看護労働の政策課題、看護労働の政策形成について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策遂行のための企画３		
	授業内容	看護政策への提案書の具体的事例を紹介する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	グループワーク（看護政策への提案書作成）		
	授業内容	看護政策への提案書を作成する。		
12	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理に影響する看護関係法規・制度と今日的課題		
	授業内容	健康保険法（診療報酬）、日本看護協会の看護資格認定制度について説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策の形成・実現と戦略		
	授業内容	看護政策に関する審議会・検討会、政策実現に向けた組織的取組の必要性について説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策への提案書作成		
	授業内容	看護政策への提案書を作成する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策への提案書発表		
	授業内容	作成した看護政策への提案書を発表する。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	社会保障制度改革と看護政策		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護行政の推進		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策遂行のための企画１		

4	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	グループワーク（看護の政策的課題の検討）		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護制度の変遷と政策		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護職員確保に関する制度・政策		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策遂行のための企画２		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	グループワーク（看護の政策的課題の検討）		
9	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護労働に関する制度・政策		
10	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策遂行のための企画３		
11	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	グループワーク（看護政策への提案書作成）		
12	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	4限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護管理に影響する看護関係法規・制度と今日的課題		
13	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	1限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策の形成・実現と戦略		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	2限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策への提案書作成		
15	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	3限
	担当者	鈴木		
	テーマ	看護政策への提案書発表		

評価方法	科目の評価は、課題レポート、演習態度(グループワーク・グループディスカッションへの参加姿勢、出席状況)などを、総合的に科目終了時に評価する。 評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	特になし。
参考書	①医療六法　最新版　中央法規出版 ②厚生労働省　平成25年度国民医療費の概況 （http:www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw）
連絡先/オフィスアワー	随時、メールにて質問を受け付ける。 鈴木 英子　e-mail：eikosuzuki@iuhw.ac.jp
履修上の注意、履修要件	資料が多く提示されるので読みこなしておくこと。 授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	フィジカルアセスメント		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地	毛呂山キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
医師	◎ 辻　美隆	指定なし

担当教員	辻　美隆・嶋﨑　晴雄・高倉　保幸
科目の目標	既習の知識を統合し、様々な健康問題を持つ看護の対象者の全身の身体的健康状態を診査し、臨床的看護判断をするために、高度実践看護師として必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を学ぶ。シミュレーション演習を通して、様々な病態の患者に対応できる高度なフィジカルアセスメント能力を修得する。

授業計画表

1	担当者	辻
	テーマ	概説、フィジカルアセスメントにおける医療面接
	授業内容	本科目の到達目標を説明できる。 フィジカルアセスメントについて概説できる 医療面接で得られた情報からのフィジカルアセスメントについて説明できる。
2	担当者	辻
	テーマ	バイタルサインのアセスメント
	授業内容	バイタルサインからのフィジカルアセスメントの要点を説明できる。
3	担当者	辻
	テーマ	胸部（心臓）のフィジカルアセスメント
	授業内容	胸部診察からの心臓・循環器系フィジカルアセスメントの要点を説明できる。
4	担当者	辻
	テーマ	胸部（呼吸器）のフィジカルアセスメント
	授業内容	胸部診察からの肺・呼吸器系フィジカルアセスメントの要点を説明できる。
5	担当者	辻
	テーマ	胸部フィジカルアセスメントの実際
	授業内容	シミュレータを使って胸部の診察を行い、得られた所見から心臓・循環器系および肺・呼吸器系のアセスメントができる。
6	担当者	辻
	テーマ	腹部のフィジカルアセスメント
	授業内容	腹部診察からの消化器・泌尿器・婦人科系フィジカルアセスメントの要点を説明できる。
7	担当者	嶋﨑
	テーマ	脳・神経系のフィジカルアセスメント（1）
	授業内容	脳・神経系のフィジカルアセスメントについて概説できる。 脳神経系の診察からの脳神経系のアセスメントの要点を説明できる。

8	担当者	嶋﨑
	テーマ	脳・神経系のフィジカルアセスメント（2）
	授業内容	運動系・感覚系・反射などの神経診察からの神経系フィジカルアセスメントの要点を説明できる。
9	担当者	高倉
	テーマ	四肢・脊柱・骨・関節・筋肉のフィジカルアセス　　メント
	授業内容	四肢・脊柱・骨・関節・筋肉の診察からのフィジカルアセスメントの要点を説明できる。
10	担当者	辻
	テーマ	頭頸部のフィジカルアセスメント
	授業内容	頭頸部診察からのフィジカルアセスメントの要点を説明できる。 シミュレータを使って頭頸部の診察を行い、得られた所見からアセスメントできる。
11	担当者	辻
	テーマ	乳房・腋窩・会陰部のフィジカルアセスメント
	授業内容	乳房・腋窩の診察からのフィジカルアセスメントの要点を説明できる。 会陰部の診察からのフィジカルアセスメントの要点を説明できる。
12	担当者	辻
	テーマ	小児のフィジカルアセスメント
	授業内容	小児の身体機能の特徴を踏まえたフィジカルアセスメントができる。 シミュレータを使って頭頸部の診察を行い、得られた所見からアセスメントできる。
13	担当者	辻
	テーマ	高齢者のフィジカルアセスメント
	授業内容	高齢者の身体的特徴を踏まえたフィジカルアセスメントができる。
14	担当者	辻
	テーマ	フィジカルアセスメント総合演習（1）
	授業内容	様々な病態を表現したシミュレータを用いたシミュレーション演習を行い、得られた診察所見から的確な臨床看護判断ができる。
15	担当者	辻
	テーマ	フィジカルアセスメント総合演習（2）
	授業内容	様々な病態を表現したシミュレータを用いたシミュレーション演習を行い、得られた診察所見から的確な臨床看護判断ができる。

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況含む）、 およびレポート、演習時の技術等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートへのコメントは個別に伝える。
教科書	教科書・参考書は、授業内で随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	(水)(木)　12:10-13:00　研究室 メール随時 担当者e-mail：ytsuji@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に 行うこと。

講義名	病態生理学		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 藤原　智徳	臨床検査学科教員

担当教員	藤原　智徳・粟生田友子・関根由紀子
科目の目標	高度実践看護師として、エビデンスに基づいた臨床看護判断を行うために、臨床現場で見られる主な疾患の病態生理を学び、看護の対象の全身の病態生理学的変化を理解する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	体液バランスの不均衡		
	授業内容	体液バランスの不均衡に関する病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する体液バランスの不均衡を生じている典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	血液・造血系の障害		
	授業内容	血液像等の変化の病態と症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する血液・造血系の障害をもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	循環器系の障害		
	授業内容	循環器系障害の病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する循環器系の障害をもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	4限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	呼吸器系の障害		
	授業内容	呼吸器系障害の病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する呼吸器系の障害をもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		

6	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	4限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月27日(火)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	消化器系の障害		
	授業内容	消化器系障害の病態と機序症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する消化器系の障害をもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月27日(火)	時限	4限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	代謝・内分泌系の障害		
	授業内容	代謝・内分泌の障害の病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する代謝・内分泌系の障害をもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	中枢神経系の障害、骨筋肉系の障害		
	授業内容	中枢神経系障害の病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 骨・筋肉系の障害の病態と機序、症状等の身体的変化を結び付けて説明できる。 臨床の現場で遭遇する中枢神経系および骨・筋肉系の障害をもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	感染と炎症		
	授業内容	感染と炎症の病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する感染・炎症を生じている典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	免疫機能不全とアレルギー		
	授業内容	免疫機能不全とアレルギーに関する病態と機序、症状等の身体的変化を結びつけて説明できる。 臨床の現場で遭遇する免疫機能不全やアレルギーをもつ典型事例を挙げ、アセスメントと必要な看護について考えることができる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田・関根		
	テーマ	臨床看護判断（病態生理）の総合演習		
	授業内容	複合的症状のある事例の症状や検査所見等から総合的に病態生理を検討し、臨床看護判断についての発表・討議ができる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	4限
	担当者	藤原・粟生田・関根		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	3限
	担当者	藤原・粟生田・関根		
	テーマ	臨床看護判断（病態生理）の総合演習		
	授業内容	複合的症状のある事例の症状や検査所見等から総合的に病態生理を検討し、臨床看護判断についての発表・討議ができる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	体液バランスの不均衡		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	血液・造血系の障害		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	循環器系の障害		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	7限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	呼吸器系の障害		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	7限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	消化器系の障害		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	7限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	代謝・内分泌系の障害		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	中枢神経系の障害、骨筋肉系の障害		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	感染と炎症		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田		
	テーマ	免疫機能不全とアレルギー		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田・関根		
	テーマ	臨床看護判断（病態生理）の総合演習		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	7限
	担当者	藤原・粟生田・関根		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	6限
	担当者	藤原・粟生田・関根		
	テーマ	臨床看護判断（病態生理）の総合演習		

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況含む）、およびレポート、プレゼンテーションの内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートへのコメントは個別に伝える。
教科書	教科書・参考書は、授業内で随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 　不在時はメール等 担当者　藤原智徳 email　tfuj@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	臨床薬理学		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
医師	◎ 牧野　好倫	医学部教員

担当教員	牧野　好倫・土師しのぶ
科目の目標	薬物療法における看護師の役割が拡大していることから、高度実践看護師として、疾患・症状に対する薬物療法のメカニズムを理解し、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤、薬剤使用判断、投与後のモニタリング、生活調整、患者の回復力の向上や服薬管理の向上に関する知識と技術を学修することを目標とする。また、患者に説明する際の留意点と指導内容について理解する。

授業計画表

1	担当者	牧野
	テーマ	薬理学概説 薬物療法における看護師の役割、救急カートの薬
	授業内容	薬理学の基本的考え方、薬物の作用機序、投与方法、薬剤の形・用量等を説明できる。 薬物療法における看護師の役割を説明できる。 緊急応急処置に必要な薬剤を説明できる。
2	担当者	牧野
	テーマ	薬物の体内動態
	授業内容	薬物の吸収、分布、代謝、排泄の役割について説明できる。 生物学的半減期、治療薬血中濃度モニタリング(TDM)について説明できる。
3	担当者	牧野
	テーマ	小児および高齢者、女性の服薬管理
	授業内容	小児および高齢者の身体的心理的社会的発達に応じた生活調整・服薬管理について説明できる。 女性の妊娠期、分娩期、授乳期における薬物の作用と各期の身体的心理的社会的特徴を踏まえて、生活調整・服薬管理について説明できる。 女性ホルモン薬、経口避妊薬の作用と生活への影響について説明できる。
4	担当者	牧野
	テーマ	感染症治療薬
	授業内容	感染症治療薬について説明できる。
5	担当者	牧野
	テーマ	炎症と疼痛の治療薬
	授業内容	炎症および疼痛の病態を説明できる。非ステロイド性抗炎症薬および麻薬性鎮痛薬の作用を説明できる。上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
6	担当者	牧野
	テーマ	中枢神経系疾患の治療薬(1)
	授業内容	精神疾患の病態と結びつけてその代表的治療薬の作用を説明できる。 上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
7	担当者	牧野
	テーマ	中枢神経系疾患の治療薬(2)
	授業内容	神経系疾患の病態と結びつけて麻酔薬、催眠薬、およびてんかん・パーキンソン病・アルツハイマー病等の治療薬の作用を説明できる。 上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。

8	担当者	牧野
	テーマ	循環器系疾患の治療薬(1)
	授業内容	循環器系疾患の病態と結びつけて心不全治療薬、抗不整脈薬の作用を説明できる。上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
9	担当者	牧野
	テーマ	循環器系疾患の治療薬(2)
	授業内容	循環器系疾患の病態と結びつけて狭心症薬、抗高血圧薬の作用を説明できる。上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
10	担当者	牧野
	テーマ	血液疾患の治療薬
	授業内容	血液疾患の病態と結びつけて貧血治療薬、凝固薬の作用を説明できる。 上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
11	担当者	牧野
	テーマ	消化器系疾患の治療薬
	授業内容	消化器系疾患の病態と結びつけて消化性潰瘍治療薬、制吐薬の作用を説明できる。 上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
12	担当者	牧野
	テーマ	呼吸器系疾患の治療薬
	授業内容	呼吸器系疾患の病態と結びつけて気管支喘息治療薬、鎮咳薬の作用を説明できる。 上記薬剤の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
13	担当者	牧野
	テーマ	代謝・内分泌系疾患の治療薬
	授業内容	代謝・内分泌の疾患の病態と結びつけて脂質代謝異常の治療薬、糖尿病治療薬の作用を説明できる。 上記薬物の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
14	担当者	牧野
	テーマ	がん化学療法
	授業内容	代表的ながん化学療法を説明できる。 抗がん剤の使用の判断、投与方法の選択、投与後の観察の要点について説明できる。
15	担当者	牧野・土師
	テーマ	臨床看護判断総合演習
	授業内容	１～14回の講義内容を統合し、これらに関連した事例（インシデントまたはアクシデントを含む）における薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、生活調整、回復力の促進や服薬管理能力の向上のための高度実践看護師としての看護判断および看護実践等について発表し、ディスカッションできる。また、これらの過程で、薬物療法における高度実践看護師の役割を理解する。

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況含む）、およびレポート、プレゼンテーションの内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートへのコメントは個別に伝える。
教科書	教科書・参考書は、授業内で随時提示する。 ・マンガでわかる薬物動態学 ・Applied therapeutics ・最新の診療（治療）ガイドライン等
参考書	教科書・参考書は、授業内で随時提示する。 ・マンガでわかる薬物動態学 ・Applied therapeutics ・最新の診療（治療）ガイドライン等
連絡先/オフィスアワー	email: ymakino@saitama-med.ac.jp 随時、メールにて質問を受け付ける。。
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。（診療ガイドラインの更新に注目するなど） 毎回の授業の冒頭に、その授業のコンテンツにまつわる最新の情報（TOPIC）を一つ紹介する

講義名	がん看護学特論Ⅰ（がんに関する病態生理、診断、治療）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	1単位/15時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・川崎　朋範・各務　博・岡本　雅彦・平崎　正孝
科目の目標	がん看護の基盤となるがんに関する病態生理と診断、治療について、基本的な治療原理を理解する。とくに病態生理においては、がんの分子生物学、発生機序、遺伝学的視点を含み、がん治療への理解を深めるための基盤となる知識を理解する。がんの特徴を理解したうえで、がん治療の変遷をたどり、最新の治療のメカニズムへの理解につなげ、がん患者と家族を取り巻く治療環境における課題と高度実践看護師の役割について考察することができる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がんの疫学と予防： 疫学データの解釈とアプローチへの活用		
	授業内容	ガイダンス：科目のねらいと全体の概要および学習方法について理解する。 1.初回においてがん患者と家族を取りまく治療環境における課題、高度実践看護師の役割をどのように認識しているか、各自がレポートA4版1枚程度にまとめておく。 2.がんを疫学的に理解するための基本的な統計について確認する方法や数値、そのデータから分析できる動向や傾向について、E-learning〈悪性腫瘍の疫学　共通3ー6〉および〈がんの発生と予防〉を各自が講義前に聴講し、さらにE-learningの小テストを行い、講義前に科目担当者に送信する。 3.各自が発生率、罹患率、死亡数、死亡率、年齢調整死亡率、受診状況、治療状況などの埼玉県と全国統計値をあらかじめ確認してから講義を受ける。 4.2.3を踏まえて、傾向を読み取り、がん患者の受診行動や治療の状況を資料としてまとめ、プレゼンテーションする。 5.疫学的な分析結果のプレゼンテーションを踏まえて、がん予防のための具体的方策を提案し、内容についてディスカッション、理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	川崎		
	テーマ			

ガイダンス：
がんの分子病理病態学総論：
がんの分類、発がんの仕組みと危険因子
がんの増殖・浸潤・転移

授業内容	1.がんの分子病理病態学総論として、E-learning〈専門科目　腫瘍内科学　項目1　腫瘍内科学概論〉を各自が講義の前に聴講し、がんの分類、発がんの仕組みと危険因子について事前学習をする。 2.がんの増殖・浸潤・転移の仕組みについて講義を通して理解する。

3	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	川崎		
	テーマ	がんの診断： 病理診断、解析レポート読解、予後予測		
	授業内容	1.がんの進行とがん患者への経過の全容を判断するための基本的知識として、がんの診断について、教員からの講義を通して、学修し、理解する。 2.がんの病理的診断について理解し、解析レポートの結果とその解釈について説明する。 3.予後予測の実際について、症例をもとに理解し、予後予測が患者・家族へもたらすメリット・デメリットについてディスカッションし、理解を深める。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	平崎		
	テーマ	がんゲノム医療　総論： ゲノムの基本的知識（シークエンスなど） がん遺伝子、がん抑制遺伝子、エピジェネティック変異		
	授業内容	1.がんゲノム医療を理解するための基本的知識として、講義の前に、各自があらかじめ、E-learning〈基礎腫瘍学　項目1　腫瘍生物学2〉および〈ゲノム医学の基礎とがんゲノム　講義番号　共通8-1〉を聴講し、がんゲノム医療の歴史、RAS遺伝子変異、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、エピジェネティック変異、DNAメチル化異常について、理解する。 2.1. で学修した内容を資料にまとめてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して理解を深める。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	平崎		
	テーマ	がんゲノム医療における診断と治療： 単一遺伝子検査、がん遺伝子パネル検査 遺伝性腫瘍の診断と治療、遺伝カウンセリングの実際		
	授業内容	1.単一遺伝子検査、がん遺伝子パネル検査について、各自が、講義の前に、E-learning〈共通科目2　生命倫理と法的規則　項目8遺伝子解析研究と倫理〉、E-learning〈共通科目5基礎腫瘍学　項目6　患者教育①遺伝カウンセリング　CH1、CH3、CH4〉を聴講し、内容について理解する。 2.遺伝性腫瘍（遺伝性乳がん・卵巣がん、家族性大腸腺腫症、遺伝性非ポリポーシス大腸がん）についての診断と治療を、講義を通して、理解を深める。 3.がんゲノム医療における倫理的課題について事例をもとに検討し、課題解決にむけた地域システムを含めた方略を、多角的にディスカッションし、さらに理解を深める。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	各務		
	テーマ	がんの集学的治療に関する治療原理と最新の知見： がん免疫療法に関する基本的知識		
	授業内容	1.E-learning〈がん細胞治療/遺伝子治療　共通3-9〉を各自が事前に、がんワクチン、がん免疫療法、遺伝子治療に関する基本的知識を学習する。 2.1で学修した内容の理解を確認するためにE-learning小テストを講義前に実施し、結果を教員に送信する。 3.がん治療における免疫療法の歴史と位置づけについて、講義を通して、理解する。 4.がんの免疫療法に関する国内外の最新トピックスを紹介しあい、ディスカッションを通して、知見を広げる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	岡本		
	テーマ	がん放射線療法に関する最新の知見： がん放射線療法に関する基本的知識		
	授業内容			

1.E-learning〈共通科目3基礎腫瘍学　項目12　放射線物理学/放射線被爆〉を講義前に聴講し、がん放射線療法に関する治療原理について基本的知識を、学修する。 2.1で学修した内容の理解を確認するためにE-learning小テストを講義前に実施する。 3. がん放射線療法に関する国内外の最新トピックスを互いに紹介しあい、ディスカッションを通して知見を広げる。				
8	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	患者と家族を取りまく治療環境における課題、高度実践看護師の役割		
	授業内容	がんゲノム医療、がん免疫療法、がん放射線療法から、もっとも関心のあるテーマを一つ選択し、がん患者の治療状況を踏まえ、がん患者とその家族が抱える問題とその対策（看護）について提案し、ディスカッションを通し、理解を深める。		

評価方法	・プレゼンテーション内容（50%）、討議への参加度（30%）、レポート（20%）から総合的に評価する。
参考書	1.DeVita,V, 宮園浩平, 石川冬木, 間野博行訳（2017）：デヴィータがんの分子生物学第2版, メディカルサイエンスインターナショナル. 2.Pecorlino,L, 日合弘, 木南凌 訳（(2017)：ペコリーノがんの分子生物学 メカニズム・分子標的・治療第3版　メディカルサイエンスインターナショナル 3.中村桂子ほか訳（2016）：エッセンシャル細胞生物学原著第5版（2021）：南江堂. 4.E-learning〈専門科目　腫瘍内科学　項目1　腫瘍内科学概論〉 5.E-learning〈悪性腫瘍の疫学　講義番号　共通3-6〉 6.E-learning〈がんの発生と予防/化学予防〉 7.E-learning〈基礎腫瘍学　項目1　腫瘍生物学2〉 8.E-learning〈ゲノム医学の基礎とがんゲノム　講義番号　共通8-1〉 9.E-learning〈共通科目2　生命倫理と法的規則　項目8遺伝子解析研究と倫理〉 10.E-learning〈がん細胞治療/遺伝子治療　共通3-9〉 11.E-learning〈共通科目5基礎腫瘍学　項目6　患者教育①遺伝カウンセリング　CH1、CH3、CH4〉 12.E-learning〈共通科目3基礎腫瘍学　項目12　放射線物理学/放射線被爆〉 他、各担当者から適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	金曜日12：00～12：30まで 事前にメールでアポイントメントをとること 櫻庭 奈美<sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	・事前学習・プレゼンテーションが必要な回は、事前準備を行い、講義に臨むこと。 ・講義中のディスカッション、質問の時間を積極的に活用し、理解を深めること。 ・指定されたE-learningを授業前に受講することにより、それぞれの授業内容を確実に学修していくこと。

講義名	がん看護学特論Ⅱ（がんに関する病態生理、診断、治療）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	1単位/15時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・大崎　昭彦・堀田　洋介・高橋　直樹・鳥越　知明・解良　恭一・濱口　哲弥・来住野　修
科目の目標	がん腫別にみたがんの診断から治療計画の立案までの医学的根拠、医師の臨床推論への理解を深める。これらをもとに、高度実践看護師として、高度なケア技術とキュアの知識を用いて看護に活かす能力を培うために、診断と治療計画の立案までを事例をもとになぞらえ、看護計画を立案する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	濱口		
	テーマ	消化器系がん（食道・胃・腸）の病態・診断過程、治療		
	授業内容	1.消化器系がん（食道・胃・腸）の病態、診断過程、治療についてE-learningをとおして理解する。また、授業前に、E-learning小テストを実施し、理解を確認する。 2.医師の臨床推論について実症例データを用いて探究し、看護師の判断、推論との違いについてディスカッションし、理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	堀田		
	テーマ	消化器系がん（肝胆膵）の病態・診断過程、治療		
	授業内容	1.消化器系がん(肝胆膵)の病態、診断過程、治療について、E-learningをとおして、理解する。授業前に、E-learning小テストを実施し、理解を確認する。 2.医師の臨床推論について実症例データを用いて探究し、看護師の判断、推論との違いについてディスカッションする。		
3	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	鳥越		
	テーマ	骨転移部の診断（画像診断を含む）		
	授業内容			

1.骨転移の病態生理について、E-learningをとおして、理解する。授業前に、E-learning小テストを実施し、理解を確認する。
2.骨転移の診断（エックス線、CT、MRI画像診断を含む）と治療について、理解できる。
3.CT、MRI、PET、骨シンチの画像結果から、異常を見つけることができる。
4.さらに、骨転移部の最新治療について、知見を広げる。

4	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	来住野		
	テーマ	腹部エコーの画像読み解き（画像診断方法）		
	授業内容	1.超音波検査の原理について、E-learningを通して、理解できる。 2.腹部エコーの結果レポートを読み取ることができる。 3.超音波機器を操作し、膀胱、肝臓、頸動脈の位置と大きさを測定することができる。 4.1～3について、ディスカッションを通して理解を深める。		
5	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	解良		
	テーマ	呼吸器系がん（肺）の病態・診断過程、治療		
	授業内容	1.呼吸器系がん(肺)の疫学、病態、診断過程、治療について、E-learningをとおして、理解する。授業前に、E-learning小テストを実施し理解を確認する。 2.医師の臨床推論について実症例データを用いて探究し、看護師の判断、推論との違いについてディスカッションし、理解を深める。		
6	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	造血器系がん（白血病）の病態・診断過程、治療		
	授業内容	1.造血器系がん(白血病)の病態、診断過程、治療について、E-learningをとおして、理解する。授業前に、E-learning小テストを実施し、理解を確認する。 2.医師の臨床推論について実症例データを用いて探究し、看護師の判断、推論との違いについてディスカッションし、理解を深める。		
7	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者 テーマ	大崎 女性生殖器系がん（乳房）の病態・診断過程、治療		
	授業内容	1.女性生殖器系がん（乳房）の病態、診断過程、治療について、E-learningをとおして、理解する。授業前に、E-learning小テストを実施し、理解を確認する。 2.医師の臨床推論について実症例データを用いて探究し、看護師の判断、推論との違いについてディスカッションし、理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	濱口・櫻庭		
	テーマ	臨床事例（消化器系がん）による治療計画・看護計画の立案		
	授業内容	1.消化器系がんの治療計画についてまとめ、医師からフィードバックを受ける。 2.消化器系がんの看護計画についてまとめ、専門看護師からフィードバックを受ける。 3.1.2により各自が理解度を確認し、治療計画に関する知識を深める。		

評価方法	・プレゼンテーション内容（60%）、討議への参加度（40%）から総合的に評価を行う。
参考書	1.室圭、大村健二編（2021）：オンコロジークリニカルガイド消化器癌化学療法　改訂第5版. 南山堂 2.有賀悦子、田中栄、緒方直史監修、岩瀬哲、河野博隆、篠田裕介編（2016）：がんの骨転移ナビ, 医学書院. 3.木崎昌弘、田丸淳一著（2009）：WHO分類改訂第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学. 中外医学社. 4.河合忠、山田俊幸、本田孝行編（2018）：異常値の出るメカニズム　第7版, 医学書院. 5.E-learning〈共通科目　臨床腫瘍学概論　項目8　代表的疾患の標準治療1〉 6.E-learning〈共通科目　臨床腫瘍学概論　項目9　代表的疾患の標準治療2〉 7.E-learning〈共通科目　基礎腫瘍学項目8　がんの画像診断法〉 8.E-learning〈共通科目　臨床腫瘍学概論　項目10　代表的疾患の標準治療3〉 9.E-learning〈共通科目　臨床腫瘍学概論　項目12　代表的疾患の標準治療5肺がん〉 10.E-learning〈共通科目　臨床腫瘍学概論　項目11　代表的疾患の標準治療4造血器〉 他、各担当者から適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	金曜日12：00～12：30 事前にメールでアポイントメントをとること

	櫻庭 奈美<sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	・事前学習・プレゼンテーションが必要な回は、事前準備を行い、講義に臨むこと。 ・講義中のディスカッション、質問の時間を積極的に活用し、理解を深めること。 ・指定されたE-learning（小テスト含む）を授業前に受講することによりそれぞれの授業内容を確実に学修していくこと。

講義名	がん看護学特論Ⅲ（がん看護に関する理論）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美、山口　拓允
科目の目標	がん看護に関連するパラダイムや主要理論、がん患者および苦痛を体験している人々とその家族を全人的に理解するうえで、基盤となる概念・主要理論とその活用について探究し、さらに、それらの実践および研究への適用について検討する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん看護および緩和ケアにおける看護師・がん看護専門看護師の役割、看護理論の概観と実践への適用		
	授業内容	1.がん看護に用いられている概念と理論について、各自が文献検索をし、概念や理論を概観し、関心がある概念や理論について1つまたは３つ文献を読み込み、各自がその概念や理論についてあらかじめ理解し、なぜ関心があるのかを振り返り、プレゼンテーションできるよう事前に準備する。 2.１をもとに、これまでの実践において理論が具体的に使用されている臨床での状況を振り返る。 3.がん看護領域において臨床実践への活用を探究する方法についてディスカッションし、このコースの学習を深める方法（書籍や文献の活用、実践場面の提示など）を確認する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	ストレスおよびコーピング理論 看護実践への理論と活用		
	授業内容	1.ストレスおよびコーピング理論について、各自が事前に学習したことをプレゼンテーションすることを通して、理論について理解する。 2.ストレスやコーピング理論を用いたがん看護学における研究論文や、全体の研究動向から理論の活用の現状を探索する。 3.がん看護領域における臨床実践への活用についてディスカッションすることを通して理論の理解を深める。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	4限
	講義室	C201		

担当者	櫻庭			
テーマ	〃			
授業内容	〃			
4	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	危機理論：危機、健康危機状況 看護実践への理論の活用		
	授業内容	1.危機理論について、各自が事前に学習したことをプレゼンテーションすることを通して、理論について理解する。 2.ストレスやコーピング理論を用いたがん看護学における研究論文や、全体の研究動向から理論の活用の現状を探索する。 3.がん看護領域における健康危機状況に関してがんの療養経過から振り返り、臨床実践への活用についてディスカッションすることを通して理論の理解を深める。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	喪失と悲嘆、grief work（悲哀の仕事） 看護実践への理論の活用		
	授業内容	1.喪失と悲嘆の概念やそれに関連する理論について、各自が事前に学習したことをプレゼンテーションすることを通して、理解する。 2.ストレスやコーピング理論を用いたがん看護学における研究論文や、全体の研究動向から理論の活用の現状を探索する。 3.がん看護領域における健康危機状況に関してがんの療養経過から振り返り、臨床実践への活用についてディスカッションすることを通して理論の理解を深める。 4.grief work(悲哀の仕事)と、そのプロセス、アウトカムについて文献から理解する。 5.がん患者や家族が、がんの病みの軌跡において体験している喪失や悲嘆、grief workに関して、これまで事例から振り返り、具体的に患者や家族が置かれている状況やgrief workによる変化についてディスカッショし、臨床実践への活用について検討する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、山口		
	テーマ	健康行動理論（保健行動理論）、看護実践への理論の活用		
	授業内容	1. 健康行動理論（保健行動理論）として、Health Belief Model, The Theory of Planned Behavior Social Cognitive Theory, Transtheoretical Model, PRECEDE-PROCEED Modelなどについて、各自が事前に学習したことをプレゼンテーションすることを通して、理解する。 2. それぞれの健康行動理論の発達や、理論基盤が構築された流れについて理解し、理論上の強みや活用範囲について、研究論文や、研究動向から理論の活用の現状を探索する。 3. がん看護領域における健康行動理論の活用について、ヘルスプロモーションの観点から、臨床実践への活用についてディスカッションすることを通して理論の理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、山口		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、山口		
	テーマ	QOL概念と活用：健康関連QOL, hope 看護実践への理論と評価ツールの活用		
	授業内容			

1.QOL概念について、各自が事前に学習したことをプレゼンテーションすることを通して、理論について理解する。
2.QOLに関連するがん看護学における研究論文や、全体の研究動向から、概念の活用の現状を探索する。
3.がん看護領域における臨床実践への活用についてディスカッションすることを通して理論の理解を深める。とくに、がん看護の専門性の高い看護実践によって、患者のQOLの変化の可能性についてディスカッションし、QOLへの考察を深める。

10	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、山口		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	セルフケアおよびセルフマネージメント理論 セルフケア、セルフマネージメント、症状マネジメントモデル 看護実践への理論の活用		
	授業内容	1.セルフケア、セルフマネージメント理論に関し、各自が事前に学習したことをプレゼンテーションすることを通して、理解する。 2.セルフケア・セルフマネージメント理論を用いたがん看護学における研究論文や、全体の研究動向から理論の活用の現状を探索する。 3.家族看護の立場から見た家族のセルフケア機能について、各自が事前に学習したことを、プレゼンテーションを通して理解する。 4.がん看護領域における臨床実践への活用についてディスカッションすることを通して理解を深める。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	Uncertainty（不確かさ）と不安 看護実践への理論の活用		
	授業内容	1.ミッシェルのUncertainty（不確かさ）の概念と理論に関し、各自が事前に学習したことを、プレゼンテーションすることを通して、理論を理解する。 2.急性期・慢性状態においてがん患者および家族が体験するUncertainty（不確かさ）とその対処、適応について、臨床実践での経験や文献から広く理解する。 3.Uncertainty（不確かさ）理論の臨床実践での活用についてディスカッションする。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん患者・家族へのケアリング 看護実践への理論の活用		
	授業内容	1.メイヤロフのケアリングの概念、あるいはワトソンのケアリング理論について、各自が事前に学習したことを、プレゼンテーションすることを通して、理論について理解する。 2.がん患者・家族へのがん看護におけるケアリングについて、臨床実践での体験を振り返り、プレゼンテーションを通して、広く理解する。 3.さらに、がん看護領域における臨床実践への活用についてディスカッションを通して、理論の理解を深める。とくに、がん看護の専門性の高い看護実践により、ケアリングの実践をすることでケアの質がどのように変化する可能性があるのかをディスカッションし、理論活用の可能性や実践でのケアの質について、知見を広げる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	理論、モデルを活用した文献検討およびディスカッション、まとめ		
	授業内容			

1.全15回の講義をとおしての学びをレポートとして提出する。
2.提出されたレポート内容をもとに、がん患者とその家族が抱える複雑な健康課題を理解する基盤となる概念、諸理論、がんと共に生きる患者と家族をエンパワーする高度実践看護師としての役割についてディスカッションする。
3.学習成果への教員からのフィードバックをもとに、さらに自らの看護実践の課題を見出し、学習を深める。

評価方法	・プレゼンテーション内容（60%）、討議への参加度（40%）から総合的に評価する。
参考書	1.筒井真優美（2025）：看護理論家の業績と理論評価　第3版 2.佐藤栄子（2009）：中範囲理論入門、日総研 3.黒田裕子（2018）：看護診断のためのよくわかる中範囲理論、第2版、学研 4.メイヤロフ（1993）：ケアの本質、ゆみる出版 5.ラザルスとフォークマン（2007）ストレスの心理学、実務教育出版 6.ドナＣ、アギュララ（2004）：危機介入の理論と実際、川島書店 7.ドロセア・Ｅ・オレム（2005）：オレム看護論，看護実践における基本概念，医学書院 8.ワトソン（2012）：ワトソンの看護論，医学書院 9.Bandura, Albert（1997）：Self-Efficacy-The Exercise of Control, Worth. 10.Bandura, Albert（2008）：Self-Efficacy-in Changing Societies, Cambridge. その他、講義の中で学習する各理論について文献を探索し、各自が活用していく。
連絡先/オフィスアワー	金曜日12：00～12：30 事前にメールでアポイントメントをとること 櫻庭 奈美<sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	各自予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	がん看護学特論Ⅳ（がん看護に関わる看護援助論）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・矢吹　みどり・小野寺　恵子
科目の目標	がん看護高度実践看護師として、患者と家族の実践的な看護援助方法を学ぶ。とくにがん診断期から終末期に至る様々な健康課題を抱えるがん患者と家族に対するグリーフケアを含めた包括的な看護支援ができるよう看護援助の実践を踏まえた具体的な方法論について学ぶ。それによって自らの看護援助の方法についてこれまでの経験を分析し、今後必要になる専門看護師としての実践活動に有用な資源開発と資源の活用を含めた高度実践看護師としての実践能力を習得する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	日本におけるがん政策： 地域連携を含めたキュアとケアを結ぶケア体系と実践		
	授業内容	1.がん対策基本法の成立と施行、がん医療の重点施策、がん診療拠点病院等の政策について 事前に、各自が学習したことを、プレゼンテーションすることにより理解する。 2.自身の所属する地域のがんに関連した疫学データ、自施設の地域リソース、環境についてまとめ、プレゼンテーションすることにより、がん患者をとりまく状況を理解する。 3. 上記の2つのプレゼンテーション内容を踏まえ、地域で療養するがん患者とその家族に必要な医療システム、看護システムについて、ディスカッションを通して理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭・小野寺		

テーマ	高度看護実践における包括的な支援： チームビルディングとチームアプローチ			
授業内容	1. チームビルディングとチームアプローチについて、事前に、各自が学習したことをプレゼンテーションすることにより理解する。 2. 1の内容についてディスカッションを通して、知見を深める。			
4	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭・小野寺		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん患者や家族への情報の提供1： ヘルスリテラシー 告知、治療や療養にかかわる意思決定と支援		
	授業内容	1. ヘルスリテラシーについて、事前に、各自が学習したことを、プレゼンテーションすることにより理解する。 2. 告知、治療や療養にかかわる意思決定と支援について、事前に、各自が学習したことを、プレゼンテーションにより理解する。 3. 1, 2についてディスカッションを通して、知見を深める。		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	矢吹		
	テーマ	がん患者や家族への情報の提供2： Advance Care Planningと倫理的課題への支援		
	授業内容	1. Advance Care Planningと倫理的課題への支援について、事前に、各自が学習したことを、プレゼンテーションにより、理解する。 2. 1について、これまでの臨床での経験を踏まえてディスカッションすることを通して知見を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	矢吹		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	矢吹		
	テーマ	AYA世代にあるがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法		
	授業内容	1. これまで経験したAYA世代にあるがん患者と家族の事例を、事前にまとめ、学生が互いに紹介しあう。 2. がん看護専門看護師の高度な看護支援について実事例を踏まえた講義によって、理解を深める。 3. これからのAYA世代にあるがん患者と家族への支援をディスカッションすることを通して、具体的な方略を見出す。		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	就労とがん治療に対する専門的な看護援助方法		
	授業内容			

	1. がん患者への企業の対策について、2つの企業をピックアップし、各自が資料にまとめ、プレゼンテーションする。 2. 提示された事例のがん治療にかかる費用と期間について調べ、資料にまとめ、プレゼンテーションする。 3. 1.2、をもとにこれまでの臨床での経験を踏まえてがん患者の就労支援に対し、専門看護師が担う役割についてディスカッションし、互いに知見を深める。			
11	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	高齢者のがん患者と家族に対する専門的な看護援助方法		
	授業内容	1. 高齢者施設に入所しているがん患者の療養上の問題点、施設職員の抱えている課題を文献もしくは実地踏査、もしくはインタビューによって整理し、資料にまとめる。 2. 1であげた問題点、課題を解決するための方略をプレゼンテーションし、内容についてディスカッションすることにより、知見を深める。		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭・矢吹		
	テーマ	グリーフケアに用いられる専門的な看護援助方法		
	授業内容	1. 様々な場で行われてるグリーフケアを各自が事前に調べて紹介しあい、国内外の文献を用いてケアとしての実行可能性、適応についてプレゼンテーションする。 2. 1をもとにディスカッションを通して、知見を深める。		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭・矢吹		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

評価方法	プレゼンテーション内容（50%）・討議への参加度（30%）と各段階で求める課題レポート（20%）から総合的に評価を行う。
参考書	1.日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会監修（2019）：国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門，診断と治療社. 2.能登洋著（2011）：日常診療にすぐに使える臨床統計学 改訂版，羊土社 3.中根晴幸著（2016）：次代を担う医療者のための地域医療実践読本，幻冬舎メディアコンサルティング. 4.Mary Fran Tracy, Eileen O'Grady（2018）：:Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing, 6th Edition,Saunders. 5.Ann B. Hamric ,Charlen M.Hanson, et al.，中村美鈴、江川幸ニ監訳（2017）：高度実践看護 統合的アプローチ，へるす出版. 6.Schein, E. H.，稲葉元吉，尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くこと，白桃書房. 7.Underwood, P. R.（1995）：コンサルテーションの概要ーコンサルタントの立場から，インターナショナルナーシングレビュー，18（5），p.4-12. 8.E-learning〈臨床腫瘍概論・項目1 がん対策基本法 講義番号 共通〉 9.E-learning〈医療ケアとチーム医療・項目2・がんと看護 講義番号 共通〉 10.E-learning〈専門科目 外科腫瘍学 項目4 チーム医療と集学的治療〉 11.E-learning〈共通科目 ライフステージに応じたがん医療 項目3 ライフステージにおける高齢者がん医療ー機能・合併症の特徴と評価 講義番号 共通10-3〉 その他、関連する論文を中心に各担当者から提示する。

連絡先/オフィスアワー	金曜日12：00～12：30 事前にメールでアポイントメントをとること 櫻庭 奈美〈sakuraba@saitama-med.ac.jp〉
履修上の注意、履修要件	・各自予習・復習を主体的に行うこと ・学修を深めるために、参考文献に指定されたE-learningを授業前に受講することを推奨する。

講義名	がん看護学演習Ⅰ（緩和ケア1）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	60.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・大賀　淳子・安藤　由美子・小島　真奈美
科目の目標	がん患者、および家族の苦痛・苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を高める。この演習では、高度看護実践を考察しながら、がんの診断から治療期に体験する全人的な苦痛に焦点をあて、高度実践看護師としてがん患者とその家族に緩和ケアを提供するためのアセスメント能力と看護判断力を培う。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	安藤・櫻庭		
	テーマ	緩和ケアの歴史と現状、専門看護師活動の特徴		
	授業内容	1.緩和ケアの歴史と現状について参考書1.2と共に指示された資料を読み、事前学習し、概説する。 2.専門看護師の活動として、実践、コンサルテーション、倫理調整、調整、教育、研究について特徴や機能について、参考書3.4を読み、説明する。 3.役割発揮に影響する要素について各自が事前にまとめ、プレゼンテーションおよびディスカッションを通して討議する。 4.前述した内容を通して「高度な実践」とは何かを各自が考察し、レポートを作成する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	安藤・櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	全人的な苦痛に関する概念		
	授業内容			

1.全人的な観点からがん患者を理解するために、概念もしくは理論を一つ選択し、特徴と看護実践への適用、限界について各自が事前に学習し、プレゼンテーションする。
2.これまでの実践事例に基づき、全人的な苦痛のある事例をあげ、トータルペインの視点で事例のアセスメントを行い、理論や概念の有用性（と限界）、他理論・モデルの適用可能性を説明する。

4	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	全人的な苦痛に対する理論の適応1		
	授業内容	1.がん診断期にある患者の事例について、各自がこれまで関わった事例から1例を選定し、トータルペインの視点を用いて全人的に患者の苦痛をアセスメントし、さらに、高度実践看護師として介入の目的、役割を明確にしたうえで既習の理論を活用し、介入と評価方法について各自が事前に学習し、プレゼンテーションする。 2.作成した看護計画、役割記録（実習要項　別紙5）についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての基本的なケアの展開方法について討議する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	全人的な苦痛に対する理論の適応2		
	授業内容	1.治療選択における患者の事例について、各自がこれまで関わった事例から1例を選定し、トータルペインの視点を用いて全人的に患者の苦痛をアセスメントし、高度実践看護師として介入の目的、役割を明確にしたうえで既習の理論を活用し、介入と評価方法について、各自が事前に学習し、プレゼンテーションする。 2.作成した看護計画、役割記録を説明し、討議内容を踏まえて修正し、自己評価する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		

テーマ	全人的な苦痛に対する理論の適応3 集学的治療中の患者・家族の全人的な苦痛とその援助1			
授業内容	1.集学的治療（手術、薬物、放射線）の中から事例を1例選択し、トータルペインの視点を用いて全人的に患者の苦痛をアセスメントした内容を説明する。 2.1.で選択した事例それぞれについて、高度実践看護師として介入の目的、役割を明確にしたうえで既習の理論を活用し、介入と評価方法を発表する。 3.作成した看護計画、役割記録を説明し、討議内容を踏まえて修正し、自己評価する。			
12	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	全人的な苦痛に対する理論の適応4 集学的治療中の患者・家族の全人的な苦痛とその援助2		
	授業内容	1.上記11-13で取り上げた治療以外の集学的治療（手術、薬物、放射線の中から）中の患者の事例について、トータルペインの視点を用いて全人的に患者の苦痛をアセスメントし、高度実践看護師として介入する目的、役割を明確にしたうえで既習の理論を活用し、介入と評価方法を発表する。 2.作成した看護計画、役割記録を説明し、討議内容を踏まえて修正し、自己評価する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 8年08月25日(火)	時限	3限
	講義室	実習室1		
	担当者	大賀		
	テーマ	リエゾン看護師による心理的支援： 認知行動療法、リラクセーション、自律訓練法		
	授業内容	1.認知行動療法の適応、概要、方法、有用性について文献を用いて資料にまとめ、説明する。 2.「行動活性化」「認知再更生法」「問題解決技法」について体験し、具体的な進め方を留意点について考察する。 3.リラクセーションの意義、目的、各技法について、ディスカッションを通して考察する。 4.学習者同士で呼吸法、自律訓練法のロールプレイを行い、ロールプレイによって気づいた患者・家族の視点、施術時の留意事項を3つ以上列挙できる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年08月25日(火)	時限	4限
	講義室	実習室1		
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

19	年月日(曜日)	令和 8年08月25日(火)	時限	5限
	講義室	実習室1		
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭・大賀		
	テーマ	がん患者・家族の心理症状に合わせた理論の適応： アギュララ、カプランの危機理論、ラザルスのストレス・コーピング理論、ストレングスモデル、エンパワメント理論		
	授業内容	1.危機的状況・ストレス状況の理解に関する理論、ストレングスモデル、エンパワメント理論について、固有の概念、理論の特徴と限界について資料を作成し、説明する。 2.これまでの実践事例に基づき、その時の患者の心理に焦点をあて、いずれかの理論を用いて看護計画を立案し、ディスカッションを通して、理論の有用性と限界を3つ以上列挙できる。		
21	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭・大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月26日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月26日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年10月24日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、小島		
	テーマ	がん相談支援の実際と面接技術 がん相談支援センターの実際		
	授業内容	1.自身が所属する地域にあるがん相談支援センターの概要について資料にまとめ、説明する。 2.相談援助における面接の意義、マイクロ技法の階層表について各自資料を作成し、説明する。 3.がん相談支援に必要な面接技術と留意点について、自己の現状を評価する。		
25	年月日(曜日)	令和 8年10月24日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、小島		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、小島		
	テーマ	がん患者・家族の自助、互助と共助： セルフヘルプグループと患者会・家族会の企画、運用		
	授業内容			

	1.ソーシャルサポートの概念、種類、内容、倫理的な問題にかかわる点について、自己学習し、全国で行われているソーシャルサポートを一つ取り上げ、レポートにまとめ、説明する。 2.セルフヘルプグループの概念、種類、内容、倫理的な問題にかかわる点についてプレゼンテーションする。 3.プレゼンテーションをもとに患者擁護の視点から、がん患者・家族のセルフヘルプグループの在り方、活用について討議する。			
27	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、小島		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん看護領域に関連する諸理論を用いた緩和ケアに関する困難事例分析ー既習の理論の実践、研究への適用とまとめ		
	授業内容	1.過去に経験した緩和ケアに関する困難事例をプレゼンテーションし、事例検討するための方略を説明する。 2.がん看護専門看護師審査様式を使用し、エビデンスに基づき、系統的かつ包括的なアセスメントを実施し、説明する。 3.事例の分析や看護介入モデルの展開を通して、緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を5つ説明する。		
29	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

評価方法	・プレゼンテーション内容（50%）、討議への参加度（30%）、レポート（20%）から総合的に評価する。
参考書	1.大西和子，飯野京子，平松玉江編集（2018）：がん看護学，ヌーヴェルヒロカワ，東京. 2.井部俊子，大生定義監修（2015）：専門看護師の臨床推論研究会編集：専門看護師の思考と実践，医学書院，東京. 3.菱沼典子，小松浩子（2007）：Evidence-Based Nursing　看護実践の根拠を問う（第2版），南江堂，東京. 4.シオバン ネルソン，スザンヌ ゴードン，阿部里美 翻訳，井部 俊子 監修，監修（2007）：ケアの複雑性―看護を再考する，エルゼビア・ジャパン，東京. 5.R.Twycross & Wilcock 武田文和監訳（2010）：がん患者の症状マネジメント．第2版，医学書院 6.長谷川久巳（2004）：看護コンサルテーションにおける「看護師 - 看護師関係」；Nursing Today，19（4），46-49. 7.吉田智美（1995）：オンコロジー分野のコンサルテーション，インターナショナルナーシングレビュー，18（5），19-22. 8.小早川 晶（2012）：緩和ケア・コンサルテーション，南江堂，東京. 9.E.H. シャイン，エドガー・H・シャイン 著，稲葉 元吉 ，尾川 丈一 訳（2012）：プロセス・コンサルテーション―援助関係を築くこと，白桃書房，東京. 10.五十嵐透子（2001）：リラクゼーション法の理論と実際-ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門，医歯薬出版，東京. 11.大野裕（2010）：認知療法・認知行動療法・治療者用マニュアルガイド，星和書店，東京. 12.岩間伸之(2008)：『対人援助のための相談面接技術―逐語で学ぶ21の技法』，中央法規出版，東京. 13.ソーシャルワーク演習研究会編集（2018）：すぐに使える! 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習，ミネルヴァ書房，東京. 14.小島通代，吉本武史（1999）：ナースだからできる５分間カウンセリング～看護現場で役立つ心理的ケアの理論と実際，医学書院，東京. 15.David Spiegel，Catherine Classen著，朝倉 隆司ほか訳(2003)：がん患者と家族のためのサポートグループ，医学書院，東京. 16.浦光博著(1992)：支えあう人と人―ソーシャル・サポートの社会心理学，サイエンス社，東京. 17.E-learning〈臨床腫瘍概論・項目4・がん緩和概論　講義番号　共通〉 18.E-learning〈緩和医療論　項目20　疾患および症状の管理〉 19.E-learning〈緩和医療論　項目2　症状緩和　共通〉

	20.E-learning〈共通科目5　項目1　診断と治療に伴う感情の相克と受容および力づけるプロセス〉 21.E-learning〈埼玉医科大学　H27年度がん緩和ケア多職種養成コース①～⑤-2〉
連絡先/オフィスアワー	火曜日12時～13時 事前にメールでアポイントメントをとること。 櫻庭 奈美〈sakuraba@saitama-med.ac.jp〉
履修上の注意、履修要件	・主体的な事前学習を終えたうえで演習に臨むこと ・学修を深めるために、参考文献に指定されたE-learningを授業前に受講することを推奨する。

講義名	がん看護学演習Ⅱ（緩和ケア2）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	60.00
代表曜日	土曜日	代表時限	5限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・高橋　孝郎・大西　秀樹・儀賀　理暁・石田　真弓・高倉　保幸・小内　愛・井畑　真太朗
科目の目標	がん患者、および家族の苦痛・苦悩に対し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を高めるために、がん患者のend of life期にがん患者と家族が体験する苦痛に焦点をあて、治療や病状に伴う主症状に対する薬物療法以外の理学療法的介入、心理的な支援なども含めた包括的な介入が実践できる能力を培う。
学習の具体的な目標	1.エビデンスに基づいたキュアとケアの統合のために必要な能力を説明することができる。 2.がん患者の苦痛の在り方とその意味を探究するための知識を活用し、考察することができる。 3.がん患者が体験する主症状に対する薬物療法と非薬物療法をプレゼンテーションできる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	がん患者と家族に対する支持医療の概観 高齢がん患者へのがん医療におけるアセスメント		
	授業内容	1.支持医療の変遷と現状について概説できる。 2.「支持医療を受けている患者の実事例」についてプレゼンテーションできる。 3.早期からの緩和ケア・支持医療の重要性について検討できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	高橋、櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	1.高齢がん患者の現状について理解する。 2.高齢がん患者を取り巻く課題について3つ以上列挙できる。 3.高齢がん患者における意思決定支援について検討できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	5限
	講義室	C201		

担当者	高橋
テーマ	がん疼痛のメカニズム、がん疼痛薬物治療の実際
授業内容	1.がん疼痛のメカニズムについて講義を通して説明できる。 2.がん疼痛薬物治療に用いられる薬剤とその効果、評価について説明できる。 3.がん疼痛薬物治療を受けていた患者の実事例を示し、課題についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して治療を評価できる。 4.がん患者の倦怠感とがん悪液質について説明できる。 5.倦怠感に用いられる薬剤とその効果、評価について講義を通して理解する。 6.倦怠感に用いられる非薬理学的介入についてエビデンスレベルの高い文献を検索し、概説できる。 7.6で選択した文献をクリティークし、倦怠感への新たなアプローチを探究するためにディスカッションを通して理解を深める。

4	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	倦怠感とがん悪液質のメカニズムと治療、看護		
	授業内容	1.がん患者の悪液質と倦怠感について説明できる。 2.がん患者の悪液質と倦怠感に用いられる薬剤とその効果、評価に説明できる。 3.がん患者の悪液質・倦怠感に用いられる非薬理学的介入についてエビデンスレベルの高い文献を選択し、概説できる。 4.3で選択した文献をクリティークし、がん悪液質への新たなアプローチを探究するためにディスカッションを通して理解を深める。		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	〃		
	授業内容	1.がん患者の悪液質と倦怠感について説明できる。 2.がん患者の悪液質と倦怠感に用いられる薬剤とその効果、評価に説明できる。 3.がん患者の悪液質・倦怠感に用いられる非薬理学的介入についてエビデンスレベルの高い文献を選択し、概説できる。 4.3で選択した文献をクリティークし、がん悪液質への新たなアプローチを探究するためにディスカッションを通して理解を深める。		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	嘔気・嘔吐のメカニズムと治療、看護		
	授業内容	1.がん患者の嘔気・嘔吐（薬剤性・器質性）について説明できる。 2.がん患者の嘔気・嘔吐（薬剤性・器質性）に用いられる薬剤とその効果、評価について説明できる。 3.がん患者の嘔気・嘔吐（薬剤性・器質性）に用いられる非薬理学的介入についてエビデンスレベルの高い文献を選択し、概説できる。 4.3で選択した文献をクリティークし、嘔気・嘔吐への新たなアプローチを探究するためにディスカッションを通して理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	高橋		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	大西		
	テーマ	サイコオンコロジー概論：歴史と定義 せん妄の患者・家族のアセスメントとケア		

授業内容	1.E-learning〈共通科目　精神・社会腫瘍学と患者教育　精神腫瘍学①と③〉による事前学習を行い、 E-learning小テストを授業前に実施し、自己の理解度を確認する。 2.うつ症状、せん妄の患者・家族のアセスメントと治療を説明できる。			
10	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	大西		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	大西		
	テーマ	鎮静とその適応、倫理的側面：		
	授業内容	1.E-learning〈緩和医療論　項目5　緩和困難な症状への対応〉による事前学習をし、基本的知識を理解する。 2.鎮静が検討された実事例を一つ紹介し、医療者の意図、患者・家族の医師、相応性、安全性について紹介し、ディスカッションする。 3.鎮静時の家族へのケアについて倫理的課題を特定し、アプローチについて考察できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	大西		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	儀賀		
	テーマ	がん患者と家族に対する非薬理学的介入の概観		
	授業内容	1.これまでの経験から非薬理学的介入をした患者の実事例についてプレゼンテーションできる。 2.非薬理学的介入に関する理論、モデルのプレゼンテーションができる。 3.理論及びモデルの事例への適応について講義を通して理解し、ディスカッションにより適応とその限界について検討できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	高倉		
	テーマ	がん患者に対する理学療法的介入： 理学療法的介入の実際 理学的介入研究の文献クリティーク		
	授業内容	1.がん患者に対する理学的介入研究の文献をクリティークしたものを概説する。 2.がん患者に対するリハビリテーションの実際について説明できる。 3.学生同士でがん患者に対するリハビリテーションを実施し、注意点、実施上の工夫について討議する。		
17	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	6限
	講義室	C201		

担当者	高倉			
テーマ	がん患者に対する理学療法的介入： 理学療法的介入の実際 理学的介入研究の文献クリティーク			
授業内容	1.がん患者に対する理学的介入研究の文献をクリティークしたものを概説する。 2.がん患者に対するリハビリテーションの実際について説明できる。 3.学生同士でがん患者に対するリハビリテーションを実施し、注意点、実施上の工夫について討議する。			
18	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	高倉		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	高倉		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	1限
	講義室	国際医療センター		
	担当者	石田		
	テーマ	がん患者遺族に対する集団精神療法：		
	授業内容	1.がん患者遺族における特徴的な心理的苦悩を学ぶことができる 2.がん患者遺族に対する集団精神療法の注意点や運営方法を学ぶことができる 3.がん患者遺族の心的外傷後成長を知ることができる		
21	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	2限
	講義室	国際医療センター		
	担当者	石田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	3限
	講義室	国際医療センター		
	担当者	石田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	3限
	講義室	埼玉医科大学病院　東洋医学科		
	担当者	山口、小内、井畑		
	テーマ	がん患者に対する鍼灸、手技療法 鍼灸、手技療法の作用機序、がん患者の苦痛緩和に対する有効性や有用性 がん患者に対する東洋医学研究の文献クリティーク		
	授業内容	1.がん患者に対する鍼灸の適応、概要、方法、有用性について説明することができる。 2.教員が治療者、学習者が患者役となり鍼灸の実際を体験し、実施時の留意点を説明できる。 3.東洋医学外来の見学を通して各技法の具体的な進め方について考察する。		
24	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	4限
	講義室	埼玉医科大学病院　東洋医学科		
	担当者	山口・小内・井畑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	5限
	講義室	埼玉医科大学病院　東洋医学科		

担当者	山口、小内、井畑			
テーマ	がん治療における東洋医学の取り組み、漢方の視点による緩和ケア			
授業内容	1.東洋医学（漢方薬）の適応、概要、方法、有用性について説明できる。 2.東洋医学によるがん患者の介入を検証した論文を一つ選択し、概説できる。 3.2.でクリティークした内容をもとに、ディスカッションを通してがん患者への適応と留意点を述べることができる。			
26	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	症状マネジメントモデルを用いた症状コントロール困難事例の検討と補完代替療法		
	授業内容	1.症状マネジメントモデルを用いて、過去に経験した疼痛緩和に関する困難事例についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して有用性について考察する。 2.補完代替療法について、適応、概要、方法、有用性についてプレゼンテーションを行い、補完代替療法を受ける患者のケアについて考察する。 3.事例の分析や看護介入モデルの展開を通して、症状マネジメントモデルの実施可能性について討議する。熟考した内容をまとめ、課題レポートを提出する。		
27	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	end of life期にある患者の困難事例分析・まとめ		
	授業内容	1.E-learning〈緩和医療論　項目25　終末期をめぐる倫理的諸問題〉および〈共通科目5　項目3終末期ケアに関する諸問題〉による事前学習をもとに、「end of life期にある患者の困難事例」をプレゼンテーションする。 2.作成した資料にもとづきプレゼンテーションを行い、困難となった原因・要因の分析、解決までの方略とそれに必要な調整、事例に潜む倫理的問題について、討議する。 3.ディスカッションで得た知見を深め、課題レポートを提出する。		
30	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

評価方法	・プレゼンテーション内容（50%）、討議への参加度（30%）、レポート（20%）から総合的に評価する。
教科書	1.緩和医療学会編（2019）：緩和医療学，南江堂，東京.
参考書	1.WHO，武田文和訳（2015）：がんの痛みからの解放　ーWHO方式がん疼痛治療法ー，金原出版，東京. 2.特定非営利活動法人　日本緩和医療学会　緩和医療ガイドライン委員会（2020）：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン，金原出版株式会社，東京. 3.R.Twycross & Wilcock 武田文和監訳（2010）：がん患者の症状マネジメント．第2版，医学書院 4.特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 「緩和医療ガイドライン作成委員会 補完代替医療ガイドライン作業部会」（2008）：がん補完代替医療 ガイドライン第1版，特定非営利活動法人 日本緩和医療学会，東京. 5.堀内哲嗣郎（2006）：におい　かおり〈実践的な知識と技術〉，フレグランスジャーナル. 6.アロマリサーチ（2017）：研究機関における香り・におい研究のいま，フレグランスジャーナル. 7.千野直一監修、椿原彰夫、才藤栄一、出江紳一、道免和久編集(2017)：現代リハビリテーション医学　第4版　第7章，金原出版株式会社，東京. 8.城ケ端初子編著（2018）：実践に活かす看護理論 19，第 2 版，サイオ出版，東京. 9.Dodd M et al（2001）：Advancing the science of symptom management. Journal of Advanced Nursing, 33(5), 668-676. 10.E-learning〈精神・社会腫瘍学と患者教育　精神腫瘍学（2）講義番号 共通5-2　CH2〉

	11.E-learning〈共通科目　ライフステージに応じたがん医療　項目6　ライフステージにおける終末期医療　講義番号　共通10-6〉 12.E-learning〈緩和医療論　項目25　終末期をめぐる倫理的諸問題〉および〈共通科目5　項目3終末期ケアに関する諸問題〉 13.E-learning〈共通科目5　項目3終末期ケアに関する諸問題〉
連絡先/オフィスアワー	金曜日の12時から13時 事前にメールでアポイントメントをとること。 櫻庭 奈美〈sakuraba@saitama-med.ac.jp〉
履修上の注意、履修要件	・がん看護学特論Ⅰ～Ⅲを履修していること ・主体的な事前学習を終えたうえで演習に臨むこと ・指定されたE-learningを授業前に受講し、それぞれの授業内容を確実に学習していくこと

講義名	がん看護学演習Ⅲ（がん薬物療法看護1）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・中村　泰大・今井　久雄・志田　裕子・髙山　俊輔・玉木　秀子・新山　和也
科目の目標	がん薬物療法が治療計画に沿って安全に遂行できるような看護支援につながる最新のがん薬物療法、がん薬物療法に関する臨床推論、病態判断のエビデンスを学修する。それにより、がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処が可能になる臨床判断力を習得する。さらに、がん薬物療法中の患者と家族の心身の変化を的確に捉え、治療によって変化しうる生活の質を高めるための看護実践能力を培う。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	3限
	講義室	国際医療センター		
	担当者	新山		
	テーマ	オンコロジーエマージェンシーとその対応： 上大静脈症候群、がん性心膜炎、喀血、IRR（Infusion related reaction）、アナフィラキシーショックなど		
	授業内容	1.治療前、治療中、治療後、終末期にある患者・家族の実事例をもとに、オンコロジーエマージェンシーと実際のケア、臨床で起きた問題、場面に隠された課題について説明できる。 2.治療前、治療中、治療後、終末期にある患者・家族の実事例をもとに、オンコロジーエマージェンシーの実事例を一つ選択し、実際のケア、臨床で起きた問題、場面に隠された課題について資料にまとめ、プレゼンテーションを行う。 3.2について、ディスカッションを通して、オンコロジーエマージェンシーにある患者・家族への高度看護実践の具体を列挙できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	4限
	講義室	国際医療センター		
	担当者	新山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	今井		

テーマ	がん薬物療法総論： がん薬物療法の種類と特徴、薬物動態、薬理作用、がん薬物療法の目的や流れ			
授業内容	1.抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、支持療法薬の薬剤のDDS（Drug Delivery System）、投与管理、副作用管理について講義を通して説明できる。 2.薬物動態（PK/PD）、TDM（therapeutic drug monitoring）について講義を通して説明できる。 3.がん薬物療法の目的・適応基準・治療効果判定について講義を通して説明できる。			
4	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	髙山、櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法時の患者への説明		
	授業内容	1.医療コーチングについて理解できる。 2.服薬アドヒアランスに関わる因子を3つ以上説明できる。 3.事例を医療安全の視点から検討し、課題を抽出することができる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法に携わる看護師の困難とその要因		
	授業内容	1.困難とは何か、周辺概念との関係を概説できる。 2.看護師が体験する困難とその要因に関する事例と考察をプレゼンテーションする。		
6	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	がん薬物療法総論： がん薬物療法の種類と特徴、薬物動態、薬理作用、がん薬物療法の目的や流れ		
	授業内容	〃		
8	年月日(曜日)	令和 9年01月08日(金)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法における看護研究の概観		
	授業内容	1.がん薬物療法における看護研究論文を2本クリティークし、プレゼンテーションを行う。 2.がん薬物療法における看護研究の課題についてレポートする。 3.看護研究と看護実践の解離と統合についてディスカッションする。		
9	年月日(曜日)	令和 9年01月08日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月08日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	中村・櫻庭		
	テーマ	有害事象：皮膚障害のメカニズムと病態判断		
	授業内容	1.脱毛・手足症候群などについて講義を通して説明できる。 2.患者の皮膚障害に対して行われているケア、利用できるサービスについて文献、根拠をふくめてまとめて資料とし、プレゼンテーションする。 3.2のケア、サービスのメリット、デメリットを列挙する。		
11	年月日(曜日)	令和 9年01月08日(金)	時限	6限
	講義室	C201		

担当者	髙山・櫻庭			
テーマ	抗がん剤等に対するばく露防止策、実施時の注意			
授業内容	1.ハザーダス・ドラッグの安全な取り扱いに関する通則、規則を説明できる。 2.職業性曝露について説明できる。 2.ヒエラルキーコントロールについて説明できる。			
12	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	志田・櫻庭		
	テーマ	有害事象：粘膜炎のメカニズムと病態判断、口腔機能管理		
	授業内容	1.口内炎・味覚障害について講義を通して看護実践に必要な知識を説明することができる。 2.栄養管理、口腔環境へのケアについて自己の課題を述べることができる。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	がん薬物療法の治療計画（レジメン）： 名称、構成、がん薬物療法の継続と効果の判定、治験		
	授業内容	1.免疫チェックポイント阻害薬、VEGF阻害薬、EGFR チロシンキナーゼ阻害薬使用時の注意点（薬物相互作用を含む）と副作用マネジメントについて講義を通して説明できる。 2.治療計画（レジメン）の治療目的、投与方法、投与経路、投与量について講義を通して説明できる。 3.薬物の容量制限毒性、最大耐容量、累積投与量について講義を通して説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	髙山		
	テーマ	がん治療患者への栄養管理と他職種連携		
	授業内容	1.がん治療患者の栄養管理について最新の知見をもとに自施設の課題を検討することができる。 2.がん治療患者の食欲不振の原因について概説できる。 3.味覚障害関連薬剤と副作用対策について説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	がん薬物療法施行時の有害事象1 有害事象の経時的な変化、有害事象に影響を与える要因、有害事象の早期発見と早期対処		
	授業内容	1.講義を通して免疫関連有害事象（irAE）のモニタリングについて、説明できる。 2.講義を通して骨髄抑制、心毒性、間質性肺障害について説明できる。		
17	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	髙山		
	テーマ	がん患者における疼痛へのアプローチ		
	授業内容	1.がん患者における疼痛管理を説明できる。 2.がん患者が発症するせん妄と疼痛の関係について説明できる。 3.疼痛管理におけるケミカルコーピングの実態とその対策について概説できる。		
19	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	1限

	講義室	C201		
	担当者	玉木		
	テーマ	がん薬物療法　状況別高度看護実践1（導入前）		
	授業内容	1.がん薬物療法を導入する前の患者・家族の実事例をもとに、資料を作成する。 2.がん薬物療法を開始する患者に必要なセルフケア支援方法についてプレゼンテーションを行う。 3.プレゼンテーション後にディスカッションを行い、がん薬物療法開始前に必要なアセスメントとセルフケア支援のポイントを考察する。		
20	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	玉木		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法　状況別高度看護実践2（初回導入時）		
	授業内容	1.がん薬物療法の初回導入時の患者・家族の実事例をもとに看護過程を展開し、資料を作成する。 2.がん薬物療法の初回導入時の患者・家族に必要なセルフケア支援方法についてプレゼンテーションを行う。 3.プレゼンテーション後にディスカッションを行い、がん薬物療法の初回導入時の患者・家族に必要なアセスメントとセルフケア支援のポイントを考察する。		
22	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年02月25日(木)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	がん薬物療法施行時の有害事象2 臨床推論（病態の進行と有害事象）の実際		
	授業内容	1.講義を通して骨髄抑制、心毒性、間質性肺障害について説明できる。 2.医師の臨床推論にそった看護計画を立案することができる。		
24	年月日(曜日)	令和 9年02月25日(木)	時限	5限
	講義室	C201		
	担当者	今井		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 9年02月27日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法　状況別高度実践看護3（がん薬物療法中）		
	授業内容	1.がん薬物療法中の患者・家族の実事例をもとに看護過程を展開し、資料を作成する。 2.がん薬物療法中の患者・家族に必要なセルフケア支援方法についてプレゼンテーションを行う。 3.プレゼンテーション後にディスカッションを行い、がん薬物療法中の患者・家族に必要なアセスメントとセルフケア支援のポイントを考察する。		
26	年月日(曜日)	令和 9年02月27日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法　状況別高度看護実践4（レジメン変更、治療目的変更時）		
	授業内容			

1.がん薬物療法の治療目的が変更となった患者・家族の実事例をもとに看護過程を展開し、資料を作成する。
2.がん薬物療法の治療目的が変更となった患者・家族に必要なセルフケア支援方法についてプレゼンテーションを行う。
3.プレゼンテーション後にディスカッションを行い、がん薬物療法の治療目的が変更となった患者・家族に必要なアセスメントとセルフケア支援のポイントを考察する。

27	年月日(曜日)	令和 9年02月27日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法　状況別高度看護実践5（治験、臨床試験）		
	授業内容	1.治験、臨床試験に参加する患者もしくは、参加を検討している段階の患者・家族の事例をもとに看護過程を展開し、資料を作成する。 2.治験、臨床試験に参加する患者・家族もしくは、参加を検討している段階の患者・家族に必要なセルフケア支援方法についてプレゼンテーションを行う。 3.プレゼンテーション後にディスカッションを行い、治験、臨床試験に参加する患者・家族もしくは、参加を検討している段階の患者に必要なアセスメントとセルフケア支援のポイントについて理解を深める。		
28	年月日(曜日)	令和 9年02月27日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 9年03月13日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者 テーマ	櫻庭 がん薬物療法に関する困難事例の分析		
	授業内容	1.臨床で遭遇する困難な場面と場面の分析を、これまでのがん薬物療法を受けていた実事例から一つ選択し、紹介する。 2.1.の個別の事例検討から政策・施設における課題についてディスカッションにより検討する。 3.1.の事例について、困難解決に向けた戦略をレポートにまとめる。		
30	年月日(曜日)	令和 9年03月13日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者 テーマ	櫻庭 〃		
	授業内容	〃		

評価方法	プレゼンテーション内容（50%）、討議への参加度（30%）と課題レポート（20%）から総合的に評価する。
参考書	1.日本臨床薬理学会編（2017）：臨床薬理学第4版，医学書院，東京. 2.渡邉裕司監訳（2015）：ハーバード大学講義テキスト臨床薬理学　原書3版，丸善出版，東京. 3.日本がん看護学会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会（2015）：がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン 2019年版. 4.石井範子編（2013）：看護師のための抗がん薬取り扱いマニュアルー：曝露を防ぐ基本技術 第2版，ゆう書房，東京. 5.清水哲郎（2021）：臨床倫理プロジェクト　パート1臨床倫理の基礎3意思決定のプロセス http://clinicalethics.ne.jp/cleth-prj/cleth_online/part1-3/now.html 他、各担当者から適宜、提示する。
連絡先/オフィスアワー	金曜日12時～13時 事前にメールでアポイントメントをとること 櫻庭 奈美 <sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	授業の前後は、各自予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	がん看護学演習Ⅳ（がん薬物療法看護2）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	60.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	2年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美・玉木　秀子・村上　由美子
科目の目標	がん薬物療法を受ける場は、多様化し、シームレスな看護支援が必要とされている。本演習では、がん薬物療法を受ける患者の継続した多角的な支援を具体的に検討できることを目指す。そのために、がん薬物療法をうける患者とその家族が、どのような療養の場においても、治療経過に沿って、セルフケア能力を高めていけるような高度看護実践能力を培い、専門看護師の役割を探究する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	自施設のがん薬物療法実施状況と課題		
	授業内容	1.自施設のがん薬物療法実施状況について資料をまとめ、プレゼンテーションする。 2.がん薬物療法における高度看護実践の質を示す指標を抽出し、プレゼンテーションする。 3.1.2.でプレゼンテーションした内容を踏まえ、がん薬物療法における高度実践看護師の役割についてディスカッションを通して、考察する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月29日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	玉木		
	テーマ	がん薬物療法における生活への影響1： セルフケア能力の判断とがん治療によって変化するセルフケアへの支援の検討		
	授業内容			

1.がん薬物療法における患者・家族の生活への影響について、既知の理論、モデルを理論的背景としたうえでプレゼンテーションする。
2.1.の内容を踏まえ、がん薬物療法における高度実践看護師の役割について、ディスカッションを通して、考察する。

4	年月日(曜日)	令和 8年04月29日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	玉木		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月06日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法における生活への影響2： その人が望む生活の維持・向上に向けた看護実践		
	授業内容	1.がん薬物療法を受けている患者・家族が望む生活の維持・向上とはどのようなことであるか、事前に関連文献を選択し、内容についてプレゼンテーションする。 2.1.の内容を踏まえ、ディスカッションし、生活の維持・向上に向けた高度看護実践を考察する（レポート）。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月06日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	服薬アドヒアランスの異なる対象（小児や高齢者などを含む）への教育： 成人教育理論、副作用対策とその指導		
	授業内容	1.服薬アドヒアランスのアセスメント方法とその内容について、プレゼンテーションを行い紹介する。 2.提示された事例（認知症高齢者、小児、AYA世代）について、既知の教育理論をもとに教育案を立案し、プレゼンテーションする。 3.2.の内容を踏まえ、教育内容、方法の妥当性、教育効果について考察する（レポート）。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、村上		
	テーマ	意思決定が必要な場面における患者・家族の心理と支援：治療開始、治療の選択、治療の継続、治療の中断		
	授業内容	1.治療開始、治療の選択、治療の継続、治療の中断における意思決定の場面を選択し、実事例を紹介する。 2.1.の事例場面における①患者・家族の心理、②起きているジレンマをすべて抽出し、言語化する、③抽出されたジレンマに対し、倫理的問題を、分析ツールを選択して、分析し、①②③についてプレゼンテーションする。 3.プレゼンテーションの内容を踏まえ、意思決定が必要な場面における患者・家族へのモデル行動について討議する。		

11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭、村上		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	玉木		
	テーマ	がん薬物療法 療養の場別高度看護実践1（在宅療養中）：高度実践看護師の看護実践		
	授業内容	1.在宅療養中のがん薬物療法を受けている患者・家族の実事例を選択し、潜在的・顕在的な看護上の課題、政策・システム上の課題を抽出し、課題解決への方略までをプレゼンテーションする。 2.看護上の課題、課題解決への方略についてディスカッションを行い、高度看護実践について考察する。		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	玉木		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法 療養の場別高度看護実践2（外来化学療法室）：高度実践看護師の看護実践		
	授業内容	1.外来化学療法室でがん薬物療法を受けている患者・家族の実事例を選択し、潜在的・顕在的な看護上の課題、政策・システム上の課題を抽出し、課題解決への方略までをプレゼンテーションする。 2.看護上の課題、政策・システム上の課題、それぞれの解決への方略についてディスカッションを行い、高度看護実践について考察する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法 療養の場別高度看護実践3（病棟入院中）：高度実践看護師の看護実践		
	授業内容	1.入院中のがん薬物療法を受けている患者・家族の実事例を選択し、潜在的・顕在的な看護上の課題、政策・システム上の課題を抽出し、課題解決への方略までをプレゼンテーションする。 2.看護上の課題、政策・システム上の課題、それぞれの解決への方略についてディスカッションを行い、高度看護実践について考察する。		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法 状況別高度看護実践4（高齢者施設入所中）：高度実践看護師の看護実践		
	授業内容			

1.高齢者施設に入所中のがん薬物療法を受けている患者・家族の実事例を選択し、潜在的・顕在的な看護上の課題、政策・システム上の課題を抽出し、課題解決への方略までをプレゼンテーションする。 2.看護上の課題、政策・システム上の課題、それぞれの解決への方略についてディスカッションを行い、高度看護実践について考察する。				
19	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法時に遭遇しやすい倫理的ジレンマ： 治療の選択や実施に関する考え方の相違、経済的負担と就労中の治療継続、Best supportive care移行時		
	授業内容	1.実事例をもとに倫理的ジレンマを感じた場面における①患者・家族の心理、②起きているジレンマをすべて抽出し、言語化する、③抽出されたジレンマに対し、倫理的問題を分析するツールを選択し、分析し、①②③についてプレゼンテーションする。 2.プレゼンテーションの内容を踏まえ、意思決定が必要な場面における患者・家族へのモデル行動について討議する。 3.これまで自身が行ってきた倫理的ジレンマへのアプローチを評価する。		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	6限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	7限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	患者・看護スタッフ教育案の立案と実施：		
	授業内容	1.がん薬物療法を受けている患者・家族の事例から、患者もしくは看護スタッフに対する副作用・有害事象に対する教育案を立案する。 2.教員を対象に、教育案を実施し、フィードバックを受け、教育案を修正する。		
25	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		

テーマ	〃			
授業内容	〃			
27	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	1限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	がん薬物療法に関する困難事例におけるがん看護専門看護師の6つの役割についての検討：		
	授業内容	1.臨床で遭遇する困難な場面と場面の分析を、これまでのがん薬物療法を受けていた実事例から一つ選択し、がん看護専門看護師の役割をどのタイミングで、どの役割を担うか提案しプレゼンテーションする。 2.1.の事例について、困難解決に向けた戦略をディスカッションし、場面分析に向けた自己の課題を述べる。		
28	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	2限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年09月26日(土)	時限	3限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年09月26日(土)	時限	4限
	講義室	C201		
	担当者	櫻庭		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

評価方法	・プレゼンテーション内容（40%）、討議への参加度（30%）と各段階で求める課題レポート（30%）から総合的に評価する。
参考書	1.Thompson, J. E., Thompson, H. O.（2004）：看護倫理のための意思決定 10 のステップ，ケイコ・イマイ・キシ，竹内博明，山本千沙子監訳，日本看護協会出版会. 2.杉谷藤子，川合政恵監修（2007）：「看護者の倫理綱領」で読み解くベッドサイドの看護倫理事例 30，日本看護協会出版会. 3.杉谷藤子・川合政恵監修、医療人権を考える会編集(2010)：「看護者の倫理綱領」で読み解くベッドサイドの看護倫理　事例30、日本看護協会出版会.
連絡先/オフィスアワー	金曜日12時～13時 事前にメールでアポイントメントをとること。 櫻庭 奈美 〈sakuraba@saitama-med.ac.jp〉
履修上の注意、履修要件	・講義だけでなく、授業時間内に討議、ディスカッションを行うため、テーマに関する事前・事後学習が必要となる。

講義名	がん看護学実習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1	時間	45.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	1単位/45時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美
科目の目標	がん看護専門看護師の活動に参加し、専門看護師の実践、相談、調整、倫理調整および教育的役割を担うための基礎的能力とその習得にむけた自己の課題を探究する。 1.がん看護専門看護師として焦点をあてる領域（サブスペシャリティ）を選択し、そのフィールドに出向き、患者の特性、求められる看護および看護システムについて理解できる。 2.がん看護専門看護師の指導のもと、患者および家族のおかれている状況や直面している課題を包括的にアセスメントし、看護計画を立案することができる。 3.がん看護専門看護師の指導のもと、コンサルテーションの事例に携わり、コンサルテーションのプロセスに着目し、臨床におけるコンサルテーションの意義について述べることができる。 4.がん看護専門看護師が行う調整の場に同席し、どのように多職種間の調整を図っているのか、その戦略を述べることができる。 5.がん看護専門看護師が行う教育活動に参加し、どのような集団へ、どのような方法で教育を行っているのか、内容と教育の技法を述べることができる。 6.倫理的問題について、専門看護師が行う看護師の倫理的葛藤への介入の場に同席し、その解決方法について自己の考えを述べることができる。 7.2から5の学びを通して、専門看護師による高度な看護の実践において、どのような専門知識と技術が、どのように活用されているかについて、考察することができる。 8.上記の学びを通して、自施設で役割を担う場合の具体的戦略を述べることができる。 9.実習における自己評価を行い、自己の課題を明確化できる。

授業計画表

1	授業内容 【実習内容】 詳細「がん看護学実習Ⅰ実習要項」参照 【実習日程】 1週間（5日間）　1限～4限 【実習場所と指導者】 実習場所１　埼玉医科大学　国際医療センター 指導者：玉木　秀子（がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、副看護部長） 矢吹　みどり（がん看護専門看護師、主任） 実習場所２　医療法人社団鴻愛会こうのす共生病院 指導者：安藤　由美子（がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師） ・各実習施設では、がん看護専門看護師を中心に指導体制を整え、教員と適宜協働して実習指導を行う。 ・実習生の勤務施設を考慮し、実習場所を選定する。

評価方法	実習の参加度・態度（20%）、課題の達成度(60%)、レポート（20%）を総合的に評価する。
教科書	1.石垣靖子・清水哲郎 編著, 臨床倫理ベーシックレッスン 身近な事例から倫理的問題を学ぶ, 日本看護協会出版会, 2012 他、実習状況に合わせ適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	櫻庭 奈美 <sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	日々の実習内容について各自、振り返りを行うこと。

講義名	がん看護学実習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	2単位/90時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美
科目の目標	がん患者と家族に対し、エビデンスに基づく臨床判断能力および包括的な実践力を基盤とした高度な直接ケアを実施する。さらに、がん看護専門看護師としての臨床的な実践能力を習得するための自己課題を明確にし、解決への具体策を示す。
学習の具体的な目標	1.がん薬物療法を受けているがん患者とその家族に対して既習の看護理論、診断や治療に関する専門的知識をエビデンスとし、包括的なアセスメントができる（1事例担当する）。 2.緩和ケアを受けているがん患者とその家族に対して既習の看護理論、診断や治療に関する専門的知識をエビデンスとし、包括的なアセスメントができる（1事例担当する）。 3.看護スタッフが対応困難と感じているがん患者や家族への看護について、問題構造の分析的な捉えができる。 4.患者について、個別的な看護援助を提供し、看護スタッフに示すことができる。 5.がんの症状や治療に伴う有害事象をもつがん患者に対して、病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床薬理学等から妥当性のある臨床判断を行い、適切な身体管理および個別的な看護援助を提供できる（2事例担当する）。 6.上記を通して実習における自己評価を行い、がん看護専門看護師の直接ケアに必要な能力とそれに向けた自己の課題を考察できる。

授業計画表

1	授業内容 【実習内容】 詳細　「がん看護学実習Ⅱ実習要項」参照 【実習日程】 2週間（約10日間）　1限～4限 【実習場所と指導者】 実習場所1　埼玉医科大学　国際医療センター 指導者：玉木秀子（がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、副看護部長） 矢吹みどり(がん看護専門看護師、主任) 実習場所２　埼玉県立がんセンター 指導者：森住美幸（がん看護専門看護師） 実習場所３　日本医科大学　武蔵小杉病院 指導者：小野寺恵子（がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、看護師長兼患者支援センター副センター長） ・各実習施設では、がん看護専門看護師を中心に指導体制を整え、教員と適宜協働して実習指導を行う。 ・実習生の勤務施設を考慮し上記のうち1つを選定する。

評価方法	実習の参加度・態度（20%）、課題の到達度（60%）とレポート（20%）から総合的に評価する。
教科書	1.井部俊子・大生定義監修（2015）専門看護師の臨床推論研究会編集：専門看護師の思考と実践，医学書院. 他、実習状況に合わせ適宜、提示する。
連絡先/オフィスアワー	櫻庭 奈美 <sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	がん看護学実習Ⅰを履修し、実習目標を達成していること。 各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	がん看護学実習Ⅲ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4	時間	180.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	4単位/180時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	2年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美
科目の目標	がん看護専門看護師に必要とされる実践、相談、調整、倫理調整および教育に関する基礎的能力を習得するため、がん診断期、治療期、療養期の患者に直接ケアを実施し、エビデンスに基づく臨床判断能力および包括的な実践力を基盤とした高度な実践を修得する。さらに、事例に起きている問題構造を分析的に捉え、地域と連携して支援することを通して、生活者として地域で療養するためのケアシステムを探究することができる。
学習の具体的な目標	1.がん診断期、治療期、療養期それぞれ1事例以上担当し、包括的アセスメントによる看護計画を展開できる（直接ケア）。 2.がん看護専門看護師の助言を受けながら既習の看護理論、診断や治療に関する専門的知識をエビデンスとし、包括的なアセスメント、妥当性のある臨床判断ができる（直接ケア）。 3.がん看護専門看護師の助言を受けながら適切な身体管理およびフィジカルアセスメントを行うことができる（直接ケア）。 4.がん看護専門看護師の指導のもと、コンサルテーションの事例に携わり、臨床におけるコンサルテーションの意義について述べることができる（相談）。 5.がん専門看護師が行う調整の場に同席し、どのように多職種間の調整を図っているのか、その方策を述べることができる（調整）。 6.倫理的問題について、専門看護師が行う看護師の倫理的葛藤への介入の場に同席し、倫理的課題の問題構造を分析し、その解決方法について自己の考えを述べることができる（倫理調整）。 7.看護スタッフもしくは医療チームへの教育的関わり方の方略を立て、他者に説明できる（がん看護専門看護師の許可があれば教育プログラムを企画し、実施できる）（教育）。 8.上記を通して実習における自己評価を行い、がん看護専門看護師の直接ケアに必要な能力とそれに向けた自己の課題を考察できる。

授業計画表

1	授業内容 【実習内容】 詳細「がん看護学実習Ⅲ実習要項」参照 【実習日程】 4週間（20日間）　1限～4限 【実習場所と指導者】 実習場所1　埼玉医科大学　国際医療センター 指導者：玉木秀子（がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、副看護部長） 矢吹みどり(がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師) 内田望（医師、支持医療科　診療部長、教授）、高橋孝郎(医師、緩和医療科客員教授) 実習場所２　埼玉県立がんセンター 指導者：森住美幸（がん看護専門看護師） 福山康恵（副院長兼看護部長） 影山幸雄（医師、病院長）

	実習場所３　日本医科大学　武蔵小杉病院 指導者：小野寺恵子（がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、看護師長 兼 患者支援センター副センター長） 福永ヒトミ（看護部長・副院長） 谷合 信彦（医師、病院長） ・各実習施設では、がん看護専門看護師ならびに緩和ケア認定看護師を中心に、がん治療にかかわる医師を含めて指導体制を整え　教員と適宜協働して実習指導を行う ・実習生の勤務施設を考慮し上記のうち1つを選定する。

評価方法	実習の参加度・態度（20%）、課題の到達度（60%）とレポート（20%）から総合的に評価する。
教科書	1.佐藤栄子（2009）：中範囲理論入門、日総研 2.ドナＣ、アギュララ（2004）：危機介入の理論と実際、川島書店 3.黒田裕子（2018）看護診断のためのよくわかる中範囲理論、第2版、学研 他、実習状況により適宜、提示する。
連絡先/オフィスアワー	櫻庭 奈美 <sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	がん看護学実習Ⅰ・Ⅱを履修し、実習目標を達成していること。 実習の日々の振り返りを主体的に行うこと。

講義名	がん看護学実習Ⅳ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3	時間	135.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	3単位/135時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	2年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭　奈美
科目の目標	緩和ケアを受けているend of life 期にあるがん患者と家族が抱える問題構造を俯瞰的に捉え、エビデンスに基づく臨床判断能力および包括的な実践力を基盤とした高度な実践を展開する。さらに、教育、相談、倫理調整、調整、研究の役割を発揮しながら、がん患者と家族に起きている課題の解決までの道筋を、地域包括ケアシステムを照準におきつつ多角的に捉え、地域の資源を活用し、連携を取りながら持続的な支援を実践することができる。
学習の具体的な目標	1.がん看護専門看護師の助言を受けながら既習の看護理論、診断や治療に関する専門的知識をエビデンスとし、理論的裏付けをもった看護計画を立案することができる（直接ケア）。 2.がん看護専門看護師の助言を受けながら行ったフィジカルエグザミネーションの目的と方法、診断結果について臨床指導医から助言をうけ、妥当性あるフィジカルアセスメントを行うことができる（直接ケア）。 3.がん看護専門看護師の指導のもと、事例におけるコンサルテーションの方略を立て、他者に説明できる（がん看護専門看護師の許可があればコンサルテーションを実施できる）（相談）。 4.コンサルテーションプロセスにそって役割を振り返ることができる（相談）。 5.看護職や多職種との協働のもとに調整の役割を担いながら高度な看護実践を提供できる（調整）。 6.受け持ち患者の社会復帰に向けた支援（社会資源の活用を含む）とその調整について自己の考えを述べることができる（がん看護専門看護師の許可があれば調整の場に参加する）（調整）。 7.専門看護師が行う看護師の倫理的葛藤への介入の場に同席し、倫理的課題の問題構造を分析し、その解決方法について自己の考えを述べることができる（倫理調整）。 8.がん患者および家族が遭遇する倫理的課題について、がん看護専門看護師として倫理調整が必要な状況や方法について探求し、介入できる（倫理調整）。 9.教育的役割を体験し、実習施設の状況やケアシステムを考慮した教育内容と方法を探求できる（教育）。 10.上記を通して実習における自己評価を行い、がん看護専門看護師の役割を発揮するために必要な能力とそれに向けた自己の課題を考察できる。

授業計画表

1	授業内容 【実習内容】 詳細「がん看護学実習Ⅳ実習要項」参照 【実習日程】 3週間（15日間）　1限～4限 【実習場所と指導者】 実習場所1　埼玉医科大学　国際医療センター 指導者：玉木秀子（がん看護専門看護師、がん化学療法認定看護師、副看護部長） 矢吹みどり(がん看護専門看護師、主任) 内田望（医師、支持医療科　診療部長、教授）、高橋孝郎(医師、緩和医療科客員教授) 実習場所２　埼玉県立がんセンター 指導者：森住美幸（がん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師） 福山康恵（副院長兼看護部長） 影山幸雄（医師、病院長） 実習場所３　医療法人社団シャローム　シャローム病院 指導者：片山和美（緩和ケア認定看護師、緩和ケア病棟師長） 宮崎富士子（看護部長） 狩野契（医師、病院長） ・各実習施設では、がん看護専門看護師ならびに緩和ケア認定看護師を中心に、がん治療にかかわる医師を含めて指導体制を整え、教員と適宜協働して実習指導を行う。 ・実習生の勤務施設を考慮し上記のうち1つを選定する。

評価方法	実習の参加度・態度（20%）、課題の到達度（60%）とレポート（20%）から総合的に評価する。
教科書	1.Mary Fran Tracy Eileen O'Grady:Hamric and Hanson's (2018) Advanced Practice Nursing, 6th Edition,Saunders. 2.Ann B. Hamric ,Charlen M.Hanson, et al. (2017) 高度実践看護 統合的アプローチ, 中村 美鈴、江川幸二（監訳）, へるす出版. 3.Schein, E. H. (2002) プロセス・コンサルテーションンー援助関係を築くこと, 稲葉元吉, 尾川丈一訳： 白桃書房 他、実習状況に合わせ適宜、提示する。
連絡先/オフィスアワー	櫻庭 奈美 <sakuraba@saitama-med.ac.jp>
履修上の注意、履修要件	がん看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修し、実習目標を達成していること。 各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	クリティカルケア学特論Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員	未定
科目の目標	生命危機状況が人間に及ぼす影響を理論的に探求し、患者とその家族への全人的ケアに要求される判断および看護援助に向けて課題を明らかにする。クリティカルケアの特徴と看護の役割、クリティカル期にある患者の生体侵襲および精神・心理的ストレスの理解と看護介入、危機理論、自己概念、急性痛、緩和ケア、急性期と日常生活などに関する理論と方法論を探求する。

授業計画表

1	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカルケア看護を理解するための概念とその活用①②
	授業内容	1.クリティカルの概念検討 2.クリティカルケア看護実践の本質
2	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
3	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカルケアの特徴：患者・家族の問題①②
	授業内容	1.クリティカル領域における患者の問題 2.クリティカル領域における家族の問題
4	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
5	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	生体侵襲およびクリティカル期におけるストレスと看護介入①②
	授業内容	1.ストレス理論と現実的課題 2.生体侵襲およびクリティカル期における看護介入

6	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
7	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	最近のストレス研究：文献抄読と討議①②
	授業内容	クリティカル領域における患者・家族に関する先行研究クリティーク
8	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
9	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における不安・危機と看護介入①②
	授業内容	1.クリティカル領域における患者・家族の不安 2.クリティカル領域における患者・家族の危機
10	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
11	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	危機的状況に対する人間の反応・せん妄①②
	授業内容	1.せん妄理論 2.せん妄に関する看護介入
12	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
13	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	自己概念とその揺らぎ①②
	授業内容	1.自己概念の変容 2.揺らぎの実際
14	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
15	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における自己概念の変容に関する文献検討①②
	授業内容	自己概念の変容に関する先行研究クリティーク
16	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃

17	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における日常生活①②
	授業内容	1.クリティカル期における日常生活の特徴 2.日常生活援助の方法
18	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
19	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	急性痛と看護介入①②
	授業内容	1.急性痛の原因・種類・治療 2.看護介入
20	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
21	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における看護倫理①②
	授業内容	1.看護倫理に関する文献 2.クリティカル期における倫理的課題
22	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
23	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	まとめおよび今後の課題の明確化
	授業内容	1.クリティカル期における看護の課題 2.自己の課題の明確化

教科書	適宜提示する
参考書	適宜提示する
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	クリティカルケア学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年前期		

科目の目標	生命危機状況下において、患者とその家族が治療や療養の過程で体験する出来事、関わる困難などを明らかにし、看護支援の必要性や支援の在り方を追求する。重篤・救急患者管理についての理解を深めるとともに、患者・家族の苦痛。症状緩和に関する看護実践や、けんきゅの最新動向を文献抄録し、理論的根拠に基づく実践的クリティカルケア看護について考察する。 （要確認）

授業計画表

1	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	生命危機状況下における患者の体験する出来事①②
	授業内容	1.生命危機状況の特徴 2.患者の体験する現実的問題
2	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
3	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	生命危機状況下における患者への看護介入とその意義・課題①②
	授業内容	1.患者への看護介入 2.生命危機状況下における看護の課題
4	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
5	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期にある患者の家族が体験する出来事①②
	授業内容	1.クリティカル期にある患者家族の特徴 2.家族の体験する現実的問題
6	講義室	ゼミ室

担当者	未定	
テーマ	〃	
授業内容	〃	
7	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期にある患者の家族への看護介入とその意義・課題①②
	授業内容	1.家族への看護介入 2.家族への看護の現実的課題
8	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
9	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における患者・家族に関する文献検討1 ①②
	授業内容	1.クリティカル期における患者に関する先行研究の動向 2.クリティカル期における患者家族に関する先行研究の動向
10	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
11	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における患者・家族に関する文献検討2 ①②
	授業内容	1.クリティカル期における患者に関する先行研究クリティーク 2.クリティカル期における患者家族に関する先行研究クリティーク
12	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
13	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	重篤患者の管理とその課題①②
	授業内容	1.重篤患者の特徴 2.患者管理の実際
14	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
15	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	救急患者の管理とその課題①②
	授業内容	1.救急患者の特徴 2.患者管理の実際
16	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃

17	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和に関する文献検討1 ①②
	授業内容	1.苦痛・症状緩和に関する理論 2.クリティカル期における苦痛・症状緩和に関する先行研究の動向
18	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
19	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和に関する文献検討2 ①②
	授業内容	1.クリティカル期における苦痛に関する先行研究クリティーク 2.クリティカル期における症状緩和に関する先行研究クリティーク
20	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
21	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における看護研究とその課題①②
	授業内容	1.クリティカル期における看護研究の動向 2.クリティカル期における看護研究の課題
22	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
23	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	まとめおよび今後の課題の明確化
	授業内容	1.クリティカル期における看護の課題 2.自己の課題の明確化

講義名	クリティカルケア学演習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期～2年前期		

担当教員	未定
科目の目標	クリティカル状況にある患者に生起する現象に対する看護判断の視座および看護援助モデルの開発とその評価について、文献抄読等による理論的検討と実習を含む実践的検討を連関させて演習する。関心テーマに関する文献抄読を進め、焦点化させた実習やゼミを通して現象探求の方法論および看護援助モデル開発のプロセスを実践的に探求する。

授業計画表

1	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者を取り巻く状況の理解と看護の課題
	授業内容	1. クリティカル期患者を取り巻く状況の把握 2. クリティカル期患者の看護とその課題
2	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
3	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
4	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル状況にある患者の生体侵襲に関する看護判断①
	授業内容	生体侵襲の種類とアセスメントポイント
5	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
6	講義室	ゼミ室

	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
7	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル状況にある患者の生体侵襲に関する看護判断②
	授業内容	生体侵襲の種類別看護診断
8	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
9	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
10	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者への看護援助方法に関する事例検討①
	授業内容	健康障害別の看護援助方法による事例検討
11	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
12	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
13	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者・家族への看護援助方法に関する事例検討②
	授業内容	症状別の看護援助方法による事例検討
14	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
15	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
16	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者への看護介入とその評価：事例検討①
	授業内容	健康障害別の看護介入による事例検討とその評価
17	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃

授業内容	〃	
18	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
19	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者への看護介入とその評価：事例検討②
	授業内容	健康障害別の看護介入による事例検討とその評価
20	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
21	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
22	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者の家族への看護介入とその評価：事例検討
	授業内容	家族への看護介入による事例検討とその評価
23	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
24	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
25	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	重篤患者の管理演習
	授業内容	事例検討に基づく演習
26	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
27	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
28	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	救急患者の管理演習
	授業内容	事例検討に基づく演習
29	講義室	ゼミ室

	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
30	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
31	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和モデル：事例検討
	授業内容	事例検討に基づくモデル開発
32	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
33	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
34	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和のモデル開発①
	授業内容	事例検討に基づくモデル開発例の作成
35	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
36	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
37	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和のモデル開発②
	授業内容	事例検討に基づくモデル開発例の作成
38	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
39	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
40	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	症状緩和開発モデルの実施演習

授業内容		事例検討に基づくモデル開発例の作成
41	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
42	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
43	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における症状緩和ケアの課題
	授業内容	1.症状緩和に関する看護介入とその課題 2.自己の課題の明確化
44	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
45	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃

評価方法	出席および授業参加状況と課題にて総合的に評価する。 再評価はおこなわない。
教科書	適宜提示する
参考書	適宜提示する
履修上の注意、履修要件	事前に授業内容に関連した課題を各自で充分に学習して授業に臨むこと。授業では活発な意見交換を期待する。授業後は関連する文献を調べ理解を深めておくこと。

講義名	クリティカルケア学演習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期～2年前期		

担当教員	未定
科目の目標	クリティカル状況にある患者が経験する突然の発症や予後に対する不安・恐怖、外傷や手術、検査・治療、疾病による疼痛・倦怠感および呼吸・循環不全などの高度な苦痛に対するケアおよび症状を緩和するために活用できる理論や概念を幅広く探求し、実践への応用について考察する。

授業計画表

1	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期患者を取り巻く状況の理解と看護の課題
	授業内容	クリティカル期患者を取り巻く状況の具体例と看護実践の評価
2	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
3	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
4	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル状況にある患者の心理：事例検討①
	授業内容	看護実践例における患者心理の理解
5	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
6	講義室	ゼミ室
	担当者	未定

テーマ	〃	
授業内容	〃	
7	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル状況にある患者の心理：事例検討②
	授業内容	看護実践例における患者心理の理解
8	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
9	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
10	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	外傷の体験プロセスと看護介入
	授業内容	1.外傷の種類と患者体験の理解 2.看護介入の実践例の検討
11	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
12	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
13	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	手術により回復過程を辿る患者の体験プロセスと看護介入
	授業内容	1.臓器系統別手術例における患者体験 2.患者体験と看護実践検討
14	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
15	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
16	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	手術により身体の一部を喪失した患者の体験プロセスと看護介入
	授業内容	1.喪失部位別の患者体験の理解 2.看護実践の課題
17	講義室	ゼミ室
	担当者	未定

テーマ	〃	
授業内容	〃	
18	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
19	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	手術により代替器官を造設した患者の体験プロセスと看護介入
	授業内容	1.代替器官別の患者体験の理解 2.看護実践の課題
20	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
21	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
22	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	侵襲的検査に伴う苦痛と看護介入①
	授業内容	1.侵襲的検査の種類と苦痛の理解 2.看護実践の課題
23	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
24	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
25	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	侵襲的検査に伴う苦痛と看護介入②
	授業内容	1.侵襲的検査の種類と苦痛の理解 2.看護実践の課題
26	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
27	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
28	講義室	ゼミ室
	担当者	未定

テーマ	クリティカル状況における人工臓器の使用と看護①	
授業内容	1. 人工呼吸器の理解 2. 人工呼吸器の使用に伴う苦痛の理解	
29	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
30	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
31	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル状況における人工臓器の使用と看護②
	授業内容	1. 苦痛・症状緩和モデルの活用報告 2. 事例検討
32	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
33	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
34	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和モデルの臨床的活用①
	授業内容	1. 苦痛・症状緩和モデルの活用報告 2. 事例検討
35	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
36	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
37	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における苦痛・症状緩和モデルの臨床的活用②
	授業内容	1. 苦痛・症状緩和モデルの活用報告 2. 事例検討
38	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
39	講義室	ゼミ室
	担当者	未定

テーマ	〃	
授業内容	〃	
40	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	症状緩和と看護倫理
	授業内容	1.症状に伴う倫理的配慮 2.倫理的課題の検討
41	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
42	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
43	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	クリティカル期における症状緩和ケアの課題
	授業内容	1.症状緩和ケアの実践例の検討 2.クリティカル期患者の看護の課題
44	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃
45	講義室	ゼミ室
	担当者	未定
	テーマ	〃
	授業内容	〃

評価方法	出席および授業参加状況と課題等を総合的に評価する。再評価は行わない。
教科書	教科書:適宜提示する。
参考書	参考書：適宜提示する。
履修上の注意、履修要件	事前に授業内容に関連した課題を各自で十分に学習して授業に臨むこと。 授業では活発な意見交換を期待する。授業後は関連する文献を調べ、理解を深めておくこと。 なお、講義日程のうち、集中講義と記載しているものは履修学生で調整し、2026年1月以降の日程で日付を確定する。

講義名	クリティカルケア学実習		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6	時間	270.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	6単位/270時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期～2年前期		

担当教員	未定
科目の目標	クリティカル状況にある患者とその家族に対して、理論的・倫理的基盤に基づいた高度な専門的看護実践を展開する能力を育成するとともに、クリティカルケア看護領域における問題解決、症状緩和、調整等のための諸能力を開発・習得する
授業計画表	

1	授業内容	【実習方法】 ①クリティカルケア看護領域における自己の関心領域と専攻分野を明確にする。 　救命救急（外傷、重症熱傷、重症感染症、急性疾患、ショック）、術後回復期、循環器重篤期、脳神経重篤期、慢性疾患急性増悪期それぞれのクリティカルケア領域において、自己の関心領域を明確にし、実習課題および目標を設定する。 ②自己の関心領域と専攻分野に関する文献検討を行う。 　自己の実習課題に関連する実践報告・先行研究の抄読およびクリティークを行い、クリティカルケア看護の課題を明らかにするとともに、自己の実習課題を精鋭化する。 ③ディスカッションを通して、現状分析し、実習課題を考察する。 　クリティカルケア看護の臨床実践家および専門看護師（急性・重症患者看護）・認定看護師（救急看護、集中ケア、手術看護および感染管理）らとのディスカッションを通して現状分析を行い、自己の実習課題の有用性を明らかにする。 ④実習計画を立てる。 　自己の実習テーマを設定し、実習目標とその具体的実施方法を計画し、該当する実習施設を特定する。それにより、実習施設との調整を行う。 ⑤実習課題に沿って臨床実践し、評価する。 　自己の実習計画により、クリティカルケア看護実習を行い、実習施設における指導者とともに評価する。これを基に日々の実習課題を設定し、指導教員および専門・認定看護師よりスーパービジョンを受ける。 ⑥クリティカルケア看護領域における実践に即した研究課題を見出す。 　実習をとおして明らかになったクリティカルケア看護領域における課題の中から、臨床実践の向上に寄与する課題を見出し、研究的アプローチについて学習する。 【実習時間】 　45時間×6＝270時間 【実習施設】 ①埼玉医科大学病院 ②埼玉医科大学総合医療センター ③埼玉医科大学国際医療センター

評価方法	実習プロセス全般および課題レポートの内容を総合的に評価する。 再評価はおこなわない。
教科書	特になし
参考書	特になし
履修上の注意、履修要件	教科書：特になし 参考書：特になし　・課題に関する予習・復習を各自で考え、文献を使って学習することが前提である。実習

	施設との協議、実習計画の作成を自主的におこない、教員への連絡を怠らないこと。 ・専門看護師などに相談をしながら、自主的に実習をおこなうこと。

講義名	成人看護学特論Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 本谷　久美子	看護学科教員

担当教員	本谷　久美子
科目の目標	成人期にある人の身体的、心理社会的な特性を理解し、包括的にアセスメントするための力を修得する。また、成人の健康や健康障害の特徴について、統計データや文献検討、事例検討を通して理解を深める。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	オリエンテーション 成人期にある人の理解（その1）成人であるということ		
	授業内容	人の成長・発達の観点から、成人について説明できる。 成人期の発達段階・発達課題について説明できる。（Erikson, Havighurst, Levinson）		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（その2）身体的な特性とアセスメント		
	授業内容	成人各期（青年期、壮年期、向老期）にある人の、それぞれの身体的な特性が説明できる。 成人各期（青年期、壮年期、向老期）にある人の、それぞれの身体的なアセスメントができる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（その2）身体的な特性とアセスメント		
	授業内容	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		

担当者	本谷			
テーマ	成人期にある人の理解（その3）心理社会的な特性とアセスメント			
授業内容	成人各期（青年期、壮年期、向老期）にある人の、それぞれの心理社会的な特性が説明できる。 成人各期（青年期、壮年期、向老期）にある人の、それぞれの心理社会的なアセスメントができる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（その3）心理社会的な特性とアセスメント		
	授業内容	〃		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（その4）成人の学習の特徴		
	授業内容	成人期にある人の認知機能、ニーズ、経験の観点から、学習のあり方について検討できる。 成人教育学（アンドラゴジー）について概説できる。 事例を用いて、成人期にある人の学習のアプローチについて検討できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（その4）成人の学習の特徴		
	授業内容	〃		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（その5）包括的アセスメント		
	授業内容	2～7回目の授業を踏まえて、成人期にある人を包括的にアセスメントできる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その1）日本と諸外国の疾病の動向		
	授業内容	日本と諸外国における疾病の動向が説明できる。 諸外国と比較した日本の疾病の特徴と課題が説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その1）日本と諸外国の疾病の動向		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その2）特徴的な健康障害		
	授業内容	成人各期（青年期、壮年期、向老期）に特徴的な健康問題とその背景が説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その2）特徴的な健康障害		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	4限

講義室				
担当者	本谷			
テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その3）保健医療福祉政策			
授業内容	成人を対象にした保健・医療・福祉政策について説明できる。 保健・医療・福祉政策による健康問題への対策が説明できる。			
14	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その3）保健医療福祉政策		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その4）ストレスと健康障害		
	授業内容	成人期にある人の生活ストレスと健康障害の関連について説明できる。 ストレス関連疾患の予防と対応について説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その4）ストレスと健康障害		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その5）職業に関連する健康障害		
	授業内容	成人期にある人の職業と健康障害の関連について説明できる。 職業性疾病および業務上疾病の予防と治療について説明できる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（その6）更年期に関連する健康障害		
	授業内容	更年期の健康障害について説明できる。 更年期障害の予防と治療について説明できる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康を脅かす要因（文献検討）		
	授業内容	文献をもとに、成人期にある人の健康を脅かす要因を整理し、検討できる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康を脅かす要因（文献検討）		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人とその家族への看護支援		
	授業内容			

これまでの授業内容を踏まえ、事例をもとに、健康障害をもつ成人とその家族への看護支援について検討できる。

22	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	5限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人とその家族への看護支援（事例検討）		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	4限
	講義室			
	担当者	本谷		
	テーマ	コースのまとめ		
	授業内容	授業全体の内容を振り返り、成人期にある人の特性と健康障害のアセスメントについて概説できる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	オリエンテーション 成人期にある人の理解（1）成人であるということ		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（2）身体的な特性とアセスメント		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（2）身体的な特性とアセスメント		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（3）心理社会的な特性とアセスメント		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（3）心理社会的な特性とアセスメント		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（4）成人の学習の特徴		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（4）成人の学習の特徴		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の理解（5）包括的アセスメント		

9	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（1）日本と諸外国の疾病の動向		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（1）日本と諸外国の疾病の動向		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（2）特徴的な健康障害		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（2）特徴的な健康障害		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（3）保健医療福祉政策		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（3）保健医療福祉政策		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（4）ストレスと健康障害		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（4）ストレスと健康障害		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（5）職業に関連する健康障害		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康と健康障害（6）更年期障害		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人の健康を脅かす要因（文献検討）		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		

担当者	本谷			
テーマ	成人期にある人の健康を脅かす要因（文献検討）			
21	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人とその家族への看護支援（事例検討）		
22	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	成人期にある人とその家族への看護支援（事例検討）		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	コースのまとめ		

評価方法	・科目の評価は、プレゼンテーション、授業参加度、課題レポートなど、総合的に評価する。 ・評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	授業内で随時提示する。
参考書	授業内で随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワー：随時対応しますが、事前にアポイントをとることをお勧めします。 本谷　久美子 kmotoya@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	・授業はプレゼンテーション・討議が中心となるため、テーマに関する事前学習・事後学習が必要です。

講義名	成人看護学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 本谷　久美子	看護学科教員

担当教員	本谷　久美子、北川　美奈、木内　恵子、成田　由姫子、吉野　暁子、中村　真巳
科目の目標	成人期にある人の病いを、慢性期・急性期の観点から捉え、アセスメントするための力を修得する。具体的には、慢性病をもつ人の体験について理解し、慢性病による健康障害のアセスメントと必要な看護について検討する。また、急性期にある人の体験を理解し、急性状況におかれている人のアセスメントと必要な看護について検討する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	オリエンテーション 病いの経過、病みの軌跡		
	授業内容	成人期にみられる健康障害のそれぞれの病いの経過と特徴が説明できる。 ストレウスとコービンによる病みの軌跡について概説し、病いをもつ成人の看護への活用可能性について検討できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性性とは何か：病いのクロニシティ		
	授業内容	クロニックイルネス（慢性の病い）とクロニシティ（慢性性）について説明できる。 健康障害を病い（イルネス）の視点で捉える必要性について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（その1）		
	授業内容	慢性病をもつ人の生活上の体験について説明できる。		

4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（その2）社会的孤立とスティグマ		
	授業内容	社会的孤立、スティグマとは何かが説明できる。 慢性病者の社会的孤立、スティグマの体験について説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（その3）病者役割と病者役割行動		
	授業内容	病者役割と病者役割行動について概説できる。 慢性病をもつ人の病者役割行動を例示し、看護支援について検討できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（その4）折り合い、編みなおし		
	授業内容	慢性病をもつ人の折り合い、編みなおしとは何かが説明できる。 慢性病を持つ人の折り合い、編みなおしを例示し、看護支援について検討できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	北川、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（その1）呼吸機能障害と看護		
	授業内容	慢性の呼吸機能障害について説明できる。 慢性の呼吸機能障害のある人の生活の特性が説明できる。 慢性の呼吸機能障害のある人および家族への看護支援について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	北川、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（その1）呼吸機能障害と看護		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	木内、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（その2）栄養代謝障害と看護		
	授業内容	慢性の栄養代謝障害についてアセスメントできる。 慢性の栄養代謝障害のある人の生活の特性が説明できる。 慢性の栄養代謝障害のある人および家族への看護支援について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	木内、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（その2）栄養代謝障害		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	成田、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（その3）体液調節障害と看護		
	授業内容	慢性の体液調節障害についてアセスメントできる。 慢性の体液調節障害のある人の生活の特性が説明できる。 慢性の体液調節障害のある人および家族への看護支援について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	5限

講義室	ゼミ室			
担当者	成田、本谷			
テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（その3）体液調節障害と看護			
授業内容	〃			
13	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人と家族のアセスメント（事例検討）		
	授業内容	1～12回の授業内容を踏まえ、事例をもとに、慢性病をもつ人と家族について検討できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性状況とはなにか		
	授業内容	急性期、急性状況とは何かが説明できる。 急性期、急性状況をもたらす要因と影響について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の体験		
	授業内容	急性期にある人の体験を、身体的、心理社会的な側面から説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の家族の体験		
	授業内容	急性期にある人の家族の特徴が説明できる。 急性期にある人の家族支援の重要性について説明できる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年12月28日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（その1）周手術期にある患者と看護		
	授業内容	周手術期にある患者の特徴が説明できる。 手術侵襲と生体反応、生体反応からの回復について説明できる。 周手術期にある患者の体験と看護支援についてアセスメントできる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年12月28日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（その1）周手術期にある患者と看護		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年01月11日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	吉野、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（その2）救急搬送患者と看護		
	授業内容	救急搬送患者の特徴が説明できる。 救急搬送時の判断、医療処置、早期回復のための支援について説明できる。 救急搬送患者の体験と看護支援について、事例をもとにアセスメントできる。		
20	年月日(曜日)	令和 9年01月11日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	吉野、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（その2）救急搬送患者と看護		

授業内容	〃			
21	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	中村、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（その3）集中治療をうける患者と看護		
	授業内容	集中治療をうけるクリティカルな状態にある患者の特徴について説明できる。 クリティカルケア看護師の判断と看護の実際について説明できる。 集中治療をうける患者の体験と看護支援について、事例をもとにアセスメントできる。		
22	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	中村、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（その3）集中治療をうける患者と看護		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期における多職種連携と看護の役割 コースのまとめ		
	授業内容	急性期チームにおける職種と連携の必要性について説明できる。 急性期チームにおける看護師の役割が説明できる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	オリエンテーション 病いの経過、病みの軌跡		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性性とは何か：病いのクロニシティ		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（1）慢性病者の体験		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（2）社会的孤立とスティグマ		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（3）病者役割と病者役割行動		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	人が慢性病をもつという体験（4）折り合い、編みなおし		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		

担当者	北川、本谷			
テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（1）呼吸機能障害と看護			
8	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	北川、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（1）呼吸機能障害と看護		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	木内、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（2）栄養代謝障害と看護		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	木内、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（2）栄養代謝障害と看護		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	成田、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（3）体液調節障害と看護		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	成田、本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人のアセスメント（3）体液調節障害と看護		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人と家族のアセスメント（事例検討）		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性状況とは何か		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の体験		
16	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の家族の体験		
17	年月日(曜日)	令和 8年12月28日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（1）周手術期にある患者と看護		
18	年月日(曜日)	令和 8年12月28日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（1）周手術期にある患者と看護		

19	年月日(曜日)	令和 9年01月11日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	吉野、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（2）救急搬送患者と看護		
20	年月日(曜日)	令和 9年01月11日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	吉野、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（2）救急搬送患者と看護		
21	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	中村、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（3）集中治療をうける患者と看護		
22	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	中村、本谷		
	テーマ	急性期にある人のアセスメント（3）集中治療をうける患者と看護		
23	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期における多職種連携と看護の役割 コースのまとめ		

評価方法	・科目の評価は、プレゼンテーション、授業参加度、課題レポートなど、総合的に評価する。 ・評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	適宜提示する
参考書	適宜提示する
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワー：随時対応しますが、事前にアポイントをとることをお勧めします。 メールアドレス：【本谷】kmotoya@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	・授業はプレゼンテーション・討議が中心となるため、テーマに関する事前学習・事後学習が必要です。

講義名	成人看護学演習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 本谷　久美子	看護学科教員

担当教員	本谷　久美子、新山　和也
科目の目標	成人期にある人への看護に有用な諸理論について、特に中範囲理論を中心に学修する。諸理論の看護実践への適用、文献講読を通して、慢性病をもつ人あるいは急性期にある人を理解するとともに、必要な看護について理解を深める。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	オリエンテーション		
	授業内容	1. 本科目の目的、学修内容等を確認し、学修計画を立てる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その1）セルフケア論、セルフマネジメント		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		

担当者	本谷			
テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その2）コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス			
授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その3）自己効力理論、自己肯定感		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その4）病気の不確かさ理論		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その5）エンパワーメント		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その6）トランスセオレティカルモデル		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		

13	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人への看護支援：患者教育		
	授業内容	1. 慢性病をもつ人の事例をもとに、特に患者教育に焦点をあてて看護支援を検討できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その1）		
	授業内容	1. 慢性病をもつ人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その2）		
	授業内容	1. 慢性病をもつ人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その3）		
	授業内容	1. 慢性病をもつ人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
22	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その4）		
	授業内容	1. 慢性病をもつ人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その1）生体侵襲理論		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
25	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その2）ストレス・コーピング理論		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
27	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その3）危機理論の歴史的変遷と概要		
	授業内容			
29	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その4）フィンクの危機モデル		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
30	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		

テーマ	〃			
授業内容	〃			
31	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その5）アギュララの危機モデル		
	授業内容	1. 提示した理論、概念を学修し、資料を用いてプレゼンテーションすることができる。 2. 提示した理論、概念を事例に適用し、慢性病をもつ人の看護について検討できる。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人への看護支援：患者教育		
	授業内容	1. 急性期にある人の事例をもとに、特に患者教育に焦点をあてて看護支援を検討できる。		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
35	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その1）		
	授業内容	1. 急性期にある人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
36	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その2）		
	授業内容	1. 急性期にある人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		

担当者	本谷			
テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その3）			
授業内容	1. 急性期にある人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。			
40	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
41	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その4）		
	授業内容	1. 急性期にある人の看護に関する文献を講読し、慢性病をもつ人の理解を深め必要な看護について考察できる。		
42	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
43	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	3限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	新山、本谷		
	テーマ	臨床におけるトピックス		
	授業内容	1. 近年の臨床におけるトピックスのうち、関心のある話題について調べ、プレゼンテーションを通して、相互に理解を深める。		
44	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	新山、本谷		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
45	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	本谷		
	テーマ	コースのまとめ		
	授業内容	1. 全学修内容を踏まえ、成人期（慢性期、急性期）にある人への看護実践に有用な諸理論について理解を深める。 2. 学修成果をレポートとしてまとめる。		

（14条特例）

1	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	オリエンテーション
2	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その1）セルフケア論、セルフマネジメント
3	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃

4	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その2）コンプライアンスとアドヒアランス
5	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
6	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その3）自己効力理論、自己肯定感
7	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
8	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その4）病気の不確かさ理論
9	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
10	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その5）エンパワーメント
11	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
12	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に有用な諸理論（その6）トランスセオレティカルモデル
13	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
14	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人への看護支援：患者教育
15	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
16	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その1）
17	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
18	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その2）
19	講義室	ゼミ室

担当者	本谷	
テーマ	〃	
20	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その3）
21	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
22	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	慢性病をもつ人の看護に関する文献講読（その4）
23	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
24	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人のかんごに有用な諸理論（その1）生体侵襲理論
25	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
26	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その2）ストレス・コーピング理論
27	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
28	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その3）危機理論の歴史的変遷と概要
29	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その4）フィンクの危機モデル
30	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
31	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に有用な諸理論（その5）アギュララの危機モデル
32	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
33	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人への看護支援：患者教育
34	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷

テーマ	〃	
35	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その1）
36	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
37	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その2）
38	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	〃
39	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その3）
40	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	
41	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	急性期にある人の看護に関する文献講読（その4）
42	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	
43	講義室	ゼミ室
	担当者	新山、本谷
	テーマ	臨床におけるトピックス
44	講義室	ゼミ室
	担当者	新山、本谷
	テーマ	
45	講義室	ゼミ室
	担当者	本谷
	テーマ	コースのまとめ

評価方法	・科目の評価は、プレゼンテーション、授業参加度、課題レポートなど、総合的に評価する。 ・評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	適宜提示する。
参考書	適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワー：随時対応しますが、事前にアポイントをとることをお勧めします。 メールアドレス：【本谷】kmotoya@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	・授業はプレゼンテーション・討議が中心となるため、テーマに関する事前学習・事後学習が必要です。

講義名	成人看護学演習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	1年後期～2年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 粟生田　友子	看護学科教員

担当教員	粟生田友子・ゲストスピーカー
科目の目標	成人看護学領域の専門性を高め、臨床看護実践ならびに成人看護学の理論構築に寄与できる研究的な取り組みについて学修する。具体的には、各自の臨床看護実践の射程を拡げ、研究領域の課題を深めていく基盤を培うための具体的な研究方法の探究と研究実施のためのプロセスを踏み、具体的に各自が研究を課題に取り組む研究能力を培う。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	コースガイダンス 研究デザイン		
	授業内容	1.ガイダンス：科目のねらいと全体の概要および学習方法について理解する。 2.研究デザインの種類と研究における問いについて研究方法論を題材に振り返る。 3.自己の研究疑問と研究デザインについて検討する。 4.研究デザイン、研究目的、データ収集方法をクリティークし、ディスカッションを通して自己の研究計画へとつなげる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	研究データの収集方法		
	授業内容			

1.量的研究における概念枠組みについて、先行研究を通して分解し、概念分析、概念枠組みの妥当性を分析する。
2.概念分析に関する先行研究をクリテークし、概念分析について評価する。
3.概念枠組みから、研究データ収集方法までの過程を、先行研究をもちより、評価する。
4.既存の評価ツールの作成過程について文献を読み込み、ディスカッションを通してツール開発の過程を学修する。
5.研究課題、量的データの収集、ツールの正しい活用等について、ディスカッションを通して理解を深める。

4	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	クリティカルケアの臨床における今日的課題		
	授業内容	1.クリティカルケアの臨床に出向き、看護実践の場を理解する。 2.クリティカルケアの場での今日的課題について、臨床での講義や体験を通して学修する。 3.実際のケア場面を通して、各自がテーマを定め、レポートにまとめる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	慢性期ケアの臨床における今日的課題		
	授業内容	1.生活習慣病のケアを提供する臨床に出向き、看護実践の場を理解する。 2.生活習慣病ケアの場での今日的課題について、臨床での講義や体験を通して学修する。 3.実際のケア場面を通して、各自がテーマを定め、レポートにまとめる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	質的データ収集方法と分析（1）参加観察法		

授業内容	1.参加観察法を用いるデータの特性と収集方法について学修する。 2.参加観察法を実施する際の手順と、準備と「場」への参加方法について学修する。 3.先行研究を用いて、参加観察法が用いられている研究成果の特徴を学修する。 4.先行研究をクリティークし、方法や分析過程におけるエビデンスの産生について概観し、ディスカッションを通して、方法論の理解を深める。 5.仮の研究テーマに沿って参加観察法実施し、互いの観察記録を分析・評価し、観察における自己の参与について振り返る。			
12	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	質的データ収集方法と分析（2）：面接法		
	授業内容	1.面接法を用いるデータの特性と収集方法について学修する。 2.面接法を実施する際の手順と、対象との対話を進めるための気遣いや倫理的配慮について学修する。 3.先行研究を用いて、面接法が用いられている研究成果の特徴を学修する。 4.先行研究をクリティークし、方法や分析過程におけるエビデンスの産生について概観し、ディスカッションを通して、方法論の理解を深める。 5.仮の研究テーマに沿って面接法を実施し、互いの面接場面における対話の深まりを阻害する要因を抽出する。 6.自己の研究課題や今後取り組んでいく課題について、ディスカッションし、面接法を用いる妥当性について検討する。		
16	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	前項の授業内容5，6を演習する。		
18	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	前項の授業内容5，6を演習する。		
19	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		

担当者	粟生田、ゲストスピーカー
テーマ	看護実践能力と育成
授業内容	1.看護実践能力の定義と、実践能力の発達過程について学修する。 2.成人看護のさまざまな分野における看護実践能力の現状について、海外および国内の文献を収集し、読み込む。 3.日本における看護実践能力の評価について学修し、臨床における実践能力の評価ツールの活用を考察する。 4.それぞれの分野の臨床における報告を読み、看護実践能力育成のための課題についてディスカッションする。

20	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室、ゲストスピーカー		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田、ゲストスピーカー		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田、ゲストスピーカー		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	看護における資格制度とその活動		
	授業内容	1.看護の臨床で機能する有資格者の活動について、現状と課題を同定する。 2.看護師の資格制度の成り立ちと移りゆきについて歴史的、制度的な背景を探究する。 3.看護以外の分野における医療者全体の資格と看護師の資格制度の成り立ちの違いを探究する。		
24	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	非がん疾患の緩和医療における今日的課題		
	授業内容	1.非がん疾患の緩和医療における現状について、特にどのような疾患、障害に対して発展しているか学修する。 2.対象の全人的苦痛と最終段階における日常生活の状態を学修する。 3.事例を通して、患者の主体性と意思決定支援について学修し、自己の臨床実践を振り返る。 4.緩和医療における看護師を含めた多職種のケアに関する課題を、文献を検索し、クリティークする。 5.4についてディスカッションし、文献の動向と課題を明確にし、理解を深める。		
26	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
27	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	4限

講義室	ゼミ室
担当者	粟生田
テーマ	患者の体験世界への現象学的アプローチ
授業内容	1.対象の体験を理解するための現象学的探究方法について学修する。 2.現象学を用いた先行研究から、その研究参加者の語り、研究者の解釈、論文における記述等について、学習し理解する。 3.看護学および社会学の中での記述や論述について読み込み、適切な現象の記述について学修する。 4.ディスカッションを通して、体験や体験の意味をテーマにした文献をさらに読み深め、方法論としての理解を深める。

28	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
31	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	関心領域における論文とその評価: (1) 自己の研究の背景、テーマの焦点化 (2) 目的の明確化 (3) 研究方法の構築		
	授業内容	1.関心領域の論文を収集し、読み込む。 2.自己の研究背景を論述し、研究テーマの焦点化を図る。 3.目的の妥当性を互いに評価し、研究の背景から目的に至る論述の的確さをディスカッションする。 4.研究方法を策定し、データ収集方法、分析方法の妥当性についてディスカッションする。 5.計画書を作成し、プレゼンテーションしあう。		
32	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
33	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
34	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

35	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	関心領域における論文とその評価: (1) 自己の研究の背景、テーマの焦点化 (2) 目的の明確化 (3) 研究方法の構築		
	授業内容	1.関心領域の論文を収集し、読み込む。 2.自己の研究背景を論述し、研究テーマの焦点化を図る。 3.目的の妥当性を互いに評価し、研究の背景から目的に至る論述の的確さをディスカッションする。 4.研究方法を策定し、データ収集方法、分析方法の妥当性についてディスカッションする。 5.計画書を作成し、プレゼンテーションしあう。		
36	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	研究計画のプレゼンテーション		
	授業内容	１．授業資料あるいは研究計画のプレゼンテーションを行い、評価的にコメントしあう。 1) プレゼンテーション内容、話し方、伝わり方、わかりやすさ 2) プレゼンテーションの作成資料　　など ２．プレゼンテーションの目的別に、資料の妥当性を評価的にコメントしあう。 ３．時間の制約の中での模擬授業資料を用いたプレゼンを行い、評価的にコメントしあう。 ４．各自、評価を受けてプレゼンテーションの改善を図る。		
38	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
39	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	学会・研修会への参加		
	授業内容	1.学会・研修会に参加し、関心のある分野の最新知見を情報収集する。 2.上記結果をレポートとして提出する。		
40	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
41	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
42	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
43	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	まとめ：関心あるテーマの探究		
	授業内容	1.学修を統合し、看護実践や、自己の研究に活用する基礎知識をまとめる。 4.学修成果をレポートとして提出する。		
44	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	5限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
45	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	4限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	コースガイダンス 研究デザイン		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	研究データの収集方法		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	クリティカルケアの臨床における今日的課題		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		

テーマ	〃			
8	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	慢性期ケアの臨床における今日的課題		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	集中講義
	講義室	臨床およびゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	集中講義
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	質的データ収集方法と分析 (1) 参加観察法		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	集中講義
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	集中講義
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	集中講義
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	質的データ収集方法と分析 (2) ：面接法		
16	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
17	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	6限

講義室	ゼミ室			
担当者	粟生田			
テーマ	看護実践能力と育成			
20	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	看護における資格制度とその活動		
24	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
25	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	非がん疾患の緩和医療における今日的課題		
26	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
27	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	患者の体験世界への現象学的アプローチ		
28	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
29	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
30	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		

テーマ	〃			
31	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	関心領域における論文とその評価: (1) 自己の研究の背景、テーマの焦点化 (2) 目的の明確化 (3) 研究方法の構築		
32	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
33	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
34	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
35	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	関心領域における論文とその評価: (1) 自己の研究の背景、テーマの焦点化 (2) 目的の明確化 (3) 研究方法の構築		
36	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
38	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
39	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	学会・研修会への参加		
40	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
41	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	集中講義

講義室	学外			
担当者	粟生田			
テーマ	〃			
42	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	集中講義
	講義室	学外		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
43	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	まとめ：関心あるテーマの探究		
44	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	7限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		
45	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	6限
	講義室	ゼミ室		
	担当者	粟生田		
	テーマ	〃		

評価方法	・科目の評価は、課題レポート、演習態度(参加姿勢、出席状況)などを、総合的に評価する。 ・評価が合格点に満たさなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	随時提示する
参考書	随時提示する
連絡先/オフィスアワー	下記に連絡を頂いた後、教員が、連絡を入れます。 粟生田　友子 aohda@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	※1年前期から2年後期の配当年次となるため、1～29コマは1年後期、30～45コマは2年後期が対象である。 ・授業の前後には、各自予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	成人看護学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	8	時間	240.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/240時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 本谷　久美子	看護学科教員

担当教員	本谷久美子、粟生田友子、櫻庭奈美
科目の目標	成人看護学分野での学際的な研究課題を探究していくために、各自の臨床や教育の場での実践経験をもとに探究していく課題を定め、大学院で学修した看護研究方法論、成人看護学特論及び成人看護学演習等で培った能力を基盤とし、各自の研究課題を深く探究する。 特別研究では、看護学の向上に貢献しうる研究論文の作成に取り組む。 具体的な到達目標は、①成人看護学分野における探究の糸口となる概念を的確に取り上げ、各自の探究課題に沿って研究デザインを考える。②学生間、教員学生間で研究課題および経過を報告し、ディスカッションを通して、研究課題の探究をより深いディスカッションを踏まえて、研究成果を導くよう取り組む。③研究は、修士論文としてまとめる。④全過程を通して倫理的配慮をもって研究を実施する。

授業計画表

1	担当者	粟生田友子
	授業内容	*看護職者・看護管理者として自己の研究課題解決に向けて特論、演習をもとに研究課題にそった研究方法を用いて実施し、看護実践の場および広くは看護学に貢献しうる研究をめざす。 * 研究は担当教員の指導を受けながら行う。また、積極的な学会参加および学生間で学習を共有する。 【特別研究のスケジュール】 ①1-30回（4-6月末）：研究計画書の作成 a）専門領域研究課題の探究・プレゼンテーション、b）課題関連領域の文献レビュー・プレゼンテーション、c）研究課題の絞り込み、データ収集方法の検討、分析方法の検討と研究計画書の発表（プレゼンテーション）、d）研究計画書の作成と研究フィールドの確定、合同発表会によるプレゼンテーション ②31-60回（7-9月末）：データ収集 研究計画に基づき、データの収集を行う。その際には、教員指導の下、倫理委員会の審査を受け、倫理的配慮を遵守する。 ③61-90回（9-10月）：収集したデータを集計・分析する。その際には、量的・質的研究のそれぞれの研究方法論に従って、分析を行う。 ④91-105回（10-11月）：結果の解釈・考察を行う。論文作成にあたり、研究方法論で用いた学術的に適切な分析方法に従い、論述を行う。考察では先行研究を的確に用い、理論を十分に活用し、論述する。 ⑤106-120回論文の完成（12月）：教員指導のもと、論文を完成させる。 研究計画発表、論文発表会においては、予演会を実施し、十分なディスカッションをもとに、論文の完成度を高める。

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、研究論文作成、成果報告を通したプレゼンテーションの内容・発表、提出された研究論文等により、総合的に評価する。 評価が合格点に満たなかった場合は、研究論文の修正を求め、その結果を再評価する。
教科書	特になし
参考書	各自の研究課題や研究デザイン、探究方法に沿った論文、書籍を探索し、活用する。
連絡先/オフィスアワー	下記に連絡を頂いた後、教員から連絡し、対応する。 粟生田友子 aohda@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	2年次の特別研究に向けて1年次より以下の準備を行う。 ①入学時に自己の現在の研究課題について報告し、教員および学生間で互いの問題意識を共有する。 ②特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱの授業を統合し、研究の全過程において随時指導教員の個別指導を受けながら進める。院生間で、積極的にディスカッションを重ね、学びを共有すること。 なお、1年次より研究計画発表会や論文発表会に参加・発表し教員、学生から広く意見を聴取する機会をもち、随時各自の研究論文作成に向けて検討すること。 ③4月に研究計画発表会に参加・発表し、教員、学生より意見を聴取する機会をもち、研究テーマを再検討する。

講義名	成人看護学課題研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	4	時間	120.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	4単位/120時間		
必修・選択	専門科目/成人看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 櫻庭　奈美	看護学科教員

担当教員	櫻庭奈美、本谷久美子、粟生田友子
科目の目標	成人への看護の視線を踏まえて、これまでの臨床での経験を基盤に、すでに大学院で学修した看護研究方法論、成人看護学特論及び成人看護学演習、成人看護学実習等で培った能力を用いて、各自の探究したい課題を明確化する。課題研究においては、臨床看護実践での事例を分析し、看護実践能力に焦点をあてて研究する。 具体的到達目標は、①テーマに沿って研究をすすめる。②研究課題は成人看護学領域の看護実践に即したものとし、臨床実習における問題意識を活かしたテーマとする。③研究は修士論文としてまとめる。
授業計画表	

1	授業内容	* 課題研究の目的は、看護の質向上をめざし、自己の研究課題の達成に向けて、特論、演習、実習での学修をもとに、課題に沿った適切な研究手法を用いて、研究をすすめることである。とくに、実践現場における課題をテーマとして研究し、看護実践現場で活用することができ、かつ貢献可能な研究をめざす。 * 研究は担当教員の指導を受けながら行う。また、研究期間内に、積極的に学会に参加するとともに、成人看護学領域専攻の学生との議論を通して学生間の学びを共有する。 【課題研究のスケジュール】 ①1-15回（4-6月末）：研究計画書の作成。研究課題の詳細を明確にして研究計画を立案、フィールドを探索して教員の指導のもと、研究計画書を完成させる。 ②16-30回（7-9月末）：データ収集；研究計画に基づき、データの収集を行う。その際には、教員指導のもと各種倫理指針を遵守する。 ③31-45回（10-11月末）：収集したデータの集計・分析；量的・質的研究いずれかの分析手法を用いる。 ④46-60回（12月）：結果の解釈・考察を行い、論文の完成；研究方法論、各種理論を用いる。

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、プレゼンテーションの内容・発表、研究論文により科目終了時に総合的に評価する。 評価が合格点に満たなかった場合は、研究論文の修正を求め、その結果を再評価する。
連絡先/オフィスアワー	下記に連絡を頂いた後、教員から連絡し、対応する。 粟生田　友子 aohda@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	2年次の課題研究に向けて、１年次より以下の準備を行う。 ①入学時に、自己の現在の研究課題について報告し、教員および学生間で互いの問題意識を共有する。 ②12月頃までに、特論Ⅰ・Ⅱおよび演習Ⅰ・Ⅱの授業を受け、かつ、教員の個別指導を受けながら研究テーマを絞り込む。 ③4月に研究計画書報告会（公開）に参加・発表し、教員、学生よりひろく意見を聴取する機会をもち、研究テーマを再検討する。

講義名	小児看護学特論Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師しのぶ
科目の目標	小児看護領域において研究者及び高度実践者として必要とされる子どもの成長発達を理解するための知識を養う。子どもを支える家族の諸理論を理解し、また、子どもを支える社会の背景を国内外の文献から検討する。
学習の具体的な目標	1. 生涯発達の視点から各段階にある子どもの身体、認知、社会情緒的発達を捉え、概説する事ができる。 2. 子どもと家族の発達の諸理論について学び、自己の経験した臨床事例を家族理論を用いて家族看護のあり方を検討することができる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	ガイダンス		
	授業内容	小児看護学特論Ⅰの到達目標、内容、方法、評価、日程について確認し、授業の進め方が理解できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達の視点: 生物学的起点、親の発達と子の誕生 (Biological Beginnings and Parental Development and Birth)①		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達の視点: 生物学的起点、親の発達と子の誕生 (Biological Beginnings and Parental Development and Birth)②		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	4限
	担当者	土師		

テーマ	子どもの生涯発達：乳児期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Infancy)①			
授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：乳児期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Infancy)②		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：幼児期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Early Childhood)①		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：幼児期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Early Childhood)②		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：学童期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Middle and Late Childhood)①		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：学童期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Middle and Late Childhood)②		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：思春期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Adolescence)①		
	授業内容	1. 提示した文献を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した文献に関する課題についてレポートにまとめ、考察できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの生涯発達：思春期の身体、認知、社会情緒的発達（Physical, Cognitive, and Socioemotional Development in Adolescence)②		
	授業内容	1. 提示した理論を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した理論に関する疑問、臨床応用についてレポートにまとめ、考察できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族の発達と諸理論① 家族発達理論		
	授業内容	1. 子どもの家族に関連した理論を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した理論に関する疑問、臨床応用についてレポートにまとめ、考察できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	3限
	担当者	土師		

テーマ	子どもの家族の発達と諸理論② 家族システム理論				
授業内容	1. 子どもの家族に関連した理論を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した理論に関する疑問、臨床応用についてレポートにまとめ、考察できる。				
14	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	4限	
	担当者	土師			
	テーマ	子どもの家族の発達と諸理論③ 家族ストレス対処理論			
	授業内容	〃			
15	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	3限	
	担当者	土師			
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル① Freedman,MM.			
	授業内容	1. 子どもの家族に関連した理論を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した理論に関する疑問、臨床応用についてレポートにまとめ、考察できる。			
16	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	4限	
	担当者	土師			
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル② Freedman,MM.			
	授業内容	〃			
17	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	3限	
	担当者	土師			
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル③ Wright,LM.			
	授業内容	1. 子どもの家族に関連した理論を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した理論に関する疑問、臨床応用についてレポートにまとめ、考察できる。			
18	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	4限	
	担当者	土師			
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル④ Wright,LM.			
	授業内容	〃			
19	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	3限	
	担当者	土師			
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル⑤ その他の理論			
	授業内容	1. 子どもの家族に関連した理論を学修し資料を用いプレゼンテーションすることができる。 2. 学修した理論に関する疑問、臨床応用についてレポートにまとめ、考察できる。			
20	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	4限	
	担当者	土師			
	テーマ	事例検討①			
	授業内容	1. 実務経験及び文献などから事例を選択することができる。 2. 文献及び諸理論を活用し課題を分析、検討できる。			
21	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	3限	
	担当者	土師			
	テーマ	事例検討②			
	授業内容	1. 実務経験及び文献などから事例を選択することができる。 2. 文献及び諸理論を活用し課題を分析、検討できる。			
22	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	4限	
	担当者	土師			
	テーマ	事例検討③			
	授業内容	同上			
23	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	3限	
	担当者	土師			
	テーマ	プレゼンテーション			
	授業内容	事例検討での検討内容を発表することができる。			

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	ガイダンス		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論① Freud,S., Erikson,E. 自我の発達		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論② Piaget,J.認知発達理論		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論③ Piaget,J.認知発達理論		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論④ Bowlby,J.愛着理論		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論⑤ Bowlby,J.愛着理論		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論⑥ Mahler,M.分離固体化理論		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論⑦ Mahler,M.分離固体化理論		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論⑧ Vygodskiy,L.S 発達理論		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論⑨ Vygodskiy,L.S 発達理論		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護と諸理論⑩ その他の理論		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族の発達と諸理論① 家族発達理論		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族の発達と諸理論② 家族システム理論		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族の発達と諸理論③ 家族ストレス対処理論		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル① Freedman,MM.		

16	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル② Freedman,MM.		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル③ Wright,LM.		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル④ Wright,LM.		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	子どもの家族アセスメントモデル⑤ その他の理論		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	事例検討①		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	事例検討②		
22	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	事例検討③		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	プレゼンテーション		

評価方法	プレゼンテーション40%、ディスカッションと課題レポート60%で総合的に評価します
教科書	1. Santrock. J. W. (2023). Life-Span Development(19th ed.) McGraw-Hill Education. 2. Robinson. M., Coehlo. D. P., & Smith. P. S. (2022). Family Health Care Nursing, Theory, Practice, and Research (7th ed.). F. A. Davis.
参考書	1. Zeanah, Jr. CH.(2019). Handbook of Infant Mental Health(4th ed.) The Guildford Press. 2. 山崎あけみ、原礼子. 家族看護学改訂第3版 臨床場面と事例から考える. 南江堂. 2022 3. 野川道子、桑原ゆみ、神田直樹. 実践に活かす 中範囲理論. 第3版. メヂカルフレンド社. 2023 4. American Psychiatric Association(日本精神神経学会監修). DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院. 2023
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～土曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。E-mail：hashi_s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	関連文献及び資料から情報収集し、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して自主的に学びを深める。

講義名	小児看護学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師 しのぶ・藤村 博恵・大野 美佐子・永吉 美智枝・玉田 聡史・加藤 たかこ
科目の目標	小児を取り巻く社会、保健、医療、福祉、教育等の現状と課題、さまざまな場における小児看護の実践と課題を理解し、課題解決に向けた高度実践看護師の役割について考察するとともに、多職種協働における高度実践看護師の専門性について探求する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	3限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	ガイダンス		
	授業内容	小児看護学特論Ⅱでの学修内容について理解できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	4限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	子ども観の変遷と子どもの倫理		
	授業内容	1.子ども観の変遷と児童の権利に関する条約について理解することができる。 2.小児看護における子どもの倫理について理解することができる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	3限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児看護のFamily Centered Care		
	授業内容	病気や障がいを抱える子どもと家族の思いを理解し、小児看護実践におけるFamily Centered Careの現状と課題について考察する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	4限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	子どもを取り巻く保健・医療の現状と課題①国外の課題		
	授業内容	国外の子どもの保健医療の課題を見出し、考察する。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	3限

担当者	土師しのぶ			
テーマ	子どもを取り巻く保健・医療の現状と課題②国内の課題			
授業内容	国内の子どもの保健医療の課題を見出し、考察する。			
6	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	4限
	担当者	藤村博恵		
	テーマ	リプロダクティブヘルス・ライツ(性と生殖に関する健康と権利)と性・生殖に関する健康課題		
	授業内容	リプロダクティブヘルスの中心概念の理解のため、性・生殖に関する健康課題（不妊、更年期障害等）など、現代女性が抱える健康課題について考察する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	3限
	担当者	藤村博恵		
	テーマ	リプロダクティブヘルス・ライツ(性と生殖に関する健康と権利)と性・生殖に関する健康課題		
	授業内容	リプロダクティブヘルスの中心概念の理解のため、性・生殖に関する健康課題（不妊、更年期障害等）など、現代女性が抱える健康課題について考察する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	4限
	担当者	永吉美智枝		
	テーマ	小児がんの子どもと家族への看護①		
	授業内容	小児がんをもつ子どもと家族への長期フォローアップについて学び、実践の課題と解決に向けた方略について探究する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	3限
	担当者	永吉美智枝		
	テーマ	小児がんの子どもと家族への看護②		
	授業内容	小児がんをもつ子どもと家族への長期フォローアップについて学び、実践の課題と解決に向けた方略について探究する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	4限
	担当者	玉田聡史		
	テーマ	地域で暮らす障害をもつ子どもと家族への看護実践と課題①		
	授業内容	地域で暮らす障がいをもつ子どもへの看護実践の実際について理解し、病院から地域への連携と地域実での実践における課題と解決に向けた方略について考察する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	3限
	担当者	玉田聡史		
	テーマ	地域で暮らす障害をもつ子どもと家族への看護実践と課題②		
	授業内容	地域で暮らす障がいをもつ子どもへの看護実践の実際について理解し、病院から地域への連携と地域実での実践における課題と解決に向けた方略について考察する。		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	4限
	担当者	加藤たかこ		
	テーマ	市町村における母子保健の実践と課題①		
	授業内容	市町村における母子保健の実践について理解し、実践の課題と解決に向けた方略について考察することができる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	3限
	担当者	加藤たかこ		
	テーマ	市町村における母子保健の実践と課題②		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	4限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	子どもの意思決定支援と看護師の倫理的苦悩		
	授業内容	子どもの意思決定支援を支える方法と、支援する看護師の苦悩について学び、臨床事例と対比させながら考察する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	3限
	担当者	土師しのぶ		

テーマ	子どもの意思決定支援と看護師の倫理的苦悩
授業内容	子どもの意思決定支援を支える方法と、支援する看護師の苦悩について学び、臨床事例と対比させながら考察する。

16	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	4限
	担当者	大野美佐子		
	テーマ	病や障がいを抱えた子どもと家族への心理的ケア①		
	授業内容	1. 疾患や障がいにより心理的危機に陥った対象への支援について考察する。		
17	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	3限
	担当者	大野美佐子		
	テーマ	病や障がいを抱えた子どもと家族への心理的ケア②		
	授業内容	1. 疾患や障がいにより心理的危機に陥った対象への支援について考察する。		
18	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	4限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動①		
	授業内容	小児看護における専門看護師、特定（診療）看護師の専門性について理解し、その看護実践の現状と課題について理解することができる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	3限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動②		
	授業内容	小児看護における専門看護師、特定（診療）看護師の専門性について理解し、その看護実践の現状と課題について理解することができる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	4限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	Advanced Nursing Practiceに関する展望①		
	授業内容	国内外のAdvanced Nursing Practiceについて理解を深め、日本における発展と対比しながら、今後のAdvanced Nursing Practiceを展望する。		
21	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	3限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	Advanced Nursing Practiceに関する展望②		
	授業内容	国内外のAdvanced Nursing Practiceについて理解を深め、日本における発展と対比しながら、今後のAdvanced Nursing Practiceを展望する。		
22	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	4限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	Advanced Nursing Practiceに関する展望③		
	授業内容	国内外のAdvanced Nursing Practiceについて理解を深め、日本における発展と対比しながら、今後のAdvanced Nursing Practiceを展望する。		
23	年月日(曜日)	令和 8年12月28日(月)	時限	3限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	講義で学習した内容を検討し、まとめる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	6限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	ガイダンス		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	7限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	子ども観の変遷と子どもの倫理		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	6限

担当者	土師しのぶ			
テーマ	子どもを取り巻く保健・医療の現状と課題①国内の課題			
4	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	7限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	子どもを取り巻く保健・医療の現状と課題②国外の課題		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	6限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	新生児集中治療室（NICU）における実践と課題①		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	7限
	担当者	藤村博恵		
	テーマ	新生児集中治療室（NICU）における実践と課題②		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	6限
	担当者	藤村博恵		
	テーマ	小児救急（PICU、ER）における実践と課題①		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	7限
	担当者	永吉美智枝		
	テーマ	小児救急（PICU、ER）における実践と課題②		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	6限
	担当者	永吉美智枝		
	テーマ	小児在宅における実践と課題①		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	7限
	担当者	玉田聡史		
	テーマ	小児在宅における実践と課題②		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	6限
	担当者	玉田聡史		
	テーマ	市町村における母子保健の実践と課題①		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	7限
	担当者	加藤たかこ		
	テーマ	市町村における母子保健の実践と課題②		
13	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	6限
	担当者	加藤たかこ		
	テーマ	小児医療における多職種連携の実際と課題① （Hospital Play Specialistとの連携）		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	7限
	担当者	加藤たかこ		
	テーマ	小児医療における多職種連携の実際と課題② （理学療法士・作業療法士との連携）		
15	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	6限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児医療における多職種連携の実際と課題③ （小児アレルギー・エデュケーター: PAEとの連携）		
16	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	7限
	担当者	大野美佐子		
	テーマ	小児医療における多職種連携の実際と課題④ （院内学級教員との連携）		
17	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	6限
	担当者	大野美佐子		
	テーマ	Family Centered Careの視点からの検討（親の立場から）		

18	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	7限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動①		
19	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	6限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動②		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	7限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動③		
21	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	6限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動④		
22	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	7限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	小児専門看護師の活動⑤		
23	年月日(曜日)	令和 8年12月28日(月)	時限	6限
	担当者	土師しのぶ		
	テーマ	まとめ		

評価方法	プレゼンテーション40%、ディスカッションと課題レポート60%で総合的に評価します。評価が合格基準に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行います。
教科書	資料を配布する。
参考書	随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～土曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。 土師 しのぶ　e-mail：hashi_s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業前日にはテーマについて調べておいてください。授業後は各自で学習内容を確認し、テーマについて学習を深めることに心がけてください。

講義名	小児看護学演習 I		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師しのぶ
科目の目標	国内外の文献講読と学会参加を通して小児看護学領域に関する研究の動向と研究方法に関する知識を深めるとともに各自の研究テーマを明確にしていく。また、研究テーマに関連した文献検討を行い、研究概念の枠組みを明確にし、研究計画書を作成する。
学習の具体的な目標	1. Academic writingの基本原則を習得し、論理的かつ客観的なレポートや研究論文を作成することができる。 2. 看護研究とEvidence-Based Practice (EBP)の基本概念と重要性を説明できる。 3. 小児の臨床看護を例に、小児看護の実践に生きるエビデンスとは何かを概説することができる。 4. 看護研究論文のクリティークの手法を学び、自身のリサーチクエスチョンに関連したエビデンスレベルの高い研究論文を選択・評価する視点とスキルをも身につける。 5. 看護研究の様々な研究手法を学び、 各特徴と適用について概説できる。 6. 自身のリサーチクエスチョンに基づき、倫理的配慮を含めた看護研究を立案、実施できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	ガイダンス、Academic Writingについて学ぶ		
	授業内容	1. 小児看護学演習 I の到達目標、内容、方法、評価、日程について確認し、演習の進め方が理解できる。 2. アカデミックライティングについて学び、学際的なレポート、学術論文の書き方を学ぶ。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	看護研究とEvidence-Based Practiceの基礎①		
	授業内容	共通科目で学んだ看護研究方法論を想起し、小児看護実践に示唆を与えるEBNを考察する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	看護研究とEvidence-Based Practiceの基礎②		
	授業内容	量的、質的研究の基礎概念と方法を学ぶ。		

4	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	看護研究とEvidence-Based Practiceの基礎③		
	授業内容	看護のEvidenceを生み出すための研究の概念化と計画		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	看護研究とEvidence-Based Practiceの基礎④		
	授業内容	研究課題、リサーチクエスチョンと仮説の検討		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	看護研究とEvidence-Based Practiceの基礎⑤		
	授業内容	Theoritical Frameworksへの理解を深める。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	看護研究とEvidence-Based Practiceの基礎⑥		
	授業内容	看護研究のプランニングと看護研究における倫理		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	看護のEvidenceを生み出すための研究デザインと量的研究の実施①		
	授業内容	量的研究デザインを学ぶ。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	看護のEvidenceを生み出すための研究デザインと量的研究の実施②		
	授業内容	量的研究デザインについて学ぶ		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	2限
	担当者	藤村		
	テーマ	看護のEvidenceを生み出すための研究デザインと質的研究の実施③		
	授業内容	質的・帰納的分析について学ぶ		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	1限
	担当者	藤村		
	テーマ	看護のEvidenceを生み出すための研究デザインと質的研究の実施④		
	授業内容	質的・帰納的分析について学ぶ		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	看護のEvidenceを生み出すための研究デザインと実施⑤		
	授業内容	Mixed methods studyの基本を学ぶ		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	看護のエビデンスため方略：Systematic reviews and Meta analysis		
	授業内容	Systematic reviews, meta analysisについて学び、関心のある現象に関連する研究論文を探すことができる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー①		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	1限

担当者	土師			
テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー②			
授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。			
16	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー③		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー④		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑤		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑥		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑦		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑧		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
22	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑨		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑩		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
24	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑪		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
25	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑫		
	授業内容	文献クリティーク方法を学修し、関心のある現象に関連する研究論文を読むことができる。		
26	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定①		

授業内容	文献レビューの内容をまとめ、研究課題を決定することができる。			
27	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定②		
	授業内容	文献レビューの内容をまとめ、研究課題を決定することができる。		
28	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定③		
	授業内容	文献レビューの内容をまとめ、研究課題を決定することができる。		
29	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定④		
	授業内容	他大学の小児領域の研究者とリサーチクエスチョンについてディスカッションし、示唆を得る。		
30	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定⑤		
	授業内容	他大学の小児領域の研究者とリサーチクエスチョンについてディスカッションし、示唆を得る。		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成①		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成②		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
33	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成③		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
34	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成④		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
35	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成⑤		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
36	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成⑥		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
37	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成①		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
38	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	2限

担当者	土師			
テーマ	倫理審査書類の作成②			
授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。			
39	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成③		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
40	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成④		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
41	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成⑤		
	授業内容	指導を受けながら、研究計画書及び倫理審査書類を作成することができる。		
42	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加①		
	授業内容	自分の研究テーマが研究されている学会に参加し、抄録作成と発表に活用することができる。		
43	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加②		
	授業内容	自分の研究テーマが研究されている学会に参加し、抄録作成と発表に活用することができる。		
44	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	2限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加③		
	授業内容	自分の研究テーマが研究されている学会に参加し、抄録作成と発表に活用することができる。		
45	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	1限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加④		
	授業内容	自分の研究テーマが研究されている学会に参加し、抄録作成と発表に活用することができる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	ガイダンス		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討①		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討②		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討③		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限

担当者	土師			
テーマ	研究課題の検討④			
6	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討⑤		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討⑥		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討⑦		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討⑧		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討⑨		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の検討⑩		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー①		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー②		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー③		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー④		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑤		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑥		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑦		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑧		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	7限
	担当者	土師		

テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑨			
21	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑩		
22	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑪		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑫		
24	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑬		
25	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	小児看護領域の国内外の文献レビュー⑭		
26	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定①		
27	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定②		
28	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定③		
29	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定④		
30	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究課題の決定⑤		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成①		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成②		
33	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成③		
34	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成④		
35	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成⑤		

36	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究計画書の作成⑥		
37	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成①		
38	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成②		
39	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成③		
40	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成④		
41	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	倫理審査書類の作成⑤		
42	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加①		
43	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加②		
44	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加③		
45	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	学会参加と研究会参加④		

評価方法	プレゼンテーション40%、ディスカッションと課題レポート60%で総合的に評価します。評価が合格基準に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行います。
教科書	1. ポーリット & ベック 看護研究 第3版. D. F. ポーリット, C. T. ベック. 医学書院. 2025.
参考書	開講時提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～土曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。 土師 しのぶe-mail: hashi_s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業前日にはテーマについて調べておいてください。授業後は各自で学習内容を確認し、テーマについて学習を深めることに心がけてください。

講義名	小児看護学演習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師しのぶ
科目の目標	小児看護学の専門性を高め、子どもと家族への看護の向上に寄与するための研究論文の作成と発表手法について学修する。具体的には各自の研究課題を基盤に、ディスカッションを通して、研究のプロセスを具体化していく。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	ガイダンス		
	授業内容	小児看護学演習Ⅱの到達目標、内容、方法、評価、日程について確認し、授業の進め方が理解できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化①		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化②		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化③		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		

5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化④		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑤		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑥		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑦		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑧		
	授業内容	1.研究データの収集方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの収集方法を具体化できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化①		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化②		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化③		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化④		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑤		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		

15	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑥		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑦		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑧		
	授業内容	1.研究データの分析方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究データの分析方法を具体化できる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化①		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化②		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化③		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化④		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
22	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑤		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑥		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
24	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑦		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		

25	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑧		
	授業内容	1.論文構成と書き方について理解できる。 2.各自の研究課題の論文構成を具体化できる。		
26	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化①		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
27	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化②		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
28	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化③		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
29	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化④		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
30	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑤		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑥		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑦		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
33	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑧		
	授業内容	1.研究発表の方法について理解できる。 2.各自の研究課題の研究発表方法を具体化できる。		
34	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化①		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
35	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	3限

担当者	土師
テーマ	学会発表と論文投稿の具体化②
授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。

36	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化③		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
37	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化④		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
38	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑤		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
39	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑥		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
40	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑦		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
41	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑧		
	授業内容	各自の作成した論文の学会発表と論文投稿の具体化を図ることができる。		
42	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化①		
	授業内容	各自の作成した論文を振り返り、今後の研究の方向性を明らかにすることができる。		
43	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化②		
	授業内容	各自の作成した論文を振り返り、今後の研究の方向性を明らかにすることができる。		
44	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	4限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化③		
	授業内容	各自の作成した論文を振り返り、今後の研究の方向性を明らかにすることができる。		
45	年月日(曜日)	令和 8年11月23日(月)	時限	3限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化④		
	授業内容	各自の作成した論文を振り返り、今後の研究の方向性を明らかにすることができる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限

担当者	土師			
テーマ	ガイダンス			
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化①		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化②		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化③		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化④		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑤		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑥		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑦		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ収集方法の具体化⑧		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化①		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化②		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化③		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化④		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑤		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑥		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	7限
	担当者	土師		

テーマ	研究データ分析方法の具体化⑦			
17	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究データ分析方法の具体化⑧		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化①		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化②		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化③		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化④		
22	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑤		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑥		
24	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑦		
25	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	論文構成の具体化⑧		
26	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化①		
27	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化②		
28	年月日(曜日)	令和 8年07月20日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化③		
29	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化④		
30	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑤		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑥		

32	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑦		
33	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	研究発表の具体化⑧		
34	年月日(曜日)	令和 8年10月12日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化①		
35	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化②		
36	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化③		
37	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化④		
38	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑤		
39	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑥		
40	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑦		
41	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	学会発表と論文投稿の具体化⑧		
42	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化①		
43	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化②		
44	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	7限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化③		
45	年月日(曜日)	令和 8年11月23日(月)	時限	6限
	担当者	土師		
	テーマ	今後の研究の具体化④		

評価方法	プレゼンテーション40%、ディスカッションと課題レポート60%で総合的に評価します。評価が合格基準に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行います。
教科書	資料を配布する。
参考書	随時提示する。

連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～土曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。 土師 しのぶe-mail：hashi-s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業前日にはテーマについて調べておいてください。授業後は各自で学習内容を確認し、テーマについて学習を深めることに心がけてください。

講義名	小児看護学実習		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6	時間	270.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	6単位/270時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	1年後期～2年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師しのぶ
科目の目標	小児看護学特論Ⅰ・Ⅱや小児看護学演習Ⅰでの学習を踏まえ、複雑な状況にある子どもの看護を通して、子どもの看護を実践できる能力（実践、コーディネーション、コンサルテーション、教育、研究、倫理的問題への対処）を修得する。実践の場で多職種との連携や調整能力を高め、チーム医療としての小児看護のリーダーシップ機能を修得する。最終的には、実習を通して、自己の実践的な解決すべき課題を探求し、課題研究につなげる。

授業計画表

1	担当者	土師
	授業内容	【実習内容】 ①高度医療を要する子ども（小児心臓疾患など）を受け持ち、医学的管理や治療のもとに行われるケアのあり方を学ぶ。 ②長期的療養を要する子ども（小児がん・慢性疾患・心身障害など）を受け持ち、プライマリーナースとして実施し、小児看護におけるプライマリーナーシングの能力を修得する。さらに、関係する保健・医療・福祉・教育の専門職との調整や協働について学ぶ。 ③高度医療の実践される病院における入院中の子どもの倫理的問題状況を判断し、自己の倫理観を明確にする。さらに、実践現場における倫理的教育について学ぶ。 ④慢性疾患や障害のある子どもが地域で生活する上での、セルフケアと異常の早期発見ができるように子どもと家族への指導を学ぶ。 ⑤小児専門看護師もしくはそれに相当する指導者のスーパービジョンを受けながら、小児看護におけるスペシャリストの実際的な役割を明確にする。 ⑥小児医療チームの看護職の研究活動に参加し、看護の向上のための実践現場に看護的アプローチを学び、各実践事例のレポートをまとめる。 【実習施設】 ①埼玉医科大学国際医療センター 小児病棟（循環器　悪性新生物）45時間1コマ ②埼玉医科大学病院小児外来、又は埼玉医科大学総合医療センターPICU　45時間1コマ ③埼玉医科大学総合医療センターNICU　45時間1コマ ④カルガモの家　45時間1コマ ⑤埼玉医科大学総合医療センター、又はカルガモの家訪問看護ステーション　45時間1コマ ⑥埼玉県特別支援学校　45時間1コマ

評価方法	科目終了時に、課題レポート、実習態度（取り組み姿勢、出席状況）などで総合的に評価します。評価が合格基準に満たなかった場合は、追加実習を行い再評価します。
教科書	適宜提示する。
参考書	随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～土曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。 土師 しのぶ　e-mail：hashi_s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	実習前は授業資料で予習を行い、実習終了後は学習内容の見直しを行うこと。 ①小児看護学実習は、1年後期より2年後期にかけて小児看護学特論Ⅱ、演習Ⅰ、Ⅱと併行して実施する。特論や演習で見出した自己の小児看護学上の課題にそって実習計画を立案する。実習期間、実習回数、実習施設は目的によって、そのつど決定する。 ②実習目標は、自己の課題と小児看護学領域の実習目標・実習内容を元に、高度実践領域の目標が達成できるようにし、それらを基盤として実習の具体的計画を立てる。 ③実習にあたっては実習計画書を作成し、実習施設と協議し、協力を得て行う。実習指導は担当教員および臨床指導者（小児専門看護師あるいはそれに準じた活動を行っている看護師）の指導を受けながら主体的に行う。 ④実習内容は、子どもの看護を実践できる能力獲得を目指し、実践、コーディネーション、コンサルテーション、教育、研究、倫理的問題への対処などの能力育成を目指すものであることとする。

講義名	小児看護学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	8	時間	240.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/240時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師しのぶ
科目の目標	看護研究方法論、小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ及び小児看護学演習Ⅰ・Ⅱでの学修を基盤とし、小児看護学及び母子保健に関する自己の研究課題を設定し研究を進める。研究は、研究計画から修士論文作成まで、主体的に進める。

授業計画表

1	担当者	土師
	授業内容	①1-30回（4-6月末）：倫理審査申請書、研究計画書、調査書等を作成し、倫理審査を受ける。 ②31-60回（7-9月末）：調査準備を行いデータ収集する。 ③61-90回（10月）：収集したデータを集計し分析する。 ④91-105回（11月）：分析結果の解釈と考察を行い、論文を作成する。 ⑤106-120回：論文を完成させる。 【論文審査に関するスケジュール：研究発表（プレゼンテーション）と論文審査】 ①研究報告会（12月）に参加・発表し、教員、学生より意見を聞く機会をもち、その後、必要な修正･加筆をして1月上旬までに研究論文を提出する。 ②1月中旬に論文審査を受ける。その後、必要時、修正･加筆を行なって期限に再提出する。 ③2月上旬に論文最終審査を受ける。 ④2月下旬に審査結果を受け取る（審査結果発表）。

評価方法	論文審査において、研究の計画性、文献検索と文献理解度、研究への取り組み姿勢、研究論文の成果及び発表会における発表内容をもとに統合的に評価します。
教科書	資料を配布する。
参考書	随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～土曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取って下さい。 土師 しのぶe-mail：hashi_s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	毎回、課題の事前準備を行い、終了後は見直しを行っておくこと。 ＊研究の目的は、小児看護におけるケアの質向上のためであり、自己の研究課題解決に向けて、特論、演習を通しての学修をもとに課題にそった研究方法を用いて研究し、小児看護に貢献しうる研究をめざすものとする。 ＊研究は、担当教員の指導を受けながら行うこと。また、研究期間内に、積極的に学会参加をするとともに、小児看護学領域専攻の学生間での議論を行い、学生間の学びを共有する機会をもつ。 ＊2年次の特別研究に向けて1年次より以下の準備を行う。 ①入学時に、自己の現在の研究課題について報告し、教員および学生間で互いの問題意識を共有する。 ②1年次の11月頃までに、教員の個別指導を受けながら研究テーマを絞り込む。 ③2年次4月頃に研究計画書報告会（公開）に参加・発表し、教員、学生より広く意見を聴取する機会をもち、研究テーマを再検討する。

講義名	小児看護学課題研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	4	時間	120.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	4単位/120時間		
必修・選択	専門科目/小児看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 土師　しのぶ	看護学科教員

担当教員	土師しのぶ
科目の目標	看護研究方法論、小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ及び小児看護学演習Ⅰ・Ⅱの学修を基盤とし、小児看護及び母子保健における各自の問題を設定し、研究をすすめる。課題研究においては、実践に即した課題を取り上げ、実践の場の具体的問題解決に焦点をあてて研究する。

授業計画表

1	担当者	土師
	授業内容	①1-30回（4-6月末）：倫理審査申請書、研究計画書、調査書等を作成し、倫理審査を受ける。 ②31-60回（7-9月末）：調査準備を行いデータ収集する。 ③61-90回（10月）：収集したデータを集計し分析する。 ④91-105回（11月）：分析結果の解釈と考察を行い、論文を作成する。 ⑤106-120回：論文を完成させる。 【論文審査に関するスケジュール：研究発表（プレゼンテーション）と論文審査】 ①研究報告会（12月）に参加・発表し、教員、学生より意見を聞く機会をもち、その後、必要な修正･加筆をして1月上旬までに研究論文を提出する。 ②1月中旬に論文審査を受ける。その後、必要時、修正･加筆を行なって期限に再提出する。 ③2月上旬に論文最終審査を受ける。 ④2月下旬に審査結果を受け取る（審査結果発表）。

評価方法	論文審査において、研究の計画性、文献検索と文献理解度、研究への取り組み姿勢、研究論文の成果及び発表会における発表内容をもとに総合的に評価します。
教科書	資料を配布する。
参考書	随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	オフィスアワーは月～金曜日の9：00～18：00。 面談希望者はメール等でアポイントメントを取ってください。 土師 しのぶe-mail：hashi_s@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	毎回、課題の事前準備を行い、終了後は見直しを行っておくこと。 ＊研究の目的は、小児看護におけるケアの質向上のためであり、自己の研究課題解決に向けて、特論、演習を通しての学修をもとに課題にそった研究方法を用いて研究する。とくに課題研究においては、実践現場における課題をテーマとして研究し、看護実践現場に活用でき、かつ貢献できる研究をめざすこととする。研究フィールドは自己の課題研究の目的にそった適切な選択をして決定し、施設の承諾を得て行う。 ＊研究は、担当教員の指導を受けながら行うこと。また、研究期間内に、積極的に学会参加をするとともに、小児看護学領域専攻の学生間での議論を行い、学生間の学びを共有する機会をもつ。 ＊2年次の課題研究に向けて1年次より以下の準備を行う。 ①入学時に、自己の現在の研究課題について報告し、教員および学生間で互いの問題意識を共有する。 ②1年次11月頃までに教員の個別指導を受けながら研究テーマを絞り込む。 ③2年次4月頃に研究計画書報告会（公開）に参加・発表し、教員、学生より広く意見を聴取する機会をもち、研究テーマを再検討する。

講義名	精神保健看護学特論Ⅰ（歴史・法制度）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子
科目の目標	国内外の精神保健医療福祉の歴史とその背景、我が国の精神保健医療福祉に関わる法制度などの学習を通じて、今日の精神保健医療福祉が抱える課題と、それに関わる高度実践看護師の役割について考える。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	海外の精神保健医療福祉の歴史とその背景		
	授業内容	①海外の精神保健医療福祉の歴史とその背景を理解する。 ②北欧に代表される福祉国家における社会制度や法体制と精神保健医療福祉のあり方（スウェーデンのサムハル、デンマークの福祉的就労支援など）、その他の欧米諸国の文化や社会体制と精神保健医療福祉のあり方（行動制限、看護体制など）との関連を理解する。 ③スウェーデン、デンマークなどの福祉国家における法制度を1つ選んで事前学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	日本の精神保健医療福祉の歴史とその背景		
	授業内容	①日本の精神保健医療福祉の歴史とその背景を理解する。 ②私宅監置からの解放と入院偏重、病院改革と精神科看護、精神病床数の飛躍的増大、人権擁護とノーマライゼーションへの流れ、長期入院患者の地域移行の動き、診療報酬改定等に加え、社会病理、触法精神障害者の問題等について理解する。 ③人権擁護とノーマライゼーションへの流れ、長期入院患者の地域移行の動き、のいずれかを選んで事前学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して理解を深める。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	4限

担当者	大賀			
テーマ	〃			
授業内容	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月01日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	我が国の精神保健医療福祉に関わる法制度		
	授業内容	①精神保健医療に関わる法制度の変遷を理解する。精神衛生法改正による脱施設化・地域ケアへの転換、精神保健法成立による患者の人権への配慮、精神保健福祉法への改正による精神障害者の社会復帰などの強化、などについて歴史的背景を踏まえて理解する。さらに、精神保健福祉法の見直しの内容（保護者制度、精神医療審査会など）とその背景について理解する。 ②障害者自立支援法成立の経過、障害者総合支援法への移行とサービス等の内容について理解する。 ③精神保健医療福祉に関連するその他の法律（医療観察保護法、犯罪被害者等基本法、自殺対策基本法など）について理解する。 ④医療観察保護法、犯罪被害者等基本法、自殺対策基本法、のうち1つを選んで事前学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して理解を深める。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月01日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神障害者の地域支援体制		
	授業内容	①5・6回で学んだ法制度に関する知識をふまえ、精神障害者の地域支援のための基礎的知識として、精神保健医療福祉施策の動向、精神障害者の地域支援ネットワーク（行政組織、民間団体など）、精神障害者のケアマネジメント（特に、包括的地域生活支援プログラム）、精神保健医療の経済の仕組み（保険制度、診療報酬など）等について理解する。 ②精神障害者の地域支援ネットワーク、ケアマネジメントの事例を用いてディスカッションを行い、精神障害者の地域支援についての理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神保健福祉システムと看護師の役割		
	授業内容	①7・8回で学んだ精神障害者の地域支援のための基礎的知識をふまえ、福祉ホーム、地域活動支援センター、自立支援施設、グループホーム等におけるサービスの内容や特徴、活動の実際などについて理解するとともに、看護者の役割について理解する。 ②地域活動支援センター、自立支援施設における看護者の役割に関する実践例を用いてディスカッションを行い、看護者の役割についての理解を深める。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神障害者・家族のサポートシステム		
	授業内容	①精神障害者の家族がおかれた状況や精神保健的問題（Expressed Emotion、イネイブリング、セルフスティグマなど）とともに、それぞれの状況・問題に応じた家族支援のあり方について理解する。 ②当事者や家族によるセルフヘルプグループの歴史的発展、援助機能、社会的機能について理解する。さらに、当事者や家族によるセルフヘルプグループと医療機関や行政との連携、セルフヘルプグループ活動支援について理解する。 ③Expressed Emotion、イネイブリング、セルフスティグマ、のうち1つを選んで事前学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して理解を深める。		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		

テーマ	〃			
授業内容	〃			
13	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	2限
	担当者	大賀		
	テーマ	我が国の精神保健医療福祉の課題と展望		
	授業内容	①これまでの学習をふまえ、我が国の精神保健医療福祉の今日的課題（存続する社会的入院、行動制限、精神障害者の就労、依存症治療など）とそれに関わる制度や体制について理解する。 ②社会的入院、行動制限、精神障害者の就労、のうち1つを選んで事前学習を行い、今後の展望を含めたプレゼンテーションとディスカッションを通して考えを深める。		
14	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	精神保健医療福祉における高度実践看護師の役割		
	授業内容	①1～14回の学びをふまえ、精神障害者の地域支援、精神障害者をもつ家族への支援のいずれかを選び、高度実践看護師の役割についての自らの考えを発表し、ディスカッションを通して考えを深める。 ②精神保健医療福祉における高度実践看護師の役割について、自らの考えをレポートにまとめる		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	海外の精神保健医療福祉の歴史とその背景		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	日本の精神保健医療福祉の歴史とその背景		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月01日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	我が国の精神保健医療福祉に関わる法制度		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月01日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神障害者の地域支援体制		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神保健福祉システムと看護師の役割		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	7限

担当者	大澤			
テーマ	〃			
11	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神障害者・家族のサポートシステム		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	我が国の精神保健医療福祉の課題と展望		
14	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	精神保健医療福祉における高度実践看護師の役割		

評価方法	講義・ディスカッションへの取り組み姿勢（50%）、プレゼンテーション（30%）、およびレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	講義の際に提示する。 別途資料： ①精神保健ケアに関する法：基本10原則 ②精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ③障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・事前学習・プレゼンテーションが必要な回は、テーマを確認して準備を行い、講義に臨むこと。 ・講義後は、各テーマに関連する諸文献を読み、さらに理解を深めること。

講義名	精神保健看護学特論Ⅱ（精神・身体状態の評価）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子・松尾　幸治・庄野　伸幸・野村　智美
科目の目標	メンタルヘルス・イグザミネーションを基礎知識として、精神的諸問題を持つ人の精神・身体状態を評価するために必要な理論と技術を修得し、対象者の精神・身体状態を適切にアセスメントできる能力を修得する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	3限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	メンタルヘルス・イグザミネーション1		
	授業内容	①メンタルヘルス・イグザミネーション（MSE）について理解し、精神看護において対象の精神状態をアセスメントする際の枠組みとなることの意義と有用性について理解する。 ②対象の精神状態をアセスメントする視点（外観、運動性行動、気分、話し方、知覚、思考内容と過程、認識、知識と知能、判断力、病識）を理解し、各視点におけるアセスメントのポイントを理解する。 ③精神機能と精神症状に関する事前学習を行い、プレゼンテーションを行って助言を受け、理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	4限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年06月12日(金)	時限	3限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	メンタルヘルス・イグザミネーション2		
	授業内容			

①メンタルヘルス・イグザミネーション（MSE）について理解し、精神看護において対象の精神状態をアセスメントする際の枠組みとなることの意義と有用性について理解する。
②対象の精神状態をアセスメントする視点（外観、運動性行動、気分、話し方、知覚、思考内容と過程、認識、知識と知能、判断力、病識）を理解し、各視点におけるアセスメントのポイントを理解する。
③精神機能と精神症状に関する事前学習を行い、プレゼンテーションを行って助言を受け、理解を深める。

4	年月日(曜日)	令和 8年06月12日(金)	時限	4限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	精神力動的アセスメント		
	授業内容	①精神分析論、特に精神力動や防衛機制について理解し、精神看護において対象の健康生活状態をアセスメントする際の枠組みとすることの意義と有用性について理解する。 ②代表的な防衛機制（抑圧、否認、反動形成、退行、取り入れ、同一化、置き換え、投影など）を理解するとともに、防衛機制が患者-看護師関係においても用いられることを理解する。 ③日常生活や臨床現場での事例を用いて、防衛機制の現れ方や当事者および周囲への影響についてディスカッションを行い、精神力動的アセスメントについての理解を深め、レポートにまとめる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月26日(金)	時限	3限
	担当者	庄野		
	テーマ	精神科臨床検査		
	授業内容	①精神科領域における臨床検査、特に心理検査の種類と概要、実施上の注意、およびチーム医療における心理検査の結果の活用について理解する。 ②代表的な性格検査（MMPIなどの質問紙法、ロールシャッハテストなどの投影法、内田クレペリン検査などの作業検査法）について、臨床における位置づけを理解する。 ③自らを対象として、MMPI、CMIなどの性格検査を実施し、評価の方法と結果の解釈について担当教員（臨床心理士）の指導を受けて、精神科臨床検査についての理解を深め、レポートにまとめる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月26日(金)	時限	4限
	担当者	庄野		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	3限
	担当者	松尾		
	テーマ	精神科診断学1		
	授業内容	①精神障害の古典的診断分類から今日にいたる診断構造の基礎を理解し、DSM-5とICD-10の操作的記述診断の意義と課題、カテゴリー分類について理解する。 ②精神医学的診断に連動した対象の精神の健康状態の評価、精神機能の全体的評価（GAF）について理解する。 ③精神的諸問題をもつ事例について、精神の健康状態の評価、精神機能の全体的評価（GAF）を行い、担当教員（医師）の指導を受けて、アセスメントを行う能力を養う。		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	4限
	担当者	松尾		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	3限
	担当者	松尾		
	テーマ	精神科診断学2		
	授業内容			

①精神障害の古典的診断分類から今日にいたる診断構造の基礎を理解し、DSM-5とICD-10の操作的記述診断の意義と課題、カテゴリー分類について理解する。
②精神医学的診断に連動した対象の精神の健康状態の評価、精神機能の全体的評価（GAF）について理解する。
③精神的諸問題をもつ事例について、精神の健康状態の評価、精神機能の全体的評価（GAF）を行い、担当教員（医師）の指導を受けて、アセスメントを行う能力を養う。

12	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	4限
	担当者	松尾		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	2限
	担当者	大賀		
	テーマ	社会生活能力の評価		
	授業内容	①1～12回で学んだ評価に加え、精神的諸問題を持つ人を全人的に理解するために、社会生活能力を評価することの意義を理解する。 ②社会生活能力の評価指標であるWHODAS2.0（World Health Organization Disability Assessment Schedule 2.0）、精神障害者社会生活評価尺度（Life Assessment Scale for the Mentally Ill：LASMI）などの尺度の特徴、評価の活用について理解する。 ③精神的諸問題をもつ事例について、WHODAS2.0、LASMIを用い、社会生活能力の評価を行い、担当教員の指導を受けて、アセスメントを行う能力を養う。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	紙上事例についての総合的評価		
	授業内容	①1～14回で学んだ評価に関する知識を用いて、紙上事例の精神・身体状態および社会生活能力について総合的な評価を行い、プレゼンテーションとディスカッションを行って、理解を深める。 ②プレゼンテーションおよびディスカッションで得た学びをレポートにまとめる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	6限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	メンタルヘルス・イグザミネーション1		
2	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	7限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年06月12日(金)	時限	6限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	メンタルヘルス・イグザミネーション2		
4	年月日(曜日)	令和 8年06月12日(金)	時限	7限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	精神力動的アセスメント		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月26日(金)	時限	6限
	担当者	庄野		

テーマ	精神科臨床検査			
8	年月日(曜日)	令和 8年06月26日(金)	時限	7限
	担当者	庄野		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	6限
	担当者	松尾		
	テーマ	精神科診断学1		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	7限
	担当者	松尾		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	6限
	担当者	松尾		
	テーマ	精神科診断学2		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	7限
	担当者	松尾		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	社会生活能力の評価		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	紙上事例についての総合的評価		

評価方法	講義・ディスカッションへの取り組み姿勢（20%）、プレゼンテーション（30%）、およびレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	①宇佐美しおり, 野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会, 2009. ②武藤教志編著：メンタルステータスイグザミネーションVol.2. 精神看護出版,2018.
参考書	①American Psychiatric Association編/高橋三郎, 大野裕監訳：DSM-5精神疾患の分類と診断の手引, 医学書院, 2014. ②World Health Organization編/融道雄ほか翻訳：ICD-10精神および行動の障害ー臨床記述と診断ガイドライン新訂版, 医学書院, 2005.
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・講義で得た評価に関する知識を日常の実践場面で応用し、アセスメントの能力を高めること。 ・精神保健看護学特論Ⅰを履修していること。

講義名	精神保健看護学特論Ⅲ（精神科治療技法1）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・松岡　孝裕・原田　舟・石田　真弓・大久保美香
科目の目標	精神科領域で行われる薬物療法をはじめとする生物学的治療、個人・集団精神療法などの心理学的治療の適応、方法、効果について理解し、各治療法による心身への影響を査定できる能力を修得する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	3限
	担当者	松岡		
	テーマ	精神科領域における治療の概要		
	授業内容	①精神科領域において行われる身体面への治療（精神科薬物療法、電気けいれん療法）、心理面への治療（個人精神療法、集団精神療法、カウンセリング）、社会面への治療および調整（家族療法）の主な方法及び技法について説明できる。 ②それぞれの治療法の作用や期待される効果を踏まえて、様々な疾患、症状への適応について理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	4限
	担当者	松岡		
	テーマ	精神科薬物療法1		
	授業内容	①精神科薬物療法の歴史と概要について理解する。 ②向精神薬の種類、具体的には抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬(抗躁薬)、抗不安薬、睡眠薬の臨床効果および副作用について理解したうえで、薬物療法の効果を評価する方法について理解する。 ③抗精神病薬、抗うつ薬について、作用機序を踏まえた分類と、受容体に対する遮断作用およびその強さについて知り、代表的な薬物の特徴を理解する。 ④一般的に行われている精神運動興奮、幻覚妄想状態およびうつ状態、睡眠障害などの病態に応じた薬物療法の行い方、せん妄状態の人への薬物療法の行い方を理解する。 ⑤上記②～④についての学びをレポートにまとめる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年07月31日(金)	時限	3限
	担当者	松岡		
	テーマ	精神科薬物療法2		
	授業内容			

①精神科薬物療法の歴史と概要について理解する。
②向精神薬の種類、具体的には抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬(抗躁薬)、抗不安薬、睡眠薬の臨床効果および副作用について理解したうえで、薬物療法の効果を評価する方法について理解する。
③抗精神病薬、抗うつ薬について、作用機序を踏まえた分類と、受容体に対する遮断作用およびその強さについて知り、代表的な薬物の特徴を理解する。
④一般的に行われている精神運動興奮、幻覚妄想状態およびうつ状態、睡眠障害などの病態に応じた薬物療法の行い方、せん妄状態の人への薬物療法の行い方を理解する。
⑤上記②～④についての学びをレポートにまとめる。

4	年月日(曜日)	令和 8年07月31日(金)	時限	4限
	担当者	松岡		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	3限
	担当者	原田		
	テーマ	電気けいれん療法		
	授業内容	①電気けいれん療法の歴史的経緯について説明できる。 ②電気けいれん療法の有用性と、方法、適応、効果について理解する。 ③電気けいれん療法の方法と、治療前後、治療中の観察の視点および注意点について理解する。 ④現在主流となっている修正型電気けいれん療法の方法と特徴、観察の視点および注意点について理解する。 ⑤大学院関連病院において、電気けいれん療法を行う患者を対象とし、担当教員(医師)とともにベッドサイドに行き、その一連の過程を見学するベッドサイドラーニングの方法をとり、治療前、治療中、治療後の注意点、観察の視点および治療による患者への身体侵襲とその評価の方法について理解を深め、レポートにまとめる。 ＊担当教員は、患者の承諾を得るなどの倫理的手続きを行う。 ＊学習者はレポートの作成に際し、個人識別情報を記載しないなどの倫理的配慮を行う。		
6	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	4限
	担当者	原田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	2限
	担当者	大久保		
	テーマ	個人精神療法		
	授業内容	①個人精神療法の特徴と目的、および治療構造について理解したうえで、個人精神療法の効果を評価する方法について理解する。 ②個人精神療法の原型とされる精神分析療法の歴史的背景、意義、有用性、方法について理解する。 ③治療導入の方法、頻度、時間、適応、対象者選定の考え方、治療時の留意点などを理解する。観察記述力、関係形成能力、分析介入力について、担当教員（臨床心理士）の提示する事例を通じて理解を深める。 ④事例や担当教員（臨床心理士）の経験を通して、様々な目的、方法、効果について検討し、方法を選択する視点を理解する。 ⑤担当教員（臨床心理士）が行う個人精神療法を参加観察し、進め方の実際や対象者の反応についての学びをレポートにまとめる。 ＊担当教員（臨床心理士）は、学習者が参加観察可能なケースを選び、対象者の承諾を得るなどの倫理的手続きを行う。 ＊学習者はレポートの作成に際し、個人識別情報を記載しないなどの倫理的配慮を行う。		
8	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	3限
	担当者	大久保		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	4限
	担当者	大久保		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年09月04日(金)	時限	3限
	担当者	石田		
	テーマ	集団精神療法		
	授業内容			

①集団精神療法の意義、有用性および適応について理解する
②集団精神療法の目的、治療構造と、特徴および進め方について理解したうえで、集団精神療法の効果を評価する方法について理解する。
③治療構造においては、その概要とグループの設定、メンバー選定、手法、対象、治療者について理解する。
④様々な技法（力動的集団精神療法、サイコドラマ、SSTなど）があることを理解し、特に治療導入時の留意点や技法については担当教員（臨床心理士）の経験や症例を通して理解を深め、レポートにまとめる。

11	年月日(曜日)	令和 8年09月04日(金)	時限	4限
	担当者	石田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年09月11日(金)	時限	3限
	担当者	大久保		
	テーマ	カウンセリング		
	授業内容	①カウンセリングの理論的背景について理解する。 ②カウンセリングの目的、治療構造と特徴および進め方について理解したうえで、カウンセリングの効果を評価する方法について理解する。 ③カール・ロジャーズのクライエント中心療法の自己一致、無条件の肯定的配慮などをはじめとするカウンセリング技法およびカウンセリングマインドの意義、効果、特徴などについて理解する。 ④マイクロカウンセリング、ブリーフセラピーをはじめとする諸技法の意義、有用性、適応および方法を理解する。 ⑤ブリーフセラピーについては、問題思考アプローチ、解決思考アプローチの二つの立場からのアプローチについて理解する。 ⑥カウンセリング技法のうち1つを選んで、文献や実践例を通して学びを深め、レポートにまとめる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年09月11日(金)	時限	4限
	担当者	大久保		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月18日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	家族療法		
	授業内容	①家族療法の歴史的背景、意義、目的、有用性、適応について理解したうえで、家族療法の効果を評価する方法について理解する。 ②家族発達理論、ベルタランフィの一般システム論、ボウエンの家族システム論など、家族療法を学ぶうえで必要となる基礎的理論について理解する。 ③IP（identified patient）について理解し、家族全体を治療・援助の対象とする必要性について理解する。 ④家族療法の代表的手法（円環的質問技法、リフレーミング技法、パラドックス技法、実演化法など）について、具体的な方法を理解する。 ⑤事例についてのディスカッションを通して、家族療法の目的設定、構造、治療効果の評価について理解を深め、レポートにまとめる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月18日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	6限
	担当者	松岡		
	テーマ	精神科領域における治療の概要		
2	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	7限
	担当者	松岡		
	テーマ	精神科領域における治療の概要		
3	年月日(曜日)	令和 8年07月31日(金)	時限	6限
	担当者	松岡		
	テーマ	精神科薬物療法2		

4	年月日(曜日)	令和 8年07月31日(金)	時限	7限
	担当者	松岡		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	6限
	担当者	原田		
	テーマ	電気けいれん療法		
6	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	7限
	担当者	原田		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	5限
	担当者	大久保		
	テーマ	個人精神療法		
8	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	6限
	担当者	大久保		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	7限
	担当者	大久保		
	テーマ	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年09月04日(金)	時限	6限
	担当者	石田		
	テーマ	集団精神療法		
11	年月日(曜日)	令和 8年09月04日(金)	時限	7限
	担当者	石田		
	テーマ	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年09月11日(金)	時限	6限
	担当者	大久保		
	テーマ	カウンセリング		
13	年月日(曜日)	令和 8年09月11日(金)	時限	7限
	担当者	大久保		
	テーマ	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月18日(金)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	家族療法		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月18日(金)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		

評価方法	講義への取り組み姿勢（30%）、レポート（70%）を総合して評価する。
参考書	①中井久夫：精神科治療の覚書，日本評論社，1982. ②西園昌久：精神療法入門，中山書店，2010. ③吉松和哉/山口隆ほか編：やさしい集団精神療法入門，星和書店，1987. ④平木典子/福島脩美ほか編：カウンセリングプロセスハンドブック，金子書房，2004.
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・各治療技法に関する実践報告などの文献を読み、さらに理解を深めること。 ・精神保健看護学特論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

講義名	精神保健看護学特論Ⅳ（リエゾン精神看護）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子・石田　真弓・大賀　公子・野村　智美
科目の目標	リエゾン精神看護の役割と機能について理解するとともに、リエゾン精神看護の対象となる精神的諸問題に関する専門的な知識と技術を獲得し、それらの問題解決に向けた看護援助を展開できる能力を修得する。さらに、リエゾン精神専門看護師の役割開発の必要性・プロセスを理解し、役割開発の課題について考えを深める。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	3限
	担当者	大賀公		
	テーマ	リエゾン精神看護の歴史、リエゾン精神専門看護師の役割と機能		
	授業内容	①コンサルテーション・リエゾン精神医学、リエゾン精神看護学の発展の歴史について理解する。 ②リエゾン精神看護の目標と機能（直接ケア、面接、リラクセーション、コンサルテーション、看護師のメンタルヘルス支援、教育、臨床研究、連携・調整）について理解する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	4限
	担当者	大賀公		
	テーマ	リエゾン精神専門看護師が行う直接ケアの特徴		
	授業内容	①リエゾン精神専門看護師が行う直接ケアの目的、具体的な動きについて理解する。 ②リエゾン精神専門看護師が直接ケアを行う意義と注意点について理解する。 ③直接ケアで活用される様々なアプローチ（個人精神療法、集団精神療法、認知行動療法など）について、精神保健看護学特論Ⅲ（精神科治療技法1）、精神保健看護学演習Ⅰ（精神科治療技法2）での学習と関連させて、さらに理解を深める。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	身体疾患を持つ患者の精神的問題の診断と治療		
	授業内容			

①リエゾン精神専門看護師が、身体疾患を持つ患者への精神的ケアを行うことの意義と目的を理解する。
②身体疾患を持つ患者の精神的問題、症状について、心身の相関関係の視点から理解する。
③身体疾患を持つ患者の精神的問題の診断プロセスと留意点（表面化している問題と隠れた問題、など）について、精神保健看護学特論Ⅱ（精神・身体状態の評価）での学びをふまえて、さらに理解を深める。
④身体疾患を持つ患者の精神的問題に対する治療（薬物療法、個人精神療法、集団精神療法など）について、精神保健看護学特論Ⅲ（精神科治療技法1）での学びをふまえて、さらに理解を深める。

4	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	3限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	不安の強い患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①不安の強い患者を理解するために必要な知識（不安の分類、鑑別診断のポイント、不安のレベルとその特徴、不安への対処など）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて，アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②不安の強い患者へのケアのポイント（不安のレベルに合わせた対応、患者の自我機能を補強するための介入方法の調整など）を理解する。 ③不安の強い患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	4限
	担当者	大澤・野村		
	テーマ	怒りの強い患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①怒りの強い患者を理解するために必要な知識（怒りの発生要因、怒りのレベルなど）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②怒りの強い患者へのケアのポイント（感情の発散による緊張緩和、患者との話し合い、緊張緩和のための対処など）、看護師への感情のコントロールに関する支援について理解する。 ③怒りの強い患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	せん妄状態の患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①せん妄状態にある患者を理解するために必要な知識（せん妄の診断、認知症・抑うつ状態との鑑別、せん妄の発症要因など）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②せん妄状態にある患者のケアのポイント（発症要因に応じたケア、現実への適応を助けること、穏やかな環境の提供、事故防止、セルフケアの支援、家族への支援など）を理解する。 ③せん妄状態にある患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	依存症の患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①依存症の患者を理解するために必要な知識（依存とは、病的な依存について、依存の対象、依存の背景など）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②依存症の患者へのケアのポイント（依存行動のパターンの把握、必要な援助の見極め、依存の背景要因の改善、自立行動の促しなど）を理解する。 ③依存症の患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		
9	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	気分障害の患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①抑うつ状態にある患者を理解するために必要な知識（抑うつ状態の定義、精神状態および要因に関するアセスメント、セルフケアに関するアセスメントなど）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②抑うつ状態にある患者へのケアのポイント（セルフケアの範囲を広げる、自己肯定感を高める、自殺予防など）を理解する。 ③抑うつ状態にある患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。 ④躁状態にある患者を理解するために必要な知識（躁状態の定義、精神状態および要因に関するアセスメント、セルフケアに関するアセスメントなど）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ⑤躁状態にある患者へのケアのポイント（落ち着いた環境の提供、自傷他害の防止、セルフケアの範囲を広げるなど）を理解する。 ⑥躁状態にある患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		

10	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	心身症の患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①心身症の患者を理解するために必要な知識（心身症の定義、診断基準、要因など）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②心身症の患者へのケアのポイント（身体症状の観察、心身相関の気づきへの働きかけなど）を理解する。 ③心身症の患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		
11	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	3限
	担当者	大賀・石田		
	テーマ	摂食障害の患者のアセスメントとケア		
	授業内容	①摂食障害の患者を理解するために必要な知識（摂食障害の定義と分類、診断基準、精神力動など）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を得て、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②摂食障害の患者へのケアのポイント（患者・家族を含む医療チームでの治療目標の共有、他職種との役割分担、症状コントロール、家族療法など）を理解する。 ③摂食障害の患者への直接ケアの実践例を読み、アセスメントとケアについての理解を深める。		
12	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	4限
	担当者	大賀・石田		
	テーマ	サイコオンコロジー領域の患者・家族のアセスメントとケア		
	授業内容	①サイコオンコロジー領域の患者・家族を理解するために必要な知識（サイコオンコロジーの歴史と定義、がん患者の精神的諸問題など）について事前学習とプレゼンテーションを行い、助言を受けて、アセスメントのポイントと方法を理解する。 ②サイコオンコロジー領域の患者・家族へのケアのポイント（危機介入、支持的精神療法、リラクセーションなど）を理解する。		
13	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	2限
	担当者	大賀公		
	テーマ	リエゾン精神専門看護師が行う倫理調整		
	授業内容	①リエゾン精神専門看護師が倫理調整を行う意義と目的を理解する。 ②共通科目「看護倫理学」での学びをふまえ、倫理的な視点からみた臨床の事象のとらえ方、倫理的課題へのアプローチの方法について理解する。 ③リエゾン精神専門看護師による倫理調整の実践例について、倫理的意思決定モデル（Johnstonのモデルなど）を用いて解釈、評価し、さらに理解を深める。		
14	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	3限
	担当者	大賀公		
	テーマ	看護師のメンタルヘルス支援		
	授業内容	①看護師のメンタルヘルス支援の必要性、看護師のストレッサーとストレス反応について理解したうえで、リエゾン精神専門看護師が看護師へのメンタルヘルス支援を行うメリット、アセスメントと介入の方法について理解する。 ②職場適応が困難な看護師への支援に関する実践例を読み、リエゾン精神専門看護師が行う看護師のメンタルヘルス支援のポイントについて、さらに理解を深める。		
15	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	4限
	担当者	大賀公		
	テーマ	リエゾン精神専門看護師の役割開発		
	授業内容	①リエゾン精神専門看護師が役割開発を通して、組織変革者となりうることを理解する。 ②変化理論を用いて役割開発のプロセスを理解するとともに、役割開発をすすめるうえで、これを阻む要素とその対策についても理解する。 ③リエゾン精神専門看護師の役割開発の課題について考察し、レポートにまとめる。		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	6限
	担当者	大賀公		
	テーマ	リエゾン精神看護の歴史、リエゾン精神専門看護師の役割と機能		
2	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	7限
	担当者	大賀公		
	テーマ	リエゾン精神専門看護師が行う直接ケアの特徴		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	6限

担当者	大賀				
テーマ	身体疾患を持つ患者の精神的問題の診断と治療				
4	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	7限	
	担当者	大賀			
	テーマ	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	6限	
	担当者	大澤・野村			
	テーマ	不安の強い患者のアセスメントとケア			
6	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	7限	
	担当者	大澤・野村			
	テーマ	怒りの強い患者のアセスメントとケア			
7	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	6限	
	担当者	大澤			
	テーマ	せん妄状態の患者のアセスメントとケア			
8	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	7限	
	担当者	大澤			
	テーマ	依存症の患者のアセスメントとケア			
9	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	6限	
	担当者	大賀			
	テーマ	気分障害の患者のアセスメントとケア			
10	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	7限	
	担当者	大賀			
	テーマ	心身症の患者のアセスメントとケア			
11	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	6限	
	担当者	大賀・石田			
	テーマ	摂食障害の患者のアセスメントとケア			
12	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	7限	
	担当者	大賀・石田			
	テーマ	サイコオンコロジー領域の患者・家族のアセスメントとケア			
13	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	5限	
	担当者	大賀公			
	テーマ	リエゾン精神専門看護師が行う倫理調整			
14	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	6限	
	担当者	大賀公			
	テーマ	看護師のメンタルヘルス支援			
15	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	7限	
	担当者	大賀公			
	テーマ	リエゾン精神専門看護師の役割開発			

評価方法	講義への参加姿勢（30%）、プレゼンテーション（50%）、およびレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	野末聖香編：リエゾン精神看護ー患者ケアとナース支援のために，医歯薬出版株式会社，2004.
参考書	保坂隆：ナースのためのサイコオンコロジー，南山堂，2001. 鶴若麻理、長瀬雅子編：看護師の倫理調整カー専門看護師の実践に学ぶ，日本看護協会出版会，2018. その他の参考書は、講義の際に提示する。
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00

講義名	精神保健看護学演習Ⅰ（精神科治療技法2）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	60.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子・島田　栄子・横塚　正和
科目の目標	精神保健看護学特論Ⅲ（精神科治療技法１）で得た知識をもとに、認知行動療法をはじめとする看護介入の側面が大きい治療技法を、個人および集団に対して、適切に実施・評価できる能力を修得する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	アサーショントレーニング		
	授業内容	①アサーティブな自己表現がストレスマネジメントの一方法となることを理解し、アサーショントレーニングの目的や方法などの概要を理解する。 ②アサーショントレーニングについてのDVDを視聴した後、学習者がファシリテーターとなり、アサーショントレーニングのロールプレイを行う。 ③その後、学習者間でトレーニングの進め方についてディスカッションを行ない、さらに、担当教員からスーパーバイズを受けて、技術の向上に向けての課題を確認する。 ④看護師がアサーショントレーニングを行う意義、実施上の留意点について、レポートにまとめる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	行動療法		

授業内容	①行動療法の背景、基本となる理論（オペラント条件付け理論、モデリング理論）意義と適応、有用性などについて理解する。 ②スキナーのオペラント技法、バンデューラのモデリング法について、特徴や具体的な進め方について、講義およびDVD視聴を通して理解する。 ③担当教員が治療者（ロールモデル）、学習者が参加者となり、ロールプレイを行い、全体の構造や進め方、留意点などを理解する。 ④次に、学習者が治療者、他の学習者が参加者となり、ロールプレイを行う。 ⑤その後、参加者や観察者からアドバイスを、担当教員からスーパーバイズを受け、技術の向上に向けての課題を確認する。 ⑥高度実践看護師が行う行動療法の意義と留意点について、レポートにまとめる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	リラクセーション法		
	授業内容	①精神的諸問題を持つ人にとってのリラクセーションの意義、目的、各技法について理解する。 ②呼吸法、自律訓練法についてのDVDを視聴し、進め方や留意点を学んだうえで、学習者が患者役、担当教員がロールモデルとなり実施する。 ③その後、学習者同士で呼吸法、自律訓練法のロールプレイを行う。 ④進め方や留意点について振り返り、ディスカッションを行うとともに、担当教員からスーパーバイズを受けて、技術の向上に向けての課題を確認する。 ⑤高度実践看護師が行うリラクセーション法の意義と留意点について、レポートにまとめる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	5限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	認知行動療法 1		
	授業内容	①認知行動療法の背景、基本モデル、適応、有用性などについて理解する。 ②認知行動療法の治療構造、治療の流れ、セッションの流れなどについて理解する。 ③セッションの流れに沿って、アジェンダの設定、ホームワークの設定、セッションのまとめ、次回への橋渡しなどの方法と留意点について理解する。 ④代表的な基本技法である「行動活性化」、「認知再更生法」、「問題解決技法」、などの各技法についてのDVDを視聴した後、教員が治療者（ロールモデル）、学習者が患者役となり、プロセスに沿って体験し、各技法の具体的な進め方と留意点についての理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	認知行動療法 2		
	授業内容	①うつ病の事例について、グループワークにより、患者の問題点の整理、症例の概念化、アジェンダの設定、治療的アプローチ（行動活性化、認知再更生法、問題解決技法、および、リラックス法、SST(生活技能訓練)、自己主張訓練(アサーティブトレーニング)の各技法など）の設定を行い、認知行動療法の流れを計画する。 ②計画した治療の流れに沿って、学習者が治療者役、患者役となり、ロールプレイを行う。 ③その後、ロールプレイを振り返り、患者役や参加者からアドバイスを、担当教員からスーパーバイズを受け、技術の向上に向けての課題を確認する。 ④高度実践看護師が行う認知行動療法の意義と留意点について、レポートにまとめる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	5限

担当者	大賀			
テーマ	〃			
授業内容	〃			
13	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	3限
	担当者	島田		
	テーマ	SST 1		
	授業内容	①SST（生活技能訓練）の目的、適応、方法について理解する。 ②事例を通して、適応と進め方、ホームワークの意義について理解を深める。 ③担当教員（医師）がファシリテートをつとめる臨床でのSSTの場面に、学習者はメンバーとして参加し、SSTの構造や進め方、基本的な留意点について理解する。 ＊担当教員（医師）は、事前にSST参加者の承諾を得るなどの倫理的手続きを行う。		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	4限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	5限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	3限
	担当者	島田		
	テーマ	SST 2		
	授業内容	①学習者がファシリテートをつとめ、学習者同士でロールプレイを実施する。 ②方法や留意点、進め方について振り返り、ディスカッションを行うとともに、担当教員（医師）からスーパーバイズを受けて、技術の向上に向けての課題を確認する。 ③SSTにおける高度実践看護師の役割について、レポートにまとめる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	4限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	5限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	依存症の自助グループとの連携		
	授業内容	①依存症の自助グループにおいて参与観察を行い、プログラムの内容、進め方について理解する。（担当教員はあらかじめ、自助グループ参加者の承諾を得るなどの倫理的手続きを行う。） ②アルコール依存症の場合の医療連携の推進（内科、救急等の一般医療と専門医の連携）や切れ目のない治療・回復支援を実現するうえで自助グループの意義について理解する。 ③アルコール依存症の自助グループにおけるグループダイナミクスについて考察する。 ④高度実践看護師としての自助グループとの連携のあり方について、学際的視点（心理学、行動科学、医療、福祉、看護）から考察し、レポートにまとめる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	5限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

22	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	薬物療法における看護		
	授業内容	① 向精神薬の特徴と拒薬の原因について理解し、患者の辛さや不安について理解する。 ② 精神保健看護学特論Ⅲで学習した薬物療法に関する知識を踏まえて、薬物療法を受ける患者家族の直面している困難さに対して、高度実践看護師が直接ケアや支援、教育やコンサルテーションを行う意義について理解する。 ③ 薬物療法を受ける患者への支援に関する事例を用いてディスカッションを行い、支援の内容について検討し、理解を深め、レポートにまとめる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	5限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	サポートグループにおけるグループダイナミクス		
	授業内容	①大学院関連病院でのサポートグループ（乳がん患者・家族）において参加観察を行い、プログラムの内容や進め方、さらに、ファシリテーターの動きや介入方法の実際を知る。 ＊担当教員は、事前に参加者の了解を得るなどの倫理的手続きを行う。 ②参加者の精神的負担が増強した場合の対応方法やメンタルヘルスの専門家との連携の取り方を知る。 ③参加後、学習者間でディスカッションを行い、参加者間の相互作用、ファシリテーターがグループダイナミクス・ピアの効果・エンパワメントなどに与える影響などについて検討する。 ④サポートグループの意義、目的、ファシリテーターの役割について、レポートにまとめる。		
26	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	3限
	担当者	横塚		
	テーマ	精神科デイケアにおける集団心理教育		
	授業内容	①集団心理教育の意義、目的、有用性を理解する。 ②精神科デイケアの意義、目的、スタッフの役割を理解する。 ③大学院関連施設のデイケアセンターで行われている集団心理教育の参加観察を行い、内容や進め方、スタッフの役割の実際を知る。参加者の様子を通して、グループダイナミクスやピアの効果、エンパワメントの実際、スタッフが参加者に及ぼす効果について、ディスカッションを行い、理解を深める。 ④同デイケアセンターでの集団心理教育（呼吸法、マインドフルネスなどのリラクセーション法）にファシリテーターとして参加し、精神科デイケア利用者に向けて、集団を対象とした実践を行う。必要に応じて、担当教員（デイケアスタッフ）の指示を受ける。 ＊担当教員（デイケアスタッフ）は、事前に対象者の承諾を得るなどの倫理的手続きを行う。 ⑤その後、振り返りを行い、ディスカッションを行うとともに、担当教員からスーパーバイズを受けて、技術の向上に向けての課題を確認する。 ⑥高度実践看護師が行うリラクセーション法に関する集団心理療法の意義と留意点について、レポートにまとめる。		
29	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	4限
	担当者	横塚		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	5限

担当者	横塚
テーマ	〃
授業内容	〃

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	アサーショントレーニング		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月24日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月24日(土)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	行動療法		
5	年月日(曜日)	令和 8年12月31日(木)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	リラクセーション法		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	5限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	認知行動療法 1		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
10	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	認知行動療法 2		
11	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	3限
	担当者	島田		
	テーマ	SST 1		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	4限
	担当者	島田		

テーマ	〃			
15	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	5限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	3限
	担当者	島田		
	テーマ	SST 2		
17	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	4限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	5限
	担当者	島田		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	依存症の自助グループとの連携		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	5限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	薬物療法における看護		
23	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	5限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	サポートグループにおけるグループダイナミクス		
26	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	3限
	担当者	横塚		
	テーマ	精神科デイケアにおける集団心理教育		
29	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	4限
	担当者	横塚		
	テーマ	〃		

30	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	5限
	担当者	横塚		
	テーマ	〃		

評価方法	ロールプレイ、実践、ディスカッションなどへの取り組み（60%）、およびレポート（40%）を総合して評価する。
教科書	宇佐美しおり，野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，日本看護協会出版会，2009.
参考書	①大野裕：認知療法・認知行動療法・治療者用マニュアルガイド，星和書店，2010. ②Liberman,R.P.,ed./安西信雄，池淵恵美監訳：リバーマン実践的精神科リハビリテーション，創造出版，1993. ③山根寛：精神障害と作業療法，三輪書店，2003. ④五十嵐透子：リラクゼーション法の理論と実際-ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門，医歯薬出版，2001. ⑤小板橋喜久代，荒川晶子：リラクセーション入門-セルフケアから臨床実践へとつなげるホリスティックナーシング，日本看護協会出版会，2015. ⑥宮内勝：精神科デイケアマニュアル，金剛出版，1994. ⑦ 萱間真美ほか：精神科訪問看護，Q&Aと事例でわかる訪問看護，中央法規，2015. ⑧ ジュディス・ベック：認知行動療法実践ガイド：基礎から応用まで，第２版，星和書店，2015.
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・各治療技法についての文献学習を行い、基礎的知識を得たうえで演習に臨むこと。 ・精神保健看護学特論Ⅰ～Ⅲを履修していること。

講義名	精神保健看護学演習Ⅱ（精神科看護理論）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	60.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子
科目の目標	精神看護領域において高度な看護実践を行うための基盤となる、対人関係理論やセルフケア理論をはじめとする各種理論を理解するとともに、高度実践看護師として、自己の治療的活用、傾聴、共感的理解、表現の促しをはじめとする治療的コミュニケーションの技術や、対象のセルフケアの向上のために適切な生活援助を実施・評価できる能力を、事例検討やロールプレイを用いて修得する。さらに、その後のディスカッションにより、理論的根拠の実践への応用の仕方についての理解を深める。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	対人関係理論（１） 精神保健看護領域における対人関係理論の位置づけと対人関係理論・モデル		
	授業内容	①精神保健看護領域における対人関係モデルの位置づけについて、精神分析モデル、医学モデルなどの比較をとおして理解する。 ②オーランドの力動的看護者-患者関係、ウィーデンバックの援助者としての自己活用の特徴を理解する。 ③精神力動的看護について、ペプロウの精神力動的看護、看護師―患者関係の発展過程、治療的な対人プロセス、およびトラベルビーの患者と看護師の相互作用について理解する。 ④学習者の経験を事例とし、精神力動的看護、看護師―患者関係の発展過程の考え方に沿った諸段階と看護師の役割の変化、患者と看護師の相互作用、および治療的対人プロセスの観点から、ディスカッションを行い、その理論の意義と応用の仕方について理解を深める。 ⑤これらの理論を踏まえ、高度実践看護師として、自己の治療的活用、治療的コミュニケーションを行うことの重要性について、レポートにまとめる。		
2	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ			

対人関係理論（２） 看護における対人関係の技法1				
授業内容	①学習者の経験を事例としてプロセスレコードを記載し、患者の成長につながる治療的意義を持つコミュニケーションという観点から看護師の言動をアセスメントし、患者の情緒的成長に役立つ、自己を活用した治療的コミュニケーションの意義と有用性について理解を深める。 ②傾聴、共感的理解、沈黙、表現の促し、反復などをはじめとする各技法について、意義と期待される効果を理解する。 ③各技法を用いて、学習者同士でロールプレイを行う。 ④その後、ディスカッションを行うとともに、担当教員よりスーパービジョンを受け、治療的コミュニケーション技術の向上に向けての自己の課題を確認する。 ＊治療的コミュニケーションの定義は、「精神健康の維持・増進、精神症状の緩和、改善、悪化予防等の患者の成長につながる目的を持ったコミュニケーション」とする。 ＊次回の授業までに、対人関係理論を踏まえ、患者の成長につながるよう治療的な目的をもって対象患者（就業していないものは他者）とコミュニケーションを図り、それをプロセスレコードに記載することを課題とする。			
4	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	対人関係理論（３） 看護における対人関係の技法2		
	授業内容	①前回の講義の課題であるプロセスレコードを提示し、患者に与えた影響や治療的効果についての考えを発表したうえで、プロセスレコードに沿ってロールプレイを行う。 ②その後、ディスカッションを行って、治療的コミュニケーションの技術について他の学習者よりアドバイスを、担当教員からスーパーバイズを受け、治療的コミュニケーション技術の向上に向けての自己の課題を確認する。 ③その後、患者役・看護師役となり、自己の課題をふまえながら、提示したテーマに沿って、治療的な目的を持って、ロールプレイを繰り返し行い、コミュニケーション技術の向上をめざす。		
6	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	対人関係理論（４） 看護における対人関係の技法3		
	授業内容	①自殺企図患者、悲嘆の状態にある患者の事例について、治療的コミュニケーションの目的を明確にしたうえで、学習者同士でロールプレイを行う。 ②その後、学習者同士でディスカッションを行い、コミュニケーション技法の妥当性、表現の仕方、話の展開などについて検討するとともに、担当教員よりスーパーバイズを受ける。 ③対人関係理論（１）～（４）での学びを踏まえ、高度実践看護師を目指す者として、自らのコミュニケーション技術の傾向と今後の課題について、レポートにまとめる。		
8	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	セルフケア理論、オレムーアンダーウッドモデル、セルフケアアセスメント		
	授業内容	①セルフケア理論、オレム-アンダーウッドモデルの背景と精神科領域における意義、有用性および看護実践への適用について理解する。 ②入院患者や地域で生活する精神障害者の事例を用いて、オレム-アンダーウッドモデルを活用してセルフケアアセスメントを行い、ディスカッションを通して、モデルを活用することの有用性についての理解を深める。 ③セルフケアアセスメントにもとづき、生活援助の具体的な内容と評価のポイントを明確にし、高度な看護実践を行う能力を養う。		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		

テーマ	〃			
授業内容	〃			
11	年月日(曜日)	令和 9年02月03日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	心理・社会的成長発達に関する理論		
	授業内容	①エリクソンをはじめとする心理・社会的成長発達に関する諸理論について理解し、精神看護学領域での意義や有用性を理解する。 ②それらの理論を活用し、心理・社会的成長発達の問題が関与している事例のアセスメントを行う。 ③行ったアセスメントについてディスカッションを行い、心理・社会的発達の側面から患者の状態をアセスメントする方法と、成長発達理論の有用性について理解を深める。 ④成長発達理論を応用して事例への介入計画を立案し、高度な看護実践を行う能力を養う。		
12	年月日(曜日)	令和 9年02月03日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月05日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神力動理論		
	授業内容	①精神分析論、特に精神力動や防衛機制について、意義や有用性について理解する。 ②それらの理論を活用し、精神力動や防衛機制が影響すると考えられる事例のアセスメントを行う。 ③行ったアセスメントについてディスカッションを行い、精神力動・防衛機制の観点から患者の状態をアセスメントする方法と、精神力動・防衛機制の有用性を理解する。 ④精神力動・防衛機制の理論を応用して事例への介入計画を立案し、高度な看護実践を行う能力を養う。		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月05日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	コーピング理論		
	授業内容	①ラザルスによるコーピング理論に関する考え方を理解し、精神看護における精神の健康生活状態を評価する際の枠組みとすることの意義と有用性について理解する。 ②自らの経験に基づき、強いストレス状態にある事例をあげ、コーピング理論を用いてアセスメントを行う。 ③行ったアセスメントについてディスカッションを行い、コーピング理論をアセスメントに活用する方法と、コーピング理論の有用性を理解する。 ④さらに、コーピング理論を応用して事例への介入計画を立案し、高度な看護実践を行う能力を養う。		
16	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	危機理論、ストレス理論		
	授業内容	①カプランの危機理論、セリエのストレス理論、また、ストレスモデルにおける媒体要因としての、バンデューラの自己効力感、自尊感情などの概念について理解する。 ②自らの経験に基づき、危機的状態にある事例をあげ、これらの理論を用いてアセスメントを行う。 ③行ったアセスメントについてディスカッションを行い、これらの理論をアセスメントに活用する方法と、理論の有用性を理解する。 ④これらの理論を応用して事例への介入計画を立案し、高度な看護実践を行う能力を養う。		
18	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

19	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	ストレングスモデル、エンパワメント理論		
	授業内容	①医学モデル、問題解決モデルに依拠する限界についてディスカッションを行い、ストレングスモデル、エンパワメント理論の精神看護領域での意義や有用性を理解する。 ②慢性期の精神障害の事例について、ストレングスモデルを活用しアセスメントを行い、高度な看護を実践するために、エンパワメント理論を活用し介入計画を立案する。 ③行ったアセスメント、介入計画についてディスカッションを行い、ストレングスモデル・エンパワメントモデルの有用性について理解を深める。 ④問題解決モデルでアセスメントした場合の介入計画との違いを考察し、ストレングスモデル、エンパワメント理論が有用と考えられる対象の特徴を理解し、レポートにまとめる。		
20	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年02月19日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	健康生成論、SOC（首尾一貫感覚）		
	授業内容	①アントノフスキーの健康生成論とSOC（首尾一貫感覚）について理解する。 ②それらの理論を活用して個人ないし集団の精神健康生活状態のアセスメントを行う。 ③その後、ディスカッションを行って、これらの理論の精神看護、精神保健活動への活用の意義と有用性について理解を深める。 ④個人ないし集団のウェルネスの観点から、高度実践看護師としての介入の意義や目的、内容についてレポートにまとめる。		
22	年月日(曜日)	令和 9年02月19日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	集団に関する理論　集団力動論		
	授業内容	①グループダイナミクスやグループの排他性や凝集性、レヴィンの場の理論、ビオンの基底的想定集団と作業集団などについて理解する。 ②グループダイナミクスやグループの排他性や凝集性が関与している事例について、これらの理論を活用し、アセスメント及び介入計画を立案する。 ③ディスカッションを通して、これらの理論の意義と有用性について理解を深める。 ④文献検討を通して、これらの理論が、集団への直接介入や教育、コンサルテーション、調整などにどのように応用されているかを理解し、高度な看護実践を行う能力を養う。		
24	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 9年02月26日(金)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	システムズアプローチ論、チームビルディング		
	授業内容	①ベルタランフィの一般システム論、円環モデル、開放システムと閉鎖システム論等を理解し、文献を通してシステムという観点から、システムズアプローチの有用性を理解する。 ②チームビルディングの有用性について理解する。 ③組織に働きかける必要がある事例についての組織分析を行い、ディスカッションを通して、チームビルディングの考え方を応用し、組織に働きかける方策について考える。		
26	年月日(曜日)	令和 9年02月26日(金)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
27	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		

テーマ	家族に関する理論
授業内容	①ベルタランフィの一般システム論が、家族全体を見る視点となることを理解する。さらに、ボウエンの家族システム論において、7つの概念や全体性、非累積性、恒常性について、また、ミニューチンの構造派家族療法、ヘイリーの戦略派家族療法の枠組みを理解する。 ②カーターとマルクゴドリックによる家族発達段階モデルについて、理解する ③多世代間の情緒的関係を修復させる技法、家族の関係構造を再建する技法、家族の問題解決能力を高める技法などの具体的な方法について、文献検討をとおして理解を深める。 ④摂食障害の患者を持つ家族の事例について、これらの理論を用いてアセスメントを行う。アセスメントを通じてIP（identified patient）を明らかにしていくことの必要性を理解する。 ⑤さらに、これらの理論を用いて、家族への介入計画を立案する。ディスカッションを通して、理論の有用性と共に介入方法について検討し、理解を深める。

28	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 9年03月05日(金)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科看護における倫理		
	授業内容	①既習の看護倫理に関する知識を踏まえ、精神科領域における倫理綱領を理解する。具体的には、ハワイ宣言、マドリッド宣言、精神科疾患を有する者の保護者及びメンタルケアの改善のための諸原則をはじめとした諸綱領の意義と有用性を理解する。 ②既習の「看護者の倫理綱領」を踏まえ、精神科領域においての活用方法を理解する。 ③高度実践看護師としての判断や実践の正当性について、倫理的観点からも十分な検討が必要であることを理解する。 ④文献や事例を用いて、偏見や差別に苦しむ対象者や家族の思いについてディスカッションを行い、医療・看護の場面において、対象者の人権・権利を尊重するための具体的な方策について考察し、レポートにまとめる。		
30	年月日(曜日)	令和 9年03月05日(金)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	対人関係理論（１） 精神保健看護領域における対人関係理論の位置づけと対人関係理論・モデル		
2	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	対人関係理論（２） 看護における対人関係の技法1		
4	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	対人関係理論（３） 看護における対人関係の技法2		
6	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	3限

担当者	大賀			
テーマ	対人関係理論（４） 看護における対人関係の技法3			
8	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	セルフケア理論、オレムーアンダーウッドモデル、セルフケアアセスメント		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月27日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 9年02月03日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	心理・社会的成長発達に関する理論		
12	年月日(曜日)	令和 9年02月03日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神力動理論		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	コーピング理論		
16	年月日(曜日)	令和 9年02月10日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
17	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	危機理論、ストレス理論		
18	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	ストレングスモデル、エンパワメント理論		
20	年月日(曜日)	令和 9年02月17日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	健康生成論、SOC（首尾一貫感覚）		
22	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	4限

担当者	大澤			
テーマ	〃			
23	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	集団に関する理論　集団力動論		
24	年月日(曜日)	令和 9年02月24日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
25	年月日(曜日)	令和 9年02月27日(土)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	システムズアプローチ論、チームビルディング		
26	年月日(曜日)	令和 9年02月27日(土)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
27	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	家族に関する理論		
28	年月日(曜日)	令和 9年03月03日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
29	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科看護における倫理		
30	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		

評価方法	ロールプレイ、ディスカッションなどへの取り組み(60%)およびレポート(40%)を総合して評価する。
教科書	宇佐美しおり，野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，日本看護協会出版会，2009
参考書	対人関係理論（１） 精神保健看護領域における対人関係理論の位置づけと対人関係理論・モデル
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・修得した技法を日常の実践で活用し、さらに技術の向上に努めること。 ・精神保健看護学特論Ⅰ～Ⅲを履修していること。

講義名	精神保健看護学演習Ⅲ（精神看護援助技法）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2	時間	60.00
代表曜日	水曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	2単位/60時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	2年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子・小林　明弘
科目の目標	既習の学習をふまえ、治療施設や地域社会におけるケア困難なケースへの援助技法を学び、対象の精神状態および身体状態の悪化の予防、維持、改善にむけて、高度実践看護師として適切な看護援助を実施・評価できる能力を修得する。 さらに、対象のQOL向上のために、精神保健医療福祉サービス間の調整を行いながら、対象の生物・心理・社会的ニーズの充足に向けた高度な看護活動を実践できる能力を修得する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（１） 行動化および攻撃性・操作性が強い患者		
	授業内容	①行動化および攻撃性・操作性が強い患者の事例について、既習のDSM-5、メンタルヘルス・イグザミネーション、精神力動理論、コーピング理論などを活用し、患者の精神状態、精神健康度、セルフケア状況のアセスメントを行って、高度実践看護師としての介入の目的を明確にし、直接ケア、教育、調整などの介入内容および評価方法について計画を作成する。 ②作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（２） 気分障害で自殺企図の強い患者		
	授業内容			

①自殺企図の強い患者の事例について、既習のDSM-5、メンタルヘルス・イグザミネーション、精神力動理論、コーピング理論などを活用し、患者の精神状態、精神健康度、セルフケア状況や自殺の可能性についてアセスメントを行う。
②治療過程の時期についてのアセスメントを行ったうえで、自殺予防の観点を中心に、高度実践看護師としての介入の目的を明確にし、自殺防止マニュアルなどを活用して、直接ケア、教育、看護師へのコンサルテーション、調整などの介入の内容および評価方法について計画を作成する。
③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。

4	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（３） 再入院を繰り返す患者とその家族		
	授業内容	①再入院を繰り返す患者および家族の事例について、既習のDSM-5、メンタルヘルス・イグザミネーションや、精神力動論、コーピング理論などを活用し、患者の精神状態、精神健康度、セルフケア状況、社会生活能力などのアセスメントを行う。 ②事例の家族について、精神力動論、コーピング理論、レヴィンの場の理論、家族システム論、家族ダイナミクスなどを活用したアセスメントを行う。 ③高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうで、患者、家族に対する直接ケア、教育、調整などの介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ④作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（４） 発達障害の様相を呈する患者		
	授業内容	①発達障害の様相を呈する患者の事例について、基礎疾患とともに、既習のDSM-5、メンタルヘルス・イグザミネーションや、精神力動論、コーピング理論、発達理論などを活用し、患者の精神状態、精神健康度、セルフケア状況、社会生活能力などのアセスメントを行う。 ②発達障害の特徴を踏まえたうえで、高度実践看護師としての介入の目的を明確にし、直接ケア、看護師への教育、コンサルテーション、調整などの介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	4限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	3限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（５） 長期入院患者とその家族		
	授業内容	①長期入院患者の事例について、DSM-5、メンタルヘルス・イグザミネーション、発達理論、セルフケア理論、オレム-アンダーウッドモデルなどを活用して、患者の精神状態、精神健康度、セルフケア状況、社会生活能力などのアセスメントを行う。 ②長期入院がもたらす弊害について理解したうえで、高度実践看護師としての介入の目的を明確にし、ストレングスモデル、エンパワメント理論などを活用して、介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ③事例の家族について、家族システム論、家族ダイナミクスなどを活用してアセスメントを行い、システムズアプローチの観点から、介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ④さらに、医療チームに対する教育、コンサルテーション、調整などの介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ⑤作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	4限

担当者	大澤			
テーマ	〃			
授業内容	〃			
11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（１） うつ病患者の復職支援		
	授業内容	①復職をめざすうつ病患者の事例をとりあげ、メンタルヘルス・イグザミネーションや、精神力動論、コーピング理論、ストレングスモデルなどを活用し、対象者の精神状態、精神健康度、セルフケア状況、社会生活能力などを含めた包括的なアセスメントを行う。 ②高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうえで、復職を目指した自己決定支援、うつの認知の偏りの改善を目指した認知行動療法、対人関係能力向上に向けてのアサーションやSST、エンパワメントなどの技法などを活用し、介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	2限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（２） 心的外傷の理解とケア		
	授業内容	①危機理論、心身相関の理論、ストレス脆弱性などの側面から、自然災害や犯罪などによって生じるストレスが対象者に与える心的影響を理解する。 ②慢性期のストレス障害の事例について、メンタルヘルス・イグザミネーション、精神力動的アセスメント、ストレングスモデル、コーピング理論などを活用し、精神状態、精神健康度、セルフケア状況、社会生活能力などを含めた包括的なアセスメントを行い、高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうえで、直接ケア、教育、医療・福祉チームへのコンサルテーション、調整などの介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。 ④災害派遣精神医療チーム(Disaster Public health Assistance Team ; DPAT)での活動事例を通して、DPATの必要性や活動内容を知り、高度実践看護師の役割についてのディスカッションを行って、自らの考えをレポートにまとめる。 ⑤WHO版PFAマニュアルを使用し、心理的応急処置（Psychological First Aid ： PFA）の適応、手法、および留意点についてレポートを作成する。 ⑥急性期の災害（犯罪）被害の事例について、危機理論、精神力動論、コーピング理論、ストレングスモデルなどを活用し、精神状態、精神健康度、セルフケア状況などを含めた包括的なアセスメントを行い、高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうえで、介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ⑦作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	2限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（３） 重度精神障害者の地域生活促進		
	授業内容			

①地域で生活する重度精神障害者の事例をとりあげ、DSM-5、メンタルヘルス・イグザミネーション、発達理論などを活用し、精神状態、自我の機能、セルフケア状況についてアセスメントを行う。
②高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうえで、ストレングスモデルやエンパワメント理論、治療的コミュニケーション技法等を活用し、直接介入や、医療・福祉チームへのコンサルテーションや調整などの介入の内容および評価方法について計画を作成する。
③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。
④ソーシャルサポートについての重要性を理解し、例えば、ACT（Assertive Community Treatment）、CBCM（Community Based Case Management）などの包括的な地域生活支援プログラムの活動内容や、その意義と有用性を考察して、レポートにまとめる。
⑤重度精神障害者の地域生活促進における高度実践看護師の役割について、レポートにまとめる。

17	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	2限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（４） IP（identified patient）の子供がいる家族の支援		
	授業内容	①IPの様相を呈する思春期の子供がいる家族の事例を通して、家族に焦点をあて、家族システム論、精神力動的アセスメント、ストレングスモデル、ストレスコーピング理論などを活用し、家族の心理構造を、境界、連合、パワーの概念でアセスメントし、さらに家族の精神健康度、家族のケア能力や家族の対応能力についてアセスメントする。 ②高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうえで、既習の家族療法の技法、レヴィンの場の理論、家族システム論、家族ダイナミクス、システムズアプローチ、ストレングスモデルなどを活用して、介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	2限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（５） 精神科訪問看護		
	授業内容	①地域で生活をしている精神障害者の事例を通して、訪問看護の意義や有用性について理解する。 ②高度実践看護師としての介入の目的を明確にしたうえで、対象の抱えている精神症状や生きづらさ、社会生活の弊害などの観点から、直接ケアや教育、調整、コンサルテーション、倫理調整など、家族も含めた介入の内容および評価方法について計画を作成する。 ③作成した計画についてディスカッションを行い、担当教員の指導を受けて、高度実践看護師としての能力を養う。		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	3限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	4限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
25	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	2限
	担当者	小林		
	テーマ	精神障害者地域生活支援と精神科ケースマネジメントの実際		
	授業内容	①大学院関連施設の在宅療養支援診療所でのケースカンファレンスに参加して、ケースにおける生物・心理・社会的ニーズと、ニーズの充足に向けた看護アプローチの実際を知る。 ②カンファレンス参加後に学習者間でディスカッションを行い、担当教員（精神保健福祉士）の指導を受け、精神科領域におけるケースマネジメントの意義、適応、方法についての理解を深める。 ③精神科ケースマネジメントにおける高度実践看護師の役割を考察し、レポートにまとめる。		
26	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	3限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	4限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	2限
	担当者	小林		
	テーマ	重症な精神障害者へのCBCMの実際		
	授業内容	①大学院関連施設の在宅療養支援診療所での参加観察を行い、CBCMのチーム構成や、介入の実際、他職種との連携の様子を知る。 ②CBCMの事例検討会に参加し、事例における生物・心理・社会的ニーズと、ニーズの充足に向けたアプローチの実際を知る。 ③上記①・②の後、学習者間でディスカッションを行い、担当教員（精神保健福祉士）の指導を受けCBCMの効果についての理解を深める。 ④CBCMにおける高度実践看護師の役割を考察し、レポートにまとめる。		
29	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	3限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	4限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（１） 行動化および攻撃性・操作性が強い患者		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（２） 気分障害で自殺企図の強い患者		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	6限

担当者	大澤			
テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（３） 再入院を繰り返す患者とその家族			
6	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（４） 発達障害の様相を呈する患者		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	6限
	担当者	大澤		
	テーマ	精神科病院におけるケア困難な患者（５） 長期入院患者とその家族		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	7限
	担当者	大澤		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（１） うつ病患者の復職支援		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（２） 心的外傷の理解とケア		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（３） 重度精神障害者の地域生活促進		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	5限
	担当者	大賀		

テーマ	地域で生活する精神障害者（４） IP（identified patient）の子供がいる家族の支援			
20	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	5限
	担当者	大賀		
	テーマ	地域で生活する精神障害者（５） 精神科訪問看護		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	6限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	7限
	担当者	大賀		
	テーマ	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	5限
	担当者	小林		
	テーマ	精神障害者地域生活支援と精神科ケースマネジメントの実際		
26	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	6限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	7限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	5限
	担当者	小林		
	テーマ	重症な精神障害者へのCBCMの実際		
29	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	6限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	7限
	担当者	小林		
	テーマ	〃		

評価方法	ロールプレイ、ディスカッションなどへの取り組み（60%）、およびレポート（40%）を総合して評価する。
教科書	宇佐美しおり，野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，日本看護協会出版会，2009.
参考書	①松岡千代：ヘルスケア領域における専門職間連携ーソーシャルワークの視点からの理論的整理，社会福祉学40（2），2001. ②野中猛：図説ケアチーム，中央法規出版，2007. ③高橋清久，大島巌編：ケアガイドラインに基づく精神障害者ケアマネジメントの進め方ーケアマネージャー養成テキスト，精神障害者社会復帰促進センター，1999. ④Selye,H./杉靖三郎ほか訳：現代社会とストレス，法政大学出版局，1988. ⑤Lazarus,R.S./林峻一郎編訳：ストレスとコーピングーラザルス理論への招待，星和書店，1990. ⑥岡野憲一郎：外傷性精神障害ー心の傷の病理と治療，岩崎学術出版社，1996.
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・あらかじめ、各テーマに関する参考書を用いて必要な知識を習得したうえで演習に臨むこと。 ・精神保健看護学特論Ⅰ～Ⅲ、精神保健看護学演習Ⅰ・Ⅱを履修していること。

講義名	精神保健看護学実習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1	時間	45.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	1単位/45時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子
科目の目標	精神看護専門看護師の指導のもと、実習での実践を通して精神看護専門看護師に必要とされる、実践、相談、調整、倫理調整および教育に関する基礎的能力を修得し、精神看護専門看護師の役割と機能を理解する。

授業計画表

1	授業内容	精神看護専門看護師を指導者とし、教員と協同で指導する。 【実習内容】 １．精神看護専門看護師（以下、専門看護師）の役割と機能を知る。 １）実践：専門看護師の指導のもと、患者のケアに参加し、複雑な精神保健上の問題を持つ患者および家族へのケアについて学習する。 ２）相談：専門看護師の指導のもと、コンサルテーションの事例に携わり、臨床におけるコンサルテーションの意義について理解を深める。 ３）調整：専門看護師が行う医療チームあるいは他の保健医療専門家との調整の場に同席し、その技法を学ぶ。 ４）倫理調整：専門看護師が行う看護師の倫理的葛藤への介入の場に同席し、その解決方法について考察する。 ５）教育：専門看護師が行う教育活動に参加し、内容を理解するとともに、その技法を学ぶ。 ６）専門看護師の実践において、どのような専門知識と技術が、どのように活用されているか、考察する。 ２．カンファレンス １）日々のカンファレンスに加え、専門看護師と教員の参加のもと、最終日に最終カンファレンスを行う。 ２）参加者との討議を通して、専門看護師の役割と機能について理解を深める。 ３．まとめ 専門看護師の役割と機能、および自己の課題についてまとめ、報告する。 【実習場所】 駒木野病院、東京武蔵野病院、市立青梅総合医療センターのいずれかで実習を行う。

評価方法	実習内容・記録（50%）、カンファレンスでの発表（20%）、精神専門看護師の役割と機能に関する最終レポート（30%）を総合して評価する。
教科書	専門看護師の役割と機能に関する文献
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・実習に臨むにあたり、各自の実習課題をレポートにまとめ、提出する。 ・精神保健看護学特論Ⅲまでを履修していること。

講義名	精神保健看護学実習Ⅱ（精神科診断・治療）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	2単位/90時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子
科目の目標	精神科臨床において医師や臨床心理士が行っている精神科面接、各種治療の実際を学び、精神科治療の多様性について理解を深める。医師や臨床心理士のスーパービジョンを受けながら、患者への臨床判断（精神機能・精神症状の評価）を行い、臨床判断に至る過程について理解する。

授業計画表

1	授業内容	医師、臨床心理士を実習指導者とする。 【実習内容】 １．精神医療における診断・治療の基礎知識と技法を学ぶ。 １）医師または臨床心理士が行なう精神科面接に同席し、精神機能・精神症状を観察するとともに、各種検査結果を踏まえた診断に至る過程について理解する。 ２）１）の患者について、医師や臨床心理士のスーパービジョンを受けながら、臨床判断（（精神機能・精神症状の評価、以下同じ）とフィジカルアセスメントを行う。 ３）各種治療プログラムに参加し、回復レベルに応じた治療の適応と代表的な技法を理解する。 ４）薬物療法におけるコントロール困難なケースに対する対応方法を知る。 ２．カンファレンス １）日々のカンファレンスに加え、実習指導者、および教員の参加のもと、1週間に1度カンファレンスを行う。 ２）実習生が行なった、１．１）の患者の臨床判断とフィジカルアセスメントについて議論する。 ３）各種治療の適応、薬物療法におけるコントロール困難事例について議論する。 ３．まとめ 患者の臨床判断に至る過程をまとめる。および薬物療法その他の治療の概要と、その適応をまとめ、報告する。 【実習場所】 埼玉医科大学病院精神科、埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科で実習を行う。

評価方法	実習内容・記録（50%）、カンファレンスでの発表（20%）、臨床判断の導き方の過程、および精神科治療に関する最終レポート（30%）を総合して評価する
教科書	①宇佐美しおり，野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，日本看護協会出版会，2009. ②武藤教志編著：メンタルステータスイグザミネーションVol.2. 精神看護出版,2018
参考書	①American Psychiatric Association編/高橋三郎，大野裕監訳：DSM-5精神疾患の分類と診断の手引，医学書院，2014. ②World Health Organization編/融道雄ほか翻訳：ICD-10精神および行動の障害ー臨床記述と診断ガイドライン新訂版，医学書院，2005.
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・実習に臨むにあたり、各自の実習課題をレポートにまとめ、提出する。 ・精神保健看護学演習Ⅰ、精神保健看護学実習Ⅰを履修していること。

講義名	精神保健看護学実習Ⅲ（直接ケア）		
（副題）			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4	時間	180.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	4単位/180時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	2年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子
科目の目標	対応の難しい精神保健上の問題をもつ患者、家族に対して高度な看護判断を行い、看護実践を行うための専門知識と技術を習得する。さらに、対象の人権を保障するために、医療チームによる適切な倫理的意思決定にむけての教育・啓発・調整活動に必要となる高度な看護実践能力を習得する。

授業計画表

精神看護専門看護師を実習指導者とし、教員と協同で指導する。

1	テーマ	１．薬物療法におけるコントロール困難な患者、精神症状が著しい患者、理解力の乏しい患者、家族に精神保健上の問題がある患者など、対応の難しい精神保健上の問題を持つ患者を受け持ち、高度な看護を実践する。
	授業内容	１）精神看護専門看護師に依頼されたケースのうち、学生が受け持つことが対象者の利益になると判断された患者で、精神看護専門看護師同席のもとで説明を行い、同意を得られた場合に受け持ちとする。 ２）受け持ち患者の臨床判断、フィジカルアセスメント、セルフケア能力および社会・心理的アセスメントを行う。 ３）患者、家族のニーズと看護介入の必要性をアセスメントし、看護計画を立案する。 ４）必要に応じて、既習の知識・技法を用い、看護計画に沿った活動プログラムを企画・実施する。 ５）医療チームと連携をとりながら看護を実施し、評価する。 ６）受け持ち患者の人権を保障するために、医療チームによる適切な倫理的意思決定ができるよう、精神看護専門看護師の指導を受けながら、教育・啓発・調整活動を計画・実施する。 ７）実習病棟のカンファレンスで受け持ち患者の事例紹介・検討会を実施し、実習指導者もしくは精神看護専門看護師の指導を受けながら、看護介入について教育的な関わりを行う。 ８）受け持ち患者の社会復帰にむけた支援（社会資源の活用を含む）について考える。
2	テーマ	２．カンファレンス
	授業内容	１）日々のカンファレンスに加え、実習指導者と教員の参加のもと、1週間に1度カンファレンスを行う。 ２）受け持ち患者のアセスメント、看護計画および実践について検討する。 ３）精神看護専門看護師に求められる臨床判断能力、看護実践能力について議論する。 ４）医療チームへの教育的かかわりについて、その方策を議論する。 ５）精神看護の質の向上にむけての今後の課題について検討する。 ３．まとめ 受け持ち患者の看護、高度実践看護師の役割、および精神看護の質の向上にむけた方策（施策）についてまとめ、報告する。 【倫理的配慮】 １．受け持ち患者の選定にあたっては、精神看護専門看護師に依頼されたケースのうち、学生が受け持つことが対象者の利益になると判断されたケースを対象とする。 ２．対象者に対して、精神看護専門看護師同席のもとで説明を行い、同意を得られた場合に受け持ちとする。 ３．医療チームによる適切な倫理的意思決定ができるよう、精神看護専門看護師の指導を受けながら、教育・啓発・調整活動を計画・実施する。 ４．記録の保管等、個人情報の保護に十分に配慮する。 【実習場所】 駒木野病院、東京武蔵野病院、市立青梅総合医療センターのいずれかで実習を行う。

評価方法	実習内容・記録（50%）、カンファレンスでの発表（20%）、困難事例に関わる専門看護師の役割等に関する最終レポート（30%）を総合して評価する。
教科書	受け持ち患者の疾患、看護に関する文献
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・実習に臨むにあたり、各自の実習課題をレポートにまとめ、提出する。 ・精神保健看護学演習Ⅲ、精神保健看護学実習Ⅱまでを履修していること。

講義名	精神保健看護学実習Ⅳ（リエゾン精神看護・コンサルテーション・コーディネーション）		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	3	時間	135.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	3単位/135時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	2年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子・大澤　優子
科目の目標	リエゾン精神看護領域におけるケア困難な事例に対して高度な看護判断を行い、看護実践を行うための専門知識と技術を習得する。その際、事例が抱えている問題に関わる研究成果を適切に活用することができる。また、実習施設におけるコンサルテーション・コーディネーション活動の実際について学び、高度実践看護師に求められる専門的能力を修得する。

授業計画表

本実習は、2単位のリエゾン精神看護実習（直接ケア実習）、1単位のコンサルテーション・コーディネーション実習の内容で構成する。 精神看護専門看護師を実習指導者とする。

1	テーマ	Ⅰ．リエゾン精神看護実習（直接ケア）
	授業内容	【実習内容】 １．うつや不安の強いがん患者、身体的訴えが頻繁な患者など、リエゾン精神看護領域においてケア困難な事例を受け持ち、直接ケアを実施する。 １）精神看護専門看護師に依頼されたケースのうち、学生が受け持つことが対象者の利益になると判断された患者で、精神看護専門看護師同席のもとで説明を行い、同意を得られた場合に受け持ちとする。 ２）受け持ち患者との関わりや病棟スタッフからの情報を踏まえて、患者が抱えている問題を整理する。 ３）受け持ち患者の臨床判断、フィジカルアセスメント、および心理・社会的アセスメントを行う。 ４）実習指導者の指導を受けながら、患者の問題や直接ケアの目的、目標を明確にし、介入計画を立案する。 ５）介入計画立案にあたっては、受け持ち患者が抱えている問題に関わる研究成果を適切に活用する。 ６）医療チームと協働して行えるよう、病棟カンファレンスで、介入計画について説明し、医療チームと役割分担を確認する。 ７）精神看護の役割モデルとして、既習の技法を活用しながら、直接ケアを実施する。 ８）医療チームとともに、介入計画、直接ケアの評価を行う。 ２．カンファレンス １）日々のカンファレンスに加え、実習指導者と教員の参加のもと、1週間に1度カンファレンスを行う。 ２）受け持ち患者のアセスメント、看護計画および実践について検討する。 ３）直接ケアの評価に基づき、直接ケアのプロセス全体について議論する。 ３．まとめ 受け持ち患者の看護、実習全体を振り返りリエゾン精神看護の意義と役割についてまとめ報告する。 【倫理的配慮】 １．受け持ち患者の選定にあたっては、精神看護専門看護師に依頼されたケースのうち、学生が受け持つことが対象者の利益になると判断されたケースを対象とする。 ２．対象者に対して、精神看護専門看護師同席のもとで説明を行い、同意を得られた場合に受け持ちとする。 ３．医療チームによる適切な倫理的意思決定ができるよう、精神看護専門看護師の指導を受けながら、教育・啓発・調整活動を計画・実施する。 ４．記録の保管等、個人情報の保護に十分に配慮する。
2	テーマ	Ⅱ．コンサルテーション・コーディネーション実習
	授業内容	【実習内容】 １．精神看護専門看護師が行なうコンサルテーション・コーディネーション活動に参加する方法とする。 １）事例におけるコンサルテーション・コーディネーションの必要性を確認する。 ２）コンサルテーション・コーディネーションの活動に参加し、プロセスと留意点について理解する。

		３）コンサルタント・コーディネーターに必要な知識、技術がどのように活用されているのかを知る。 ４）コンサルテーション・コーディネーションのプロセスにおける関係者間のダイナミクスについて考察する。 ５）コンサルテーション・コーディネーションの評価の視点を理解する。 ２．カンファレンス １）日々のカンファレンスに加え、実習指導者と教員の参加のもと、実習最終週にカンファレンスを行なう。 ２）コンサルテーション・コーディネーションのプロセスにおける関係者間のダイナミクスについて議論する。 ３）コンサルテーション・コーディネーションの評価について議論する。 ３．まとめ 高度実践看護師が行うコンサルテーション・コーディネーションのプロセスとその意義についてまとめ報告する。 ＊いずれの実習も、埼玉医科大学総合医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、市立青梅総合医療センターのいずれかで実習を行う。

評価方法	実習内容・記録（50%）、カンファレンスでの発表（20%）、専門看護師の活動の意義などに関する最終レポート（30%）を総合して評価する。
教科書	リエゾン精神看護、コンサルテーション・コーディネーションに関する文献
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	・実習に臨むにあたり、各自の実習課題をレポートにまとめ、提出する。 ・精神保健看護学特論Ⅳ、精神保健看護学演習Ⅲ、精神保健看護学実習Ⅲまでを履修していること。

講義名	精神保健看護学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	8	時間	240.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/240時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子
科目の目標	精神保健看護学特論、精神保健看護学演習の学修を基盤として、精神保健看護学の質の向上に貢献できるような研究課題を設定し、研究に取り組む。計画立案から論文完成まで、主体的に進める。

授業計画表

1	授業内容	① 1～30回（4～6月）：課題研究計画書の完成 文献検討を深め、研究計画書の修正を図り、完成させる。同時に研究フィールドを確保する。 倫理委員会への申請を行い、承諾を得る。 ② 31～60回（7～9月）：データの収集 研究計画にそって、データを収集する。 ③ 61～90回（10月）：データの集計、分析 収集したデータを集計し、あらかじめ設定した分析方法にそって分析を行う。 ④ 91～105回（11月）：結果の解釈、考察 関連領域における理論の活用や先行文献による知見との比較を十分に行いながら、分析結果を解釈し、考察する。 ⑤ 106～120回（12月）：論文の完成 論文の推敲を重ねて、初稿論文を完成させる。 なお、論文提出、審査のスケジュールは別途指示される。

評価方法	修士論文提出時に、以下の項目を総合して評価を行う。 ・研究に取り組む姿勢、態度 ・研究計画の妥当性 ・プレゼンテーションの内容、態度 ・論文の完成度
教科書	看護研究-原理と方法, 近藤潤子監訳, 医学書院
参考書	適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	大賀淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	1年次には、以下の準備を行う。 ・入学時に、現時点での研究課題を担当教員へ伝え、これを共有する。 ・研究課題に関連する先行文献の検討を行って、研究デザインを考える。 ・研究計画を作成し、研究計画発表会で発表する。教員、学生の意見を受け、これをもとにさらに研究計画を精錬させる。

講義名	精神保健看護学課題研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	4	時間	120.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	4単位/120時間		
必修・選択	専門科目/精神保健看護学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/養護教諭	◎ 大賀　淳子	看護学科教員

担当教員	大賀　淳子
科目の目標	精神保健看護学特論、精神保健看護学演習の学修を基盤として、精神保健看護学領域における看護実践上の問題解決に貢献できるような研究課題を設定し、研究に取り組む。

授業計画表

1	授業内容	①1～15回（4～6月）：課題研究計画書の完成 文献検討を深め、研究計画書の修正を図り、完成させる。同時に研究フィールドを確保する。 倫理委員会への申請を行い、承諾を得る。 ②16～30回（7～9月）：データの収集 研究計画にそって、データを収集する。 ③31～40回（10月）：データの集計、分析 収集したデータを集計し、あらかじめ設定した分析方法にそって分析を行う。 ④41～50回（11月）：結果の解釈、考察 関連領域における理論の活用や先行文献による知見との比較を十分に行いながら、分析結果を解釈し、考察する。 ⑤51～60回（12月）：論文の完成 論文の推敲を重ねて、初稿論文を完成させる。 なお、論文提出、審査のスケジュールは別途指示される。

評価方法	修士論文提出時に、以下の項目を総合して評価を行う。 ・研究に取り組む姿勢、態度 ・研究計画の妥当性 ・プレゼンテーションの内容、態度 ・論文の完成度
教科書	看護研究-原理と方法，近藤潤子監訳，医学書院
参考書	適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	大賀 淳子：ogaju@saitama-med.ac.jp 月曜日16:00～18:00
履修上の注意、履修要件	1年次には、以下の準備を行う。 ・入学時に、現時点での研究課題を担当教員へ伝え、これを共有する。 ・研究課題に関連する先行文献の検討を行って、研究デザインを考える。 ・研究計画を作成し、研究計画発表会で発表する。教員、学生の意見を受け、これをもとにさらに研究計画を精錬させる。

講義名	基礎看護学特論Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	金曜日	代表時限	2限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ
科目の目標	看護の基本的概念を理解し、看護に対する考え方を深めるために、看護独自の機能とは何か、看護職に求められるものとは何かを、看護実践の振り返りを通して明らかにする。また、看護の専門性を追求し、明確化することで、看護の質向上のための課題を探求する。
学習の具体的な目標	1. 看護理論家の定義から看護の専門性について説明できる。 2. 看護技術の特徴と看護技術を適切に実践するための条件について説明できる。 3. 看護専門職としてのあり方、看護の質向上の観点から、自己の看護実践を振り返り自己の課題を明確化できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護の専門性①		
	授業内容	看護の専門性とは何か、看護理論家の考えを学習することから明らかにする。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性②		
	授業内容	看護の専門性とは何か、看護理論家の考えを学習することから明らかにする。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性③		
	授業内容	看護の専門性とは何か、看護理論家の考えを学習することから明らかにする。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性④		
	授業内容	看護の専門性とは何か、看護理論家の考えを学習することから明らかにする。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための条件①		
	授業内容	看護における技術とはなにかを考え、看護技術の特徴や看護技術を適切に実践するための条件について考える		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための条件②		
	授業内容	看護における技術とはなにかを考え、看護技術の特徴や看護技術を適切に実践するための条件について考える。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための条件③		
	授業内容	看護における技術とはなにかを考え、看護技術の特徴や看護技術を適切に実践するための条件について考える。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	2限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能の理解と看護の質向上のための課題の明確化		

授業内容	各自の看護実践を看護理論から意味づけることにより、看護独自の機能の理解を深め、看護の質向上のための課題を明らかにする。これらの課題についてデスカッションを通して、看護の質向上のための課題を明確化する。			
16	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性の追求を通して看護職に求められる課題の明確化①		
	授業内容	看護の専門性を追求することを通して、看護職に求められる課題をデスカッションを通して明確化し看護の考え方を深め、臨床看護に還元できるための方略を考える。		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性の追求を通して看護職に求められる課題の明確化②		
	授業内容	看護の専門性を追求することを通して、看護職に求められる課題をデスカッションを通して明確化し看護の考え方を深め、臨床看護に還元できるための方略を考える。		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	これまでに学んだ内容から、看護専門職として看護の専門性の明確化を図る。		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護の専門性①		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性②		

4	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性③		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性④		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための条件①		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための条件②		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための条件③		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能の理解と看護の質向上のための課題の明確化		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性の追求を通して看護職に求められる課題の明確化①		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月24日(金)	時限	7限

担当者	横山			
テーマ	〃			
20	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性の追求を通して看護職に求められる課題の明確化②		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月07日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月21日(金)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、レポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習をし授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して、学習内容を深めること。

講義名	基礎看護学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	金曜日	代表時限	5限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ・伊藤　順子
科目の目標	看護の専門性である看護の独自の機能について、先行文献を検討し、看護の質向上のための考え方や方略を論理的に考える。また、これら学習した内容について、看護実践現場にどのように活用できるか、限界と課題を明らかにすることをねらいとする。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性①		
	授業内容	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性についての理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性②		
	授業内容	看護の独自の機能である日常生活援助に関する研究の動向を、文献レビューから明らかにすることを通して、看護の専門性とは何かについて理解を深める。		
5	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	4限

担当者	横山			
テーマ	〃			
授業内容	〃			
6	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	2限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	看護活動の実際を通した看護の専門性や看護師の役割の理解①		
	授業内容	看護活動の実際を担う臨床看護師による講義を通して、看護の専門性や看護師の役割について理解を深める。		
8	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	3限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	4限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月29日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護活動の実際を通した看護の専門性や看護師の役割の理解②		
	授業内容	看護活動の実際を担う臨床看護師による講義を通して、看護の専門性や看護師の役割について理解を深める。		
11	年月日(曜日)	令和 9年01月29日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月29日(金)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性③		
	授業内容	看護の独自の機能である日常生活援助に関する研究の動向を、文献レビューから明らかにすることを通して、看護の専門性とは何かについて理解を深める。		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月12日(金)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 9年03月05日(金)	時限	3限

担当者	横山			
テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性④			
授業内容	看護の独自の機能である日常生活援助に関する研究の動向を、文献レビューから明らかにすることを通して、看護の専門性とは何かについて理解を深める。			

17	年月日(曜日)	令和 9年03月05日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 9年03月05日(金)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年03月19日(金)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性⑤		
	授業内容	看護の独自の機能である日常生活援助に関する研究の動向を、文献レビューから明らかにすることを通して、看護の専門性とは何かについて理解を深める。		
20	年月日(曜日)	令和 9年03月19日(金)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年03月19日(金)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 9年03月25日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	学習した内容について、看護実践現場にどのように活用できるか、限界と課題を明らかにする。		
23	年月日(曜日)	令和 9年03月25日(木)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性①		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性②		

5	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
6	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	5限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	看護活動の実際を通した看護の専門性や看護師の役割の理解①		
8	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	6限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	7限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	〃		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護活動の実際を通した看護の専門性や看護師の役割の理解②		
11	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性③		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月13日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
16	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性④		
17	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年03月20日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性⑤		
20	年月日(曜日)	令和 9年03月20日(土)	時限	4限

担当者	横山			
テーマ	〃			
21	年月日(曜日)	令和 9年03月20日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 9年03月27日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
23	年月日(曜日)	令和 9年03月27日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、レポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し、再評価を行う。
教科書	授業中に適宜提示する。
参考書	授業中に適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習をし授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して、学習内容を深めること。

講義名	基礎看護学演習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	0.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ・山﨑美智子・糸嶺　一郎・木内　千晶
科目の目標	看護の専門性に関する国内外の文献検討を基に、関心のある研究課題を明確にし、それらを分析的に考察し、研究方法論についてディスカッションする。各自の研究課題に関する国内外の文献を講読し学生・教員間でディスカッションを通して研究計画書を作成する。主体的に課題学習、プレゼンテーションを行い各自の研究課題を明確にし、研究方法について具体的にしていく。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月09日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講ガイダンス・量的研究デザインの特徴と考え方 研究疑問に関するディスカッション		
	授業内容	量的研究デザインの特徴と考え方の理解を深めることで、研究方法に活用する。 研究疑問に関するディスカッションを通して、研究疑問を明確化する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月09日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	疫学研究の考え方　・文献検索の考え方と方法 研究疑問の明確化		
	授業内容	疫学研究の考え方の理解を深めることで、研究方法に活用する。 文献検索の考え方と方法について、理解を深める。 研究疑問に関するディスカッションを通して、研究疑問を明確化する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究疑問の明確化のための文献検索の結果①		
	授業内容	研究疑問に関する文献検索の結果について検討する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討①		
	授業内容	研究課題についてディスカッションを通して明らかにする。 研究課題に関する文献検索の結果について検討する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討②		
	授業内容	研究課題についてディスカッションを通して明らかにする。 研究課題に関する文献検索の結果について検討する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献検索の結果に関する検討③ 文献クリティーク①		
	授業内容	研究課題に関する文献検索の結果について検討する。 文献クリティークを行い、論文の構成、論文の読み方について理解を深める。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	2限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	量的研究：系統的解析に関する考え方 目的変数となる尺度の考え方		
	授業内容	量的研究における系統的解析に関する考え方、目的変数となる尺度の考え方、用い方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	3限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

15	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月30日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題① 研究課題に関する研究の枠組みの明確化①		
	授業内容	研究課題に関する文献レビューを実施する。 研究課題に関する文献レビューの動向と課題を明確化する。 文献検討を通して、研究課題における研究の枠組みや位置づけを明確化する。		
17	年月日(曜日)	令和 8年08月06日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題② 文献クリティーク②		
	授業内容	研究課題に関する文献レビューの動向と課題を明確化する。 文献クリティークを行い、論文の構成、論文の読み方について理解を深める。		
18	年月日(曜日)	令和 8年08月20日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化②		
	授業内容	文献検討を通して、研究課題における研究の枠組みや位置づけを明確化する。		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月27日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	各自の研究課題に関する文献クリティーク①		
	授業内容	研究課題に関する先行文献のクリティークを実施する。		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月27日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年09月03日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化③		
	授業内容	文献検討を通して、研究課題における研究の枠組みや位置づけを明確化する。		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	多変量解析の考え方（共分散構造分析）		
	授業内容	量的研究における共分散構造分析の考え方、用い方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年09月10日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ			

研究計画書の作成方法と論文構成の考え方
各自の研究課題に関する文献クリティーク②

授業内容	研究計画書の作成方法と論文構成の考え方を理解し、研究計画書の作成に活用する。 研究課題に関する先行文献のクリティークを実施する。

26	年月日(曜日)	令和 8年09月10日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年09月24日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討①		
	授業内容	研究課題における研究方法と研究成果の明確化を図り、研究計画書を作成する。		
28	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討② 研究抄録の考え方と作成のポイント		
	授業内容	研究課題における研究方法と研究成果の明確化を図り、研究計画書を作成する。 研究抄録の考え方と作成のポイントを理解し、抄録の作成に活用する。		
29	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討③ 研究抄録の作成と検討①		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法① 研究抄録の作成と検討②		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法② 研究抄録の作成と検討③		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法③ 研究抄録の作成と検討④		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント① データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方①		
	授業内容	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイントについて理解を深める。 データ収集方法としての質問紙の回答方法の考え方を理解し質問紙作成に活用する。		

35	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント② データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方②		
	授業内容	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイントについて理解を深める。 データ収集方法としての質問紙の回答方法の考え方を理解し質問紙作成に活用する。		
36	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討① データ収集方法・質問紙の作成①		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 質問紙調査の作成を実施する。		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討② データ収集方法：質問紙の作成②		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 質問紙調査の作成を実施する。		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討③ データ収集方法：質問紙の作成③		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 質問紙調査の作成を実施する。		
40	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
41	年月日(曜日)	令和 9年02月04日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討④ データ分析方法の考え方①		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 データ分析の考え方を理解し、調査方法の検討に活用する。		
42	年月日(曜日)	令和 9年02月04日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討⑤ データ分析方法の考え方②		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 データ分析の考え方を理解し、調査方法の検討に活用する。		
43	年月日(曜日)	令和 9年02月18日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)①		
	授業内容	調査依頼の方法を理解し、調査依頼書を作成する。		
44	年月日(曜日)	令和 9年02月18日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
45	年月日(曜日)	令和 9年03月04日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)②		
	授業内容	調査依頼の方法を理解し、調査依頼書を作成する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講ガイダンス・量的研究デザインの特徴と考え方 研究疑問に関するディスカッション		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	疫学研究の考え方　・文献検索の考え方と方法 研究疑問の明確化		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究疑問の明確化のための文献検索の結果①		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討①		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討②		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献検索の結果に関する検討③ 文献クリティーク①		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限

担当者	横山・糸嶺・山﨑			
テーマ	量的研究：系統的解析に関する考え方 目的変数となる尺度の考え方			
14	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	5限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題① 研究課題に関する研究の枠組みの明確化①		
17	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題② 文献クリティーク②		
18	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	5限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化②		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月15日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	各自の研究課題に関する文献クリティーク①		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月15日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化③		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	多変量解析の考え方（共分散構造分析）		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成方法と論文構成の考え方 各自の研究課題に関する文献クリティーク②		
26	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討①		

28	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討② 研究抄録の考え方と作成のポイント		
30	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討③ 研究抄録の作成と検討①		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法① 研究抄録の作成と検討②		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法② 研究抄録の作成と検討③		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法③ 研究抄録の作成と検討④		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント① データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方①		
35	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント② データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方②		
36	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討① データ収集方法・質問紙の作成①		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討② データ収集方法：質問紙の作成②		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月17日(日)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討③ データ収集方法：質問紙の作成③		
40	年月日(曜日)	令和 9年01月17日(日)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
41	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	3限

担当者	横山・山﨑			
テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討④ データ分析方法の考え方①			
42	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討⑤ データ分析方法の考え方②		
43	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)①		
44	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
45	年月日(曜日)	令和 9年03月20日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)②		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、各課題のレポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題が提示され再評価の対象となる。
教科書	適宜提示する。
参考書	授業中に適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日　16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習 し授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して学習内容を深めること。

講義名	基礎看護学演習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ・山﨑美智子・糸嶺　一郎・木内　千晶
科目の目標	各自の研究課題を基盤とし、国内外の文献講読を行なうとともに、学生・教員間でディスカッション・考察することにより、研究手法、論文作成の方法について明確化する。 主体的に課題学習・プレゼンテーション・ディスカッションを行い、関心領域におけるデータ分析を通して、研究のプロセスを具体的にしていく。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月08日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 研究抄録の作成及び論文の構成の明確化① 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方①		
	授業内容	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化及び研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方を明らかにする。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月08日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化② 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方②		
	授業内容	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化及び研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方を明らかにする。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画発表会（M2）		
	授業内容	研究計画発表会を通して、得られたアドバイスを論文作成に活用する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ収集方法）の検討 文献クリテーク		
	授業内容	研究計画書に沿ったデータ収集方法について、文献クリティークを通して具体化していく。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う集計ソフトの考え方と使い方）①		
	授業内容	研究目的を明らかにするための研究方法及びデータ分析について、統計ソフトの実際と課題を理解する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う集計ソフトの考え方と使い方）②		
	授業内容	研究目的を明らかにするための研究方法及びデータ分析について、統計ソフトの実際と課題を理解する。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う集計ソフトの考え方と使い方）③		
	授業内容	研究目的を明らかにするための研究方法及びデータ分析について、統計ソフトの実際と課題を理解する。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	2限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ			

疫学研究の考え方と系統的な統計解析の方法① 尺度を活用した説明変数の解析の考え方				
授業内容	量的研究における系統的解析に関する考え方、目的変数となる尺度の考え方、用い方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。			
16	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	3限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際① データ入力の考え方と実際		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。統計ソフトへのデータ入力の実際からデー入力の考え方を理解する。		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際② データクリーニングの考え方と実際		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。 統計ソフトへのデータ入力の実際からデータ整理の必要性を理解する。		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際③		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年08月19日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際④		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。		
25	年月日(曜日)	令和 8年08月19日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限

担当者	横山・木内・山﨑			
テーマ	系統的な統計解析の方法② 共分散構造分析の考え方			
授業内容	量的研究における系統的解析に関する考え方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。共分散構造分析の考え方を理解する。			
27	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年09月16日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計方法の考え方と実際⑤		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。		
30	年月日(曜日)	令和 8年09月16日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成①		
	授業内容	データ分析を実施し、研究結果に関する表の作成と論文の構成の考え方を明確化し、論文作成に活用する。		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成②		
	授業内容	データ分析を実施し、研究結果に関する表の作成と論文の構成の考え方を明確化し、論文作成に活用する。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
35	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
36	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		

テーマ	修士論文の作成
授業内容	論文作成の手引きに基づき論文を作成する。

37	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の作成		
	授業内容	論文作成の手引きに基づき論文を作成する。		
39	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
40	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
	授業内容	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
41	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
42	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
	授業内容	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
43	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
44	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
	授業内容	作成した論文を振り返り、論文作成に活用する。		
45	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 研究抄録の作成及び論文の構成の明確化① 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方①		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	2限

担当者	横山・山﨑			
テーマ	〃			
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化② 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方②		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画発表会（M2）		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ収集方法）の検討 文献クリテーク		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う集計ソフトの考え方と使い方）①		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う集計ソフトの考え方と使い方）②		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う集計ソフトの考え方と使い方）③		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	疫学研究の考え方と系統的な統計解析の方法① 尺度を活用した説明変数の解析の考え方		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		

17	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	5限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際① データ入力の考え方と実際		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際② データクリーニングの考え方と実際		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際③		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際④		
25	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	系統的な統計解析の方法② 共分散構造分析の考え方		
27	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計方法の考え方と実際⑤		
30	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成①		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		

テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成②			
32	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
33	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
34	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
35	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
36	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の作成		
37	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
38	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の作成		
39	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
40	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
41	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
42	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
43	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
44	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
45	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、レポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題が提示され再評価の対象となる。

教科書	適宜提示する。
参考書	授業中に適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前に アポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習を し授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して学習内容を深めること。

講義名	看護管理学特論Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	木曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ・村岡　亜紀
科目の目標	看護専門職者として看護の基本的概念を理解し、看護に対する考え方を深め、看護の専門性を追求しつつ、看護の質向上のための課題を探求する。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護の専門性①		
	授業内容	看護理論家の定義から看護の専門性について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	2限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性②		
	授業内容	看護の専門性と看護職のあり方について、自己の看護実践を振り返り明確化にできる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	4限
	担当者	横山		

テーマ	〃			
授業内容	〃			
6	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	2限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性③		
	授業内容	看護の専門性と看護職のあり方について、自己の看護実践を振り返り明確化にできる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	3限
	担当者	村岡		
	テーマ	看護の質向上を支える看護組織論及び看護管理者論 看護における安全管理、情報管理		
	授業内容	1. 看護の質向上を支える看護組織論及び看護管理者論について説明できる。 2. 看護チームにおけるリーダシップ、メンバーシップのあり方について説明できる。 3. 看護における安全管理、情報管理について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	4限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	3限
	担当者	村岡		
	テーマ	看護の発展のための看護人材開発		
	授業内容	看護の発展のための看護人材開発について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	4限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	2限
	担当者	村岡		
	テーマ	看護の質担保のための病院機能評価と看護機能評価 看護専門職者としての課題の明確化		
	授業内容	〃		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	3限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	4限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	2限
	担当者	横山		

テーマ	看護の発展を目指した看護マネジメント
授業内容	看護の発展を目指した看護マネジメントの考え方について説明できる。

17	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月13日(木)	時限	2限
	担当者	横山		
	テーマ	看護チームと多職種連携のあり方		
	授業内容	看護チームと多職種連携のあり方について説明できる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月13日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月13日(木)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月17日(木)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	これまでに学んだ内容をもとに、自己の課題を明確化する。		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月17日(木)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護の専門性①		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性②		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	5限
	担当者	横山		

テーマ	〃			
6	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の専門性③		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	3限
	担当者	村岡		
	テーマ	看護の質向上を支える看護組織論及び看護管理者論 看護における安全管理、情報管理		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	4限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	3限
	担当者	村岡		
	テーマ	看護の発展のための看護人材開発		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	4限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	3限
	担当者	村岡		
	テーマ	看護の質担保のための病院機能評価と看護機能評価 看護専門職者としての課題の明確化		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	4限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	5限
	担当者	村岡		
	テーマ	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護の発展を目指した看護マネジメント		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	看護チームと多職種連携のあり方		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	4限
	担当者	横山		

テーマ	〃			
21	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	6限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	7限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、レポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題が提示され再評価の対象となる。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習をして授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して、学習内容を深めること。

講義名	看護管理学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	金曜日	代表時限	5限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ・伊藤　順子・宮嵜祐子
科目の目標	看護の専門性である看護の独自の機能について、先行文献を検討し、看護の質向上のための考え方や方略を論理的に考える。また、これら学習した内容について、看護実践現場にどのように活用できるか、限界と課題を明らかにすることをねらいとする。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	2限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性①		
	授業内容	看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	5限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	看護活動の実際を通して、看護の専門性や看護師の役割の理解②		
	授業内容	看護活動の実際を担う臨床看護師から講義を受け、看護の専門性や看護師の役割について説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	6限

担当者	伊藤・横山			
テーマ	〃			
授業内容	〃			
6	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	7限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	看護サービスの質保証、組織マネジメントの実際		
	授業内容	看護サービスの基本概念を理解し、看護サービスの質評価から改善を進めるための考え方について説明できる。組織マネジメントの基礎的知識を学び、看護管理者の役割について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法①		
	授業内容	組織マネジメントにおける組織分析の方法を学び、自部署の看護管理実践課題を明確にする。		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法②		
	授業内容	組織マネジメントにおける組織分析の方法を学び、自部署の看護管理実践課題を明確にする。		
12	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月15日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法③		
	授業内容	組織分析の手法を用いて、自部署の課題解決に向け論理的思考と問題解決技法をについて説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月15日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年03月01日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法④		
	授業内容	組織分析の手法を用いて、自部署の課題解決に向け論理的思考と問題解決技法をについて説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 9年03月01日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		

テーマ	〃			
授業内容	〃			
17	年月日(曜日)	令和 9年03月08日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	コンフリクトマネジメント①		
	授業内容	コンフリクトマネジメントの考え方、コンフリクト構造分析について説明できる。		
18	年月日(曜日)	令和 9年03月08日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年03月15日(月)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	コンフリクトマネジメント②		
	授業内容	コンフリクトの状況対応における交渉のプロセスについて説明できる。		
20	年月日(曜日)	令和 9年03月15日(月)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 9年03月29日(月)	時限	2限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	学習した内容について、看護実践現場にどのように活用できるか、限界と課題を明らかにする。		
22	年月日(曜日)	令和 9年03月29日(月)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年03月29日(月)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 看護独自の機能である日常生活援助と看護の専門性①		
2	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
4	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	5限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	看護活動の実際を通して、看護の専門性や看護師の役割の理解②		
5	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	6限
	担当者	伊藤・横山		

テーマ	〃			
6	年月日(曜日)	令和 8年12月25日(金)	時限	7限
	担当者	伊藤・横山		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 9年01月19日(火)	時限	6限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	看護サービスの質保証 組織マネジメントの実際		
8	年月日(曜日)	令和 9年01月19日(火)	時限	7限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 9年01月26日(火)	時限	6限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法①		
10	年月日(曜日)	令和 9年01月26日(火)	時限	7限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 9年02月09日(火)	時限	6限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法②		
12	年月日(曜日)	令和 9年02月09日(火)	時限	7限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月16日(火)	時限	6限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法③		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月16日(火)	時限	7限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 9年03月02日(火)	時限	6限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	組織分析の方法④		
16	年月日(曜日)	令和 9年03月02日(火)	時限	7限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
17	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	3限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	コンフリクトマネジメント①		
18	年月日(曜日)	令和 9年03月06日(土)	時限	4限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	〃		
19	年月日(曜日)	令和 9年03月09日(火)	時限	6限
	担当者	横山・宮嵜		
	テーマ	コンフリクトマネジメント②		
20	年月日(曜日)	令和 9年03月09日(火)	時限	7限
	担当者	横山・宮嵜		

テーマ	〃			
21	年月日(曜日)	令和 9年03月27日(土)	時限	3限
	担当者	横山		
	テーマ	まとめ		
22	年月日(曜日)	令和 9年03月27日(土)	時限	4限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		
23	年月日(曜日)	令和 9年03月27日(土)	時限	5限
	担当者	横山		
	テーマ	〃		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、レポートにより総合的にに評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題が提示され再評価の対象となる。
教科書	授業中に適宜提示する。
参考書	授業中に適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習をして授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して、学習内容を深めること。

講義名	看護管理学演習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	1年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ・山﨑美智子・糸嶺　一郎・木内　千晶
科目の目標	看護の専門性に関する国内外の文献検討を基に、関心のある研究課題を明確にし、それらを分析的に考察し、研究方法論についてディスカッションする。各自の研究課題に関する国内外の文献を講読し、学生・教員間のディスカッションを通して、研究計画書を作成する。主体的に課題学習、プレゼンテーションを行い、各自の研究課題を明確にし、研究方法について具体的にしていく。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月09日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講ガイダンス・量的研究デザインの特徴と考え方 研究疑問に関するディスカッション		
	授業内容	量的研究デザインの特徴と考え方の理解を深めることで、研究方法に活用する。 研究疑問に関するディスカッションを通して、研究疑問を明確化する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月09日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	疫学研究の考え方　・文献検索の考え方と方法 研究疑問の明確化		
	授業内容	疫学研究の考え方の理解を深めることで、研究方法に活用する。 文献検索の考え方と方法について、理解を深める。 研究疑問に関するディスカッションを通して、研究疑問を明確化する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究疑問の明確化のための文献検索の結果①		
	授業内容	研究疑問に関する文献検索の結果について検討する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討①		
	授業内容	研究課題についてディスカッションを通して明らかにする。 研究課題に関する文献検索の結果について検討する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討②		
	授業内容	研究課題についてディスカッションを通して明らかにする。 研究課題に関する文献検索の結果について検討する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献検索の結果に関する検討③ 文献クリティーク①		
	授業内容	研究課題に関する文献検索の結果について検討する。 文献クリティークを行い、論文の構成、論文の読み方について理解を深める。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	2限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	量的研究：系統的解析に関する考え方 目的変数となる尺度の考え方		
	授業内容	量的研究における系統的解析に関する考え方、目的変数となる尺度の考え方、用い方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	3限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

15	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月30日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題① 研究課題に関する研究の枠組みの明確化①		
	授業内容	研究課題に関する文献レビューを実施する。 研究課題に関する文献レビューの動向と課題を明確化する。 文献検討を通して、研究課題における研究の枠組みや位置づけを明確化する。		
17	年月日(曜日)	令和 8年08月06日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題② 文献クリティーク②		
	授業内容	研究課題に関する文献レビューの動向と課題を明確化する。 文献クリティークを行い、論文の構成、論文の読み方について理解を深める。		
18	年月日(曜日)	令和 8年08月20日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化②		
	授業内容	文献検討を通して、研究課題における研究の枠組みや位置づけを明確化する。		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月27日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	各自の研究課題に関する文献クリティーク①		
	授業内容	研究課題に関する先行文献のクリティークを実施する。		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月27日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年09月03日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化③		
	授業内容	文献検討を通して、研究課題における研究の枠組みや位置づけを明確化する。		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	多変量解析の考え方（共分散構造分析）		
	授業内容	量的研究における共分散構造分析の考え方、用い方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年09月10日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ			

研究計画書の作成方法と論文構成の考え方 各自の研究課題に関する文献クリティーク②				
授業内容	研究計画書の作成方法と論文構成の考え方を理解し、研究計画書の作成に活用する。 研究課題に関する先行文献のクリティークを実施する。			
26	年月日(曜日)	令和 8年09月10日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年09月24日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討①		
	授業内容	研究課題における研究方法と研究成果の明確化を図り、研究計画書を作成する。		
28	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討② 研究抄録の考え方と作成のポイント		
	授業内容	研究課題における研究方法と研究成果の明確化を図り、研究計画書を作成する。 研究抄録の考え方と作成のポイントを理解し、抄録の作成に活用する。		
29	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
30	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討③ 研究抄録の作成と検討①		
	授業内容	研究課題における研究方法と研究成果の明確化を図り、研究計画書を作成する。 研究抄録を作成し検討する。		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法① 研究抄録の作成と検討②		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法② 研究抄録の作成と検討③		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法③ 研究抄録の作成と検討④		
	授業内容	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法について理解を深める。 研究抄録を作成し検討する。		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント① データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方①		
	授業内容	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイントについて理解を深める。 データ収集方法としての質問紙の回答方法の考え方を理解し質問紙作成に活用する。		

35	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント② データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方②		
	授業内容	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイントについて理解を深める。 データ収集方法としての質問紙の回答方法の考え方を理解し質問紙作成に活用する。		
36	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討① データ収集方法・質問紙の作成①		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 質問紙調査の作成を実施する。		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討② データ収集方法：質問紙の作成②		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 質問紙調査の作成を実施する。		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討③ データ収集方法：質問紙の作成③		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 質問紙調査の作成を実施する。		
40	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
41	年月日(曜日)	令和 9年02月04日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討④ データ分析方法の考え方①		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 データ分析の考え方を理解し、調査方法の検討に活用する。		
42	年月日(曜日)	令和 9年02月04日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討⑤ データ分析方法の考え方②		
	授業内容	倫理審査申請書類の作成及び調査方法について検討する。 データ分析の考え方を理解し、調査方法の検討に活用する。		
43	年月日(曜日)	令和 9年02月18日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)①		
	授業内容	調査依頼の方法を理解し、調査依頼書を作成する。		
44	年月日(曜日)	令和 9年02月18日(木)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)①		

授業内容	調査依頼の方法を理解し、調査依頼書を作成する。			
45	年月日(曜日)	令和 9年03月04日(木)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)②		
	授業内容	調査依頼の方法を理解し、調査依頼書を作成する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講ガイダンス・量的研究デザインの特徴と考え方 研究疑問に関するディスカッション		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	疫学研究の考え方　・文献検索の考え方と方法 研究疑問の明確化		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究疑問の明確化のための文献検索の結果①		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討①		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題の明確化 研究課題に関する文献検索の結果に関する検討②		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献検索の結果に関する検討③ 文献クリティーク①		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限

担当者	横山・糸嶺・山﨑			
テーマ	量的研究：系統的解析に関する考え方 目的変数となる尺度の考え方			
14	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	5限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
16	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題① 研究課題に関する研究の枠組みの明確化①		
17	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する文献レビューの動向と課題② 文献クリティーク②		
18	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	5限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化②		
19	年月日(曜日)	令和 8年08月15日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	各自の研究課題に関する文献クリティーク①		
20	年月日(曜日)	令和 8年08月15日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
21	年月日(曜日)	令和 8年08月22日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究の枠組みの明確化③		
22	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	多変量解析の考え方（共分散構造分析）		
23	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
25	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成方法と論文構成の考え方 各自の研究課題に関する文献クリティーク②		
26	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
27	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討①		

28	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討② 研究抄録の考え方と作成のポイント		
30	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画書の作成と内容の検討③ 研究抄録の作成と検討①		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法① 研究抄録の作成と検討②		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法② 研究抄録の作成と検討③		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録のプレゼンテーションの考え方と方法③ 研究抄録の作成と検討④		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント① データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方①		
35	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の考え方と作成のポイント② データ収集方法：質問紙の回答方法の考え方②		
36	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
37	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討① データ収集方法・質問紙の作成①		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討② データ収集方法：質問紙の作成②		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月17日(日)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討③ データ収集方法：質問紙の作成③		
40	年月日(曜日)	令和 9年01月17日(日)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
41	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	3限

担当者	横山・山﨑			
テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討④ データ分析方法の考え方①			
42	年月日(曜日)	令和 9年02月06日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	倫理審査申請書類の作成と調査方法の検討⑤ データ分析方法の考え方②		
43	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)①		
44	年月日(曜日)	令和 9年02月20日(土)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
45	年月日(曜日)	令和 9年03月20日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査依頼の方法(調査依頼書の作成)②		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、各課題のレポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題が提示され再評価の対象となる。
教科書	適宜提示する。
参考書	授業中に適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日　16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習 し授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して学習内容を深めること。

講義名	看護管理学演習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	0.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山 ひろみ・山﨑 美智子・糸嶺 一郎・木内 千晶
科目の目標	各自の研究課題を基盤とし、国内外の文献講読を行なうとともに、学生・教員間でディスカッション・考察することにより、研究手法、論文作成の方法について明確化する。 主体的に課題学習・プレゼンテーション・ディスカッションを行い、関心領域におけるデータ分析を通して、研究のプロセスを具体的にしていく。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月08日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 研究抄録の作成及び論文の構成の明確化① 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方①		
	授業内容	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化及び研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方を明らかにする。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月08日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化② 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方②		
	授業内容	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化及び研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方を明らかにする。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

授業内容	〃			
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画発表会（M2）		
	授業内容	研究計画発表会を通して、得られたアドバイスを論文作成に活用する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ収集方法）の検討 文献クリテーク		
	授業内容	研究計画書に沿ったデータ収集方法について、文献クリティークを通して具体化していく。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う統計ソフトの考え方と使い方）①		
	授業内容	研究目的を明らかにするための研究方法及びデータ分析について、統計ソフトの実際と課題を理解する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う統計ソフトの考え方と使い方）②		
	授業内容	研究目的を明らかにするための研究方法及びデータ分析について、統計ソフトの実際と課題を理解する。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う統計ソフトの考え方と使い方）③		
	授業内容	研究目的を明らかにするための研究方法及びデータ分析について、統計ソフトの実際と課題を理解する。		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	2限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ			

疫学研究の考え方と系統的な統計解析の方法① 尺度を活用した説明変数の解析の考え方				
授業内容	量的研究における系統的解析に関する考え方、目的変数となる尺度の考え方、用い方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。			
16	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	3限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際① データ入力の考え方と実際		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。統計ソフトへのデータ入力の実際からデー入力の考え方を理解する。		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際② データクリーニングの考え方と実際		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。 統計ソフトへのデータ入力の実際からデータ整理の必要性を理解する。		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際③		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年08月19日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際④		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。		
25	年月日(曜日)	令和 8年08月19日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限

担当者	横山・木内・山﨑			
テーマ	系統的な統計解析の方法② 共分散構造分析の考え方			
授業内容	量的研究における系統的解析に関する考え方を理解することで、関連要因に関する研究の考え方に活用する。共分散構造分析の考え方を理解する。			
27	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年09月16日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計方法の考え方と実際⑤		
	授業内容	研究目的を明らかにするための調査結果の集計方法の考え方と実際を理解する。		
30	年月日(曜日)	令和 8年09月16日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成①		
	授業内容	データ分析を実施し、研究結果に関する表の作成と論文の構成の考え方を明確化し、論文作成に活用する。		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成②		
	授業内容	データ分析を実施し、研究結果に関する表の作成と論文の構成の考え方を明確化し、論文作成に活用する。		
32	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
33	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
34	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
35	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
	授業内容	研究成果に沿った研究抄録を作成し検討する。研究成果を伝えるためのプレゼンテーションの準備ができる。		
36	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		

テーマ	修士論文の作成
授業内容	論文作成の手引きに基づき論文を作成する。

37	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
38	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の作成		
	授業内容	論文作成の手引きに基づき論文を作成する。		
39	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
40	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
	授業内容	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
41	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
42	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
	授業内容	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
43	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		
44	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	3限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
	授業内容	作成した論文を振り返り、論文作成に活用する。		
45	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	4限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
	授業内容	〃		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	科目開講オリエンテーション 研究抄録の作成及び論文の構成の明確化① 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方①		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	2限

担当者	横山・山﨑			
テーマ	〃			
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究抄録の作成及び論文の構成の明確化② 研究計画発表に対するプレゼンテーションの考え方②		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究計画発表会（M2）		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ収集方法）の検討 文献クリテーク		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う統計ソフトの考え方と使い方）①		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う統計ソフトの考え方と使い方）②		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究課題に関する研究方法（データ分析に伴う統計ソフトの考え方と使い方）③		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	疫学研究の考え方と系統的な統計解析の方法① 尺度を活用した説明変数の解析の考え方		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		

17	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	5限
	担当者	横山・糸嶺・山﨑		
	テーマ	〃		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際① データ入力の考え方と実際		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際② データクリーニングの考え方と実際		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
22	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際③		
23	年月日(曜日)	令和 8年08月01日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
24	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計の考え方と実際④		
25	年月日(曜日)	令和 8年08月08日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
26	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	3限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	系統的な統計解析の方法② 共分散構造分析の考え方		
27	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	4限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
28	年月日(曜日)	令和 8年09月05日(土)	時限	5限
	担当者	横山・木内・山﨑		
	テーマ	〃		
29	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	調査結果（データ）の集計方法の考え方と実際⑤		
30	年月日(曜日)	令和 8年09月19日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成①		
31	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		

テーマ	データ分析の実際と研究結果表の作成方法と論文の構成の明確化と作成②			
32	年月日(曜日)	令和 8年10月03日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
33	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
34	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
35	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	研究発表会に向けた抄録作成とプレゼンテーションの準備		
36	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の作成		
37	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
38	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の作成		
39	年月日(曜日)	令和 8年11月28日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
40	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
41	年月日(曜日)	令和 8年12月05日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
42	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法と準備		
43	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		
44	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	1限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	修士論文の審査におけるプレゼンテーションの方法について理解をし、プレゼンテーションの準備ができる。		
45	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	2限
	担当者	横山・山﨑		
	テーマ	〃		

評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、レポートにより総合的に科目終了時に評価する。 ・評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題が提示され再評価の対象となる。

教科書	適宜提示する。
参考書	授業中に適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前に アポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①授業は講義とゼミ形式により進める。予習・復習を し授業に臨むこと。 ②検討課題についてプレゼンテーションができるよう各自が事前準備し、主体的に授業に臨むこと。 ③課題に対するディスカッションを通して学習内容を深めること。

講義名	基礎看護学・看護管理学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	8	時間	240.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/240時間		
必修・選択	専門科目/基礎看護学・看護管理学領域		
配当年次	2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師	◎ 横山　ひろみ	看護学科教員

担当教員	横山ひろみ
科目の目標	「基礎看護学特論Ⅰ・Ⅱ」、および、「基礎看護学演習Ⅰ・Ⅱ」、または、「看護管理学特論Ⅰ・Ⅱ」および、「看護管理学演習Ⅰ・Ⅱ」で学修したことを基盤とし、各自の研究課題に沿って研究をすすめる。 1.看護職者・看護管理者としての自己の研究課題解決に向けて研究目的を設定する。『特論』・『演習』を通した学修をもとに課題にそった研究方法を用いて研究し、看護実践の場及び広くは看護界に貢献しうる研究をめざすこととする。特に、基礎看護学においては、看護の専門性、看護教育（基礎教育、現任教育等）に焦点をあてた研究行う。 2.テーマに沿って研究をデザインし、研究方法の検討を行ない研究計画書の作成をし、それに基づいて研究を進める。 3.研究を進める中で、学生間、学生・教員間で研究についての報告・意見交換をし、疑問や問題の解決のために討論を展開し、研究を推進する。 4.研究テーマを研究論文にまとめる。
授業計画表	
1　授業内容	【特別研究のスケジュール】 1.1-30回：研究計画書の作成・倫理委員会審査申請研究課題の詳細を明確にして研究計画を立案、フィールドを探索し、計画書を完成させる。 2.31-60回：研究計画に基づき、データの収集を行う。その際には、倫理的配慮を徹底する。 3.61-90回：収集したデータを集計・分析する。その際には、量的・質的研究のそれぞれの研究方法論を用いる。 4.91-105回：結果の解釈・考察を行う。その際には、看護管理学およびその他の看護学理論、さらに隣接領域の理論、等を積極的に活用する。 5.106-120回：論文の完成：教員指導のもと、論文の推敲を重ねて初稿論文を完成させる。
評価方法	・授業参加態度、プレゼンテーションの内容・発表、研究論文により総合的に、科目終了時に評価する。 ・評価基準に満たない場合は、再評価の対象となり、研究論文の修正を求める。
教科書	研究指導で使用する資料は、学生自らが収集することを基本に適宜提示する。
参考書	適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	月曜日16時～18時 ＊ 上記時間帯に訪問することが難しい場合は事前にアポイントをとること。 横山ひろみ e-mail：yoko_h@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	①研究は学生が主体となり自主的に進める。 ②研究を進める上で生じた課題については、事前に指導教員にアポイントをとって指導を受けること。 ③研究期間内に、積極的に学会参加をするとともに基礎看護学・看護管理学領域専攻の学生との議論をし、学生間の学びを共有する。

講義名	地域活動看護学特論Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	土曜日	代表時限	3限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/地域活動看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 千田　みゆき	看護学科教員

担当教員	千田みゆき・山路真佐子
科目の目標	地域看護学の基本となる理論および主要概念を学び、公衆衛生分野だけでなく、在宅看護、学校保健、産業保健における生活習慣や環境による健康課題をもつ個人・家族・集団（コミュニティ）の健康支援について学習する。具体的には、健康状況の把握、健康ニーズの分析、地域保健活動または看護介入の展開、地域資源の開発、活動評価に関する知識を専門的に深める。
学習の具体的な目標	1.地域看護学に関する主な理論、および主要概念を説明できる。 2.公衆衛生、在宅看護、学校保健、産業保健、各分野の対象（個人・家族・集団）への健康支援の方法を説明できる。特に、健康状況の把握、健康ニーズの分析、地域保健活動または看護介入の展開、地域資源の開発。活動評価について説明できる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	3限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	オリエンテーション		
	授業内容	地域活動看護学特論Ⅰの学習の狙いと到達目標、授業計画、課題、学習方法について発表できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護活動の変遷		
	授業内容	自然災害や戦争、感染症の流行等、社会の変化と必要性に応じて変遷してきた地域看護活動のありようについて発表し、ディスカッションを通して自分の言葉で説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (1)健康と病気、障害、そして予防		
	授業内容	健康と病気に関する考え方、障害という概念のとらえ方、あるいは予防という概念の変遷について、その中からテーマを一つ選んで事前に調べ、資料を作成して、発表できる。また、ディスカッションを通して自身の言葉で説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	4限

担当者	千田			
テーマ	地域看護の主要概念（2)プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、貧困と健康格差			
授業内容	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、貧困と健康格差について、その理念、目的、内容について発表し、ディスカッションを通して、現代社会における健康に関連する課題を説明できる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念（3)アドボカシー、パートナーシップ		
	授業内容	アドボカシーやパートナーシップの理念、目的、内容について発表し、ディスカッションを通して現代社会における健康に関連する課題を説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念（4)セルフケア、エンパワメント		
	授業内容	セルフケア、エンパワメントについて、その理念、目的、内容について発表し、ディスカッションを通して現代社会における健康に関連する課題を説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念（5)ノーマライゼーションと自立支援		
	授業内容	ノーマライゼーションと自立支援について、その理念、目的、内容について発表し、ディスカッションを通して現代社会における健康に関連する課題を説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念（6)グローバルヘルス		
	授業内容	これまで学んできたことを統合し、視野を広げてグローバルヘルスの視点から、国際社会の健康における課題について発表し、ディスカッションを通して説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(1) データの種類と特徴		
	授業内容	健康支援活動の基盤となる地域診断について発表できる。特に、地域の健康状態を把握するためのデータにはどのような種類があり、その特徴は何かを説明できる。また、ディスカッションを通して、これまでの経験から地域診断の必要性を説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(2) 地域の健康状態の把握に必要なデータの選別		
	授業内容	健康支援活動の基盤となる地域診断について発表できる。特に、地域の健康状態を把握する際に必要なデータをどのように選別するのかを説明できる。また、ディスカッションを通して、これまでの経験から地域診断におけるデータ収集と選別の困難について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(3)地域診断・地域アセスメント・健康ニーズの分析		
	授業内容	健康支援活動の基盤となる地域診断について発表できる。特に、データからどのように地域の顕在的潜在的な健康課題・健康ニーズをアセスメントするかについて、ディスカッションを通して説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(4)地域保健活動の企画		
	授業内容	地域診断におけるアセスメント・分析をふまえて、1次予防・2次予防・3次予防の視点から健康課題解決に向かう目標設定の方法・留意点、具体策の立案方法を発表できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(5) 地域保健活動の展開（健康相談）		
	授業内容	地域保健活動の一方法である健康相談に関する歴史、目的、特徴、効果、現状等を理解し、さらに現代の課題を整理し発表できる。また、ディスカッションを通して展望を説明できる。		

14	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(6) 地域保健活動の展開（家庭訪問）		
	授業内容	地域保健活動の一方法である家庭訪問に関する歴史、目的、特徴、効果、現状等を理解し、さらに現代の課題を整理し発表できる。また、ディスカッションを通して展望を述べることができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(7) 地域保健活動の展開（健康教育）		
	授業内容	地域保健活動の一方法である健康教育に関する歴史、目的、特徴、効果、現状等を理解し、さらに現代の課題を整理し発表できる。ディスカッションを通して展望を説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(8) 地域保健活動の評価		
	授業内容	地域保健における各種の活動・事業の評価の必要性、方法について理解し、さらに現代の課題を整理し発表し、ディスカッションを通して自身の言葉で説明できる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(9)在宅看護におけるアセスメント		
	授業内容	在宅療養者への看護におけるアセスメントの特徴等について発表できる。ディスカッションを通して、これまでの経験から在宅看護におけるアセスメントの必要性や重要な視点を説明できる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(10)在宅看護における看護介入		
	授業内容	在宅療養者への看護における看護介入の特徴等について発表できる。ディスカッションを通して、在宅看護における看護介入の展望を説明できる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(11)在宅看護における評価とフィードバック		
	授業内容	在宅療養者への看護における評価とフィードバックの方法について、研究論文や活動報告などの文献を用いて発表できる。ディスカッションを通して、在宅看護における介入の評価の必要性を説明できる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(12) 地域資源の開発		
	授業内容	地域資源の開発とは何か、地域資源の開発の必要性、地域資源を開発する方法、その効果について事例をあげて発表できる。		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(13)文献のクリティーク		
	授業内容	個人・家族・集団（コミュニティ）に対する健康支援活動の中で、興味や関心を持ったテーマについて、研究論文をクリティークし発表できる。		
22	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(14)施策化と予算化		
	授業内容	健康支援活動を施策化して広く地域で実施し浸透させていくための方法及び健康支援活動を保健事業として予算化していく手順、留意点等について発表できる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	まとめ（主要概念の視点からの健康支援活動の現状分析：課題）		
	授業内容			

本授業での学習を統合して自身の研究課題を絞り、研究課題に関連すると思われる主要な概念を選定することができる。そして、その概念を糸口にこれまで体験してきた、あるいは関心のある健康支援活動の現状を分析し、その活動の経緯、関連する社会システムや環境、成果、問題点を含めて記述・発表することができる。発表後、学習を深めてレポートを作成できる。（提出：9月20日まで）

（14条特例）

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	オリエンテーション		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護活動の変遷		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (1)健康と病気、障害、そして予防		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (2)プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、貧困と健康格差		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月18日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (3)アドボカシー、パートナーシップ		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (4)セルフケア、エンパワメント		
7	年月日(曜日)	令和 8年04月25日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (5)ノーマライゼーションと自立支援		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護の主要概念 (6)グローバルヘルス		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(1) データの種類と特徴		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(2) 地域の健康状態の把握に必要なデータの選別		
11	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(3)地域診断・地域アセスメント・健康ニーズの分析		
12	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(4)地域保健活動の企画		
13	年月日(曜日)	令和 8年05月30日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(5) 地域保健活動の展開（健康相談）		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	3限
	担当者	山路		

テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(6) 地域保健活動の展開（家庭訪問）			
15	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(7) 地域保健活動の展開（健康教育）		
16	年月日(曜日)	令和 8年06月06日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(8) 地域保健活動の評価		
17	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(9)在宅看護におけるアセスメント		
18	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(10)在宅看護における看護介入		
19	年月日(曜日)	令和 8年06月13日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(11)在宅看護における評価とフィードバック		
20	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(12) 地域資源の開発		
21	年月日(曜日)	令和 8年06月20日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(13)文献のクリティーク		
22	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(14)施策化と予算化		
23	年月日(曜日)	令和 8年06月27日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	まとめ（主要概念の視点からの健康支援活動の現状分析：課題）		

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、およびレポート内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートへのコメントは個別に伝える。
教科書	授業内で随時提示する。
参考書	授業内で随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 不在時はメール等でアポイントメントをとること。 千田みゆき　e-mail; chida@saitama-med.ac.jp 山路真佐子　e-mail; yamaji@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	事前に担当教員と打ち合わせをしたのち、プレゼンテーション用配布資料を作成して授業に臨むこと。授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。

講義名	地域活動看護学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	3	時間	45.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	3単位/45時間		
必修・選択	専門科目/地域活動看護学領域		
配当年次	1年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 千田　みゆき	看護学科教員

担当教員	千田みゆき・山路真佐子・加藤巳佐子
科目の目標	ヘルスプロモーションの理念とそれに基づいた理論を基盤として、地域における個人・家族・集団（コミュニティ）が主体的に自らの健康を維持増進するための支援について学習する。また、国内外の文献を検討し、地域看護学研究の動向と各種研究方法に関する知識を深める。
学習の具体的な目標	1.ヘルスプロモーションの理念を説明できる。 2.ヘルスプロモーションに基づく理論を基盤に、地域における個人・家族・集団（コミュニティ）が主体的に健康を維持増進するための支援方法を説明できる。 3.国内外の文献をレビューし、自身が関心あるテーマに関する地域看護学研究の動向と研究方法について説明できる。

授業計画表

個人・家族・集団（コミュニティ）への健康支援活動(2) 地域の健康状態の把握に必要なデータの選別

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	オリエンテーション		
	授業内容	地域活動看護学特論Ⅱの学習の狙いと到達目標、授業計画、課題、学習方法について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	文献の検索方法および文献検討の方法（講義）		
	授業内容	文献検討の目的と方法、活用方法について説明できる。PCを使って文献検索ができる。文献カードの作成の意義と方法を説明できる。マトリックス方式による文献検討の方法を説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーション概説(1) 社会的背景と理念、変遷		
	授業内容	地域活動看護学特論Ⅰで学んだヘルスプロモーションの知識を基盤に、社会的背景と理念、変遷について発表できる。		

4	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーション概説(2) 戦略的方法と実践の評価		
	授業内容	地域活動看護学特論Ⅰで学んだヘルスプロモーションの知識を基盤に、ヘルスプロモーションの戦略的方法と実践の評価について発表できる。また、先進国と発展途上国との対比、欧米諸国と我が国との対比から各国の実情に応じた取り組みがあることを説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(1) 総論		
	授業内容	ヘルスプロモーションの理念について発表し、その理念に基づいて各種理論が開発されていることを説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(2) ペンダー・ヘルスプロモーション理論とその実践例		
	授業内容	ペンダーのヘルスプロモーション理論の概要を説明し、また、その理論を実践に活用している事例を自己の経験や文献から提示し、具体的に理論と活動がどのように結びついているのかを発表できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(3) プリシード・プロシードモデルとその実践例		
	授業内容	プリシード・プロシードモデルについて説明し、また、その理論を実践に活用している事例を自己の経験や文献から提示し、具体的に理論と活動がどのように結びついているのかを発表できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(4) コミュニティ・アズ・パートナーモデルとその実践例		
	授業内容	コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて説明し、また、その理論を実践に活用している事例を自己の経験や文献から提示し、具体的に理論と活動がどのように結びついているのかを発表できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護活動に活用されるその他の理論(1) ベティ・ニューマン看護論		
	授業内容	ベティ・ニューマン看護論について説明し、また、その理論を実践に活用している事例を自己の経験や文献から提示し、具体的に理論と活動がどのように結びついているのかを発表できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護活動に活用されるその他の理論(2) その他の看護理論・モデル		
	授業内容	オレムセルフケア理論、ケアリング理論、ロッター社会的学習理論、バンデュラ・セルフエフィカシー、役割理論、ストレス対処理論、保健信念モデルなど、地域看護活動に活用される理論やモデルをひとつ選んで、理念、構成概念とその定義、理論的論述とその根拠、概念間の連関性について検証し、実用化の可能性について事例をもって発表できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限
	担当者	加藤		
	テーマ	地域保健医療福祉の現状と課題(1)		
	授業内容	地域保健医療福祉の現状と課題、今後の展望について考察し発表できる。（課題：9月20日まで）		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	担当者	加藤		
	テーマ	地域保健医療福祉の現状と課題(2)		
	授業内容	地域保健医療福祉の現状と課題、今後の展望について考察し発表できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	5限
	担当者	加藤		
	テーマ	地域保健医療福祉の現状と課題(3)		
	授業内容	地域保健医療福祉の現状と課題、今後の展望について考察し発表できる。		

14	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(1)量的研究（講義）		
	授業内容	数量的データを扱う地域看護学研究の方法について説明できる。 サブストラクションの重要性と研究計画書への活用方法を説明できる。（課題：研究計画書　9月19日まで）		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(1)量的研究（講義）		
	授業内容	数量的データを扱う地域看護学研究の方法について説明できる。 サブストラクションの重要性と研究計画書への活用方法を説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(1)量的研究（講義）		
	授業内容	数量的データを扱う地域看護学研究の方法について説明できる。 サブストラクションの重要性と研究計画書への活用方法を説明できる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(2)質的研究（講義）（課題）		
	授業内容	質的データを扱う地域看護学研究の方法について説明できる。 アブダクションについて理解し、研究計画への活用方法を説明できる。（課題：研究計画書　9月19日まで）		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(2)質的研究（講義）		
	授業内容	質的データを扱う地域看護学研究の方法について説明できる。 アブダクションについて理解し、研究計画への活用方法を説明できる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(2)質的研究（講義）		
	授業内容	質的データを扱う地域看護学研究の方法について説明できる。 アブダクションについて理解し、研究計画への活用方法を説明できる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	1限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(1)個人・家族を対象とする研究		
	授業内容	文献検討の目的を明確にしたうえで、既習の文献検討の方法に沿って、個人または家族を研究対象とする最近10年間の先行研究の中から、関心あるテーマの論文を検索し、研究テーマ、研究目的、研究方法等の動向を検討し、発表できる。自己の探究したい論点を明示し、それについてディスカッションできる。		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(1)個人・家族を対象とする研究		
	授業内容	文献検討の目的を明確にしたうえで、既習の文献検討の方法に沿って、個人または家族を研究対象とする最近10年間の先行研究の中から、関心あるテーマの論文を検索し、研究テーマ、研究目的、研究方法等の動向を検討し、発表できる。自己の探究したい論点を明示し、それについてディスカッションできる。		
22	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(2)集団を対象とする研究		
	授業内容	文献検討の目的を明確にしたうえで、既習の文献検討の方法に沿って、集団を研究対象とする最近10年間の先行研究の中から、関心あるテーマの論文を検索し、研究テーマ、研究目的、研究方法等の動向を検討し、発表できる。自己の探究したい論点を明示し、それについてディスカッションできる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	4限

担当者	山路
テーマ	地域看護学研究の動向(2)集団を対象とする研究
授業内容	文献検討の目的を明確にしたうえで、既習の文献検討の方法に沿って、集団を研究対象とする最近10年間の先行研究の中から、関心あるテーマの論文を検索し、研究テーマ、研究目的、研究方法等の動向を検討し、発表できる。自己の探究したい論点を明示し、それについてディスカッションできる。

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月11日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	オリエンテーション		
2	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	文献の検索方法および文献検討の方法（講義）		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月02日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーション概説(1) 社会的背景と理念、変遷		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーション概説(2) 戦略的方法と実践の評価		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(1) 総論		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月09日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(2) ペンダー・ヘルスプロモーション理論とその実践例		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(3) プリシード・プロシードモデルとその実践例		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	ヘルスプロモーションに基づく各種理論(4) コミュニティ・アズ・パートナーモデルとその実践例		
9	年月日(曜日)	令和 8年05月16日(土)	時限	5限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護活動に活用されるその他の理論(1) ベティ・ニューマン看護論		
10	年月日(曜日)	令和 8年05月23日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護活動に活用されるその他の理論(2) その他の看護理論・モデル		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	3限
	担当者	加藤		
	テーマ	地域保健医療福祉の現状と課題(1)		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	4限
	担当者	加藤		
	テーマ	地域保健医療福祉の現状と課題(2)		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月04日(土)	時限	5限
	担当者	加藤		
	テーマ	地域保健医療福祉の現状と課題(3)		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	3限

担当者	千田			
テーマ	地域看護学研究の方法(1)量的研究（講義）			
15	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(1)量的研究（講義）		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月11日(土)	時限	5限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(1)量的研究（講義）		
17	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(2)質的研究（講義）（課題）		
18	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(2)質的研究（講義）		
19	年月日(曜日)	令和 8年07月18日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	地域看護学研究の方法(2)質的研究（講義）		
20	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	1限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(1)個人・家族を対象とする研究		
21	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(1)個人・家族を対象とする研究		
22	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(2)集団を対象とする研究		
23	年月日(曜日)	令和 8年07月25日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護学研究の動向(2)集団を対象とする研究		

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、およびレポート内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートへのコメントは個別に伝える。
教科書	授業内で随時提示する。
参考書	授業内で随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 　不在時はメール等でアポイントメントをとること。 千田みゆき　e-mail: chida@saitama-med.ac.jp 山路真佐子　e-mail: yamaji@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行う。 事前にプレゼンテーション用配布資料を作成して授業に臨むこと。

講義名	地域活動看護学演習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	3時間/90時間		
必修・選択	専門科目/地域活動看護学領域		
配当年次	1年後期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 千田　みゆき	看護学科教員

担当教員	千田みゆき・山路真佐子
科目の目標	国内外の文献・資料に基づいて、地域看護活動分野（公衆衛生、在宅看護、学校保健、産業保健）の現状を分析し、予防的視点（１次予防から３次予防）から地域看護活動の課題を考察し、解決策を検討する。さらに、このことにより自己の研究課題を明確にする。 また、地域看護に関連する学会に参加し、研究の動向を体験的に理解するとともに、自己の研究課題をさらに明確にしていく。
学習の具体的な目標	1.国内外の文献や資料に基づいて、地域看護活動における自身の関心あるテーマに沿って、現状を分析し発表できる。 2.上記の分析に基づき、予防的視点（１次予防から３次予防）から地域看護活動の課題を考察し、解決策を検討し発表できる。さらに、この学修を踏まえて自己の研究課題を述べることができる。 3.地域看護に関連する学会に参加し、自身の関心あるテーマに関する研究の動向を述べることができる。

授業計画表

1	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	オリエンテーション		
	授業内容	地域活動看護学演習Ⅰの学習の狙いと到達目標、授業計画、課題、学習方法について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野における看護活動の現状と課題(1) 生活習慣病、悪性新生物		
	授業内容	生活習慣病(悪性新生物以外）の中から関心あるテーマを選んで、わが国の現状（死亡率・罹患率・受診率等、関連する施策・医療体制、保健事業）とその現状から分析された課題、および課題解決のための具体策について検討し、発表できる。また、その課題と解決策についてディスカッションできる。 悪性新生物の中から関心あるテーマを選んで、わが国の現状（死亡率・罹患率・受診率等、関連する施策・医療体制、保健事業）とその現状から分析された課題、および課題解決のための具体策について検討し、発表できる。また、その課題と解決策についてディスカッションできる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野における看護活動の現状と課題(2) 感染症、難病		

授業内容	感染症・難病の中から関心あるテーマを選んで、わが国の現状（死亡率・罹患率・受診率等、関連する施策・医療体制、保健事業）とその現状から分析された課題、および課題解決のための具体策について検討し、発表できる。また、その課題と解決策についてディスカッションできる。			
4	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	家族看護学概説		
	授業内容	家族看護学における代表的な理論を説明できる。 家族を一単位の地域における看護の対象としてとらえ、地域で生活する家族への看護実践についてディスカッションできる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	1限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野における看護活動の現状と課題(3) 歯科保健・出産と育児		
	授業内容	歯科保健、出産と育児が関連する事柄から関心あるテーマを選んで、わが国の現状（死亡率・罹患率・受診率等、関連する施策・医療体制、保健事業）とその現状から分析された課題、および課題解決のための具体策について検討し、発表できる。また、その課題と解決策についてディスカッションできる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野におけるリスクマネジメント		
	授業内容	災害予防、パンデミックなど、公衆衛生分野において起こりうる突発的危機状況に対して、平常時の備えと危機発生時の保健活動と現状、課題、および課題解決のための具体策について検討し、発表できる。また、課題と解決策についてディスカッションできる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(1) 自立支援と介護予防		
	授業内容	在宅看護における自立支援について、理念としての自立支援、自立支援法における取組み、自立を支援するための方略、その課題について発表できる。また、介護予防に関する施策、各種事業、今後の課題について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(2) 家族アセスメントと家族介護者への支援		
	授業内容	家族アセスメントの重要性、アセスメントの方法、目標設定と具体策立案上の注意点を発表できる。また、家族介護者支援の課題についてディスカッションできる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(3) 高度医療処置を要する人々への支援		
	授業内容	在宅療養における高度医療処置を必要とする人々に対する施策、地域ケアシステム、保健事業・看護活動等の支援について発表できる。また、その課題についてディスカッションできる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(4) 地域ケアシステムとケアの質保証		
	授業内容	地域ケアシステムの在宅看護における重要性を理解し、在宅ケアの質を保証するための仕組み、マネジメントの視点を発表できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(5) 訪問看護ステーション管理と安全、リスクマネジメント		
	授業内容	訪問看護ステーションの管理（日常的管理および災害に対する管理）について調べたことを発表し、ステーション管理業務の課題と解決策についてディスカッションできる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	1限
	担当者	山路		
	テーマ	学校保健における看護活動の現状と課題		
	授業内容			

児童・生徒・学生の身体の発達や成長の変化、生じやすい健康問題、その現状から分析した課題、および課題解決のための具体策について検討し発表できる。また、課題と解決策についてディスカッションできる。 学校感染症やその予防的介入について、地域連携システムの必要性を踏まえてその現状から分析した課題、および課題解決のための具体策について検討し発表できる。また、課題と解決策についてディスカッションできる。				
13	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	産業保健における看護活動の現状と課題		
	授業内容	作業関連疾患のなかから関心あるテーマを選んで、作業関連疾患のなかから関心あるテーマを選んで、労働環境および作業関連疾患の現状、関連する施策、医療体制、予防対策について分析した課題、および課題解決のための具体策について検討し発表できる。また、課題と解決策についてディスカッションできる。 地域との連携の重要性を踏まえて、トータルヘルスプロモーションあるいは、生涯の健康づくりについて、その現状から分析した課題と課題解決のための具体策を発表できる。また、課題と解決策についてディスカッションできる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護職者のキャリアディベロップメントの現状と課題		
	授業内容	公衆衛生分野、在宅看護分野、学校保健分野、産業保健分野から関心ある分野を選び、その分野における地域看護職者のキャリアディベロップメントの現状と課題、課題解決のための具体策について検討し発表できる。また、課題と解決策についてディスカッションできる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	予防的視点から見た地域看護活動の課題（疾病予防、介護予防、虐待予防、自殺予防等）		
	授業内容	1次予防、2次予防、3次予防の視点から、関心ある健康課題に関するテーマについての現状と地域看護活動の課題を発表できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	1限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	地域看護活動に関する文献クリティーク(1)量的研究		
	授業内容	これまでの学びから、関心あるテーマの研究論文（量的研究）を選択し、クリティークを行った結果を発表する。また、クリティークの結果気づいた自身の研究上の課題について、ディスカッションできる。		
17	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	2限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	地域看護活動に関する文献クリティーク(2)質的研究		
	授業内容	これまでの学びから、関心あるテーマの研究論文（質的研究）を選択し、クリティークを行った結果を発表する。また、クリティークの結果気づいた自身の研究上の課題について、ディスカッションできる。		
18	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析概説(1)（講義）		
	授業内容	概念分析の重要性と方法について説明できる。		
19	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析概説(2)（講義）		
	授業内容	概念分析の重要性と方法について説明できる。		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(1)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。（課題１：参加報告　学会参加から2週間後まで）		
21	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		

テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(2)			
授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。			
22	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(3)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
23	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(4)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
24	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(5)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
25	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(6)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
26	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(7)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
27	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(8)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
28	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(9)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
29	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(10)		
	授業内容	看護学学術集会に参加し、地域活動・地域看護における関心あるテーマについて、現在の動向を記述できる。また、関心ある研究発表についてクリティークし、発表者とディスカッションできる。		
30	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際: 文献検索・検討(1)		
	授業内容	関心あるテーマから主要概念を選び、実際に概念分析を実施するために文献を検索し、集めた文献をクリティークできる。複数（20件以上）の文献をもとに実際に概念分析を行い、関連概念を整理し、理論的定義を導き出し、レポートにまとめることができる。（課題２①③：概念分析）		
31	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	2限
	担当者	千田		

テーマ	概念分析の実際: 文献検索・検討(2)
授業内容	関心あるテーマから主要概念を選び、実際に概念分析を実施するために文献を検索し、集めた文献をクリティークできる。複数（20件以上）の文献をもとに実際に概念分析を行い、関連概念を整理し、理論的定義を導き出し、レポートにまとめることができる。

32	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(1)		
	授業内容	概念分析に選んだ主要概念について、文献検討をもとに現状、選択の理由、課題についてレポートにまとめることができる。（課題３①③：主要概念の現状と課題）		
33	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(2)		
	授業内容	概念分析に選んだ主要概念について、文献検討をもとに現状、選択の理由、課題についてレポートにまとめることができる。		
34	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の検討(1)		
	授業内容	関心ある研究方法を文献に基づいて理解し、自己の研究に採用する際の具体的計画としてレポートにまとめることができる。（課題４①③：研究方法）		
35	年月日(曜日)	令和 9年01月09日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際: 文献検索・検討(3)		
	授業内容	関心あるテーマから主要概念を選び、実際に概念分析を実施するために文献を検索し、集めた文献をクリティークできる。複数（20件以上）の文献をもとに実際に概念分析を行い、関連概念を整理し、理論的定義を導き出し、レポートにまとめることができる。（課題２①③：概念分析）		
36	年月日(曜日)	令和 9年01月09日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際: 文献検索・検討(4)		
	授業内容	関心あるテーマから主要概念を選び、実際に概念分析を実施するために文献を検索し、集めた文献をクリティークできる。複数（20件以上）の文献をもとに実際に概念分析を行い、関連概念を整理し、理論的定義を導き出し、レポートにまとめることができる。		
37	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	1限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	概念分析の中間発表		
	授業内容	課題学習でまとめた概念分析の結果を発表できる。ディスカッションを通して不足部分を見直し修正できる。（課題２②：概念分析）		
38	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	2限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の中間発表		
	授業内容	概念分析に選んだ主要概念について、文献検討をもとに現状、選択の理由、課題について発表できる。ディスカッションを通して不足部分を見直し修正できる。（課題３②：主要概念の現状と課題）		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	3限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の中間発表		
	授業内容	関心ある研究方法について発表し、ディスカッションを通して研究計画に修正を加えることができる。（課題４②：研究方法）		
40	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	1限

担当者	千田			
テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(3)			
授業内容	概念分析に選んだ主要概念について、文献検討をもとに現状、選択の理由、課題についてレポートにまとめることができる。（課題３①③：主要概念の現状と課題）			
41	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(4)		
	授業内容	概念分析に選んだ主要概念について、文献検討をもとに現状、選択の理由、課題についてレポートにまとめることができる。		
42	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の検討(2)		
	授業内容	関心ある研究方法を文献に基づいて理解し、自己の研究に採用する際の具体的計画としてレポートにまとめることができる。（課題４①③：研究方法）		
43	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	2限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	概念分析の発表		
	授業内容	課題学習でまとめた概念分析の結果を発表できる。ディスカッションを通して不足部分を見直し修正できる。（課題２④：概念分析　提出；1月下旬）		
44	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	3限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の発表		
	授業内容	概念分析に選んだ主要概念について、文献検討をもとに現状、選択の理由、課題について発表できる。ディスカッションを通して不足部分を見直し修正できる。（課題３④：主要概念の現状と課題　提出；1月下旬）		
45	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	4限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の発表		
	授業内容	関心ある研究方法について発表し、ディスカッションを通して研究計画に修正を加えることができる。（課題４④：研究方法　提出；1月下旬）		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	オリエンテーション		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野における看護活動の現状と課題(1)生活習慣病、悪性新生物		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野における看護活動の現状と課題(2)感染症・難病		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月10日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	家族看護学概説		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	1限
	担当者	山路		
	テーマ	公衆衛生分野における看護活動の現状と課題(4)歯科保健・出産と育児		
6	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	2限
	担当者	山路		

テーマ	公衆衛生分野におけるリスクマネジメント			
7	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(1) 自立支援と介護予防		
8	年月日(曜日)	令和 8年10月17日(土)	時限	4限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(2) 家族アセスメントと家族介護者への支援		
9	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(3) 高度医療処置を要する人々への支援		
10	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(4)地域ケアシステムとケアの質保証		
11	年月日(曜日)	令和 8年10月31日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	在宅看護における看護活動の現状と課題(5)訪問ステーション管理と安全、リスクマネジメント		
12	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	1限
	担当者	山路		
	テーマ	学校保健における看護活動の現状と課題		
13	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	2限
	担当者	山路		
	テーマ	産業保健における看護活動の現状と課題		
14	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	3限
	担当者	山路		
	テーマ	地域看護職者のキャリアディベロップメントの現状と課題		
15	年月日(曜日)	令和 8年11月07日(土)	時限	4限
	担当者	山路		
	テーマ	予防的視点から見た地域看護活動の課題（疾病予防、介護予防、虐待予防、自殺予防等）		
16	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	1限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	地域看護活動に関する文献クリティーク(1)量的研究		
17	年月日(曜日)	令和 8年11月14日(土)	時限	2限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	地域看護活動に関する文献クリティーク(2)質的研究		
18	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析概説(1)（講義）		
19	年月日(曜日)	令和 8年11月21日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析概説(2)（講義）		
20	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(1)		
21	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(2)		

22	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(3)		
23	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(4)		
24	年月日(曜日)	令和 8年12月12日(土)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(5)		
25	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(6)		
26	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(7)		
27	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(8)		
28	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(9)		
29	年月日(曜日)	令和 8年12月13日(日)	時限	集中実習
	担当者	千田		
	テーマ	今日の地域活動看護学学術集会における研究の動向(10)		
30	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際：文献検索・検討(1)		
31	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際：文献検索・検討(2)		
32	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(1)		
33	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(2)		
34	年月日(曜日)	令和 8年12月26日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の検討(1)		
35	年月日(曜日)	令和 9年01月09日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際：文献検索・検討(4)		
36	年月日(曜日)	令和 9年01月09日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	概念分析の実際：文献検索・検討(4)		
37	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	1限

担当者	千田・山路			
テーマ	概念分析の中間発表			
38	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	2限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の中間発表		
39	年月日(曜日)	令和 9年01月16日(土)	時限	3限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の中間発表		
40	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	1限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(3)		
41	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	2限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の選別・現状と課題(4)		
42	年月日(曜日)	令和 9年01月23日(土)	時限	3限
	担当者	千田		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の検討(2)		
43	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	2限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	概念分析の発表		
44	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	3限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動における主要概念の発表		
45	年月日(曜日)	令和 9年01月30日(土)	時限	4限
	担当者	千田・山路		
	テーマ	関心ある地域看護活動の研究方法の発表		

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、およびレポート内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートのコメントは個別に伝える。
教科書	授業内で随時提示する。
参考書	授業内で随時提示する。
連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 不在時はメール等でアポイントメントをとること。 千田みゆき　e-mail; chida@saitama-med.ac.jp 山路真佐子　e-mail; yamaji@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。 事前にプレゼンテーション用配布資料を作成して授業に臨むこと。 概念分析、主要概念、研究方法のプレゼンテーションは、事前に指導教員の指導を受けること。また、これらは特別研究につながる重要な内容であるので、十分に検討すること。

講義名	地域活動看護学演習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	3	時間	90.00
代表曜日	土曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	3単位/90時間		
必修・選択	専門科目/地域活動看護学領域		
配当年次	1年後期～2年前期		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 千田　みゆき	看護学科教員

担当教員	千田みゆき・山路真佐子
科目の目標	一行政地域の地域診断（地域アセスメント）と地域保健活動、あるいは在宅看護、学校保健、産業保健における事例に対するアセスメントと看護介入を、地域活動看護学特論Ⅰ・Ⅱの学習を発展させて展開する。また、計画した地域看護活動の一部を実施し、実施した地域看護活動を分析的に評価し、健康支援について学習を深める。 理論と実践を結びつけ、エビデンスに基づいた地域看護活動のあり方を理解する。
学習の具体的な目標	1.関心あるテーマに関連するコミュニティを選び、地域診断（地域アセスメント）を行い、健康課題等に応じた必要な地域保健活動・看護介入を計画して自身の演習要項を評価計画を含めて作成し、理論的根拠をもって説明できる。 2.計画した地域看護活動の一部を実施し、分析的に評価することができる。 3.演習全体をポートフォリオにまとめ、学習の到達度を評価できる。

授業計画表

1	担当者	千田・山路
	テーマ	オリエンテーション
	授業内容	地域活動看護学演習Ⅱの学習の狙いと到達目標、授業計画、課題、学習方法について説明できる。
2	担当者	山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における健康課題の情報収集（１）
	授業内容	関心ある地域活動分野の文献や資料を収集し、内容を検討し、演習のテーマ・演習フィールドを選定できる。また、自己の演習目的・目標を教員からの助言を受けながら記述できる。
3	担当者	山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における健康課題の情報収集（２）
	授業内容	〃
4	担当者	山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における健康課題のアセスメント（１）
	授業内容	演習フィールドに選んだ地域の健康に関連する情報を整理し、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて地域の顕在的・潜在的健康課題を検討し記述できる。

5	担当者	山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における健康課題のアセスメント（２）
	授業内容	〃
6	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための介入方法の検討（１）
	授業内容	演習フィールドに選んだ地域の健康に関連する情報を整理し、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて地域の顕在的・潜在的健康課題を検討し記述できる。
7	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための介入方法の検討（２）
	授業内容	〃
8	担当者	千田・山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における演習の概要（発表）
	授業内容	これまでの学習を踏まえて演習計画（演習要項）を作成し、作成した演習計画（演習要項：演習目的・目標、演習内容、記録用紙）について、行った地域診断の結果と関連させて発表し、ディスカッションにより修正できる。
9	担当者	千田・山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における演習の概要（発表）
	授業内容	〃
10	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための地域看護活動計画の立案（１）
	授業内容	検討した介入方法を踏まえて、演習における地域看護活動の計画を立案できる。教員の助言を受け計画が実際に実施できるよう修正できる。
11	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための地域看護活動計画の立案（２）
	授業内容	〃
12	担当者	千田・山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における健康課題の地域診断（発表）
	授業内容	根拠となる資料を基に明確化した顕在的・潜在的健康課題と、その解決のための地域看護活動の方法について発表し、ディスカッションにより修正できる。
13	担当者	千田・山路
	テーマ	関心ある地域活動分野における健康課題の地域診断（発表）
	授業内容	〃
14	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための介入とその評価方法の検討（１）
	授業内容	前回の発表・ディスカッションを踏まえて、演習における健康課題の解決のための介入方法を見直し、適切な評価方法を検討し演習計画（演習要項）に加えることができる。
15	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための介入とその評価方法の検討（２）
	授業内容	〃
16	担当者	千田・山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための地域看護活動計画（演習の中間発表）
	授業内容	明確化した健康課題を解決するための地域看護活動計画を発表し、討議により修正することができる。
17	担当者	千田・山路
	テーマ	明確化した健康課題の解決のための地域看護活動計画（演習の中間発表）
	授業内容	〃
18	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題解決のための地域看護活動計画の修正と計画実施のための調整（１）
	授業内容	

前回のディスカッションを踏まえ、明確化した健康課題を解決するための地域看護活動計画を修正できる。計画が実施できるよう現地の指導者と相談しながら関連機関・関係者との調整を行うことができる。関係機関や関係者との調整を終えて修正した地域看護活動計画について、実施上の留意点等を考慮して演習内容を修正できる。		
19	担当者	山路
	テーマ	明確化した健康課題解決のための地域看護活動計画の修正と計画実施のための調整（２）
	授業内容	〃
20	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（１）
	授業内容	演習フィールドの指導者および教員に助言を受けながら計画した看護活動を実施することができる。また、実施した活動を他者にわかりやすく記録したポートフォリオを作成することができる。
21	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（２）
	授業内容	〃
22	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（３）
	授業内容	〃
23	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（４）
	授業内容	〃
24	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（５）
	授業内容	〃
25	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（６）
	授業内容	〃
26	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（７）
	授業内容	〃
27	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（８）
	授業内容	〃
28	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（９）
	授業内容	〃
29	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（10）
	授業内容	〃
30	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（11）
	授業内容	〃
31	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（12）
	授業内容	〃
32	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（13）
	授業内容	〃
33	担当者	現地指導者・山路

テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（14）	
授業内容	〃	
34	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（15）
	授業内容	〃
35	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（16）
	授業内容	〃
36	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（17）
	授業内容	〃
37	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（18）
	授業内容	〃
38	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（19）
	授業内容	〃
39	担当者	現地指導者・山路
	テーマ	計画した地域看護活動の実施とポートフォリオ作成（20）
	授業内容	〃
40	担当者	山路
	テーマ	実施した地域看護活動の評価（１）
	授業内容	演習フィールドで実施した地域看護活動を、教員の助言を受けながら自己評価できる。
41	担当者	山路
	テーマ	実施した地域看護活動の評価（２）
	授業内容	〃
42	担当者	千田・山路
	テーマ	実施した地域看護活動とその評価の検討（発表）
	授業内容	演習フィールドの指導者および教員に助言を受けながら実施したこれまでの活動を、適切な視点で評価し発表できる。また、ディスカッションにより考察を深め、修正することができる。
43	担当者	千田・山路
	テーマ	実施した地域看護活動とその評価の検討（発表）
	授業内容	〃
44	担当者	山路・千田・現地実習指導者
	テーマ	実施した地域看護活動とその評価（現地発表）
	授業内容	実施した地域看護活動について、目的、方法（倫理的配慮を含む）、結果、考察、評価、今後の課題等を、演習フィールドにおいて演習指導者及び関係者、教員の参加のもとで発表し、ディスカッションを通して自己の演習目的に沿った学習の理解を深めることができる。 課題：これまで作成した演習計画（演習要項）、演習記録、参考資料、自己評価、および現地発表を終えての振り返りと今後の課題のレポートを1冊に綴ったポートフォリオの作成　（提出；9月下旬）
45	担当者	山路・千田・現地実習指導者
	テーマ	実施した地域看護活動とその評価（現地発表）
	授業内容	〃

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、およびレポート内容等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、追加課題を提示し再評価を行う。レポートのコメントは個別に伝える。
教科書	授業内で随時提示する。
参考書	授業内で随時提示する。

連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 不在時はメール等でアポイントメントをとること。 千田みゆき　e-mail; chida@saitama-med.ac.jp 山路真佐子　e-mail; yamaji@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	授業は、講義とゼミ形式およびフィールドワークにより進める。フィールドワークにおいては地域看護実践者による特別講義・実践指導を受ける。そのため、日時・場所は授業開始後に決定することがある。プレゼンテーションは事前に配布資料を作成して臨むこと。 授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。 1年次3月までに演習施設への依頼ができるように、演習計画（演習要項）の概略を明確にすること。

講義名	地域活動看護学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	8	時間	240.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/240時間		
必修・選択	専門科目/地域活動看護学領域		
配当年次	1年後期～2年通年		

担当教員

職種	氏名	所属
看護師/保健師	◎ 千田　みゆき	看護学科教員

担当教員	千田みゆき・山路真佐子
科目の目標	地域活動看護学特論および演習における学習をさらに発展させ、見出した自己の研究課題に沿って、現状の地域活動看護学分野における看護の向上に貢献しうる研究論文を作成する。 １．テーマに沿って適切な研究デザインを選択する。 ２．研究の過程では、さらに内容が深まるよう、教員や院生間でディスカッションを行う。 ３．論文の体裁を整え、研究論文にまとめる。 ４．全過程を通して倫理的配慮をもって研究を実施する。
学習の具体的な目標	1.自己の関心ある事項を看護研究として適切なテーマとして設定できる。 2.研究課題及び研究目的に適切な研究デザイン、研究方法を選択できる。 3.倫理的に配慮した研究計画書を作成できる。 4.研究計画に沿ってデータを収集し分析できる。 5.研究結果を事実に基づいてまとめ、解釈・分析、考察できる。 6.教員の指導の下、論文を作成し、発表し、必要な修正を行うことができる。

授業計画表

1	授業内容	1) 1-30回（1年後期ー2年6月）：研究計画書の作成と修正 研究課題の詳細を明確にして研究計画を立案、フィールドを探索して教員の指導の下、計画書を完成させ、研究計画発表会にて発表する。研究計画発表会での助言を踏まえて修正し、倫理審査の申請をして承認を受ける。 2) 31-60回（7ー9月末）：データ収集 研究計画に基づき、教員の指導の下、倫理的に配慮しつつデータを収集する。 3) 61-90回（10月）：収集したデータを集計・分析する。 4) 91-105回（11月）：結果を解釈し、考察する。研究発表会で発表する。 5) 106-120回（12ー1月）：教員の指導の下、推敲を重ねて論文を完成させる。 研究計画発表会及び論文発表会においては、予演会を実施するなど事前から主体的に準備を行う。また、発表会には積極的に参加し、教員、学生から意見を聞く機会をもつ。頂いた助言等に基づいて必要な修正加筆を行い、期限までに論文を提出する。

評価方法	科目の評価は、授業参加態度（準備状況）、およびレポート、研究論文等により総合的に評価する。評価が合格点に満たなかった場合は、修正すべき点について説明し、修正後の結果を再評価する。
教科書	看護研究ー原理と方法，近藤潤子監訳，医学書院
参考書	指導教員より適宜提示する。
連絡先/オフィスアワー	平日12:10-12:30 不在時はメール等でアポイントメントをとること。 千田みゆき　e-mail; chida@saitama-med.ac.jp 山路真佐子　e-mail; yamaji@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	指導教員の助言・指導を積極的に受けること。授業の前後には、各自が予習・復習を主体的に行うこと。 特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱの授業を統合し、研究の全過程において、随時指導教員の個別指導を受けながら進める。院生間で積極的にディスカッションを行い、学びを共有すること。 なお、1年次より研究計画発表会や研究発表会には積極的に参加・発表し、教員、学生から広く意見を聴取する機会をもち、随時研究テーマ、研究方法等を再検討すること。

学生生活に関する規定

学生生活に関する規定

１．学籍番号

学籍番号は入学時に定められ、学位取得までの間、一貫して大学院生固有の番号となります。

学籍番号は研究科を示すアルファベット記号と 5 桁の数字で構成されています。数字については、1-2 桁目は入学年度(西暦)、3 桁目は入学区分、4-5 桁目は個別番号を示しています。

２．学生証

学生証は、「学生証(IC 内蔵のプラスチックカード)」と裏面に貼付する「在籍確認シール」を合わせて有効な状態となります。学生証には本学の大学院生であることが確認できるよう、顔写真・研究科・専攻・課程・学籍番号・氏名・生年月日・発行日・有効期限が印字されています。なお、裏面の住所欄は自身で記入してください。

学生証は本学の大学院生としての身分を証明する大切なものです。キャンパス内では常時携帯し、教職員に提示を求められた場合は速やかに提示しなければなりません。また、ロッカー室への入室、テレサホールやラウンジヤマネを利用する際の電子決済機能、図書館を利用する際の身分証明、通学定期券の購入などを円滑に行うために必要となります。紛失、盗難、破損のないように十分に注意してください。

(1) 記載事項の変更

住所・氏名等が変わった場合には、直ちに事務室に届け出てください。届け出を怠ると、通学定期券の購入や学割の使用ができなくなります。

(2) 通学区間の記入方法（通学定期券を購入する場合）

学生通学区間欄に現住所から大学までの通学区間を記入してください。記入上の注意事項は次のとおりです。

- 現住所から大学までの最短通学区間を記入する
- バスの利用も含め、交通機関ごとにそれぞれ記入する
- 通学区間欄内に記入しきれない場合は事務室へ申し出る
- 現住所の変更などにより通学区間を変更する場合や、通学定期券購入欄に記入する余地がなくなった場合は、「在籍確認シール」の再発行を事務室に申し出る

(3) 学生証の携帯と提示

学生証は常に携帯し、次のような場合には必ず提示してください。

- 証明書の交付を受ける時
- 本学施設を利用する時（ロッカー室・テレサホール・ラウンジヤマネ・図書館等）
- 図書の貸し出しを受ける時
- 通学定期券・学生割引乗車券を購入する時、又は、それを使用して乗車し係員から提示を求められた時
- その他、本学教職員から提示を求められた時

(4) 取扱上の注意

学生証には、学籍番号を識別するバーコード表示や、テレサホールやラウンジヤマネで利用する電子決済機能や施設への入館権限などが記憶されているICチップが内蔵されています。そのため、汚したり折り曲げたりするとそれらが機能しなくなる場合がありますので大切に取り扱ってください。

(5) 学生証の紛失と再交付

学生証の紛失や、破損・汚損・ICチップが損傷した場合には事務室に再交付を申し出てください。原則として申請の１週間後に交付され、紛失や破損等の場合には再交付料が必要となります。

なお、紛失や盗難の場合は、必ず、最寄りの交番か警察に届け出てください。また、学生証を拾得した場合には直ちに事務室に届けてください。

(6) 学生証の返却

修了・退学・除籍などにより本学の学籍を離れる場合は、速やかに学生証を事務室に返却してください。

３．ネームカード

- 本学の大学院生であることが確認できるよう、顔写真・研究科・専攻・課程・学籍番号・氏名を掲載したネームカードを支給します。
- キャンパス内におけるネームカードの着用は、大学院生であることの確認および部外者との識別を容易にすることを目的としています。防犯対策の意味合いも含んでいますので、キャンパス内では、ネームカードは常時着用してください。
- ネームカードのストラップは研究科ごとに色分けされています。

  ブルー　医学研究科

  ピンク　看護学研究科

- 修了・退学・除籍などにより本学の学籍を離れる場合は、速やかに、ネームカードを事務室に返却してください。

４．通学

(1) スクールバス

下記より、日高キャンパスおよび川角キャンパス行きのスクールバスを運行しています。

なお、スクールバスの運行遅延により遅刻・欠席することとなっても、その事態を考慮することは一切ありません。

東武東上線「坂戸駅(南口)」

JR川越線「武蔵高萩駅(あさひ口)」

毛呂山キャンパス(錬成館)

東武越生線「東毛呂駅」付近の『東毛呂駅南バス停』

(2) 通学定期券

通学定期券は、居住地(学生証に記載した住所)の最寄駅から大学の最寄駅までの区間を最も経済的なコースで通学する場合に限り購入することができます。アルバイトなど通学

以外の目的では購入できません。

通学定期券の購入にあたっては、定期券販売所で「定期券購入申込書」に必要事項を記載し、裏面の「通学区間欄」に乗降駅を記入した学生証を提示してください。

(3) 実習用定期券

学外実習などのために通学区間外の定期券が必要な場合には、「通学証明書(臨床実習用)申込書(様式 54 号)」を事務室に提出し、鉄道会社に申請することにより、「実習用定期券」を購入することができます。

なお、鉄道会社から定期券購入のための承認通知書が届くまでに期間を要しますので、遅くとも実習開始の 1 か月前までに申請してください。申請が遅いと実習時期に間に合わないことがあります。

(4) 自家用車・バイク(原付を含む)・自転車での通学

自家用車・バイクでの通学にあたっては事務室で手続きを行ってください。駐車場の利用方法についてはキャンパスにより異なりますので注意してください。また、学内外を問わず路上駐車や違法な駐車場占拠、指定場所以外の駐車・駐輪は厳禁です。判明した場合は、処分の対象となります。

なお、バイクおよび自転車で通学する場合は、所定の駐輪場を利用し、必ず施錠するようにしてください。また、放置バイクおよび自転車は強制的に撤去することがあります。

通学用の車両を変更する際は、事務室で登録変更の手続きを行ってください。

(5) 駐車場の使用について

日高キャンパス

日高キャンパスに自動車で通学する場合には、事務室前駐車場の利用を許可しております。利用を希望する場合は事務室にて所定の手続きをすることで「駐車許可証」を発行いたします。駐車場利用時には必ず「駐車許可証」をダッシュボード上などの確認ができる場所に置いてください。

川角キャンパス

川角キャンパスの学生用駐車場は、「通学用自動車等登録申請書(様式 71 号)」を川角キャンパス事務室に提出することにより利用することができます。学生用駐車場の周辺には民家もありますので、駐車場利用にあたっては空ふかしや無駄なアイドリングはしないでください。

５．キャンパスマナー

・ 本学大学院生としての品位を保つよう、自覚をもって行動してください。これはキャンパス外においても同様です。

・ 公共の交通機関を利用して通学する際は、停留所での割り込み行為・車内における大声での会話は慎み、お年寄りや体の不自由な人がいたら席を譲るなど、医療人を志す者としての自覚を持ちましょう。

・ 大学から呼出しを受けた際は、速やかに事務室を訪れるか、電話等の連絡をしてください。

６．大学院生に対する通知・連絡

大学院生に対する通知や連絡等はメールまたは所定の掲示板に掲示します。掲示した事項

については、全ての大学院生に周知されたものとみなしますので、掲示板および配信されるメールの確認を怠らないでください。また、自身が属する研究科のみならず、全体掲示板や保健室前の掲示板も確認するようにしてください。

また、掲示物にみだりに触れることは禁止です。掲示物を撤去・破損・汚損した者は処分の対象となります。

７．学内の ICT 環境

(1) SMSNET　埼玉医科大学教育学術情報ネットワーク

学内向けに公開している情報を閲覧することができます。図書館の文献検索システムの利用や教員の電子メールアドレスの検索などが出来ます。

［URL］　https://smswww.saitama-med.ac.jp/

(2) シラバス検索

本学ホームページの「医学研究科修士課程」、「看護学研究科修士課程」のページで電子シラバスの検索が可能です。

［URL］　https://www.saitama-med.ac.jp/education/grad_med/master.html(医科学)

https://www.saitama-med.ac.jp/education/grad_nurse/master.html(看護学)

(3) Web Class

講義動画の視聴、資料の閲覧やダウンロード、小テストやレポート提出などができます。また、教員と大学院生間で連絡をとるなど講義に関わる様々な場面、用途で活用できます。

［URL］　https://fm-lms.saitama-med.ac.jp/webclass/login.php

(4) 学内コンピュータの利用方法

大学院生が使用できるコンピュータ（SMSNET 閲覧）は以下の場所に設置しています。利用の際はユーザーID・パスワードを入力してログインしてください。使用後はログアウトし、シャットダウンをしてください。

日高キャンパス	B棟6F	マルチメディア教室
	B棟6F	看護学研究科院生室
	A棟2･3F 図書館	情報検索コーナー
川角キャンパス	校舎2F	コンピュータ室
	図書館	情報機器コーナー
毛呂山キャンパス	図書館1･3F	情報機器コーナー

IT 環境の不調、その他の報告・相談

IT 環境(設置する PC 含む)の調子が悪い時は、「学籍番号・名前・該当の場所(PC)・症状」を事務室まで連絡してください。

キャンパス	連絡先	メールアドレス	結果報告
日高キャンパス	事務室	hmaster@saitama-med.ac.jp	C棟1F掲示板
川角キャンパス	事務室	kawakado@saitama-med.ac.jp	事務室前掲示板

(5) メールアドレスの付与

大学院生には「学籍番号@fhmc.saitama-med.ac.jp」で表す個別メールアドレスを付与します。本学ではGoogle社のGmailを利用しており、パソコン・スマートフォン・タブレットなどのインターネット接続が可能な機器でメール受信することができます。大学からの連絡は主にメールで行いますので、常にメールの受信を確認してください。

メーリングリストの利用

次のメーリングリストアドレスを利用すれば、学年及び研究科全員にメールを配信することができます。なお、このメーリングリストは、修学上必要な連絡を目的としたものであり、私用や勧誘などでの利用は禁止します。

グループ	メールアドレス
医学研究科医科学専攻1年生	m-s-1nensei@saitama-med.ac.jp
看護学研究科看護学専攻1年生	m-n-1nensei@saitama-med.ac.jp
医学研究科医科学専攻2年生(含、長期履修生)	m-s-2nensei@saitama-med.ac.jp
看護学研究科看護学専攻2年生(含、長期履修生)	m-n-2nensei@saitama-med.ac.jp

(6) 個人所有コンピュータでの学内ネットワーク利用

申請により個人所有コンピュータを学内ネットワークに接続し使用することができます。申請の際はSMSNETの「保健医療学部におけるコンピュータの利用について」を必ず確認し、次の注意を守ってください。また、個人所有コンピュータが原因で大学業務に支障が生じた時は処分の対象となります。

［URL］ https://smswww.saitama-med.ac.jp/hoken/gakusei/pc/index.html

＜使用上の注意＞

① コンピュータウィルス対策の確実な履行

a. ウィルス対策ソフトの実行（記憶媒体、メール、ホームページに対して、即時及び定時実行）

b. ウィルスパターンの定期的な更新(最低週1回)

② セキュリティホール対策の確実な履行

a. ウィンドウズアップデートの実行（自動実行で更新時に確認設定）

b. アプリケーションのアップデート（適宜）

③ 情報漏洩防止の確実な履行

a. 使用者認証の設定

b. 情報の紛失防止、漏れては困る情報の保存の禁止、学外持ち出し禁止（学内ネットワークに関する情報、個人情報など）

c. ファイル共有ソフト(P2Pソフト、Winny、share、Cabos、WinMX、Lime Wire、Bit Cometなど）の使用禁止

学内ネットワークの利用には研究科長（または修士課程運営委員長）の許可が必要です。利用を希望する大学院生は、事務で所定の手続きを行ってください。

・申込期間は、原則として5月と11月のそれぞれ1ヶ月間です。

・申込には、使用するパソコンのメーカー名、型式、OS、MACアドレスの情報が必要となりますので、あらかじめ調べておいてください。

・使用開始にはネットワーク設定が必要です。「埼玉医科大学教育学術情報ネットワーク(https://smswww.saitama-med.ac.jp/)」を参照し、設定をしてください。
・学籍がなくなった場合は、登録が抹消されます。
・登録内容が変わった場合は、再申請が必要となります。
・必要と認められる場合、パソコンの使用状態を調べることがあります。

８．学内の環境保全

- 大学院生は、本学の建物・設備・備品などを破損・汚損することのないよう努めてください。場合によっては処分の対象になります。また、キャンパス内の清掃・整理整頓・火気取り締まりには常に留意してください。
- 本学は、喫煙により罹患する可能性が高くなる疾病等の予防医療を実施する医療機関を擁する大学として、学内および指定された地域で全面禁煙を実施しています。
- キャンパス内での飲酒は禁止します。ただし、相応の理由が認められる場合には、修士課程運営委員長の許可により場所・時間を限って認められることがあります。
  なお、アルコールの過剰摂取により死亡事故に至るケースもあるので、「イッキ飲み」等の危険な飲酒行為及び飲酒運転は絶対にしないでください。
- キャンパス内での麻雀等の賭博性のある遊戯を行うことは禁止です。

９．校舎への出入り

校舎への出入り口

日高キャンパス

出入口	開錠時間（月～土）	入館方法	退館方法	備考
正面玄関(事務室前)	7:00～20:00	自動開閉		時間外は施錠
A棟 西側出入口	7:00～19:00	学生証をカードリーダーにかざす	内側のサムターン錠を回し開錠	時間外は入館不可
C棟 北側出入口（EV側）				
C棟 北側出入口（ロッカー室側）				

※休日・入学試験および大学が指定する年末年始の休暇期間は入館できません。
※14条特例講義等、修学上必要な場合は施設使用を認めることがあります。

オスラーホール（学生ホール）

出入口	開錠時間（月～土）	入館方法	退館方法	備考
正面出入口	7:00～21:00	学生証をカードリーダーにかざす	自動開閉	終日施錠
東側裏出入口				時間外は入館不可

※自己学習や飲食など多目的で使用することができます。
※休日・入学試験日および大学が指定する年末年始の休暇期間は入館できません。
※夜間の非常時は、国際医療センター警備室(042-984-4110)に連絡してください。

川角キャンパス

校舎は月曜日～土曜日の 9:00～18:00 は入退館ができます。なお、休日および大学が指定する年末年始の休暇期間は出入りできません。

特別な事由により「教室使用願(様式 76 号)」が事務室に提出された場合に、事務室長の許可の下、休日の教室等の使用および使用時間の延長を認めることがあります。

10. 食堂・売店

日高キャンパス

食堂(テレサホール・ラウンジヤマネ)では、学生証に現金をチャージし、カードリーダーにかざして代金を支払います。

施設名	場所	営業日	営業時間
テレサホール（食堂）	テレサホール	年中無休	11:00～14:30 17:00～18:30(平日のみ)
ラウンジヤマネ（食堂）	管理棟 1 階	月～金	11:00～14:30
コンビニ（ローソン）	テレサホール 2 階	月～金	11:00～13:30
ATM（埼玉りそな銀行）	テレサホール 2 階	月～金	09:00～17:00
文光堂書店	管理棟 1 階	月～金	12:00～16:30*

＊教科書販売期間は異なります

川角キャンパス

学生食堂では券売機で食券を購入します。

施設名	場所	営業日	営業時間
学生食堂	食堂棟	食堂棟内に掲示	11:00～13：00

11. 掲示物

- 掲示する場合は、事務室に「印刷物掲示･配布願(様式 75 号)」を提出し、修士課程運営委員長の許可を得る必要があります(掲示許可までに約 1 週間要します）。
- 掲示期間は原則 2 週間以内です。
- 掲示物は最大で A3 用紙サイズまでです。
- 所定の場所以外の掲示は禁止です。
- 掲示期間が過ぎたら、掲示を願い入れた者が掲示物を撤去してください。
- 違反した掲示物は撤去します。
- 掲示物を無断で除去・破損・汚染する行為は処分の対象となります。

12. 印刷物の配布

大学院生が新聞・ビラ・その他の印刷物またはこれらに準ずるものをキャンパス内で配布しようとする場合は、代表者が現物を添えて「印刷物掲示･配布願(様式 75 号)」を事務室に提出し、修士課程運営委員長の許可を得る必要があります。

13. 集会・催しなど

- 学内外を問わず、本学大学院生として集会や催しなどを行う場合は、実施の 1 週間前までに「集会許可願(様式 74 号)」を事務室に提出し、修士課程運営委員長許可を得る必要があります。

- 集会や催しなどに際し大学施設を使用する場合は、「集会許可願」と併せて「施設使用願(様式 77 号)」を事務室に提出し、事務室長の許可を得る必要があります。
- 参加費や入場料などを徴収する場合は、その額および使途を明記した書類を「集会許可願」に添付してください。
- 集会が終了したら、責任者は速やかに修士課程運営委員長に経過を報告してください。また、収入があった場合は修士課程運営委員長に会計報告書を提出してください。
- 集会で使用した施設や備品は、清掃・点検し、元の状態に戻してください。また、火災に十分注意してください。
- 集会における行為が、大学院生としてふさわしくなかったり、大学や社会の秩序を乱したり、危険な事態が発生する恐れがあると認められた場合は、その集会の禁止・解散を命ずることがあります。
- 署名運動・デモなどおよび対外的な活動をする場合も上記各項が適用されます。
- 学内において布教活動と認められる行為の一切を禁止します。また、教育等に使用する住所録・メールアドレス等の個人情報を布教活動に使用することも禁止します。

14. 備品などの使用

- 大学の備品などを課外活動やその他の目的で使用する場合は、「備品使用願(様式 78 号)」を事務室に提出し、事務室長の許可を得る。
- 使用した備品などは清掃・点検し、元の場所に確実に戻し、事務室長の確認を受けて下さい。

15. 健康管理

「学生健康推進室(以下 保健室)」は事務室とともに、健康相談、健康診断、予防接種などを行い、皆さんが快適で健康的な学生生活を送れるように支援します。

保健室は、日高キャンパス・川角キャンパスそれぞれの校舎 1 階にあり、皆さんの健康管理に関する情報提供や指導を行っています。日頃から掲示を確認し、呼び出しがあった場合には速やかに対応してください。

〈連 絡 先〉

Tel：042-984-4412（内線：3123）

e-mail：h_kensui@saitama-med.ac.jp

(1) 体調不良時の初期対応及び受診指導

保健室では、簡単な傷の手当てやベッドでの休養ができます。場合によっては、埼玉医科大学国際医療センターや埼玉医科大学病院､その他の医療機関への受診指導等をします。病院で診療を受ける際には保険証の提示が必要です。本学の病院を受診する際には、学生証とマイナ保険証または資格確認書を必ず持参してください。

(2) 定期健康診断の実施と健診後の保健指導

毎年 1 回の健康診断が義務付けられているので、必ず受診してください。

定期健康診断は、現在の皆さんの健康状態を把握するだけでなく、将来の生活習慣病を予防するための重要な資料となります。

保健室では、健康診断の結果に基づき、生活指導や医療機関の受診を勧奨しています。健康診断の結果で異常が認められた場合には、適切な医療機関を受診してください。

実施内容

身長、体重、視力、聴力、血圧測定、内科診察、尿検査（糖、蛋白、潜血）、胸部エックス線検査

事後指導

健康診断の結果は「健康診断成績表」を配付しお知らせします。「健康診断成績表」は、在学中、大切に保管してください。

健康診断の結果によって、生活習慣改善のための指導や専門医療機関への受診勧奨を行います。通知された大学院生は速やかに指導に従って受診し、「受診報告書」を保健室に提出してください。

(3) 予防接種の実施

インフルエンザの予防接種を希望者に実施しますので、お知らせを確認して申し込みしてください。

(4) 診断書・証明書の発行

実習、留学、就職活動などに必要な診断書や証明書は、健康診断のデータを用いて作成します。詳細は次項目「19.健康診断書」を参照ください。

(5) 身体的な健康の相談

体調不良や健康上心配なことがある場合には遠慮なく相談してください。必要があれば、埼玉医科大学国際医療センターや埼玉医科大学病院の専門診療科などを紹介します。

(6) こころの相談

こころの相談は、充実した学生生活を送るためのサポートの１つです。学業、対人関係、将来の不安など大学生活で直面する様々な悩みや問題について、気軽に相談できます。相談は予約制です。初回は「保健室」か「学生サポート相談室」に来室、又は電話（保健室 042-984-4412）で予約してください。

(7) 体調不良の対応

学校感染症に罹患した場合(別表 1)は、疾病ごとに定める出席停止期間を遵守すること。医師により「治癒」または「感染の恐れがない」ことが認められる必要がある疾病［第 1 種および第 3 種ならびに第 2 種の一部の感染症(インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症を除く)］に関しては、必ず医療機関を受診し、「治癒(見込み)証明書」あるいは「欠席期間(見込み)が明記された診断書」発行を依頼し、提出すること。

学校保健安全法に定められた学校感染症等　　別表１

種別	疾患名	出 席 停 止 期 間
第２種	インフルエンザ	発症後（発熱の翌日を１日目として）５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで
	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	発症後（発熱の翌日を１日目として）５日を経過し、かつ、解熱した後１日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、５日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで
	麻しん	解熱後３日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後５日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状消退後２日を経過するまで
	結核	医師により感染の恐れがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
第１種	エボラ出血熱、ペスト、クリミア･コンゴ出血熱、マールブルグ熱、痘そう、ラッサ熱、南米出血熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症	治癒するまで
第３種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性結膜炎、急性出血性結膜炎	医師により感染の恐れがないと認められるまで
その他	溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療なされ、全身状態が良ければ登校可
	ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏ感染症	症状が改善すれば登校可

18. 健康診断書

就職活動その他の申請など、本学での修学上必要と認められ、かつ、採血などの特殊検査を要しない場合、健康診断のデータを用いて健康診断書を発行します。健康診断書の発行を希望する場合は、2 週間前までに事務室に「証明書交付願(様式 51 号)」を提出してください。

ただし、本学実施の健康診断を受診していない場合や、異常値があるのに受診や精査を受けていない場合は、診断書の作成はできません。発行は大学書式のものに限りませんが、記載は大学で実施した健康診断結果のみとなります。検査を必要とする健康診断書は各自で病院を受診依頼してください。

19. 傷害保険

本学においては、大学院生が不慮の事故等にあった場合の支援措置として保険制度が設けられています。

(1) 学生教育研究災害傷害保険制度 (略称「学研災」)

この保険は、公益財団法人日本国際教育支援協会と国内損害保険会社 4 社との間で締結された共同保険契約であり、東京海上日動が他の保険会社の代理・代行を行います。

各大学は、公益財団法人日本国際教育支援協会の賛助会員として被保険者となる大学院生の保険加入をとりまとめ､保険金請求時の証明などの事務を行います。

本学では、全員が A コースに加入していますので、
該当する傷害を被った場合は、保険金請求を専用アプリ
「SkettBook(https://skettbook.jp/store)」で行います。

保険金が支払われる対象範囲

被保険者が教育研究活動中(下記)に被った突然の事故による身体の傷害(病気は対象になりません)

① 正課中・学校行事中
② 上記①以外で学校施設内にいる間・通学中・学校施設等相互間の移動中
③ 学校施設内外を問わず、届け出た課外活動(クラブ活動)を行っている間

補償内容

死亡保険金：①2,000 万円　②③1,000 万円
後遺障害保険金：①120 万円～3,000 万円　②③60 万円～1,500 万円
医療保険金：①治療日数 1 日以上対象 3,000 円～30 万円
②治療日数 4 日以上対象 6,000 円～30 万円
③治療日数 14 日以上対象 3 万円～30 万円
入院加算金：①②③1 日につき 4,000 円

保険料

2 年間分の保険料については入学時の学納金に含まれています。

なお、修学期間の 2 年を超えて在籍することとなった長期履修生・留年者については、後述の「21.賠償責任保険 (1)学研災付帯賠償責任保険(全員加入)」の保険料と合わせて、年額 1,520 円を当該年度の学費に含めて徴収します。

保険期間

入学年次の 4 月 1 日～卒業年次の 3 月 31 日

(2) 埼玉医科大学学生グループ保険および普通傷害保険

この保険は、加入者が保険期間中に死亡した場合に死亡保険金が、傷害または疾病によって高度障害状態になった場合に高度障害保険金が、それぞれ支払われます。また、傷害による入院・通院についても保険金が支払われます。

本学では全員が加入していますので、該当する傷害を被った場合は、事務室に報告してください。

保険金の請求は事務室を通じて行います。

保険金が支払われる対象範囲

24 時間補償

補償内容

病気死亡：100 万円

傷害死亡・後遺障害：最高約 357 万円まで

傷害入院日額(疾病によるものは対象外)：1,000 円(1 日から補償)

傷害通院日額(疾病によるものは対象外)：500 円(1 日から補償)

保険料

保険料は毎年の学納金に含まれています。

(3) 学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

この保険は任意加入(入学手続き時にご案内)の保険です。

入学年度により補償内容が異なるので、詳細につきましては、取扱代理店の「日本防災保障株式会社(049-294-6385)」で確認してください。

保険金の請求はインターネットの受付フォーム(https://www.web-tac.co.jp/form/uni_claim01.html)で行います。

20. 賠償責任保険

(1) 学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠責」）

この保険は、「19. 傷害保険 (1)学生教育研究災害傷害保険」に付帯するものであり、講義中、実験・実習中、学校行事、ボランティア、クラブ活動等の課外活動およびその活動を行うための交通の途上で、他者に怪我を負わせてしまった、他者の財物を損壊してしまったなどの賠償責任事故に対する被害者救済のための賠償責任保険です。

本学では、全員がＣコース(医学生教育研究賠償責任保険(医療関連学部を含む))に加入していますので、賠償を負うような場合は、事務室に報告してください。

保険金の請求は事務室を通じて行います。

補償の対象となる主な事故例（国内のみ対象）

① 実習中に患者さんの移動を手伝い、誤って転倒などにより、怪我を負わせてしまった場合。

② 患者さんの検査に付き添い、患者さんの眼鏡や持ち物を預かり、破損あるいは紛失してしまった場合など。

保険期間

入学次の4月1日より卒業年次の3月末までの2年間

保険料

2年間分の保険料については入学時の学納金に含まれています。

なお、修学期間の2年を超えて在籍することとなった長期履修生・留年者については、先述の「19. 障害保険 (1)学生教育研究災害保険制度(全員加入)」の保険料と合わせて、年額1,520円を当該年度の学費に含めて徴収します。

21. 奨学金

奨学金には以下のものがあります。

なお、募集対象・募集人数・募集内容は年度によって異なります。

- 日本学生支援機構奨学金(貸与奨学金 第1種[無利子]/第2種[有利子])

奨学金の募集要項を掲示板に掲示するので、希望する学生は確認してください。奨学金に関することは事務室に問い合わせてください。

22. アルバイト

アルバイトをする場合には、以下のことを遵守してください。

- 研究に支障がない程度とすること。
- 大学院生としての品位にかかわるような職種を選定しないこと。

23. 各種相談窓口

(1) 指導教員

- 指導教員を指定し、2年間（長期履修生は3年間）学修が円滑に行われるようサポートします。
- 修士課程運営委員会(教員)もサポートしています。各分野に修士課程運営委員がいますので気軽に相談してください。

(2) 障害学生支援について

本学は、人権を尊重し、障害の有無によって差別されることなく、個人を大切に教育する大学を目指します。必要に応じて合理的配慮を提供し、障害学生が他の学生と同等の教育を受けられるように支援します。支援、合理的配慮の提供に関する相談窓口は「学生サポート相談室(042-984-4914)」です。

(3) キャリア支援と学生サービスについて

キャリア支援と学生サービスに関する窓口を設置し、大学院生（修士課程）に情報提供等の支援を行います。

連絡先：保健医療学部 事務室 庶務課 大学院担当

Tel：042-984-4801、E-mail：hmaster@saitama-med.ac.jp

24. ハラスメント

『埼玉医科大学 保健医療学部ハラスメント防止規則』に基づき、ハラスメントを含め人権を侵害する行為を禁止しています。大学院生が安心して学修、研究ができるように、ハラスメントの防止にも努めています。ハラスメントとは、不当な言動を行うことにより個人の尊厳を傷つけ人格を侵害する行為です。セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメント等の典型的なハラスメントのほか、性暴力など人権侵害行為も含まれます。『ハラスメントに関するガイドライン』も参照してください。

(1) ハラスメント等が疑われたら

ハラスメントと思われることがあった、又は場面を目撃した場合、話しやすい教員またはハラスメント窓口(保健医療学部事務室 大学院担当または保健室)に対面かメール(hmc_hara@saitama-med.ac.jp)で相談してください。その段階で相談内容を詳しく説明する必要はありません。修士課程運営委員会内に置かれた相談員が連絡を受け、あなたの意見を最大限尊重しながら、問題を整理し、問題解決に向けて一緒に考えます。友人が被害にあったというような時でもお話を聞きます。相談員には守秘義務がありますので、相談した内容が部外者に漏れることはありません。また、相談したことで、不利益な取り扱いをされることもありません。被害にあったのは、決してあなたのせいではありません。

(2) ハラスメント等解決の流れ

相談員

教員または相談窓口から連絡を受けた相談員は、被害の相談・申し立てについて丁寧にお話を聴きます。相談員は、研究科長が指名した教員複数名です。被害者本人に限らず、第三者(友人等)の被害についての相談・申し立てについても同様です。

事実関係の調査と対応策の検討

被害の相談・申し立てを受けて、相談員はヒアリングを行い、被害者の同意を得たうえで、対応を協議するため、規定に基づき速やかにハラスメント防止委員会に報告します。相談員は、2 名 1 組で対応します。被害者が研究科内での調査・対応を希望し、研究科長が必要と認めた場合は「調査･対策委員会」が設置されます。「調査･対策委員会」は、被害者、加害者と想定される者、および関係者にヒアリングを行い、事実を確認するとともに、被害者の意思を尊重しつつ対応策を検討します。

対応策の実施

「調査･対策委員会」より修士課程運営委員長を通じた報告を受け、研究科長は事例の軽重により下記の通り対応する。

- 特に悪質と考えられる事例では、研究科長から学長に報告した上で法人のハラスメント防止委員会に裁定をゆだね、必要に応じて賞罰委員会での審議を経て対処する。その結果は研究科委員会に報告する。
- それ以外の事例では、修士課程運営委員長および研究科長が加害者に忠告と指導等を行うとともに、相談員を通じて被害者および家族に説明を行う。また、修士課程運営委員会を通じて研究科委員会に簡単な経緯を報告する。

ハラスメント等の被害者への対応

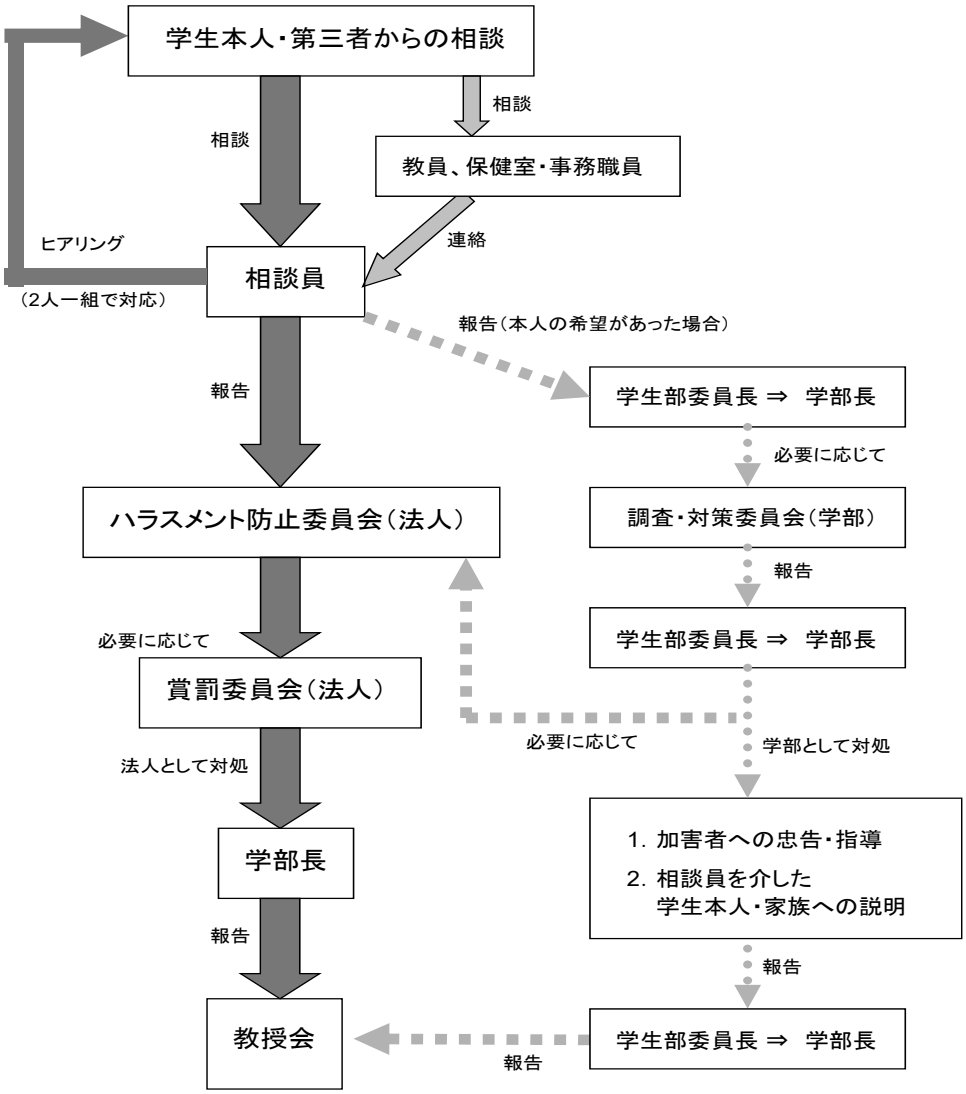
被害者には可能な限り最善の対応、救済措置をとるように努めます。

相談・申し立ての時点、またはハラスメント解決に向けた検討中であっても、ハラスメントの疑いのある行為が継続し、被害者を救済する措置が必要と判断された場合は、相談員は緊急避難の措置を、修士課程運営委員長を通じて研究科長に要請します。

相談・申し立てから解決に向けてのすべての過程において被害者のプライバシーと名誉の保護を最優先とし、個人情報が外部に漏れないように最善を尽くします。また、相談者(被害者)が相談・申し立て等により修学上の不利益(報復)を被ることがないように配慮します。

ハラスメント等による行為や申し出たことにより精神的な苦痛を感じている時は、いつでもカウンセリングによる支援を受けることができます。

ハラスメント問題発生から解決までの流れ



25. 災害に対する予防と事故遭遇時の対応

(1) 災害に対する予防と対応

- 地震及び火災発生時の対応については、「埼玉医科大学保健医療学部危機管理マニュアル」に詳しく書いてあります。マニュアルの文章及びそれに続く対応図や避難場所地図、消火器具の配置図などに目を通し、日頃から危機管理の意識を持ってください。
- 火災予防に努めてください。構内は禁煙です。また、構内において火気を使用する場合には許可が必要です。
- 自然災害により、警報または特別警報が発令された場合、発令後の授業等(講義･実習･演習･試験を含む)を中止とすることがあります。警報発令時の授業や実習等の中止に関する判断は、警報が発令された時間により異なります。詳しい内容は「Ⅶ 諸規定」にありますので確認しておいてください。

(2) 安全運転及び事故遭遇時の対処

- 自転車、自動二輪車、自動車を運転する場合には、交通ルールを守り安全運転を心掛けてください。また、飲酒運転は厳禁です。
- 事故に遇った場合には先ず人命救助に努め、その後、大学(事務室)に速やかに報告してください。

〈連 絡 先〉

Tel：042-984-4801

e-mail: hokeniryou@saitama-med.ac.jp

〈報告事項〉

氏名・分野・学年・事故遭遇時間・場所・状況・負傷者の有無

- 安全運転及び事故遭遇時の対処についての詳しい内容は、「Ⅶ 諸規定」にありますので確認しておいてください。

(3) 災害・事故・事件等発生の際の連絡先

月～土　8:30～17:00

日高キャンパス事務室（保健医療学部棟 A 棟 1 階）

外線：042-984-4801（内線：3101）

川角キャンパス事務室

外線：049-295-1001（内線：(41-7)521）

月～土(8:30～17:00)以外の時間帯（日･祝祭日及び夜間等）

警備センター（国際医療センターB 棟 1 階）

外線：042-984-4110（内線：7110）

飯能警察署

緊急：110

その他：042-972-0110

埼玉西部広域消防本部

緊急：119

その他：042-973-9119

(4) 各キャンパスの避難場所

各キャンパスの非難マニュアル(避難指示)に従い、下記避難場所へ慌てずに避難すること。

日高キャンパス	「創立 30 周年記念講堂前広場」
川角キャンパス	図書館西隣の芝生
毛呂山キャンパス	「いこいの広場」 丸木記念福祉メディカルセンターと埼玉医療福祉会看護専門学校の間
川越キャンパス	「川越運動公園」 総合医療センターの南東、直線 500m

26. 海外への旅行等

観光、語学研修などで海外旅行をする場合などは、事前に「海外旅行届(様式 73 号)」を事務室に提出してください。

27. 安全管理は自らの手で

近年、日本全国で常識を超えた凶悪な事件が頻発していることは、新聞やテレビを通じて誰でも知っています。路上で、駅で、さらには自分の家でさえも、事件が起こっています。

本学の周辺は民家が少なく、県道等の人通りもまばらです。とくに夜間では大学構内といえども必ずしも安全とはいえないことに留意して、登下校時の安全を図ってください。

また、一人暮らしの場合には、複数の鍵を付ける、防犯チェーンを掛ける、見知らぬ人物の来訪時には安易にドアを開けない、2 階の部屋でも窓を開け放して寝ないなど、自らの安全に関する十分な注意を払うことが必要です。

安全管理は人任せでなく自らの責任で行うことを肝に銘じてください。

埼玉医科大学 保健医療学部
危機管理マニュアル（抄）

１　保健医療学部危機管理マニュアル
２　火災発生時の行動マニュアル図（学生・教職員）
３　地震発生時の行動マニュアル図（学生・教職員）
４　地震発生後の行動マニュアル図（学生）
５　同（一般教員）【省略】
６　同（一般職員）【省略】
７　同（管理者）【省略】
８　日高キャンパス見取り図（避難場所）
９　川角キャンパス見取り図（避難場所）
１０　消火器・消火栓・火災報知器の配置図（日高ｷｬﾝﾊﾟｽ）
１１　消火器・消火栓・火災報知器の配置図（川角ｷｬﾝﾊﾟｽ）
１２　緊急連絡網【省略】
１３　防災のための日頃の取り組み

緊急連絡先

日高ｷｬﾝﾊﾟｽ

事務室　：　TEL 042-984-4801

夜間及び祝祭日

防災ｾﾝﾀｰ：TEL 042-984-4119／国際医療ｾﾝﾀｰ内

警備ｾﾝﾀｰ：TEL 042-984-4110／国際医療ｾﾝﾀｰ内

川角ｷｬﾝﾊﾟｽ

事務室　：　TEL 049-295-1001

１　埼玉医科大学保健医療学部　危機管理マニュアル

埼玉医科大学危機管理委員会 2012.8

Ⅰ　趣　旨

本マニュアルは、学校法人埼玉医科大学危機管理規程第14条に基づき、日高キャンパスおよび川角キャンパスに係る大規模災害などにおける危機管理への対応について定めたものである。

Ⅱ　定　義

1　このマニュアルで「危機」とは次のものをいう。

1）火災の発生　2）震災の発生　3）風水害による被害の発生　4）不審者の侵入
5）危害予告電話の受理

2　このマニュアルで「管理者」とは次の者をいう。

1）全学レベルの管理者：①理事長　②事務局長　③学長
2）現地管理者：①保健医療学部長　②事務室長　③各学科長　④事務室管理職

3　このマニュアルで「緊急連絡網」は別紙のとおりとする。

Ⅲ　危機の際の個別の対応

１ 火災の発生

（１）火災の発見と連絡体制

1）火災の発見者は、直ちに大声で周囲に呼びかけて支援を求めるとともに、自らまたは周囲の者と連携して、事務室および消防署（119 番）への連絡を行う。また、火災報知器で警報を発する。事務室：内線 3101、外線 042-984-4801

2）火災の発見者は、消火器または消火栓から引いた消防ホースを用いて初期消火活動を行う。なお、初期消火活動では無理をしないよう心掛ける。天井に火が届きそうな場合には、消火活動を中止して安全な場所に避難する。

3）連絡を受けた事務室職員は、事務室長に報告した上で、現場に急行して初期消火活動に加わるとともに、状況を把握し事務室長に連絡する。事務室長は学部長に状況報告を行う。

4）初期消火活動が無理と判断された場合は、事務室長は直ちに防災センターおよび日高キャンパス防火管理者への報告を行う。これを受け、防火管理者は法人本部への報告を行う。

5）事務室長は、非常放送設備により、出火付近や建物内の学生・教職員に避難の指示を行う。この際、出火状況、初期消火状況、避難の方法、誘導などの緊急情報について周知徹底を図る。

6）学生・教職員は、避難の指示に従い、速やかにあらかじめ定められた避難場所に退避する。避難時には下記の事項に注意する。

・煙が多い場合には、姿勢を低くして、ハンカチなどで口や鼻を覆い、煙を吸い込まないようにする。

・持ち物は最小限にとどめ、いったん避難を開始したら現場には戻らない。

7）避難場所は、日高キャンパスにおいては創立 30 周年記念講堂前広場、川角キャンパスにおいては図書館横芝生とする。避難場所において、教職員は手分けして学生・教職員の安否を確認する。

8）日高キャンパス防火管理者は、学部長、事務室長と連携し、現地対策本部（自衛消防組織本部）を設置する。現地対策本部は、日高キャンパスにおいては保健医療学部事務室、川角キャンパスにおいては川角事務室を第一候補とする。

9）関係者は以上の他、緊急連絡網により、必要な連絡を行う。

（２）自衛消防組織の活動

火災時の自衛消防組織の活動手順については別に定める。

（３）勤務時間外の場合（夜間、休日）

委託している警備会社との警備計画書等による他、次による。

1）火災の発見者は、防災センターおよび消防署（119 番）への通報を行う。また、火災報知器で警報を発する。

2）火災の発見者等は、直ちに消火器等を使用して初期消火活動を行う。

3）初期消火活動では無理をしないよう心がけ、天井に火が届きそうな場合には、消火活動を中止して安全な場所に避難する。

4）関係者は別に定める緊急連絡を行う。

5）関係者は火災の延焼状況により、貴重品の搬出、搬出された物の管理を行う。

２ 震災の発生

震災（地震災害）とは、地震動により直接に生ずる被害及びこれに伴い発生する津波、火事、爆発その他の異常な現象により生ずる被害をいい、震災の発生時間が、勤務時間中の場合と勤務時間外の場合に分けて対応を行う。なお、震災では、交通が極めて困難となったり、外部との通信網が途絶する可能性に留意して行動する必要がある。

ア．勤務時間中の場合

（１）自らの安全の確保

1）出入り口の確保（可能ならドアを開けておく）

2）手近な机やテーブルの下に身をかくす。とくに頭部を守るようにする。窓ガラスや倒れそうな物のそばは避け、落下物に注意する。

3）エレベータの中にいた場合は、各階のボタンを押し、とにかく最寄りの階でおりる。また、廊下や階段では壁際によるが、窓ガラスや落下物に注意する。

4）屋外にいた場合は、建物から離れ、広い場所に退避する。

5）車を運転中であれば、前後に注意しながら速度を緩め停止する。必要に応じて車外に退避する場合は、車のキーは抜かずに車検証を持って出る。

（２）二次火災の発生防止、二次火災発生時の通報・消火活動

1）火を使っている場合は、直ちに火を止める。

2）揺れがある程度おさまったら、ガスの元栓を閉めるとともに、使用機器を停止し、コンセントを抜いておく。

3）二次火災の発生があったら、火災発生時のマニュアルに従い、通報と初期消火活動を行う。

（３）同室者や近くの部屋の安全確認

1）同室者について、倒壊・落下物による下敷きや負傷の有無を確認する。

2）近くの部屋についても、部屋の安全や負傷者の有無を確認する。

（４）学内にいる学生・教員の地震発生後の行動マニュアル

1）学生および教員は、室内の火元や薬品、近辺の実験室の安全を確認するとともに、負傷者などで救援が必要な場合は、事務室に連絡する。教員は学生がパニックにならないよう留意する。教員のうち、実験室等の管理責任者は、当該部署の安全確認を行う。

2）学生は、事務室長（または教員）からの避難指示があった場合は、教員の誘導のもとに最寄りの階段を利用して、速やかに避難場所に移動し待機する。避難場所は日高キャンパスでは創立 30 周年記念講堂とし、川角キャンパスでは図書館西隣の芝生とする。（避難指示がない場合は、授業を継続）

3）学生は、交通状況などによる帰宅困難が明らかとなった場合は、教職員の指示に従い、学内その他の避難場所に移動またはその場で待機する。また、帰宅困難がない場合は、教職員の指示に従い、適宜帰宅する。

4）教員は現地対策本部の指示に従い、学生の指導・監督、各種業務の補佐を行う。

（５）学外にいる学生・教員の地震発生後の行動マニュアル

1）適切な避難場所に移動する。実習先では現地指導者の指示に従う。

2）事務室（または指導教員）に自身の安否と居場所・連絡先を連絡する。自宅にいる場合も連絡する。

3）事務室職員（または指導教員）は、学生・職員の情報を事務室長経由で現地対策本部に報告する。

4）交通状況などによる帰宅困難が明らかとなった場合は、現地指導者の指示に従い、指定された避難場所に移動またはその場で待機する。また、帰宅困難がない場合は、

現地指導者の指示に従い、適宜帰宅する。なお、何らかの事情で居場所を変更した場合には、忘れずに再連絡を行う。

5）学生に同行した教員は、現地指導者の指示に従い、学生の指導・監督、各種業務の補佐を行う。

（６）一般職員の地震発生後の行動マニュアル

1）一般職員は事務室長の指示により、学生・教員への対応、事務室および教室の被害状況調査を行う。

2）負傷者等への救援要請があれば、現場に急行して応急救護措置を講ずるとともに、必要に応じて救急車の手配その他を行う。

3）事務室長からの避難指示が出た場合は、自らも避難場所に向かうとともに、可能な限り学生・教職員の避難誘導を行う。

4）避難場所においては、教員の協力のもとに学生の安否確認を行う。

5）現地対策本部が設置された場合は、対策本部長の指示のもとに、法人の危機管理対策本部との連絡・調整、交通情報等の災害情報の収集、学外にいる学生からの連絡への対応等を行う。

6）学外にいる学生からの連絡を受けた場合、安否の確認、居場所と連絡先の確認を行うとともに、移動時には必ず再連絡するよう指示する。

7）交通状況などによる帰宅困難を想定して、学生・教職員の避難場所の確保や水・食料の手配を検討する。

8）交通状況などによる帰宅困難が明らかとなった場合は、対策本部長の指示に従い、学生・教職員の学内その他の避難場所への誘導またはその場での待機をサポートする。また、帰宅困難がない場合は、対策本部長の指示に従い、適宜帰宅を誘導する。

（７）管理者の地震発生後の行動マニュアル

1）事務室長は、学生・教職員から得られた被災状況をまとめ、学部長、各学科長に報告するとともに、事務局長経由で法人本部に報告する。

2）負傷者があった場合は、応急救護措置のために職員を派遣する。この際、現場付近にいる教員や学生の協力援助を求めることがある。

3）被災状況から避難の必要性ありと判断した場合、事務室長は学部長と協議の上、非常放送設備により避難の指示を行う。

4）事務室長は、学生・教職員の避難の誘導、学外にいる学生からの連絡受理、交通状況等の災害情報収集を職員に指示する。

5）法人本部に危機管理対策本部が設置されたら、事務室長は学部長および同本部と協議の上、現地対策本部を設置する。

（８）現地対策本部

1）学内に在勤している管理者は、避難完了後、危機管理対策本部の指示に従い、速やかに現地対策本部を組織する。

2) 現地対策本部員は管理者および必要な教職員で構成し、現地対策本部長には、Ⅱ「定義」の 2 に示した現地管理者のうち最上位の者が当たる。

3) 現地対策本部は安全で、連絡が容易な場所に設置し、その位置を学内に周知するなお、日高キャンパスにおいては保健医療学部事務室を、川角キャンパスにおいては川角校舎事務室を現地対策本部設置の第 1 候補とする。

4) 現地対策本部は、危機管理対策本部との連絡・調整を図りつつ、引き続き、交通状況等の災害情報の収集、学外学生からの連絡への対応を行うとともに、帰宅困難時への対応、翌日以降の方針の検討、被災の拡大防止、負傷者の救護、行方不明者の捜索、関係者との連絡方法の確立、その他災害の復旧（被災状況の写真撮影を含む。）に必要な措置を実施する。

5) 現地対策本部は、緊急連絡網により被災状況、避難状況等の報告を行う。

6) 現地対策本部員は、本部長の承認の上、帰宅する。

7) 地元被災者の学内への避難には柔軟に対応する。

イ．勤務時間外の場合＝夜間、休日等

(1) 緊急出勤体制

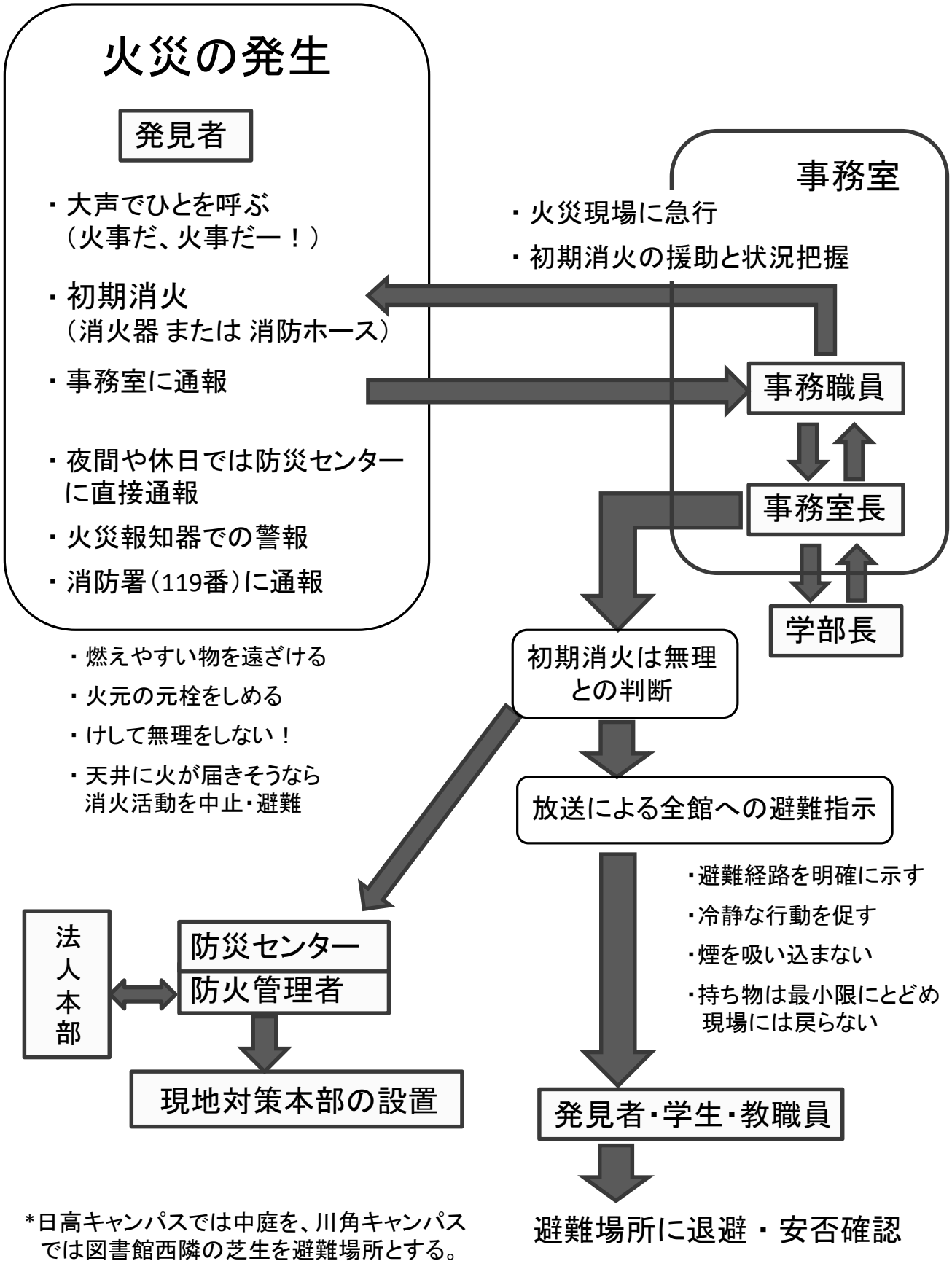
震災時、教職員で大学に緊急出勤できる者は、近親の安否を確認後、大学に出勤し、災害の拡大防止措置を行う。（二次火災の消火措置など）

(2) 緊急管理体制（現地対策本部）の組織

1) 出勤した管理者（管理者が出勤できない場合はその他の教職員）は、被害状況を調査して緊急連絡網により法人本部や他の管理者に連絡するとともに、法人本部と協議の上、現地災害対策本部を組織する。

2) その他の事項は、勤務時間中の対応の場合を準用する。

2 火災発生時の行動マニュアル： 学生・教職員



*日高キャンパスでは中庭を、川角キャンパスでは図書館西隣の芝生を避難場所とする。

3 地震発生時の行動マニュアル： 学生・教職員

大地震の発生

自らの安全確保を優先

出入り口の確保
（ドアを開けておく）

火を使っている場合は
直ちに火を止める

手近な机・テーブルの下に
（とくに頭を守ること）

・窓ガラスのそばは避ける
・倒れそうな物のそばは避ける
・落下物に注意

・エレベータの中にいたら
各階のボタンを押し、とにかく最寄りの階でおりる
・廊下や階段では壁際に
（窓ガラス・落下物に注意）
・屋外にいたら
建物から離れ、広い場所に
（落下物に注意）

同室者の安全確認
（けが人や下敷きなど）

使用機器の停止
コンセントを抜いておく

近くの部屋の安全確認
（けが人や下敷きなど）

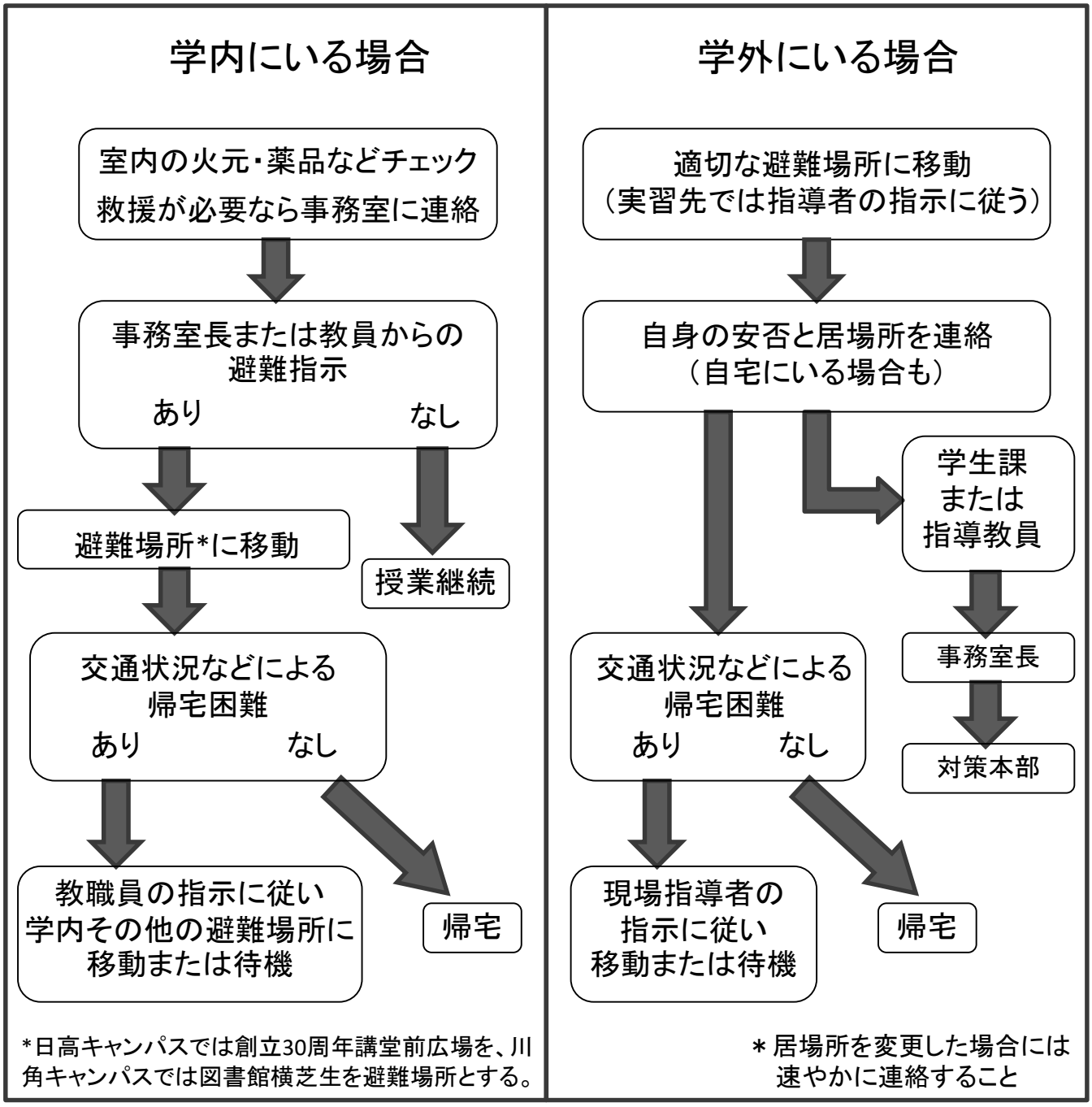
余震 に注意
二次火災 に注意

地震発生後の行動マニュアルへ

4 地震発生後の行動マニュアル： 学生

大地震の発生
（とりあえず自身の安全確保）

揺れがおさまったら・・・

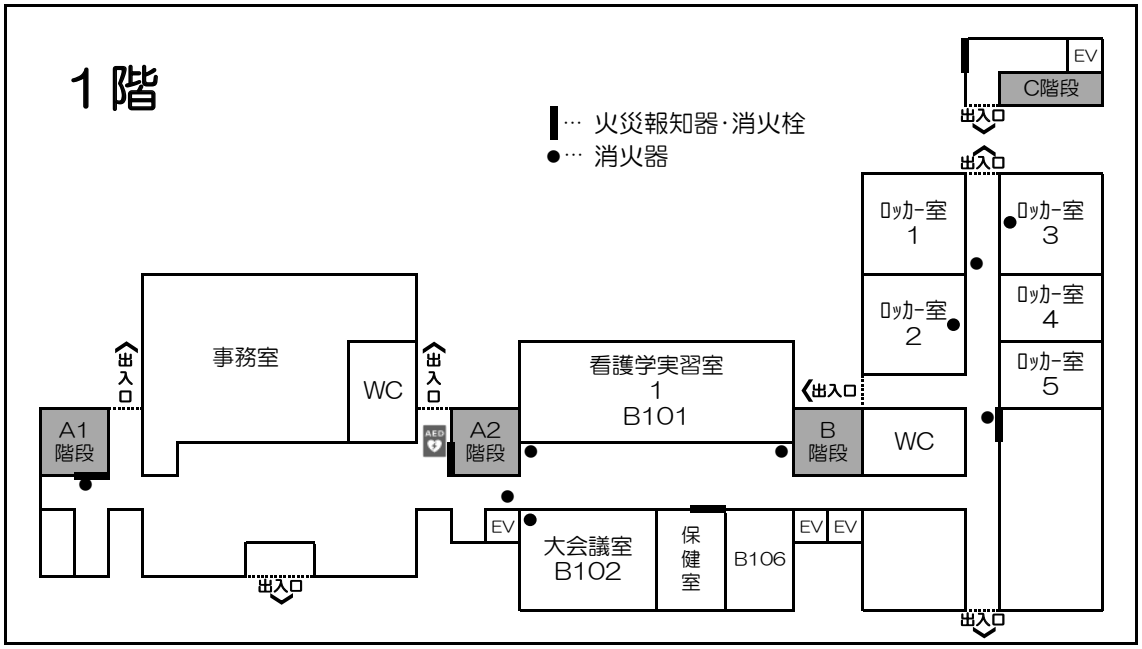


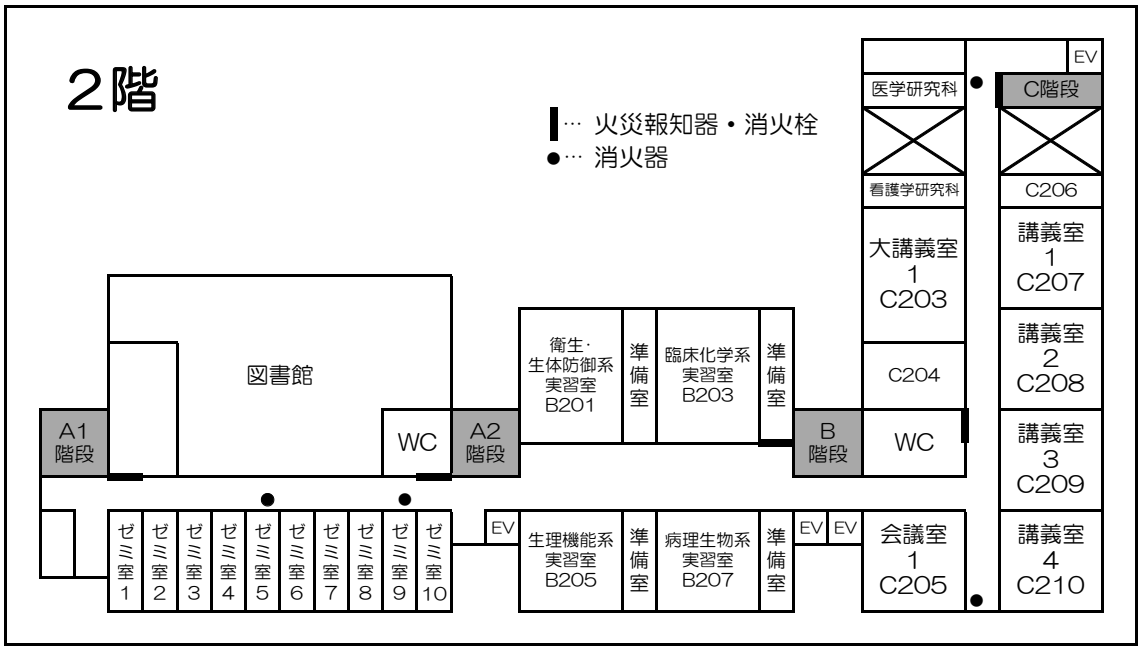
夜間・休日の大地震の場合は、翌朝、大学への連絡を！

日高キャンパス見取り図（避難場所）

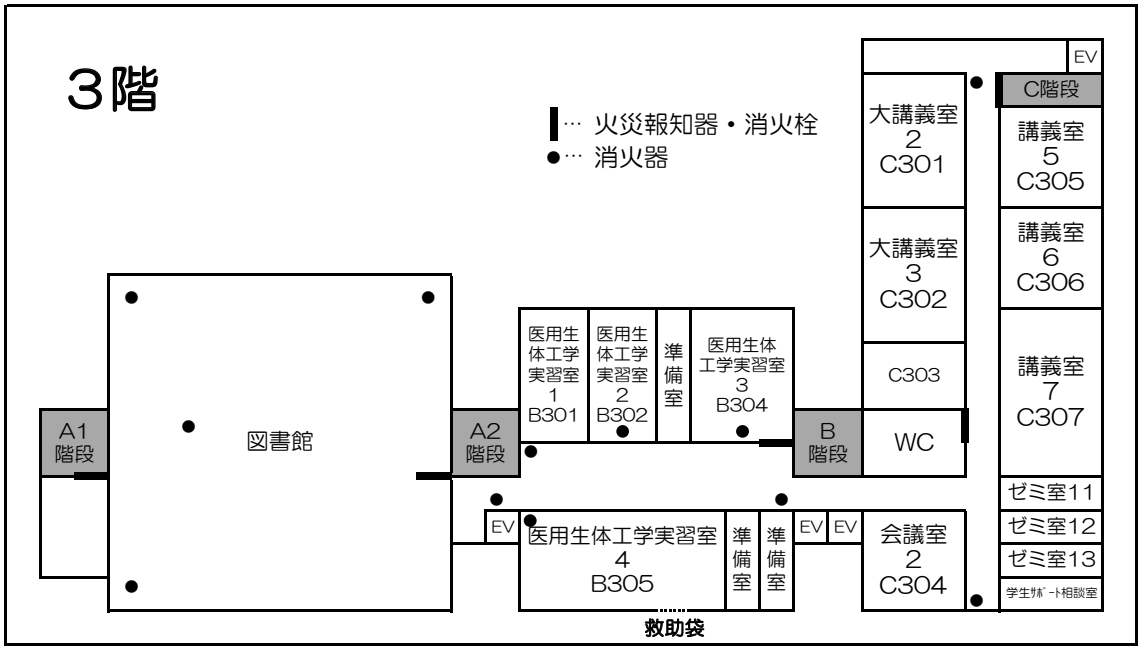


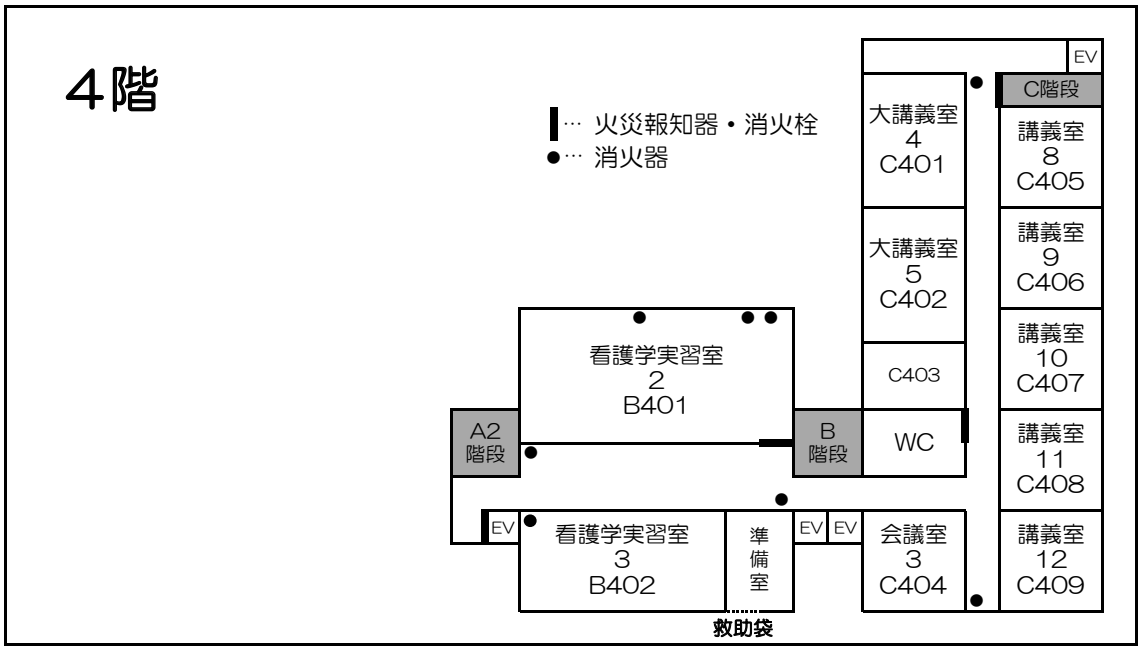
火災報知器・消火栓・消火器の配置図（日高キャンパス保健医療学部棟）





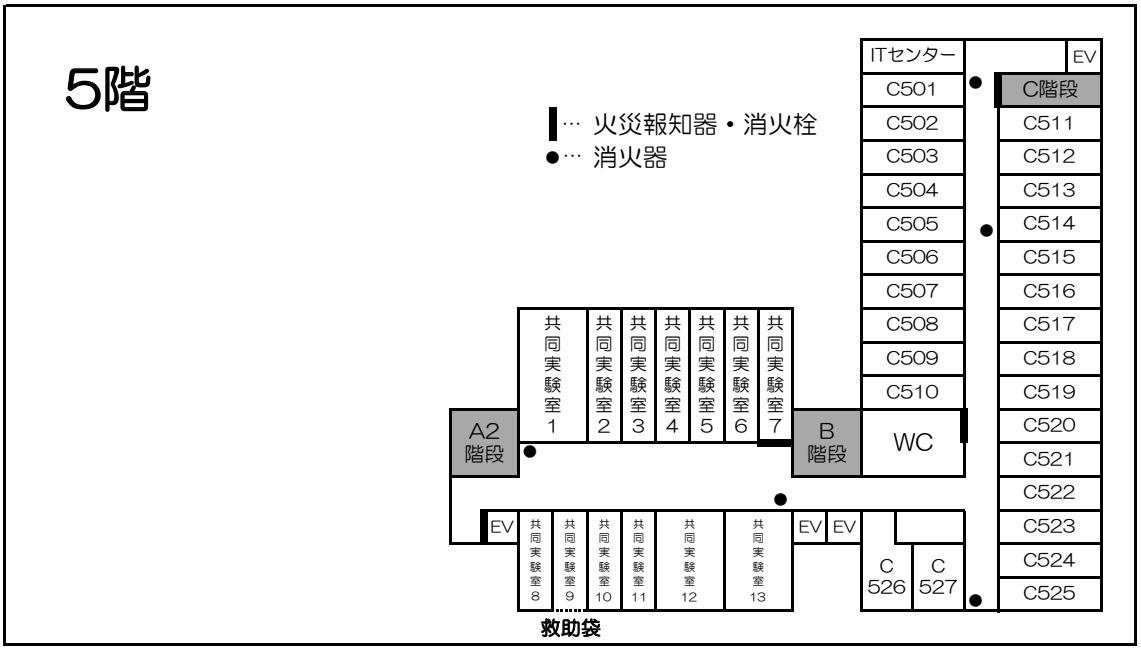
火災報知器・消火栓・消火器の配置図（日高キャンパス保健医療学部棟）



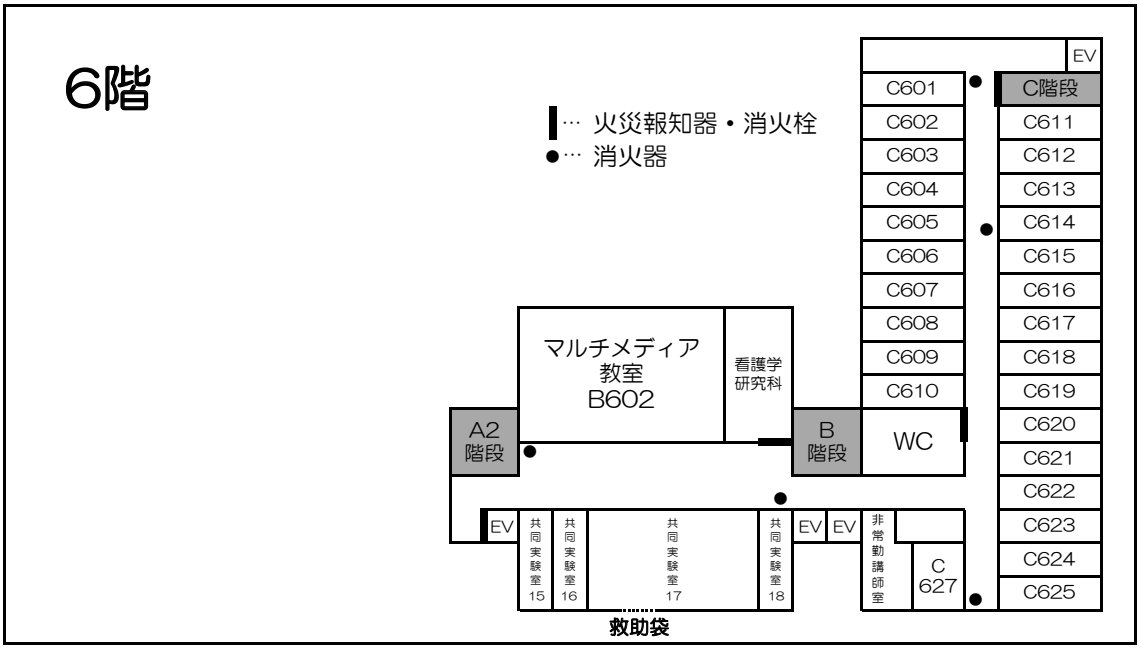


火災報知器・消火栓・消火器の配置図（日高キャンパス保健医療学部棟）

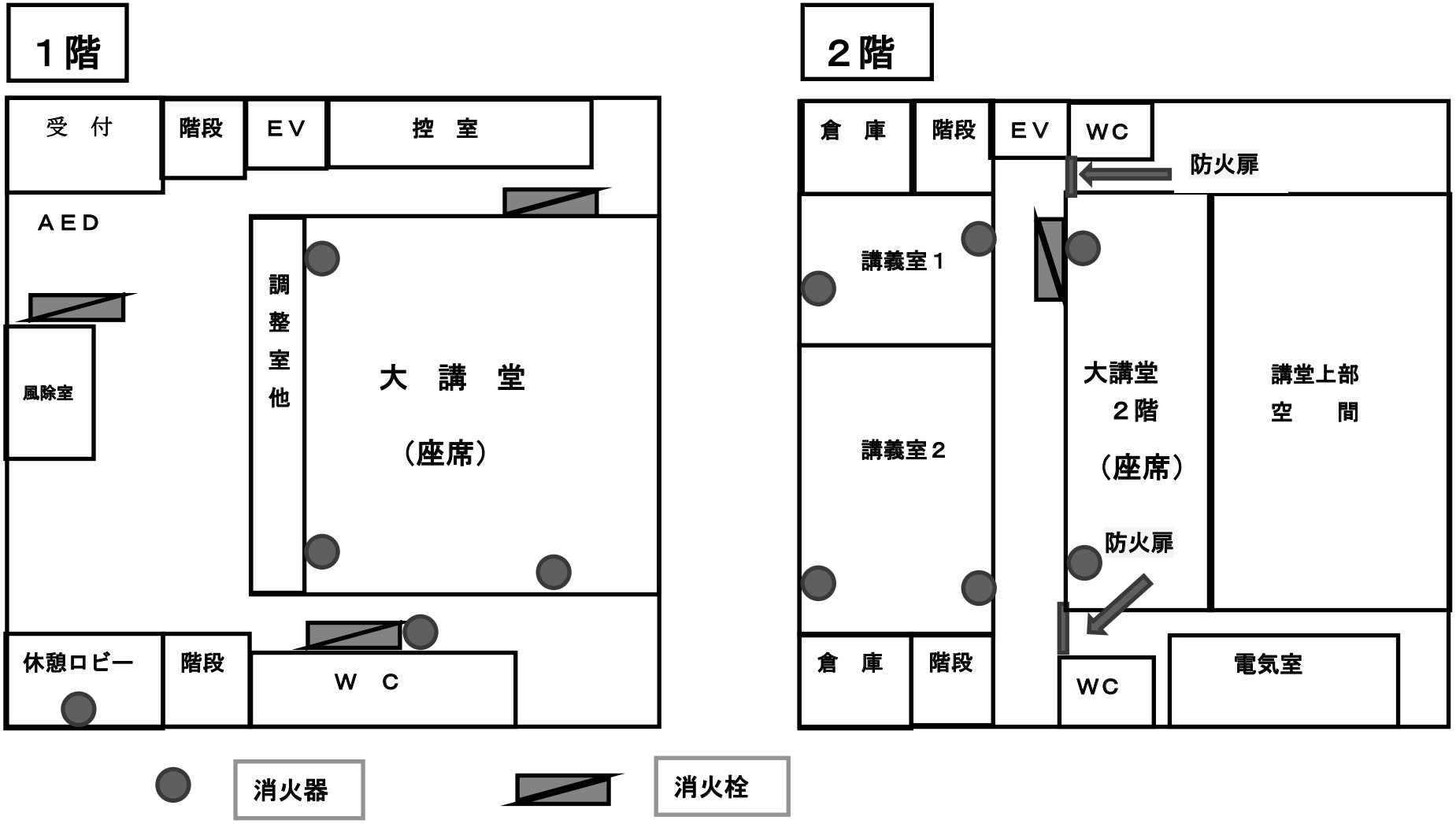
5階



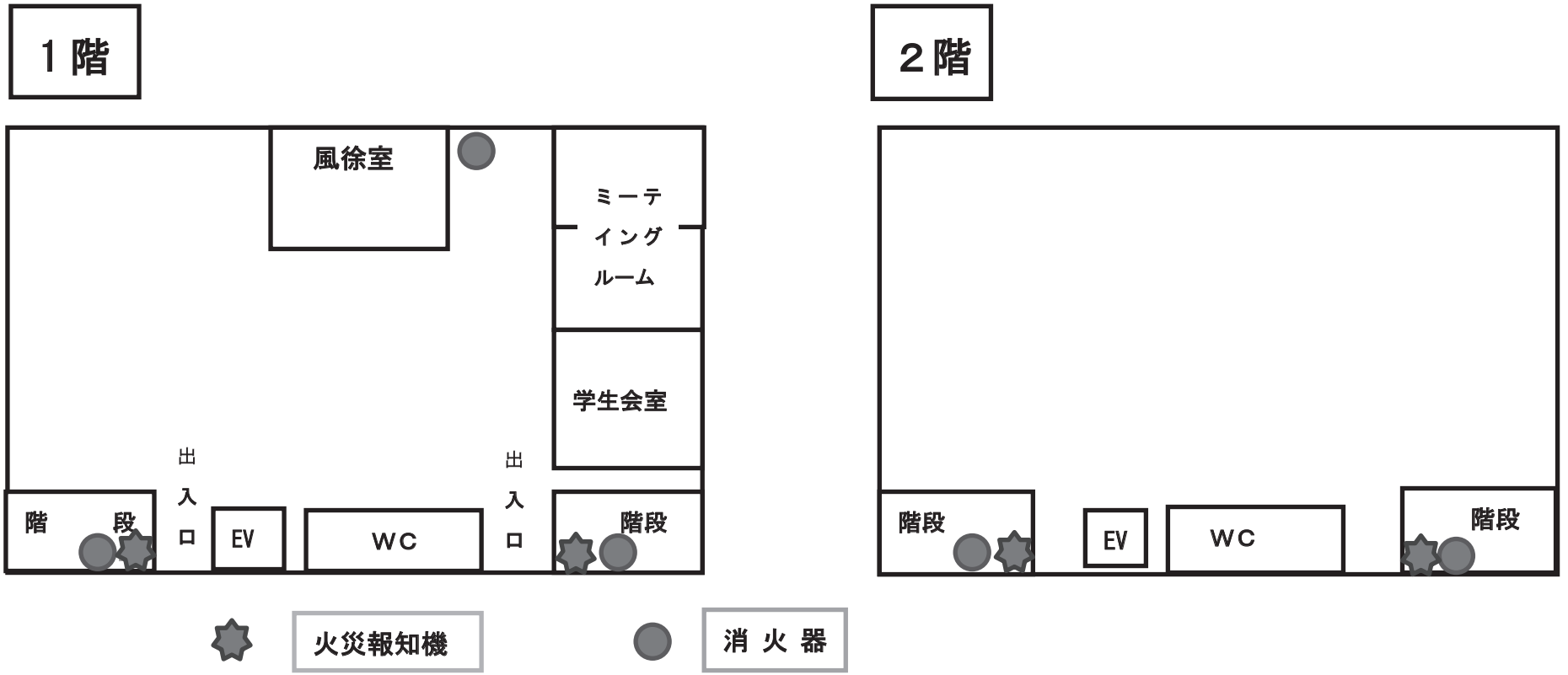
6階



消火栓・消火器・火災報知機の配置図（日高キャンパス・創立 30 周年記念講堂）

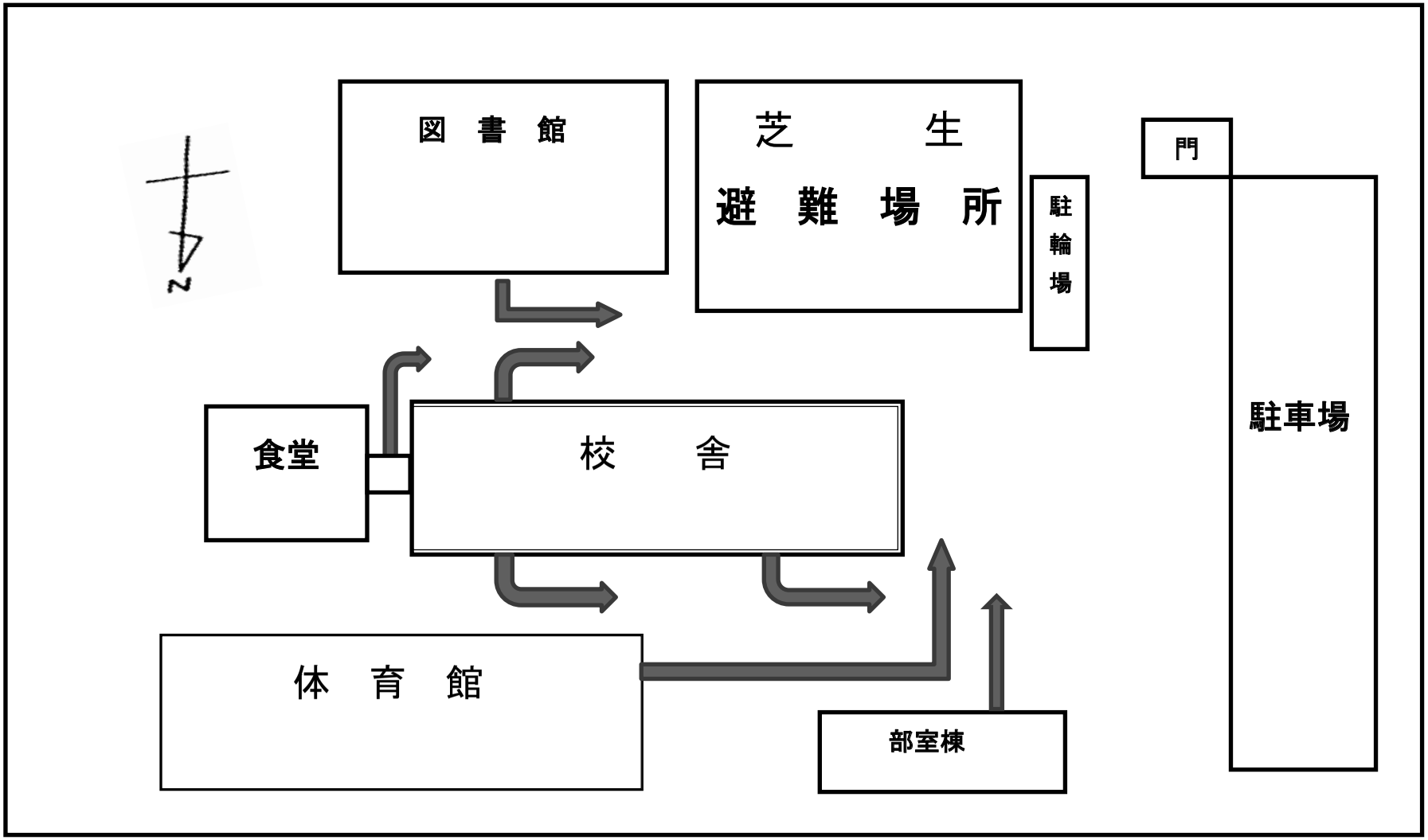


消火器・火災報知機の配置図（日高キャンパス・オスラーホール）



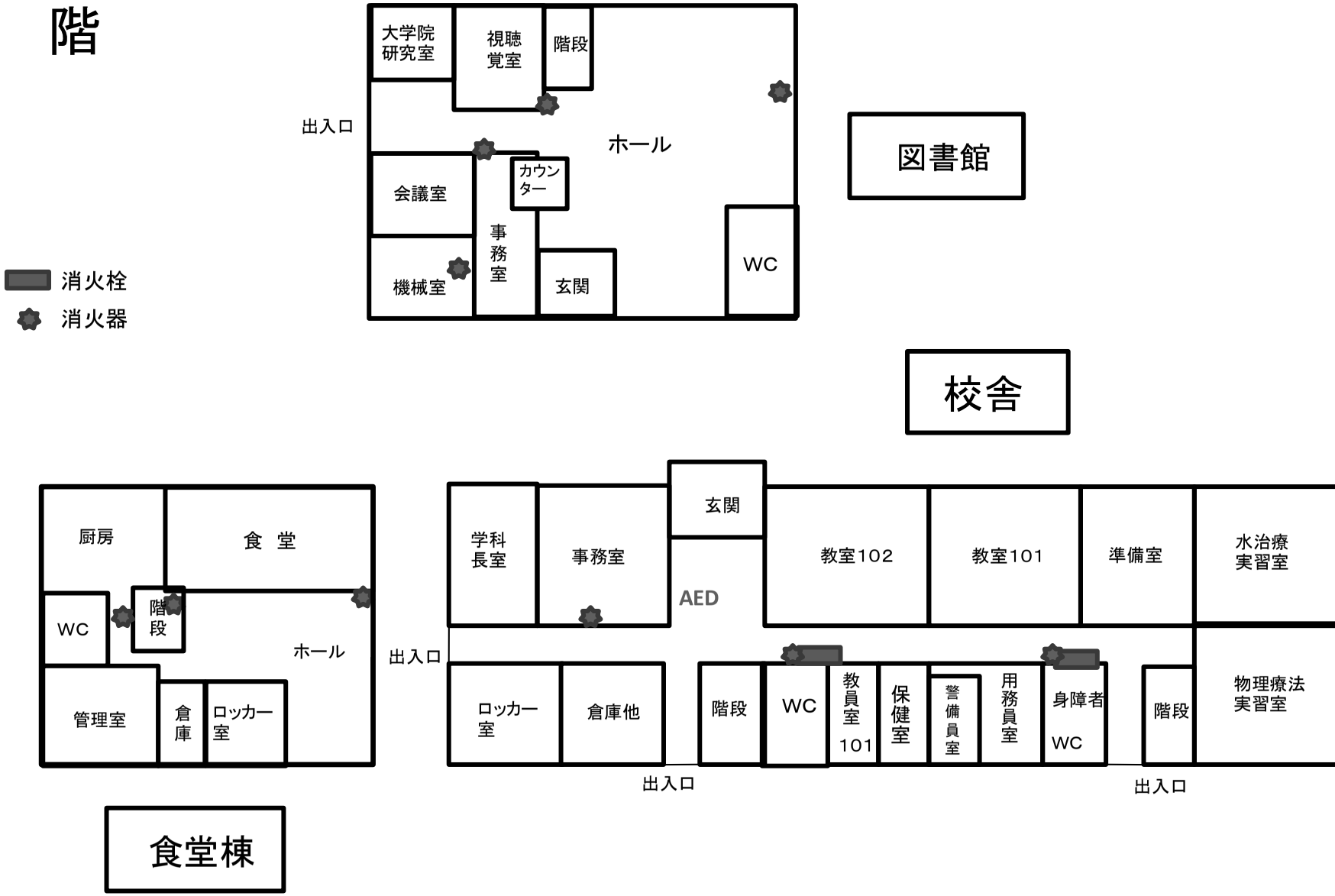
※　オスラーホールには屋内消火栓は設置されていない。

川角キャンパス見取り図（避難場所）



消火器・消火栓・火災報知機の配置図　（川角キャンパス）

1　階

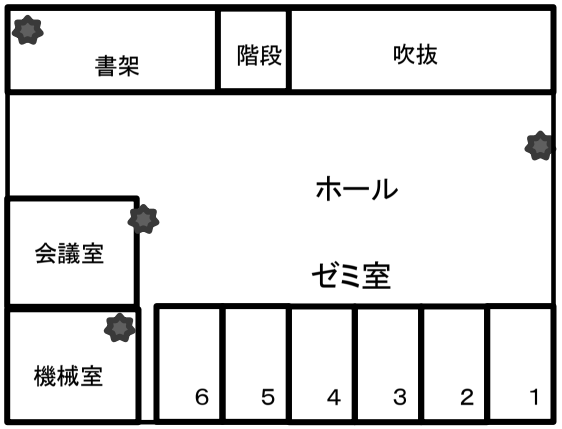


消火器・消火栓・火災報知機の配置図 （川角キャンパス）

２ 階

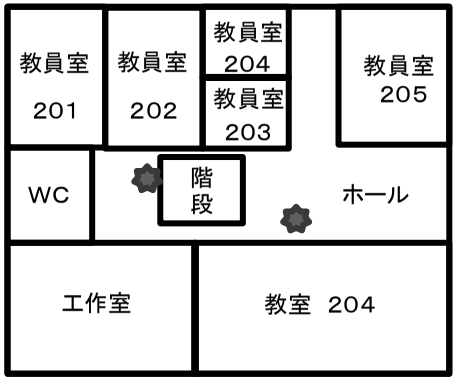
消火栓

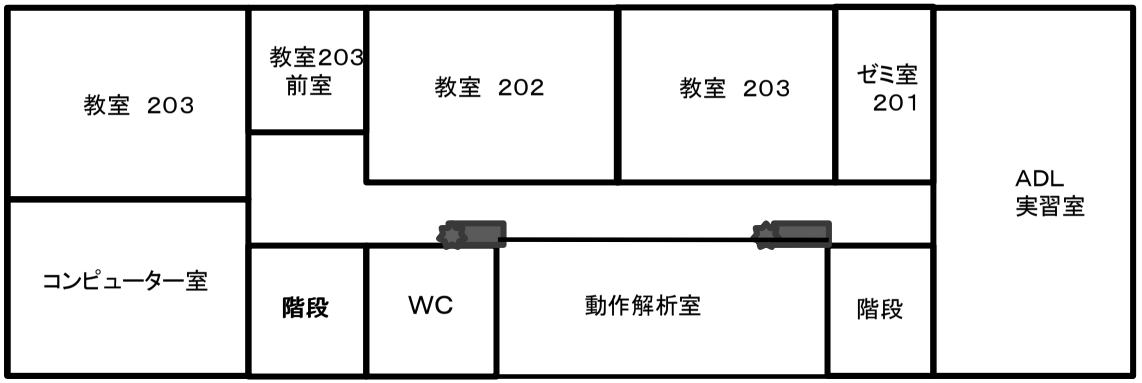
消火器



図書館

校舎

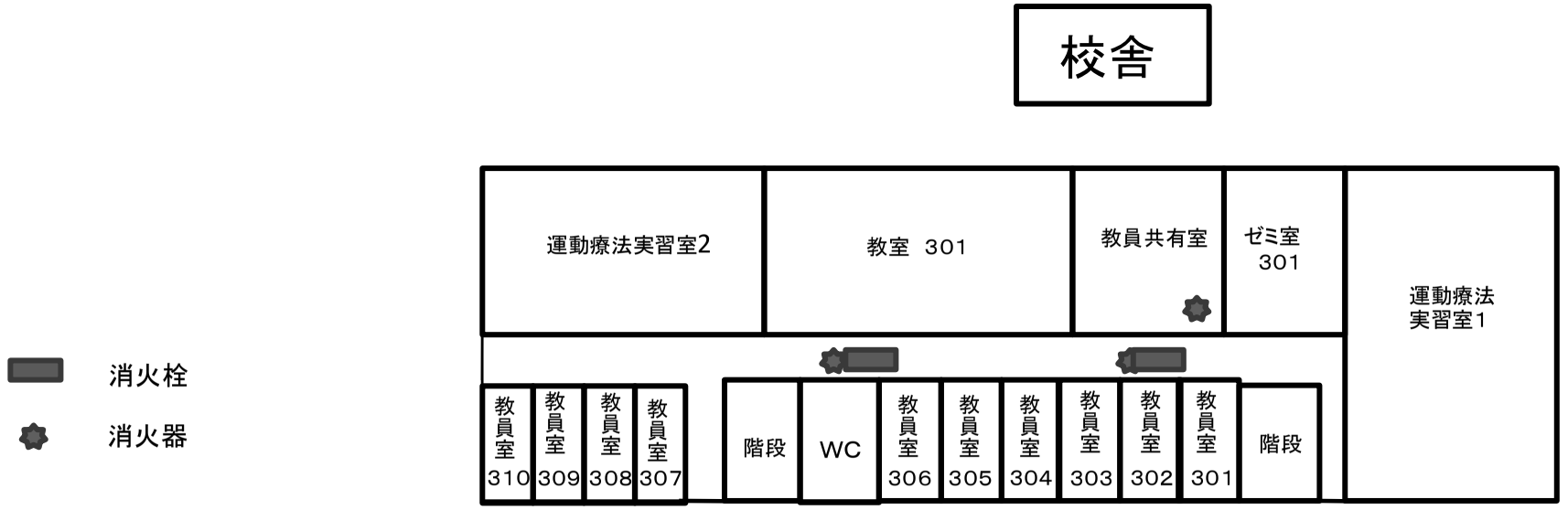




食堂棟

消火器・消火栓・火災報知機の配置図 （川角キャンパス）

３ 階



図書館の利用案内

図書館ホームページ：https://opac.saitama-med.ac.jp/drupal/

図書館だより：http://blog.goo.ne.jp/hokenhokusai

1. 開館時間

日高キャンパス分館　　月曜～金曜：8：45～19：00　土曜：8:45～17:00

川角キャンパス分館　　月曜～金曜：8：45～17：00　土曜：休館

2. 休館日

- 日曜日、国民の祝日、創立記念日（5月4日）
- 年末年始

※ 開館時間の変更や臨時休館については、掲示や図書館ホームページでお知らせします。

3. 利用上の注意

- 学生証を必ず携帯してください。
- 館内での携帯電話（通話・撮影）の使用は控えてください。
- 館内での飲食を禁止します。ただし、ペットボトルや水筒など密閉できる容器に入った飲み物に限り閲覧席にて飲用できます。ルールを守れなかった場合は、一定期間、全学生が違反のあったキャンパスの図書館への飲み物持ち込みができなくなります。
- 各図書館内の掲示にも気をつけて、ルールを守ってご利用ください。

4. 貸出・返却

（1）貸出：学生証が必要です。

ア．貸出期間

図書・視聴覚資料 -------- 2週間

製本雑誌（未製本のバックナンバーを含む） ---------- 1週間

新着雑誌 ------ 一夜貸し

※実習に対応した貸出も実施しています。

イ．貸出冊数：5点まで（図書、雑誌、視聴覚資料の合計点数）

ウ．貸出延長：予約のない場合に限り、1度だけ延長が可能です。カウンターもしくはマイライブラリで延長手続きをしてください。ただし、長期貸出後の延長はできません。

エ. 予　約：カウンターへお申し込みください。 マイライブラリでも予約が可能です。
予約図書が返却され次第、学内メールでお知らせします。お知らせ後、7日間保管します。

（2）返却

開館中は、カウンターへ返却してください。
閉館中の返却は、ブックポストを利用してください。
DVD などの視聴覚資料や重い資料は、破損防止のためカウンターへ返却してください。

（3）罰則

返却期限を超過(延滞)した場合、超過日数分の貸出停止になります。

延滞中の資料がある場合は、新しく借りることはできません。

（4）マイライブラリ

マイライブラリを学内外から利用することができます。
図書館ホームページからログインしてください。

◆ マイライブラリでできること

・貸出中の資料の確認

・貸出延長手続き(返却期限内で予約がない場合、1回のみ可能)

・蔵書検索(OPAC 検索)からの貸出中資料への予約

5. 配架

（1）資料の配置場所

【日高キャンパス分館】

2 階 閲 覧 室　新聞、雑誌、視聴覚資料、
コーナー図書（コミック、国試対策、論文作法など）

3 階 閲 覧 室　一般図書、コーナー図書（医療読み物など）

【川角キャンパス分館】

1階 閲 覧 室　一般図書、新聞、雑誌、視聴覚資料、
コーナー図書（国試対策、就活、論文作法など）

2階 閲 覧 室　製本雑誌、コーナー図書（読み物、文庫など）

（2）資料の配架順

【図書】分類に従って配架しています。

医学と医学関連分野 － 米国国立医学図書館分類法（NLMC）

医学と直接関連のない分野 － 日本十進分類法（NDC）

【雑誌】雑誌名のアルファベット順に配架しています。

日高キャンパス分館 － 日本語雑誌と外国語雑誌に分けて配架しています。

川角キャンパス分館 － 日本語雑誌と外国語雑誌を一緒に配架しています。

6. 資料の探し方

図書館のホームページの OPAC(蔵書検索)で図書や雑誌を探すことができます。

◆ 電子ジャーナル

図書館ホームページの「ジャーナルタイトル検索」から検索が可能です。パソコン等で雑誌論文の全文をPDF などの形式で閲覧できます。

7. 資料の複写

図書館内のコピー機を利用することができます。

「文献複写申込書」に必要事項を記入のうえご利用ください。学習及び研究を目的とした場合に限り、著作権法の範囲内で１人１部複写できます。

個人のノート、プリント類の複写はできません。

モノクロ －1 枚 10 円

カラー　－1 枚 30 円（総合医療センター看護専門学校図書室は 50 円）

8. 文献の取寄せ

学内の他キャンパス図書館や他大学（機関）で所蔵している資料のコピーを取寄せることができます。カウンターまたは Web 文献手配からお申し込みください。

学内 － 複写料金と同じ

学外 －複写料金＋送料（複写料金は依頼する大学によって異なる）

9. 図書の取寄せ

（1） 学内の図書取寄せ

学内の他キャンパスで所蔵している図書を借りる場合は、カウンターへお申し込みください。

（2） 学外の図書取寄せ

他大学（機関）の図書を借りる場合は、カウンターまたは Web 文献取り寄せからお申し込みください。ただし、借用できない場合もあります。借用した図書は、館内閲覧のみの利用となります。往復の送料がかかります。

10. 他大学（機関）の利用

他の図書館を閲覧等で直接利用したい場合は、閲覧願（紹介状）を発行します。

11. 施設・設備

（1） 情報室の利用 （日高キャンパス分館）

グループ学習に複数人（原則 3 人以上）で利用することができます。申請書に記入のうえ、カウンターで申し込んでください。また、定期試験期間中は情報室を開放します。

（2） ゼミ室の利用 （川角キャンパス分館）

個人またはグループ学習に利用することができます。申請書に記入のうえ、カウンターへお申し込みください。

（3） 視聴覚室の利用 （川角キャンパス分館）

視聴覚資料の視聴ができます。また、個人またはグループ学習に利用することができます。利用申請書に記入のうえ、カウンターへお申し込みください。

（4） Wi-Fi

フリーWi-Fi が利用できます。※ （日高キャンパス分館のみ）
※ SMSNET（埼玉医科大学教育学術ネットワーク）にはアクセスできません。

（5） 電子コンテンツ

様々なデータベースを用い、論文や本を探したり閲覧したりすることができます。
学内LANに接続しているパソコン等であれば、図書館ホームページから利用できます。
RemoteXsのアカウント登録をすれば、学外から利用することができます。

12. 学内の図書館連絡先

埼玉医科大学内のすべての図書館を利用できます。学生証をお持ちください。

- ✧ 日高キャンパス分館 電話：042－984－4814（事務室）/ 内線 42-3203
- ✧ 川角キャンパス分館 電話：049－295－8243（事務室）/ カウンター内線 41-7-543
- ✧ 毛呂山キャンパス本館 電話：049-276-1417（カウンター直通）/ 内線 41-2482
- ✧ 総合医療センター分館（総合医療センター3 階）
  電話：049－228－3641（カウンター直通）/ 内線 43-3335
- ✧ 短期大学図書室（短期大学 7 階）
  電話：049-276-1537（事務室）/ 内線 3240
- ✧ 埼玉医療福祉会看護専門学校図書室（専門学校 5 階）［旧:毛呂病院看護専門学校］
  電話：049-276-2057（カウンター直通）/ 内線 3413
- ✧ 総合医療センター看護専門学校図書室（専門学校 2 階）
  電話：049-228-3816 / 内線 43-3120

諸手続き

１．願入れ・届け出

学生生活を送るために必要な願入れ･届け出には多くの種類がありますので、関係する規定をよく理解し、記載事項、提出時期、提出先などを誤らないように注意してください。

なお、願入れ･届け出の必要が生じた場合には、次の要領に従って行ってください。

(1) 事務室に備え付けの所定の用紙を使用してください。

(2) 所定の用紙がない場合は、A4 用紙を使用し、事由を具体的に記載してください。

(3) 戸籍記載事項の変更を届け出る時は戸籍抄本を添付してください。

(4) 特に、次の変更については速やかに届け出てください。

ｱ. 学生本人の戸籍記載事項

ｲ. 学生本人の現住所や電話番号

ｳ. 保証人および保証人の住所

２．証明書の交付

各種証明書の交付を願入れる時は、「証明書交付願(様式 51 号)」に必要事項を記入し、事務室に提出してください。なお、交付時期は翌日の午後(金曜日および休日前日の申請の場合は休日明け)を原則としていますが、証明書の種類によっては暫時を要しますので、適宜、窓口で確認してください。

３．窓 口

日高キャンパス　保健医療学部 A 棟 1F 事務室

川角キャンパス　川角校舎 1F 事務室

４．受付時間

月曜日から土曜日　8:30～17:00

日曜日・祝日・年末年始は取扱いません

願入れ・届け出ならびに証明書交付の概説

1．身上関係

書 類	概 説	備 考
改姓･改名届 (様式 11 号)	姓または名を変更した場合	戸籍抄本添付
保証人変更届 (様式 12 号)	入学時に提出した誓約書の保証人を変更する場合	保護者連署
保証人住所変更届 (様式 13 号)	入学時に提出した誓約書の保証人住所に変更が生じた場合	保護者連署
住所･本籍変更届 (様式 14 号)	住所や本籍が変更になった場合	本籍変更の場合 は戸籍抄本添付

2．学籍関係

書 類	概 説	備 考
休学願 (様式 21 号)	疾病その他やむを得ない事由のため、3 箇月以上修学できない場合 (学則第 8 章 第 22 条)	疾病の場合は診断書添付 保護者連署
復学願 (様式 22 号)	休学中の学生が復学する場合 (学則第 8 章 第 23 条)	疾病の場合は診断書添付 保護者連署
退学願 (様式 23 号)	退学する場合 (学則第 8 章 第 25 条)	疾病の場合は診断書添付 保護者連署
転学科許可願 (様式 24 号)	転学科を希望する場合	
学生証･ﾈｰﾑｶｰﾄﾞ 再交付願 (様式 25 号)	学生証またはネームカードを紛失した場合	発行期間　1 週間 学生証　2,000 円 ﾈｰﾑｶｰﾄﾞ　500 円

3．授業関係

書 類	概 説	備 考
履修届	履修を行う場合	
履修取消し願	履修登録後に、履修していた科目を放棄する場合	申請期間に留意
忌引届 (様式 32 号)	忌引きが発生した場合	保護者連署
聴講願 (様式 33 号)	履修科目以外の、所属ないし他学科科目の聴講を希望する場合	
他学科受講願 (様式 34 号)	他学科の科目の履修を希望する場合	
学外教育活動届 (様式 35 号)	学外での教育活動を行う場合	

※1. 診断書、病院受診時の領収書、事故証明、遅延証明書など欠席理由を明らかに示せる書類がある場合は添付すること。

4．証明書関係

書 類		概 説	備 考
証明書交付願（様式 51 号）	在学証明書	遠隔地保険証の交付や納税手続きを行なう場合など	翌日午後発行 (金曜日および休日前日の申請の場合は休日明け) 手数料 400 円
	成績証明書	就職試験を受ける場合など	
	修了見込み証明書	就職試験を受ける場合など	
	修了証明書	就職先などに提出する場合など	
	単位修得見込み証明書	大学院に進学する場合など	発行期間 適宜 手数料 400 円
	内申書	大学院に進学する場合など	
	調査書	大学院に進学する場合など	
	推薦書	大学院に進学する場合など	
	健康診断書	就職試験を受ける場合など	発行：1～2 週間 手数料：2,200 円

書 類	概 説	備 考
学生旅客運賃割引 ※ 交付願 (様式 52 号)	JR 各社の片道で 100 キロメートルを超える区間を乗車する場合	翌日午後発行(金曜日および休日前日の申請の場合は休日明け)
通学区間証明書交付願 (様式 53 号)	川角キャンパスへ通学する場合	手数料 0 円
通学証明書(臨床実習用) (様式 54 号)	臨床実習先までの定期券を購入する場合	手数料 0 円

※ 学生旅客運賃割引の使用目的について

交付は、原則として、次の目的をもって旅行をする必要があると認められる場合に限ります。

(1) 休暇、所用による帰省
(2) 実験実習並びに通信による教育を行う学校の面接授業及び試験などの正課の教育活動
(3) 学校が認めた特別教育活動又は体育･文化に関する正課外の教育活動
(4) 就職又は進学のための受験等
(5) 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
(6) 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
(7) 保護者の旅行への随行

５．その他

書 類	概 説	備 考
通学用自動車等 登録申請書 (様式 71 号)	バイクや自動車を利用して通学する場合	
毛呂山･川越キャンパス 構内駐車場利用願い (様式 72 号)	毛呂山･川越キャンパスの自動車駐車場を利用する場合	
海外旅行届 (様式 73 号)	海外への観光あるいは語学研修で海外旅行をする場合	保護者連署
印刷物掲示･配布願 (様式 75 号)	印刷物を学内掲示する場合および配布する場合	掲示･配布物 のサンプル
教室使用願 (様式 76 号)	研究などで教室使用を希望する場合	
施設使用願 (様式 77 号)	研究などで教室以外の施設使用を希望する場合	
備品使用願 (様式 78 号)	大学の備品などを課外活動その他の目的で使用する場合	
修学上の合理的配慮 申出書 (様式 80 号)	修学上の合理的配慮を希望し、申し出る場合	診断書あるいは障害手帳の写し添付 保護者連署
事故届 (様式 81 号)	学内および学外で発生した事件や事故を報告する場合	
「学校感染症」 治癒(見込み)証明書 (様式 91 号)	学校感染症に罹患した場合	別綴りの様式をコピーして使用

学生の懲戒処分における標準ガイドライン

本学では、学則第 29 条に定める懲戒処分について、処分の適正と公正を図る観点から、処分の指針となる標準ガイドラインを制定しています。

埼玉医科大学学則第 29 条及び埼玉医科大学大学院学則第 27 条に規定する学生の懲戒の手続きについて

（令和 2 年 3 月 27 日制定）
学長裁定第 4 号

埼玉医科大学学則(昭和 47 年 2 月 16 日制定)第 29 条及び埼玉医科大学大学院学則（昭和 53 年 3 月 24 日制定）に規定する学生の懲戒については、次の手続きによるものとする。

1．学部長（大学院にあっては研究科長、以下同じ）は、学生の行為が懲戒の対象となりうることを認識した場合、速やかに学長に報告するとともに、学生部長等に対し事実関係の調査を行うよう指示をする。この場合、学長は必要に応じ調査委員会の設置を命ずることができる。

2．当該学生からの事情聴取にあたっては、学生の人権に配慮したうえで行い、弁明の機会を十分に与えるものとする。但し、当該学生が逮捕拘留される等により、直接事情聴取ができない場合はこの限りではない。

3．調査結果の報告を受けた学長は事実関係の認定を行い、学部長等と協議の上、「学生の懲戒処分における標準ガイドライン」を参考に、懲戒処分の方針を決定する。

4．学長は懲戒処分の方針について教授会（大学院にあっては研究科委員会、以下同じ）の意見を聴き、処分を確定する。

5．懲戒処分については、本人に通知するとともに、学内に告示する。

6．学部長は、学長により懲戒処分が決定されるまでの期間、当該学生を自宅謹慎とすることができる。

7．無期停学処分を解除する場合、及び有期停学処分を延長する場合についても、学長は教授会の意見を聴いたうえで決定する。

8．学長は、懲戒決定前に当該学生から退学の申し出があった場合には、この申し出を受けないことができる。

附則

令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

以上

学生の懲戒処分における標準ガイドライン

区分	非違行為	懲戒処分		
		退学	停学	けん責
犯罪行為	殺人、強盗、放火等の凶悪な犯罪行為（未遂を含む）	○		
	暴力、窃盗、恐喝、詐欺、万引きなどの犯罪行為	○	○	
	薬物犯罪（脱法ドラッグを含む）	○		
	ストーカー、痴漢、盗撮等の犯罪	○	○	
	コンピュータ、SNS の不正使用または不適切使用	○	○	○
交通違反	飲酒運転・無免許運転・暴走運転等の危険運転（事故の有無は問わない）	○	○	
	ひき逃げ	○		
	その他の交通法規違反による人身事故		○	○
	交通法規違反の教唆・幇助		○	○
	本学敷地内・周辺での無断駐車		○	○
飲酒	飲酒を強要し重篤な事態を生じさせた場合	○	○	
	満 20 歳未満の学生と知りながら飲酒を勧める行為、満 20 歳未満の学生の飲酒行為		○	○
試験・授業に係る不正	カンニング等の不正行為 レポート等の盗作や剽窃		○	○
	授業出席に係る不正行為		○	○
学問的倫理	論文等作成における捏造、改ざん、盗用等	○	○	○
ハラスメント	各種ハラスメントによる人権侵害	○	○	○
その他	本学の教育方針に違背する等、学生の本分に反する行為	○	○	○

具体的な処分については、以下を勘案し量定を決定する

・懲戒対象行為の動機、態様、過失度合い

・他の学生や社会への影響

・過去に懲戒対象行為を行っているか

埼玉医科大学学生等個人情報保護規則

（平成 17 年　3 月 26 日制定）

（目的）

第１条　この規則は、学校法人埼玉医科大学個人情報保護規程（「以下「保護規程」という。」第２３条に基づき、埼玉医科大学（「以下「本学」という。）が保有する学生等の個人情報の取扱いに関する大学の責務と大学が講ずべき措置について適切且つ有効な実施を図り、個人情報の主体である学生等個人の情報を保護するとともに、個人情報の開示、訂正及び削除の請求権を保証することを目的とする。

（用語の定義）

第２条　この規則において「個人情報」とは、保護規程の第３条第１号により定義されるもののうち、本学が業務上取得又は作成したものをいう。

２　「個人データ」とは、個人情報保護法第２条第４項で規定する「個人情報データベース等を構成する個人情報」をいう。

３　この規則において「学生等」とは、本学において教育を受けている者、これから本学において教育を受けようとする者及び過去本学において教育を受けた者並びに受けようとした者をいう。

（個人情報の収集と利用目的の特定）

第３条　個人情報の収集及び利用については、保護規程第１１条及び第１２条による他、本学の学生等に関る個人情報の利用目的は、次の各号のとおりとする。

(1) 学内利用に関する次の事項

ア　名簿管理に関すること。

イ　学務に関すること。

ウ　健康診断に関すること。

エ　奨学事業に関すること。

オ　生活指導に関すること。

カ　賞罰に関すること。

(2) 学外への情報提供を伴う次の事項

ア　保護者等への学務情報の提供

イ　同窓会、父母会等関連団体への提供

ウ　官公庁からの照会に関する事項

エ　奨学団体への提供

オ　留学先機関への提供

カ　研修機関への提供

キ　外部委託に伴う提供

ク　本学の広報活動等における利用

ケ　大学コンソーシアム等の大学間交流、公開講座等への参加に伴う利用

(3) その他、安全管理、教育の向上、および教育サービス等の観点から必要な事項

(4) 本学は原則として次の情報を収集してはならない。

ア　思想、信条及び宗教に関する事項

イ　社会的差別の原因となる事項

（個人情報の取得や第三者提供の際の本人の同意）

第４条　本学が保有する学生等の個人情報の利用目的、原則として予め当該本人に通知し、又は公表することとする。

２　前項の通知については、口頭、書面、電子メール等の方法で行う。公表については、学校の掲示板及びホームページ等に掲示する方法で行うものとする。

３　当該本人が、当該個人情報の取り扱いについて承諾する場合は、口頭、書面等により意思表示を行うものとする。

４　次の各号に該当する場合については、本人の同意を得ないことができる。

(1) 法令に基づく場合。

(2) 人の生命、身体又は財産保護のために必要な場合であって本人の同意を得ることが困難な場合

(3) 公衆衛生の向上又は学生等の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難な場合

(4) 国の機関若しくは地方公共団体等から法令の定める事務遂行に対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより本学の業務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

(5) 学術研究または統計解析のために利用する場合で、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき。

(6) 学生教育を適切に遂行するため、学務上および事務上の必要があり、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき。

(7) その他、個人情報保護委員会が正当と認めたとき。

（安全管理措置及び従事者の監督）

第５条　本学は学生等に関する個人データを取り扱う従事者及びその権限を明確にした上でその業務を行わせること。

２　学生等に関する個人データは、その取り扱いについての権限を与えられた者のみが業務の遂行上必要な限りにおいて取り扱うこと。

３　学生等に関する個人データを取り扱う者は、業務上知り得た個人データの内容をみだりに第三者に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。

その業務に係る職を退いた後も同様とする。

４　本学は、学生等に関する個人データ管理責任者及び個人データを取り扱う従事者に対し、その責務の重要性を認識させ具体的な個人情報の保護措置に習熟させるため、必要な教育及び研修を行うものとする。

（委託先の監督）

第６条　本学は個人データの安全管理について、十分な措置を講じている者を委託先として選定するものとする。

２　前項の規定の趣旨に従い、委託先が委託を受けた個人データの安全管理のために講ずべき措置の内容が委託契約において明確化されるために、以下の事項を定めるものとする。

(1) 委託先においてその従業者が知り得た個人情報を漏らし又は盗用してはならないこと。

(2) 個人データ取り扱いの再委託を行うに当っては、あらかじめ文書により本学の了承を得ること。

(3) 委託先における保管期間等を明確化すること。
(4) 利用目的達成後の個人データの返却又は委託先における破棄若しくは削除を確実に行うこと。
(5) 委託先における個人データの加工（委託契約範囲内のものを除く。）、改ざん等を禁止し、又は制限すること。
(6) 委託先における個人データの複写又は複製（安全管理上必要なバックアップ等委託契約範囲内のものを除く。）を禁止すること。
(7) 委託先において個人データ等の漏えい等の事故が発生した場合に委託元へ報告義務を課すこと。
(8) 委託先において個人データの漏えい等の事故が発生した場合に委託先の責任が明確化されていること。

（個人情報の第三者提供）

第７条　本学は学生等に関する個人データを同窓会、奨学事業を行う団体その他の第三者に提供する場合には、次に掲げる事項に留意するものとする。
(1) 提供先において、当該個人データの取り扱いを通じて知り得た個人情報を漏らし、又は盗用してはならないこと。
(2) 当該個人データの再提供を行うに当っては、あらかじめ文書をもって本学の了承を得ること。
(3) 提供先における保管期間等を明確化すること。
(4) 利用目的達成後の個人データの返却又は提供先における破棄若しくは削除が適切且つ確実になされること。
(5) 提供先における個人データの複写及び複製（安全管理上必要なバックアップを目的とするものは除く。）を禁止すること。

（保有個人データの開示）

第８条　本学は本人から当該本人の成績の評価、その他これに類する事項に関する保有個人データの開示を求められた場合におけるその開示又は非開示の決定に当っては、大学における教育活動に与える影響を勘案するものとする。
２　本人の法定代理人から本人に関する保有個人データの開示を求められたときは、原則として本人に対し書面又は開示請求者が同意した方法により手続きを行い、全部又は一部について非開示とする旨の決定をしたときには、本人又は開示請求者に対しその旨を遅滞なく通知するものとする。
３　次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を本人に開示しないことができる。
(1) 本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
(2) 大学の運営上、業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
(3) 他の法令に違反することとなる場合

（本人の利便を考慮した適切な措置）

第９条　本学は本人からの保有個人データの開示請求が円滑に行われるよう、その手続を本人に周知するよう努めるとともに、閲覧の場所及び時間等について配慮しなければならない。
２　前項に関る具体的な手続き、請求用関係書類の様式その他の案内等については別に定める。

（苦情の処理）

第１０条　本学は学生等に関する個人情報の取り扱いに関する苦情の適切且つ迅速な処理を行うため、苦情及び相談を受付ける窓口の明確化等必要な体制の整備に努めるものとする。

附　則

この規則は、平成１７年４月１日から施行する。

埼玉医科大学保健医療学部の学生に対するハラスメント等防止規則

（平成19年 3月19日制定）
改正 平成24年 3月16日 令和 6年11月22日

（趣旨）
第１条　この規則は、学校法人埼玉医科大学ハラスメント等防止規程（以下「法人ハラスメント防止等規程」という。）第10条の規定に基づき、埼玉医科大学保健医療学部に在籍する学生（以下「学生」という。）に対するハラスメント等の防止及び排除のための措置並びにハラスメント等に起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置に関し必要な事項を定めるものとする。
（定義）
第２条　この規則において、使用する用語の意義は、法人ハラスメント等防止規程の定めるところによる。
（教職員及び学生の責務）
第３条　教職員及び学生は、この規則に定めるもののほか、法人ハラスメント等防止規程その他別に定める「ハラスメント防止のために教職員が認識すべき事項」及び「ハラスメント等防止のために学生が認識すべき事項」に従い、ハラスメント等の問題を起こし、又は他者が行うハラスメント等を容認してはならない。
（苦情相談）
第４条　保健医療学部事務室（川角キャンパスを含む。）に、学生からのハラスメントに関する苦情の申出及び相談（以下「相談等」という。）に対応するための相談窓口を設置する。
2　前項の相談窓口に、ハラスメント相談員（以下「相談員」という。）複数名を置く。
3　相談員は、教職員のうちから保健医療学部長が指名する者をもって充てる。
4　学生は、第1項の相談窓口のほか、法人ハラスメント等防止規程第5条第1項の全学の相談窓口に相談等を行うことができる。
（学長への報告）
第５条　相談員は、学生がハラスメント等により著しく学修機会及び教育環境が害され、又は不利益を受けた場合には、保健医療学部長を通じて、学長に報告するものとする。
（雑則）
第６条　この規則に定めるもののほか、ハラスメント等の防止及び排除のための措置等に関し必要な事項は、別に定める。

附　則（平成19年3月19日）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則（平成24年3月16日）

この規則は、平成24年3月16日から施行し、平成23年11月26日から適用する。

附　則（令和6年11月22日）

この規則は、令和6年11月30日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

ハラスメント等防止のためのガイドライン

1 ハラスメント等の防止に関して学生が認識すべき事項

1）基本的な考え方

ハラスメント問題を起こさないように、学生は他の学生や教職員と接するに当たり、次の事項の重要性について十分認識しなければならない。

(1) お互いの人格を尊重し合う意識を持つこと。
(2) 対等なパートナーシップを確立する意識を持つこと。
(3) 相手の性別や社会的地位等の属性に関し、不適切な言動をしない意識を持つこと。
(4) 気づかないでハラスメントの加害者・被害者になることがあるという意識を持つこと。

【ハラスメントの加害者・被害者にならないための心構え】

① 言動の受け止め方には個人間や男女間、その人物の立場等により差があり、ハラスメントに当たるか否かについては、相手の判断が重要であること。
- 親しさを表すつもりの言動であったとしても、本人の意図とは関係なく相手を不快にさせてしまう場合があること。
- 不快に感じるかどうかには個人差があること。
- この程度のことは相手も許容するだろうという勝手な憶測をしないこと。
- 相手との良好な人間関係ができていると勝手な思い込みをしないこと。

② 相手が拒否し、又は嫌がっている場合には、同じ言動を決して繰り返さないこと。

③ 拒否や不快であることの意思表示が相手からいつもあるとは限らないこと。

ハラスメントを受けたものが、上級生や部活の先輩等との人間関係を考えて拒否することができないなど、相手からいつも明確な意思表示があるとは限らず、拒否の意思表示ができないことも少なくないが、それを同意・合意と勘違いしてはならない。

④ 学内におけるハラスメントにだけ注意するのでは不十分であること。

例えば、学内での人間関係がそのまま持続する部活の歓迎会、コンパ等の場におけるハラスメント行為に注意しなければならない。

2）ハラスメント等の種類

典型的な4つのハラスメントとその他のハラスメント・人権侵害行為があります。

(1) セクシュアルハラスメント

性的な内容に関する発言や行動により、相手に不快感を与えること。たとえ相手に好意があったとしても加害者になり得る。

具体的には、性的な魅力を指摘する、卑猥な言葉を話す、相手の了解を得ずに体に触るなど相手に対する直接的なものに限らず、ポスターを掲示する、動画を無理やり見せるなどがある。

また、性別による差別的な発言（ジェンダーハラスメント）も含む。

(2) パワーハラスメント

地位や権限又は年齢、経験などの優位性を背景に、適正な範囲を超えて、人格と尊厳を侵害する言動を行い、精神的・身体的苦痛を与え、あるいは修学環境を悪化させること。学生間では部活動の中で起こる可能性が高い。先輩と後輩の関係、顧問と部員の関係、レギュラー選手と控え選手の関係、入部や退部の問題で起こりやすいという特徴がある。

(3) アカデミックハラスメント

教育・研究上の権力を濫用し、他の構成員に対して不適切で不当な言動を行うことにより、その者に、修学・教育・研究ないし職務遂行上の不利益を与えることや、その修学・教育・研究ないし職務遂行上に差し支えるような精神的・身体的損害を与えること。

例えば、授業を受けさせない、学生のプライバシーを暴露する、特定の学生に不要な作業を命ずる、不公平な評価をする、指導・指示に従わないと授業単位をやらないと発言する、といったものがある。

(4) モラルハラスメント

言葉や態度などいわゆる「見えない暴力」によって支配下に置いたり、精神的に追い詰めたりする行為を指す。言葉や態度、身振りや文書などによって、相手の人格的尊厳を傷つけたり、修学・研究や仕事の環境を悪化させたりすることをいう。

上下関係にある場合のみならず、対等であるべき友人の間柄でも起こり得るものであり、また、教員や上級生であっても被害者となり得る。

(5) その他のハラスメント・人権侵害行為

・ アルコールハラスメント

20 歳未満の者に対して年齢を確認しないあるいは確認したにもかかわらず飲酒を勧めたり強要したりする、アルコールが苦手な人に対して飲酒を強要する、強要を応援するようにはやし立てる、強要する場面を止めずに見て見ぬ振りをする、飲酒を断りにくい環境を設定するといった行為。

・ 性暴力

同意のない性的な行為は、性暴力であり、重大な人権侵害である。人は自分の心と体を尊重される権利を持っており、性暴力はその権利を著しく侵害するものであることを認識しなければならない。

具体的には、同意のない状態でのボディタッチ、キス、性交等やアルコール、レイプドラッグ等の薬物を使用した性暴力、SNS 等を通じた性被害、痴漢等があり、性暴力は刑法上の処罰の対象となり得る。

そのほか、ジェンダーハラスメント、ソーシャルメディアハラスメント、エイジハラスメント、マタニティハラスメント、レイシャルハラスメント、ケアハラスメント等がある。

デート DV などの言動も人権侵害行為になる。

3) 懲戒処分

ハラスメント等の動態等によっては本学の学生としての本分にもとる行為等に該当して、懲戒処分に付されることがあることを十分認識すること。とりわけ性暴力に関しては、退学を含めた厳しい懲戒処分が課されることがある。

2 適正な学修・研究環境を確保するために認識すべき事項

ハラスメントにより学修・研究環境が害される事を防ぐため、教職員及び学生は次の事項について積極的に努めなければならない。

1）ハラスメントについて被害を訴えた学生をいわゆるトラブルメーカーとみなしたり、ハラスメントに関する問題を当事者間の個人的な問題として片付けないこと。

2）ハラスメントに関する問題の加害者や被害者を出さないようにするために、周囲に対する気配りをし、必要な行動をとること。

(1) ハラスメントが見受けられる場合は、そうした言動をとった者への注意を促すこと。

(2) 被害を受けていることを見聞きした場合は、声をかけて相談にのること。

＊ 被害者は「恥ずかしい」、「トラブルメーカーのレッテルを貼られたくない」、「仕返しが怖い」などの考えから、他の人に対する相談をためらうことがある。被害者を深刻にしないように、気がついたことがあれば声をかけて気軽に相談に乗ることが大切である。

(3) 学内においてハラスメントがあった場合には、第三者として、気持ちよく学修・研究ができる環境づくりをするために、担任教員等の教職員に相談することをためらわないこと。相談しやすいように互いの信頼関係構築に努めること。

3 ハラスメントに起因する問題が生じた場合において学生に望まれる事項

1）基本的な心構え

(1) 一人で我慢しているだけでは、問題は解決しないと認識すること。

ハラスメントを無視したり、受け流したりしているだけでは、必ずしも状況は改善されないということをまず認識することが大切である。

被害にあったのは、決してあなたのせいではありません。

(2) ハラスメント防止に対する行動をためらわないこと。

「トラブルメーカーというレッテルを貼られたくない」、「恥ずかしい」などと考えがちだが、被害を深刻なものにしない、他に被害者を作らない、さらにはハラスメントをなくすことは自分だけの問題でなく、学修・研究するための適正な環境の形成が重要であるとの考えに立って、勇気を出して行動することが求められる。

2）ハラスメントの被害を受けたと思うときに望まれること

学生は、ハラスメントを受けた場合、次のような行動をとるよう努めることが望まれる。

(1) 嫌なことは相手に対して明確に意思表示すること。

ハラスメントに対しては毅然とした態度をとること。すなわち、はっきりと自分の意思を相手に伝えることが重要である。

(2) 信頼できる人に相談すること。

まず、同級生や友人、担当教員や保健室（学生健康推進室）職員等の身近な信頼できる人に相談することが大切である。

(3) 相談しても解決が困難な場合には、「相談員」に相談するためハラスメント窓口（保健医療学部事務室、保健室(健康推進室)、学生サポート相談室）で相談、申し立てをする。なお、相談員に相談するときは、ハラスメントが発生した日時、内容等について記録したり、第三者の証言を得ておくことが望ましい。

― 災害に対する予防と対応 ―

1．災害に対する予防と防災の心得

1）一般的事項

(1) 登校時の心得

① 緊急時に救急車や消防自動車の通行の妨げにならないよう、自転車、自動二輪車、自動車は所定の場所に置くこと。

(2) 下校時の心得

① 教室は窓締め等の安全確認を行い、冷暖房のスイッチを切り、消灯のうえ退出する。

② 必要のない電気器具のコンセントは抜いておくこと。

(3) 実習室・実験室使用中の心得

① 実習室や実験室を使用する際には、実習責任者・実験責任者の指示に従い安全に配慮すること。

2）火災の予防と防災の心得

(1) 構内は禁煙です。

(2) 構内において許可なく火気を使用しないこと。

(3) 火気の近くには燃えやすいものを置かないこと。

(4) 火気使用後は後始末を完全に行うこと。

(5) 消火器、火災報知機等の設置場所と使用方法を平素から確認し、熟知しておくこと。

(6) 教室、実習室内の整理整頓に心がけ安全な避難路を平素から確保しておくこと。また、避難口の近くや防災扉の前には物を置かないこと。

3）地震発生に備えての防災の心得

(1) 平常時

① 学生間（クラス、部活、友人等）で折に触れて話し合いをすること。

② メディア等で地震についての知識を得ておくこと。

③ 教室、実習室内の整理整頓に心がけ安全な避難路を平素から確保しておくこと。また、避難口の近くや防災扉の前には物を置かないこと。

(2) 注意報等の発令時

① 学内にいる場合

ア）課外活動は中止すること。

イ）窓のカーテン、ブラインド類を閉鎖すること。

ウ）火気は使用しないこと。
エ）エレベーターを使用しないこと。
オ）大学の指示に従うこと。

② 学外にいる場合

ア）メディアや地域の緊急非常放送から、正しい知識を得ること。
イ）地方自治体が実施する地震防災応急対策の指示に従うこと。

4）自然災害時の休講基準

(1) 警報または、特別警報が発令された場合、発令後の授業等（講義、実習、演習、試験を含む）は中止とする。

① 授業等の開始予定が午前である日においては、午前 6 時から授業開始までの、ある時点で警報が発令されていれば、その後解除されても午前の授業等は中止となる。
　この場合、午前 10 時の時点で警報が発令されていれば、その後解除されても午後の授業等も中止となる。

② 授業等の開始予定が午後である日においては、午前 10 時から授業開始までの、ある時点で警報が発令されていれば、その後解除されても午後の授業等は中止となる。
　なお、臨地実習（臨床実習）の場合に限っては、原則として実習は通常どおり実施するが、遅刻や欠席については十分な配慮を行うので、自らの安全を優先しつつ、状況に応じて実習参加の可否を考えて行動すること。

③ 休講の対象となる警報の発令地域は、以下の区分による。

受講場所	警報の発令地域
日高キャンパス	日 高 市
川角キャンパス	毛呂山町
毛呂山キャンパス	毛呂山町
川越キャンパス	川 越 市

(2) 警報または、特別警報が発令された場合とは、次のいずれかが発令された場合とする。

① 警報

ア．大雨・暴風警報（大雨警報と暴風警報がともに発令された場合）
イ．暴風雪警報
ウ．大雪警報

② 特別警報

ア．大雨特別警報
イ．暴風特別警報
ウ．暴風雪特別警報
エ．大雪特別警報

(3) 事前に大きな被害が予想される場合は、危険性を考慮し、学部長の判断により事前に休講を決定することがある。

※休講等の連絡は、メールにてお知らせいたします。必ず受信できるよう、スマートフ

ォン等へのメール転送設定をしておくこと。

5) 自然災害時の学生の対応

(1)「自然災害時の休講基準」によって休講かどうかを判断し、休講時は登校しない。

(2) 授業等の実施中に警報または、特別警報が発令された場合は、学部長の判断に従う。

(3) 大学外の施設での実習中に当該施設の地域に警報または、特別警報が発令された場合には、担当教員の指示に従う。

(4) 通学経路に警報または、特別警報が発令された場合は大学（事務室）に連絡を取り、登校せず帰宅する。

◎ 地震から身を守る際の優先順序

① まずわが身の安全をはかる（机の下にもぐりこむ等)。

② 火の気がある場合には可能な限り火の始末を行う。

③ 落下物等に気をつけ、すばやく危険な場所から離れる。

④ 避難は徒歩が原則（身軽な格好で)。

⑤ 正しい情報をつかむ。

⑥ まわりの人たちと冷静に協力しあう。

⑦ 大学へ安否等の連絡をする。

学生生活に関する規定 2

― 安全運転および事故遭遇時の対処 ―

1. 安全運転の心得

1) 自転車、自動二輪車、自動車を運転する場合

(1) 交通ルールを守ること。

(2) 安全速度を守り、安全運転を心がけること

(3) カーブの手前ではスピードを落とすこと。

(4) 交差点、踏切、一時停止の場所では必ず安全を確かめること。

(5) 横断歩道では歩行者の安全を守ること。

(6) シートベルト、ヘルメットを必ず着用すること。

(7) 運転しやすい服装で行うこと。

2. 事故遭遇時の対処

1) 事故に遇った場合には、先ず人命救助に努めること。その後、事務室へ速やかに報告すること。

2) 報告あたっては、以下の事項を落ち着いて正確に伝えること（「事故届(様式 81 号)」の提出)。

(1) 学科

(2) 学年

(3) 氏名

(4) 事故遭遇時間と場所

(5) 状況

(6) 負傷者の有無

ソーシャルメディアの利用に関するガイドライン

インターネットにおけるホームページ(World Wide Web: WWW、WEB)ならびに LINE、Facebook、X、Instagram などのソーシャルネットワークサービス(SNS)は大変便利なコミュニケーションツールですが、その不適切な利用が倫理的さらには法的に問題となる場合があります。そこで、WEB や SNS のサービス、 さらに PC やスマートフォンなどの通信デバイスの取り扱いと個人情報保護の遵守をもう一度確認してください。とくに、大学の名前やロゴを使用してソーシャルメディアで発言してしまうと、閲覧者は貴方の個人的な発言を「埼玉医科大学の発言」として受け取るかもしれません。本ガイドラインを参考にソーシャルメディアの利用の注意事項を十分理解し遵守しましょう。

【スマートフォンやアカウントの利用において遵守すべきこと】

他者のスマートフォンや SNS を無断で使用することは「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」によって処罰されることがあります。

1. 不正アクセスされないよう、スマートフォンや SNS のアカウントのパスワードは他者に知られないようにしてください。
2. 他者のスマートフォンを許可なく使ったり、のぞき見る行為はやめましょう。
3. 他人のアカウントを奪うおよび無断で使用する「なりすまし」行為は絶対に行ってはいけません。
4. 安易な気持ちでアカウントを他者に預けることもしてはいけません。「なりすまし」に悪用されないように心掛けてください。
5. パスワードは「強力なパスワード」（十分に長く複雑なもの）を設定してください。
6. パスワードの「使いまわし」（様々なサービスで同一のパスワードを設定すること）は行わないでください。

【WEB や SNS での情報発信について】

以下の内容を発信しないように注意しましょう。

1. 他者を誹謗中傷する内容
2. 他者のプライバシーにかかわる内容
3. 公の秩序または善良の風俗に反する内容
4. 人種、民族、言語、宗教、身体、性、思想などに関する差別的内容
5. 教育および研究上で秘密保持が必要な内容
6. 自分および他人の住所、電話番号などの個人情報

【WEB や SNS への投稿について】

WEB や SNS 上は公の場なので一時の感情で投稿することはとても危険です。

1. 一度投稿してしまうと、複製されたコメントや写真が異なるサイトに無断で掲載され拡散する恐れがあります。
2. 安易な気持ちで投稿した内容が他者を傷つける場合があります。さらには、名誉毀損など法的な措置をとられることがありますので、慎重に投稿しなければいけません。

3. 投稿された内容によっては、自分自身の将来に影響が及ぶことを理解しましょう。

【秘密保持と個人情報保護について】

臨床実習中の病院および患者の情報に関して、守秘義務のある内容や個人の特定が可能な情報を WEB や SNS 上で発言あるいは掲載することは絶対に行ってはいけません。
さらに、学生、卒業生、教職員およびその関係者の個人情報保護にも務めてください。
個人が特定できる情報には写真や動画も含まれます。これらを WEB や SNS へアップロードするなどの行為は思わぬトラブルを引起す恐れがあります。

1. 個人が特定できる写真などを無断で WEB や SNS に公開してはいけません。
2. むやみに写真などを撮影・記録してはいけません。また、写真などを撮る場合は、第三者が写り込まないように配慮しましょう。
3. 講義室、実習室そして研究室などにおいて写真などの撮影・記録がどうしても必要なときは、担当教員や指導教員の許可を得る必要があります。

【WEB や SNS の不正使用または不適切使用について】

WEB や SNS の不正使用または不適切使用が行われた場合には、それが犯罪行為と見なされ、法的な措置がとられる場合があります。不正使用または不適切使用が行われた場合には、学則による処分の対象になることがありますので十分注意をしてください。

ソーシャルメディアを利用する際には他者に敬意を払い、発言内容には責任をもつように心掛けてください。間違った内容を配信してしまった場合は、それを認め、迅速に訂正することが賢明です。自分自身を守るため WEB や SNS、さらに PC やスマートフォンを正しく便利に使用しましょう。

緊急連絡先

◎犯罪の場合　　１１０（飯能警察署　042-972-0110）

◎火災や負傷者の救護の場合　　１１９（埼玉西部広域消防本部　042-973-9119）

◎日高キャンパス内の連絡先

（火災の場合）　防火センター　042-984-4119（内線 7119）

（犯罪等の場合）　警備センター　042-984-4110（内線 7110）

◎大学の連絡先

保健医療学部事務室　042-984-4801（内線 3010）